枝線再構築製図基準

令和 6 年 4 月

東京都下水道局

枝線再構築製図基準の概説

枝線再構築製図基準は、東京都下水道局における枝線再構築工事、一般改良工事の図面に関する仕様を定めたもので、下水道管きょの設計成果時、工事発注時、完成図書作成時を対象とする。

利用にあたっては東京都下水道管きょの設計業務及び以下の基準等を理解されていることを前提とする。

(1)　土木工事標準仕様書（東京都下水道局）
(2)　設計委託標準仕様書（管路用）（東京都下水道局）
(3)　東京都下水道設計標準（東京都下水道局）
(4)　管きょ設計の手引き（東京都下水道局）
(5)　再構築設計マニュアル（管路編）（東京都下水道局）
(6)　管きょ再構築設計の手引き（東京都下水道局）
(7)　管路内面被覆工法(反転、形成工法)設計の手引き（東京都下水道局）
(8)　再構築工事／改良工事しゅん工図作成解説書（東京都下水道局）
(9)　JIS A 0101:2003: 土木製図通則（日本規格協会）
(10)　土木製図基準（土木学会）
(11)　CAD製図基準 （国土交通省）
(12)　CAD製図基準に関する運用ガイドライン （国土交通省）
(13)　国土交通省の「電子納品に関する要領・基準」
(14)　日本建設情報総合センター(JACIC)作成のSXF　Ver3.0

目次

1. 総則 1
1.1 適用範囲 1
1.2 図面様式 (図面レイアウト) 2
1.2.1 図面の大きさ 2
1.2.2 図面の正位 3
1.2.3 輪郭と余白 4
1.2.4 表題欄 5
1.2.5 尺度 7
1.2.6 図面作成 8
1.3 CAD データの作成 12
1.3.1 CAD データのフォーマット 12
1.3.2 CAD データの名称 13
1.3.3 レイヤの名称 15
1.3.4 共通レイヤ 21
1.3.5 色 22
1.3.6 線 23
1.3.7 文字 26
1.3.8 図形及び寸法の表し方 27
1.4 保管方法 28
2. 設計図面 29
2.1 電子平面図 29
2.1.1 路線 31
a) 路線記号 31
b) 副管記号 32
c) 振分記号 33
d) 路線引出情報 33
2.1.2 人孔 36
a) 人孔記号 36
b) 人孔引出情報 36
2.1.3 桝 39
(1) 桝記号 39
(2) 桝引出情報 39
2.1.4 取付管 42
(1) 取付管記号 42
2.1.5 鞘管 43
(1) 鞘管記号 43
(2) 鞘管引出情報 43
2.1.6 地下埋設物 45
(1) 埋設物記号 45
(2) 埋設物引出情報 45
2.1.7 区画線 48
(1) 区画線記号 48
(2) 地先面積 48
2.1.8 オフセット 50
2.1.9 道路幅員 52
2.1.10 図面切出枠 54
2.1.11 「SEMIS」番号等 55
2.2 系統図 56

2.2.1　路線 60
2.2.2　人孔 60
2.2.3　鞘管 61
2.2.4　系統図枠 62
a)　作図枠 62
b)　図枠 62
c)　アプリケーション名 63
d)　切出年月 63
2.3 線路詳細図 64
2.3.1　平面図 64
2.3.1.1　路線 65
2.3.1.2　人孔 65
2.3.1.3　桝 66
2.3.1.5　鞘管 67
2.3.1.6　地下埋設物 67
2.3.1.7　オフセット 68
2.3.1.8　道路幅員 68
2.3.2　縦断面図 69
2.3.2.1　帯部 72
(1)　縦断関係を示す作図項目 72
2.3.2.2　DL 線下部 73
(1)　路線情報 73
2.3.2.3　DL 線上部 75
(1)　接続路線情報 76
(2)　舗装工事内容 77
(3)　既設管工事内容 78
(4)　更新管工事内容 79
(5)　地下埋設物情報 81
2.3.2.4　旗上げ部 82
(1)　人孔旗上情報 82
(2)　副管旗上情報 84
2.3.2.5　表題欄部 85
(1)　作図路線情報 85
2.4 帳票 87
2.4.1　工事内管きょ集計表 88
(1)　概要 89
(2)　情報行 90
(3)　集計行 91
2.4.2　工事内管きょ番号表 92
(1)　概要 93
(2)　情報行 93
(3)　集計行 94
2.4.3　工事内人孔番号表 95
(1) 概要 96
(2)　情報行 97
2.4.4　桝･取付管一覧表 100
(1)　概要 102
(2)　情報行 103
2.4.5　占用完了数量集計表 106
2.4.5.1　再構築管渠占用完了数量集計表 107

(1) 概要 107
(2) 情報行 108
(3) 集計行 108
2.4.5.2 撤去管渠占用完了数量集計表 109
(1) 概要 109
(2) 情報行 109
(3) 集計行 110
2.4.5.3 人孔占用完了数量集計表 111
(1) 概要 111
(2) 情報行 112
(3) 集計行 112
2.4.5.4 取付桝占用完了数量集計表 113
(1) 概要 113
(2) 情報行 113
(3) 集計行 114
2.5 構造図 115
2.6 図面の記号および標準図 116
2.6.1 シンボル記号 116
2.6.1.1 記号 116
2.6.1.2 路線記号 119
2.6.1.3 鞘管記号 119
2.6.1.4 付帯設備 120
2.6.1.5 人孔記号 121
2.6.1.6 桝記号 124
2.6.2 標準図（参考） 127
2.6.2.1 舗装構成図 127
(a) 国道 127
(b) 都道 132
(c) 区道 136
(1) 千代田区 136
(2) 中央区 141
(3) 港区 148
(4) 新宿区 157
(5) 文京区 161
(6) 台東区 167
(7) 墨田区 176
(8) 江東区 182
(9) 品川区 186
(10) 目黒区 191
(11) 大田区 197
(12) 世田谷区 202
(13) 渋谷区 206
(14) 中野区 210
(15) 杉並区 213
(16) 豊島区 219
(17) 北区 223
(18) 荒川区 225
(19) 板橋区 228
(20) 練馬区 234
(21) 足立区 239

(22)　葛飾区 241
(23)　江戸川区 243
3. 参考図 246
3.1 系統図 246
3.2 工事内管きょ集計表・工事内管きょ番号表 247
3.3 工事内人孔番号表 248
3.4 桝・取付管一覧表 249
3.5 線路詳細図 250

1. 総則

1.1 適用範囲

下水道局が発注する枝線再構築工事及び改良工事における設計成果時、工事発注時、完成図書作成時を対象とする。

【解説】

本基準の対象範囲は、下水道管きょの設計成果時、工事発注時、完成図書作成時を対象とする。

ここに規定していない事項については、下記の基準などに従う。

（1） 土木工事標準仕様書（東京都下水道局）
（2） 設計委託標準仕様書（管路用）（東京都下水道局）
（3） 東京都下水道設計標準（東京都下水道局）
（4） 管きょ設計の手引き（東京都下水道局）
（5） 再構築設計マニュアル（管路編）（東京都下水道局）
（6） 管きょ再構築設計の手引き（東京都下水道局）
（7） 管路内面被覆工法(反転、形成工法)設計の手引き（東京都下水道局）
（8） 再構築工事／改良工事しゅん工図作成解説書（東京都下水道局）
（9） JIS A 0101:2003: 土木製図通則（日本規格協会）
（10） 土木製図基準（土木学会）
（11） CAD 製図基準 （国土交通省）
（12） CAD 製図基準に関する運用ガイドライン（国土交通省）
（13） 国土交通省の「電子納品に関する要領・基準」
（14） 日本建設情報総合センター (JACIC)作成の SXF　Ver3.0

1.2 図面様式 (図面レイアウト)

1.2.1 図面の大きさ

図面の大きさは、A1 を標準とし、これによりがたい場合はＡ列サイズから選択する。

【解説】

図面の大きさは、これまで紙での成果として A1 が標準であった。検査時や施工図面としての紙での運用も考慮して、本基準においても A1 を原則とすることとした。

ただし、構造物の形状によっては、A1 以外の大きさが適切な場合がある。その場合、図面の大きさは表 1-1、図 1-1 を参考とする。選定の優先順位は、第 1 類、第 2 類、第 3 類の順である。

また、これによりがたい場合は、関係者間協議の上、決定する。

土被り

(単位：㎜)

A列サイズ(第　1類)		特別延長サイズ(第 2 類)		例外延長サイズ(第 3 類)	
呼び方	寸法　a×b	呼び方	寸法　a×b	呼び方	寸法　a×b
				A0X2 A0X3※	1189X1682 1189X2523
A0	841X1189			A1X3 A1X4※	841X1783 841X2378
A1	594X841			A2X3 A2X4 A2X5	594X1261 594X1682 594X2102
A2	420X594	A3X3 A3X4	420X891 420X1189	A3X5 A3X6 A3X7	420X1486 420X1783 420X2080
A3	297X420	A4X3 A4X4	297X630 297X841	A4X5 A4X6 A4X7 A4X8 A4X9	297X1051 297X1261 297X1471 297X1682 297X1892
A4	210X297				

注) ※ この大きさは、取り扱い上の不都合があるので、なるべく使用しない。

JIS Z 8311:1998「製図ー製図用紙のサイズ及び図面の様式」

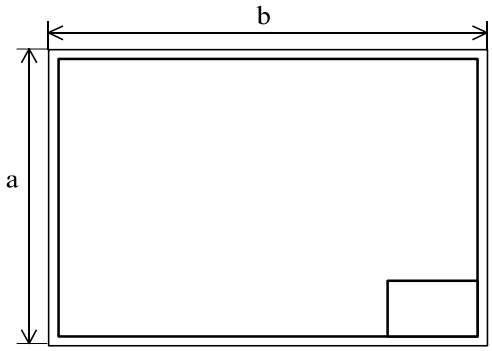


図 1-1　図面の寸法

1.2.2 図面の正位

図面は、図1-2に示す長辺を横方向においた位置を正位とする。

【解説】

「土木製図基準」においては、図面の正位は長辺を横方向、または縦方向どちらにおいてもよいと記載されている。しかし、本基準では、図1-2に示すように長辺を横方向においた位置を正位とする。

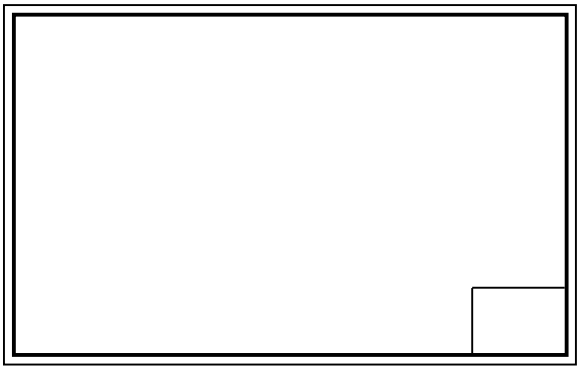


図 1-2　図面の正位

1.2.3 輪郭と余白

図面には輪郭を設ける。輪郭線は実線とし、線の太さは 1.4 mm とする。
輪郭外の余白は 20 mm を標準とする。

【解説】

輪郭は、作図領域を明確にするために設けるものである。また、紙で出力する場合、用紙の縁から生ずる損傷で記載事項を損なわないように余白を確保するためでもある。

ここで示した輪郭線の太さ、余白の寸法は、図面の大きさが A1 サイズを標準とした場合であり、用紙の大きさに応じて適宜変更してよい。

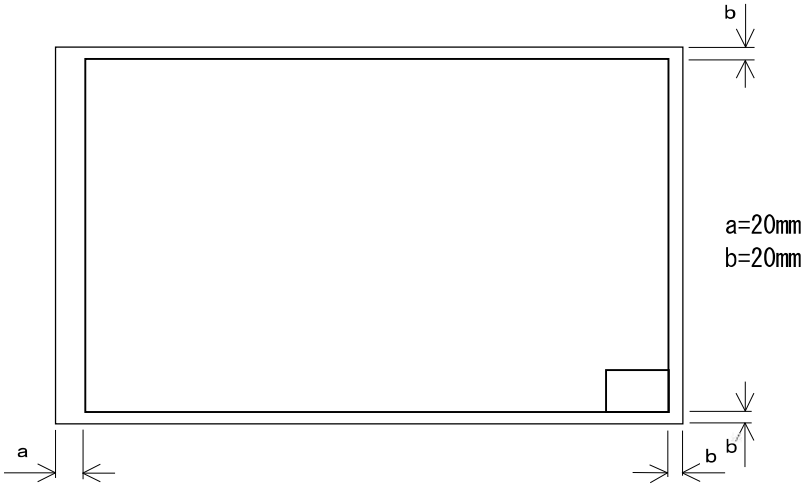


図 1-3　輪郭外の余白寸法

1.2.4 表題欄

1. 表題欄の位置

　表題欄は、東京都下水道局と設計（工事）内容を記載する表題欄-1 と受託（受注）業者を記載する表題欄-2 で構成する。表題欄は、輪郭線の図面の右下隅輪郭線に接して記載することを原則とする。

2. 記載事項

　表題欄-1 は、「東京都下水道局」の表示、工事件名、設計（工事）年度、設計（工事）番号、決定（完了）日、図面名称、図面番号を、表題欄-2 は、受託（受注）者、現場代理人（工事の場合のみ）を記載することを原則とする。

3. 表題欄の様式

　表題欄の寸法及び様式は、図 1-5 を原則とする。

　※系統図の大きさや註書きなどの情報量によっては、寸法等を変更できるものとするが、監督員と協議すること。

【解説】

表題欄は、図面の管理上必要な事項、図面内容に関する定形的な事項などをまとめて記入するためのものである。なお、表題欄-1 の大きさについては、CAD 製図基準（国土交通省）に準じて、幅は 170mm 以下とする。

表題欄を見る向きは、図面の正位に一致させる。

表題欄-1 と表題欄-2 の間は 10mm とする。文字の大きさは、「東京都下水道局」を 5mm、図面番号を 10mm、その他文字を 3.5mm とする。

表題欄の配置を、図 1-4 に示す。

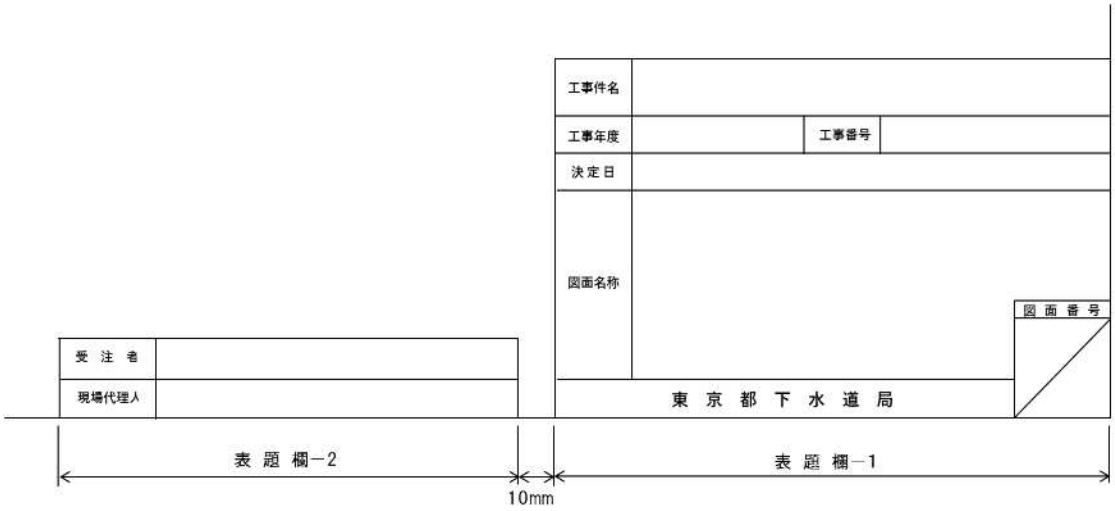
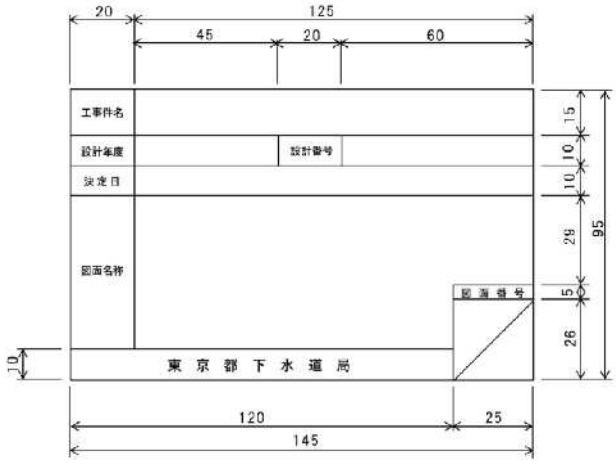
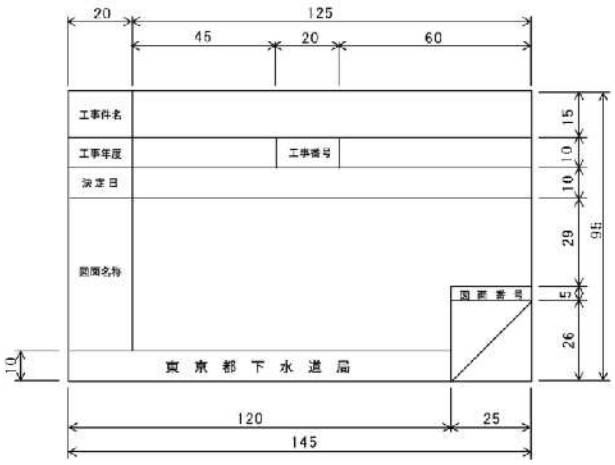


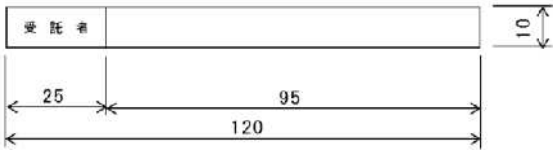
図 1-4　表題欄

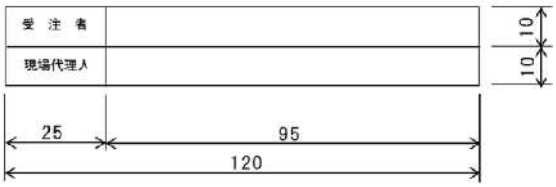




（設計）　　（工事）

図 1-5-(1)　表題欄-1　　（単位 mm）





（設計）　　（工事）

図 1-5-(2)　表題欄-2　　（単位 mm）

1.2.5 尺度

紙に出力した図面の尺度は、「設計委託標準仕様書（管路用）」に示された尺度を適用する。

【解説】

CAD 製図で定める尺度とは、CAD データを A1 用紙に出力した尺度のことである。

「設計委託標準仕様書（管路用）」で定められている図面の縮尺を、表 1-2 に示す。

表 1-2　図面の縮尺

図面名	縮尺	摘要
電子平面図	1/500	
計画系統図	1/2500	
計画縦断図	(横)1/500,(縦)1/100	
系統図	1/2000	
路線詳細図	平面図 1/500, 縦断面図 1/500,(縦)1/100	
構造図	1/10～1/100	
参考図	1/10～1/100	

「設計委託標準仕様書（管路用）」で尺度が明確に定められていない図面については、「土木製図基準」に示される尺度のうち、適当な尺度を用いるものとする。

「土木製図基準」では、1:A において、A は 1×10^n、2×10^n、5×10^n をなるべく優先し、1.5×10^n、2.5×10^n、3×10^n、4×10^n、6×10^n を次善としている。また、JIS Z 8314 では $1{:}10\sqrt{2}$、$1{:}200\sqrt{2}$、$1{:}5\sqrt{2}$ のように $\sqrt{2}$ 倍する A の値を許しているが、これは写真操作で拡大・縮小することを考慮したものである。

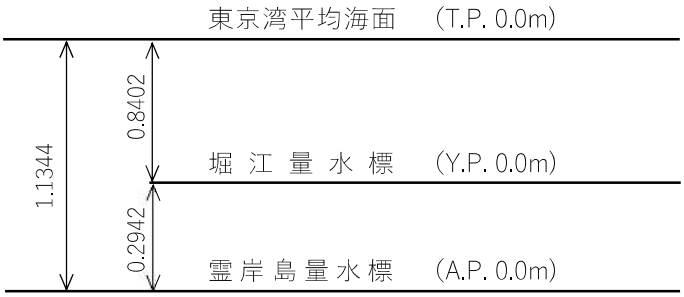
また、図面内に複数の尺度（縮尺）が存在する場合には、図の上部に記載する表題の近傍に表題より少し小さい文字の大きさで尺度(縮尺)を併記する。

1.2.6 図面作成

図面作成上の基本事項を以下に示す。

【解説】

(1) 水準基標面は東京湾平均海面（T．P．）とする。



(2) 設計書番号は、各事務所の設計担当部署で管理する。

(3) 設計番号は、各事務所の設計担当部署で管理する。

(4) 図面番号は、総数を分母とし、系統図、線路詳細図、構造図の順に分子を記入する。

(5) 線路詳細図の流水方向の図示は、原則として、向かって左から右へ流す表示とする。

(6) 道路の輪郭は、公道を実線、私道を点線により表現し、公私道の区別を明確にする。

(7) 図中の線の種類は、「1.3.6 線」を参照する。

表 1-3 図中の線の種類

見える線	実 線	引出線	細い実線	鉄筋 （配筋図）	太い実線
隠れた線	破 線	輪郭線	太い実線	鉄筋 (構造とも)	やや太い実線
中心線	一点鎖線	切断線	実 線	寸法線	細い実線 両端に矢印
計画線	太い 一点鎖線	掘削線	太い破線	矢 印	太い実線で約 20° の尖角を伏す
				断面線	二点鎖線で両端に 方向矢印

(8) 寸法の記入については、以下のとおりとする。

1) 寸法線の位置…なるべく構造物をさけて、外側に記入する。

2) 寸法線の順位…大きい寸法を外側とし、順に内側へ間隔 0.5cm～0.8cm 毎に記入する。

3) 寸法の数字位置…寸法線、上側中央に記入する。狭い場合には矢印を用い数字

を右肩に記入する。

(9)設計図記載の数字は表 1-4 のとおりである。

表 1-4　設計図に記載する単位及び小数位

種　　別	単位	小数位	種　　別	単位	小数位
延長、幅員、深等	m	2	計画管底高	m	3
構造図寸法	mm	0	土被り	m	2
管きょ勾配	‰	1	管きょ形状	mm	0
基標高	m	3	人孔、L 形側溝の形状	cm	0
地盤高	m	2	ます深	m	(0.2 刻み)
管底高	m	3			

注 1）小数位未満は、四捨五入をもって記載する。

注 2）線路延長については、小数第 2 位まで記入し、0 か 5 に丸める。

（二捨三入、七捨八入）

(10)施行区分は、下記の３種とし、系統図に記入する。

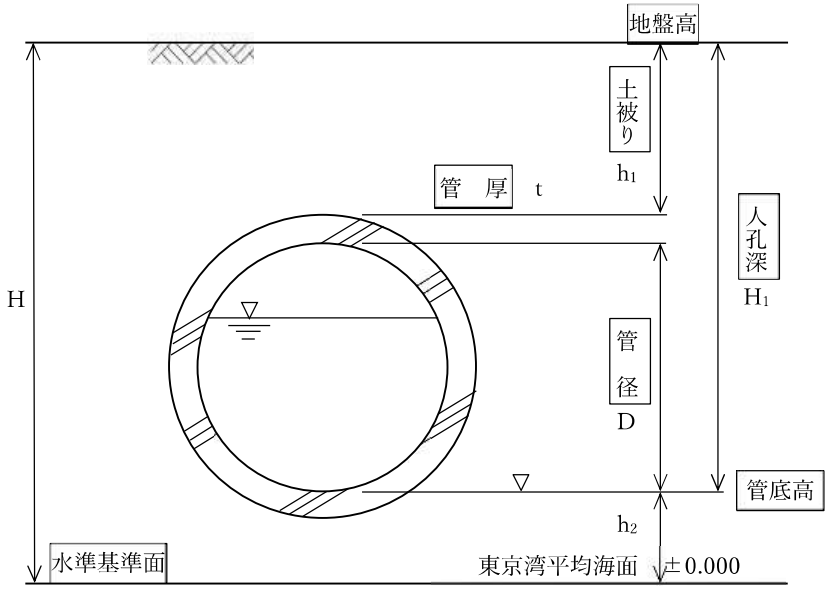
1）昼間施工

2）深夜間施工

3）昼夜間施工

(11) 水準基標面と地盤高、管底高、土被、人孔深の関係

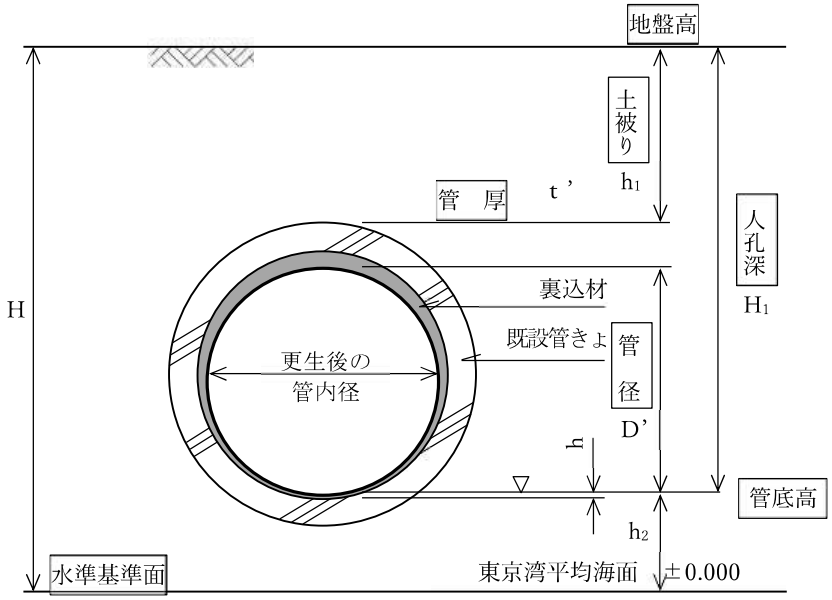
1) 新設する管きょ



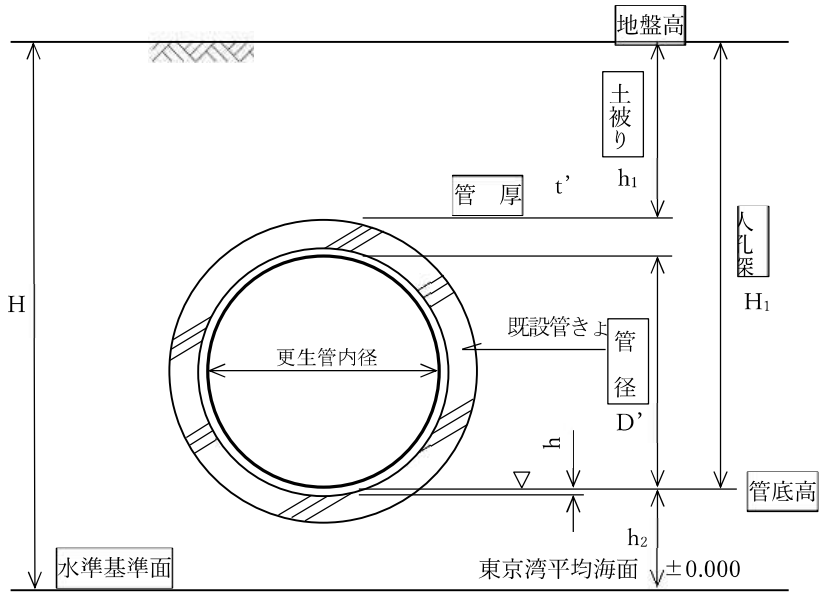
地盤高 ： H （水準基標面からの高さ）
人孔深 ： H_1（地盤高と下流管底面との差）
管底高 ： h_2（水準基標面から、管底までの高さ）
土被り ： $h_1=H-(h_2+D+t)$（管頂までの深さ）

2) 更生管きょの場合

① 内面被覆工法（製管工法）



②内面被覆工法（反転・形成工法）



1.3 CAD データの作成

1.3.1 CAD データのフォーマット

CAD データのフォーマットは、SXF (P21)形式とし、バージョンとレベルは、Ver3.0 レベル 2 とする。

【解説】

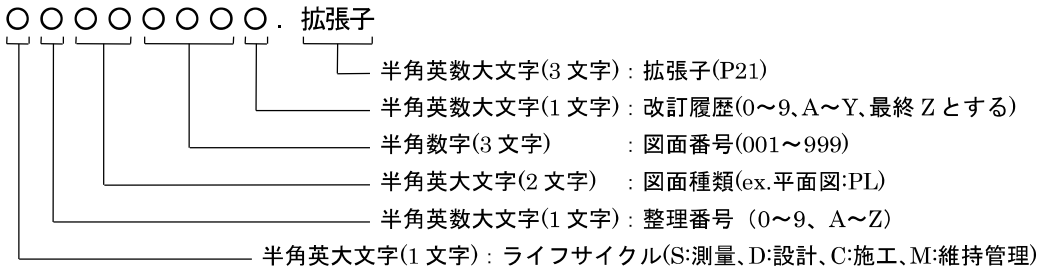
SXF（Scadec data eXchange Format）は、STEP AP202(製品モデルとの関連を持つ図面)規格を実装した CAD データ交換標準である。これは、「CAD データ交換標準開発コンソーシアム(SCADEC)(平成 11 年 3 月～平成 12 年 8 月)」、「建設情報標準化委員会 CAD データ交換標準小委員会(平成 12 年 10 月～平成 19 年 6 月)」、「建設情報標準化委員会 図面/モデル情報交換小委員会（平成 19 年 7 月～)」（いずれも事務局は(財)日本建設情報総合センター)にて策定されたもので、ISO TC184/SC4(STEP 規格を審議する国際会議)にて、STEP 規格を実装したものであることが認知されている。

SXF の物理ファイルには国際標準に則った「P21 形式」と国内 CAD データ交換のための簡易形式である「SFC 形式」の 2 種類がある。

本基準では、下水道管きょ構造物のライフサイクルを考慮し、納品されたデータが半永久的に閲覧・編集できるよう永続性を確保すること、国外企業の参入を妨げないことが必須であるため、CAD データファイルのフォーマットに SXF (P21)形式とし、バージョンとレベルは、SXF Ver.3.0 レベル 2 を採用する。

1.3.2 CAD データの名称

CAD データの名称は、以下の原則に従う。

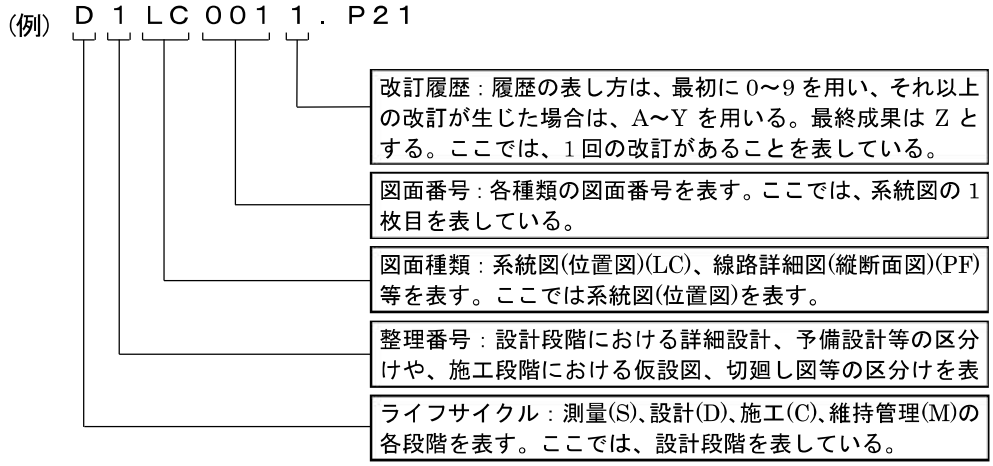


【解説】

公共事業においては、事業に伴って大量の CAD データが作成されるため、効率的に CAD データを検索する必要がある。そこで、ファイル名から図面種類、図面番号、改訂履歴がある程度把握できるように、ファイル名の命名規則を規定しています。ここでの 1 ファイルとは 1 図面の事を示し、具体的な図面種類の名称は、表 1-5 を参照する。

表 1-5　ファイル名一覧

図面種類	ファイル名					
系統図・位置図	S D C M	0～9	LC	000～999	0～9 A～Z	．拡張子
線路詳細図・縦断面図			PF			
平面図			PL			
構造図			VS			
配筋図			RB			
仮設図			TS			
横断図			CS			

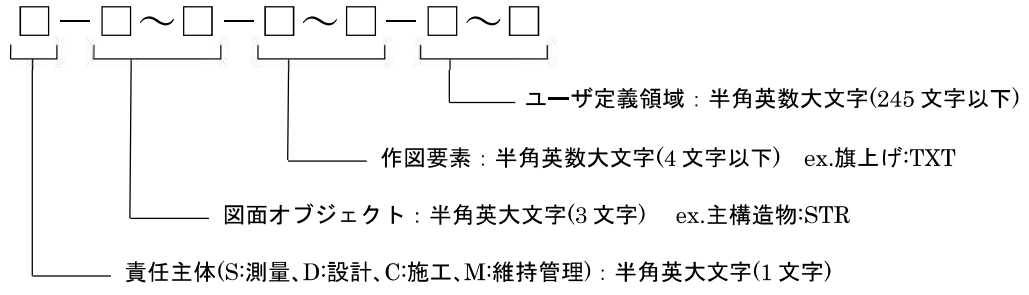


整理番号は、ライフサイクル、図面種類、図面番号をより詳細に区分するために使用するもので、付番の方法は関係者間で協議し決定する。使い方としては、複数工種でファイル名が同一となる場合や、設計変更における責任主体を区別する場合、詳細設計、予備設計等の区分け、施工段階における仮設図、切廻し図等の区分け等行う必要がある場合が考えられる。

また、図面種類でファイル名一覧に該当しないファイル名をつける場合においても、関係者間で協議し決定する。

1.3.3 レイヤの名称

CAD データのレイヤ名は、以下の原則に従う。レイヤの文字数は全体で 256 文字以内とする。



【解説】

CAD では、図形要素をレイヤに割り当てることによって、図面上の情報をレイヤ単位で扱うことができる。レイヤ単位ごとに色、線種の設定、画面上の表示・非表示、紙への出力・非出力の設定等を行うことにより、以下のように作業効率を向上させることが可能になる。

(1) 図形要素や寸法、注記などの補助図形要素をレイヤに入れておくことにより、図形要素と補助図形要素の表示や出力を個別に行うことができる。

(2) レイヤ構造を整理することにより、ライフサイクルにわたって図面を活用するときの図形要素の修正、検索が容易になる。

(3) 作業中、必要なレイヤのみを表示して、図面を見やすくできる。

本基準では、レイヤ名から図形要素・補助図形要素を把握できるようにするために、全ての図面で連続のレイヤ名を規定し、表 1-6 にレイヤ名を示した。図面の内容によって必要なレイヤを使い分けるものとする。

レイヤ名一覧に該当しない施設や同一の図面オブジェクトが複数存在し、区別する必要が有るなどやむ得ない場合は、関係者間で協議の上、作図要素の表記を適宜変更するかユーザ定義領域を利用してレイヤを作成するものとする。ただし、ハイフン(－)の利用は、責任主体、図面オブジェクト、作図要素、ユーザ定義領域のそれぞれをつなぐ場合のみ使用し、４階層目のユーザ定義領域以降にハイフン(－)は使用してはならない。

レイヤ名の責任主体とは、各フェーズでの全体的責任を持つ組織（発注者の場合は管轄部署等）とする。測量(S)、設計(D)、施工(C)、維持管理(M)の各フェーズに対し、全体的責任権限を持つ組織(発注者)を指す。また、責任主体は、該当するレイヤを修正したときのみ変更する。

表 1-6　レイヤ名一覧

（レイヤ別の線色および線種を示す。なお画面の背景色は白とする）

番号	レイヤ名称			レイヤに含まれる内容		線色（背景白）	線種
1	S	-TTL		外枠	図枠	黄	実線
2	D		-FRAM		タイトル枠・凡例図枠	黒	実線
3	C		-LINE		区切り線・罫線	黒	実線
4	M		-TXT1		文字列1	黒	実線
5			-TXT2		文字列2	黒	実線
6		-BGD	-CRS1	現況地物	電話線	赤	一点長鎖線
7			-CRS2		水道管	シアン	二点短鎖線
8			-CRS3		地下鉄	青紫	二点長鎖線
9			-CRS4		ガス管	緑	三点長鎖線
10			-CRS5		電力線	黄	長破線
11			-CRS6		民間光ファイバー、付属物	橙	二点鎖線
12			-CRS7		共同溝	暗灰	一点鎖線
13			-CRS8		他企業埋設物	橙	一点二短鎖線
14			-TXT1		引出し線、種別、寸法、深さ	黒	実線
15			-EXS1	街区	公道外形線	黒	実線
16			-EXS2		私道外形線	黒	実線
17			-EXS3	建物	一般建物外形線	黒	実線
18			-EXS4		局の建物外形線	黒	実線
19			-EXS5		局の建物の境界線	黒	実線
20			-EXS6	開渠	河川・公共溝渠開渠	黒	実線
21			-EXS7		公共溝渠暗渠	黒	実線
22			-EXS8	建物名称	目標物名	黒	実線
23			-EXS9		建物名	黒	実線
24			-EXS11	その他地形	法面	黒	実線
25			-EXS13		道路幅員	黒	実線
26			-EXS18	道路管理境界	道路管理者境界	黒	破線
27			-TXT1	行政区名	都県区名	黒	実線
28			-TXT2		町丁目名	黒	実線
29			-TXT3		番地	黒	実線
30			-EXS19	SEMIS 地形	SEMIS の街区・建物・開渠・建物名称。その他地形	暗灰	実線
31			-BRG	ボーリング	ボーリング柱状図（文字を含む）	暗灰	実線
32		-BMK	-SRVR	基準線	基準となる点（測量ポイント）	赤	実線
33			-BOR1		SEMIS 切り取り枠線	黒	実線
34			-BOR2		小図画区画線（管理番号を含む）	黒	実線
35			-BOR3		水準点、方位	赤	実線
36			-BOR4		案内図	黒	実線
37			-BOR5	処理区界	処理区境（文字と旗上げを含む）	マジェンダ	二点長鎖線
38			-BOR6		排水区境（文字と旗上げを含む）	青	二点長鎖線
39			-BOR7		排水区画割り（合流地域）（文字と旗上げを含む）	シアン	実線

番号	レイヤ名称			レイヤに含まれる内容		線色（背景白）	線種
40			-BOR8	排水区界	排水区画割り（汚水地域）（文字と旗上げを含む）	シアン	実線
41			-BOR9		排水区画割り（雨水地域）（文字と旗上げを含む）	シアン	実線
42			-BOR10	地盤高	現況地盤高（文字と旗上げを含む）	黒	-
43			-BOR11		計画地盤高（文字と旗上げを含む）	マジェンダ	-
44		-STR	-STR1	人孔	人孔（合流地域－既設）	緑	破線
45			-STR2		人孔（合流地域－提案）	赤	実線
46			-STR3		人孔（合流地域－計画）	青紫	一点短鎖線
47			-STR4		人孔（合流地域－撤去）	橙	破線
48			-STR5		人孔（合流地域－残置）	緑	実線
49			-TXT1		引出し線、人孔番号、種別、寸法、深さ	黒	実線
50			-STR6		人孔（分流地域汚水－既設）	緑	破線
51			-STR7		人孔（分流地域汚水－提案）	赤	実線
52			-STR8		人孔（分流地域汚水－計画）	青紫	一点短鎖線
53			-STR9		人孔（分流地域汚水－撤去）	橙	破線
54			-STR10		人孔（分流地域汚水－残置）	緑	実線
55			-TXT2		引出し線、人孔番号、種別、寸法、深さ	黒	実線
56			-STR11		人孔（分流地域雨水－既設）	緑	破線
57			-STR12		人孔（分流地域雨水－提案）	赤	実線
58			-STR13		人孔（分流地域雨水－計画）	青紫	一点短鎖線
59			-STR14		人孔（分流地域雨水－撤去）	橙	破線
60			-STR15		人孔（分流地域雨水－残置）	緑	実線
61			-TXT3		引出し線、人孔番号、種別、寸法、深さ	黒	実線
62			-STR16	合流路線	自然流下管（既設）－仮取入れ管、不明管を含む。	緑	破線
63			-STR17		自然流下管（提案）	赤	実線
64			-STR18		自然流下管（計画）	青紫	一点短鎖線
65			-STR19		自然流下管（撤去）	橙	破線
66			-STR20		自然流下管（残置）	緑	実線
67			-TXT4		引出し線、路線番号、距離、形状、勾配等	黒	実線
68			-STR21		圧送管（既設）－泥吐き管、仮取入れ管、不明管を含む。	緑	破線
69			-STR22		圧送管（提案）	赤	実線
70			-STR23		圧送管（計画）	青紫	一点短鎖線
71			-STR24		圧送管（撤去）	橙	破線
72			-STR25		圧送管（残置）	緑	実線
73			-TXT5		引出し線、路線番号、距離、形状、勾配等	黒	実線
74			-STR26	汚水路線	自然流下管（既設）－施設内管、局外管、仮取入れ管、不明管を含む。	緑	破線

番号	レイヤ名称			レイヤに含まれる内容		線色（背景白）	線種
75		-STR	-STR27		自然流下管（提案）	赤	実線
76			-STR28		自然流下管（計画）	青紫	一点短鎖線
77			-STR29		自然流下管（撤去）	橙	破線
78			-STR30		自然流下管（残置）	緑	実線
79			-TXT6		引出し線、路線番号、距離、形状、勾配等	黒	実線
80			-STR31		圧送管（既設）－汚泥管、泥吐き管、再生水管、施設内管、局外管、仮取入れ管、不明管を含む。	緑	破線
81			-STR32		圧送管（提案）	赤	実線
82			-STR33		圧送管（計画）	青紫	一点短鎖線
83			-STR34		圧送管（撤去）	橙	破線
84			-STR35		圧送管（残置）	緑	実線
85			-TXT7		引出し線、路線番号、距離、形状、勾配等	黒	実線
86			-STR36	雨水路線	自然流下管（既設）－雨水 LU 渠、施設内管、局外管、仮取入れ管、不明管を含む。	緑	破線
87			-STR37		自然流下管（提案）	赤	実線
88			-STR38		自然流下管（計画）	青紫	一点短鎖線
89			-STR39		自然流下管（撤去）	橙	破線
90			-STR40		自然流下管（残置）	緑	実線
91			-TXT8		引出し線、路線番号、距離、形状、勾配等	黒	実線
92			-STR41		圧送管（既設）－泥吐き管、施設内管、局外管、仮取入れ管、不明管を含む。	緑	破線
93			-STR42		圧送管（提案）	赤	実線
94			-STR43		圧送管（計画）	青紫	一点短鎖線
95			-STR44		圧送管（撤去）	橙	破線
96			-STR45		圧送管（残置）	緑	実線
97			-TXT9		引出し線、路線番号、距離、形状、勾配等	黒	実線
98			-STR46	その他	その他ライン（合流）（文字と旗上げを含む）	茶	実線
99			-STR47		その他ライン（汚水）（文字と旗上げを含む）	茶	実線
100			-STR48		その他ライン（雨水）（文字と旗上げを含む）	茶	実線
101			-STR49	光ケーブル	光ケーブル	牡丹	三点短鎖線
102			-TXT10		引出し線、路線番号、距離、形状等	牡丹	実線
103			-STR50		保護管	牡丹	実線
104			-STR51		連絡管	牡丹	実線
105			-STR52		ハンドホール	牡丹	実線
106			-STR53		接続箱	牡丹	実線
107			-TXT11		文字列、旗上げ	牡丹	実線

番号	レイヤ名称			レイヤに含まれる内容		線色（背景白）	線種
108		-STR	-STR54	鞘管	鞘管（既設）	緑	破線
109			-STR55		鞘管（提案）	赤	実線
110			-STR56		鞘管（計画）	青紫	一点短鎖線
111			-STR57		鞘管（撤去）	橙	破線
112			-STR58		鞘管（残置）	緑	実線
113			-TXT12		文字列、旗上げ	黒	実線
114			-STR59	オフセット	オフセット（文字と旗上げを含む）	黒	実線
115			-STR70	縦断図	縦断図管路（既設）、路線交差情報	緑	破線
116			-STR71		縦断図管路（提案）、路線交差情報	赤	実線
117			-STR72		縦断図管路（計画）、路線交差情報	青紫	一点短鎖線
118			-STR73		縦断図管路（撤去）、路線交差情報	橙	破線
119			-STR74		縦断図管路（残置）、路線交差情報	緑	実線
120			-STR75		縦断図部：人孔位置線、地盤高線（現況）	黒	実線
121			-STR76		縦断図部：地盤高線（計画）	マジェンダ	一点短鎖線
122			-STR77		縦断図部：帯部線、標高基準線（DL）、DL 値	黒	実線
123			-TXT14		縦断図部：旗上げ，人孔番号，種別，寸法，深さ，付帯設備など	黒	実線
124			-TXT15		縦断図部：平面線形情報、管種、基礎種別、施工区分、施工方法、埋戻方法、舗装種別、延長、改良説明図（線、文字を含む）	黒	実線
125			-TXT16		帯部：測点，測点間距離等，現況地盤高，計画地盤高，区間番号・距離，形状，寸法，勾配，土被り，管底高等	黒	実線
126			-TXT17		地下埋設物交差情報：電話線（文字と旗上げを含む）	赤	実線
127			-TXT18		地下埋設物交差情報水道管（文字と旗上げを含む）	シアン	実線
128			-TXT19		地下埋設物交差情報：地下鉄（文字と旗上げを含む）	青紫	実線
129			-TXT20		地下埋設物交差情報：ガス管（文字と旗上げを含む）	緑	実線
130			-TXT21		地下埋設物交差情報：電力線（文字と旗上げを含む）	黄	実線
131			-TXT22		地下埋設物交差情報：民間光ファイバー（文字と旗上げを含む）	橙	実線

番号	レイヤ名称			レイヤに含まれる内容		線色（背景白）	線種
132			-TXT23		地下埋設物交差情報：共同溝（文字と旗上げを含む）	暗灰	実線
133			-TXT24		地下埋設物交差情報：他企業埋設物（文字と旗上げを含む）	橙	実線
134		-BYP	-STR1	桝・取付管	取付管（合流地域－既設）	緑	破線
135			-STR2		取付管（合流地域－提案）	赤	実線
136			-STR3		取付管（合流地域－計画）	青紫	一点短鎖線
137			-STR4		取付管（合流地域－撤去）	橙	破線
138			-STR5		取付管（合流地域－残置）	緑	実線
139			-TXT1		文字列、旗上げ（合流地域）	黒	実線
140			-STR6		汚水桝（既設）	緑	破線
141			-STR7		汚水桝（提案）	赤	実線
142			-STR8		汚水桝（計画）	青紫	一点短鎖線
143			-STR9		汚水桝（撤去）	橙	破線
144			-STR10		汚水桝（残置）	緑	実線
145			-STR11		取付管（汚水地域－既設）	緑	破線
146			-STR12		取付管（汚水地域－提案）	赤	実線
147			-STR13		取付管（汚水地域－計画）	青紫	一点短鎖線
148			-STR14		取付管（汚水地域－撤去）	橙	破線
149			-STR15		取付管（汚水地域－残置）	緑	実線
150			-TXT2		文字列、旗上げ（汚水地域）	黒	実線
151			-STR16		雨水桝（既設）	緑	破線
152			-STR17		雨水桝（提案）	赤	実線
153			-STR18		雨水桝（計画）	青紫	一点短鎖線
154			-STR19		雨水桝（撤去）	橙	破線
155			-STR20		雨水桝（残置）	緑	実線
156			-STR21		取付管（雨水地域－既設）	緑	破線
157			-STR22		取付管（雨水地域－提案）	赤	実線
158			-STR23		取付管（雨水地域－計画）	青紫	一点短鎖線
159			-STR24		取付管（雨水地域－撤去）	橙	破線
160			-STR25		取付管（雨水地域－残置）	緑	実線
161			-TXT3		文字列、旗上げ（雨水地域）	黒	実線
162			-STR26	副構造図	構造物 1	赤	実線
163			-STR27		構造物 2	赤	実線
164			-DIM1		寸法 1	黒	実線
165			-DIM2		寸法 2	黒	実線
166			-TXT4		引出し線、文字列 1	黒	実線
167			-TXT5		引出し線、文字列 2	黒	実線
168		-MTR	-TXT1	材料表	桝・取付管一覧表（線、文字を含む）	黒	実線
169			-STXT1		占用一覧表（線、文字を含む）	黒	実線
170			-STXT2		工事内人孔番号表（線、文字を含む）	黒	実線
171			-STXT3		工事内管きょ集計表（線、文字を含む）	黒	実線
172			-STXT4		凡例（人孔、路線、桝、取付管）（線、文字を含む）	黒	実線

番号	レイヤ名称			レイヤに含まれる内容		線色（背景白）	線種
173			-STXT5		管内改良一覧表他	黒	実線
174		-DCR	-STR1	説明・着色	浸水区域（線、文字を含む）	明青	実線
175			-STR2		陥没シンボル（線、文字を含む）	赤	実線
176			-STR3		ハッチ部（線、文字を含む）	薄緑	実線
177		-DOC	-TXT1	文章・文字	その他文章・文字	黒	実線
178			-TXT2		その他文章・文字（合流）	黒	実線
179			-TXT3		その他文章・文字（汚水）	黒	実線
180			-TXT4		その他文章・文字（雨水）	黒	実線
181		-BMK	-STR1	基準線	構造物基準線（中心線等）	黄	一点鎖線
182		-STR	-STR78	主構造図	構造物 1	赤	実線
183			-STR79		構造物 2	赤	実線
184			-DIM1		寸法 1	黒	実線
185			-DIM2		寸法 2	黒	実線
186			-TXT25		引出し線、文字列 1	黒	実線
187			-TXT26		引出し線、文字列 2	黒	実線

1.3.4 共通レイヤ

図面に記載される情報のうち、「外枠」「現況地物」「基準線」については各図面とも共通のレイヤ名を用いる。

【解説】

(1) 外枠

外枠には、輪郭線及び切取線、表題欄及びその中に記入する文字、作図領域に記載される図面又は構造物等のタイトルを記載する。

(2) 現況地物、基準

現況地物情報は、SEMIS の地形情報を使用する。

なお、地図をラスタ化して背景として利用する場合は、ラスタデータのファイル形式を TIFF とする。

また、国土地理院が作成した地形図等を複製して使用する場合は、測量法に規定する手続きをとるものとする。

1.3.5 色

CADデータ作成に用いる色は、原則として黒、赤、緑、青、黄、マジェンタ、シアン、白、牡丹、茶、橙、薄緑、明青、青紫、明灰、暗灰の16色とする。

【解説】

本基準では、CADデータの画面表示、印刷表示等を考慮してCADデータ作成に用いる色を規定している。

線色は、表1-7に示す16色を原則とする。

表1-4のレイヤ名一覧には、紙出力(印刷)を想定した線色を記載している。

なお、ディスプレイ上での表示の際など、これによりがたい場合は、関係者間で協議の上、変更できる。

本基準では、1レイヤ1線色を想定して、表1-6のレイヤ名一覧に線色を示しているが、1レイヤ複数色を使用することも可能とする。

表1-7　線色に対応するRGB値(参考値)

色名	R	G	B
黒	0	0	0
赤	255	0	0
緑	0	255	0
青	0	0	255
黄	255	255	0
マジェンタ	255	0	255
シアン	0	255	255
白	255	255	255
牡丹	192	0	128
茶	192	128	64
橙	255	128	0
薄緑	128	192	128
明青	0	128	255
青紫	128	64	255
明灰	192	192	192
暗灰	128	128	128

1.3.6 線

1. 線種は、JIS Z8312:1999「製図－表示の一般原則－線の基本原則」に定義されている15種類の線種に長破線を追加した表1-8に示す16種類の線種を使用することを原則とする。
2. 線の太さは、細線、太線、極太線の3種類を使用し、比率は、細線:太線:極太線=1:2:4を原則とする。ただし、寸法線、引出線および輪郭線はこの限りではない。
3. 寸法線や引出線の線種は実線とし、線の太さは0.13mmを原則とする。
4. 輪郭線の線の種類は実線とし、線の太さは1.4mmを原則とする。
5. 線の太さは、図面の大きさや種類により、0.13、0.18、0.25、0.35、0.5、0.7、1、1.4、2mmの中から選択する。

【解説】

(1) 線の種類

下水道管路図面では、構造物の種類をできるだけ分かりやすく表現し、図面利用者の間で共通認識が得られるように線の種類を決めて使い分ける。

本基準では、1レイヤ1線種を想定して、表1-6のレイヤ名一覧に線種を示しているが、1レイヤ複数線種を使用することも可能とする。

表1-8　線の種類

線形番号	線の基本形（線形）	呼び方
01		実線
02	[6 , 1.5]	破線
03	[6 , 6]	跳び破線
04	[12 , 1.5 , 0.25 , 1.5]	一点長鎖線
05	[12 , 1.5 , 0.25 , 1.5 , 0.25 , 1.5]	二点長鎖線
06	[12 , 1.5 , 0.25 , 1.5 , 0.25 , 1.5 , 0.25 , 1.5]	三点長鎖線
07	[0.25 , 1.5]	点線
08	[12 , 1.5 , 3.5 , 1.5]	一点鎖線
09	[12 , 1.5 , 3.5 , 1.5 , 3.5 , 1.5]	二点鎖線
10	[6 , 1.5 , 0.25 , 1.5]	一点短鎖線

線形番号	線の基本形（線形）	呼び方
11	[6 , 1.5 , 6 , 1.5 , 0.25 , 1.5]	一点二短鎖線
12	[6 , 1.5 , 0.25 , 1.5 , 0.25 , 1.5]	二点短鎖線
13	[6 , 1.5 , 6 , 1.5 , 0.25 , 1.5 , 0.25 , 1.5]	二点二短鎖線
14	[6, 1.5 , 0.25 , 1.5 , 0.25 , 1.5 , 0.25 , 1.5]	三点短鎖線
15	[6,1.5,6,1.5,0.25,1.5,0.25,1.5,0.25,1.5]	三点二短鎖線
16		予約
17	[12 , 1.5]	長破線

注) 線形番号16(呼び方“予約”)の線の基本形(線形)は定義していない。

線の基本形(線形)の[ ]内は、ピッチの参考値を示す。

(2) 線の太さ

図面に使用する線の太さは、図面の視認性を考慮する。線の太さは細線、太線、極太線の 3 種類とし、その比率を 1:2:4 とするが、寸法線や引出線の太さは 0.13mm、輪郭線の太さは 1.4mm を原則とするため、これらの各線は 1:2:4 の比率とは異なる。

線の太さは、図面の大きさや種類により 0.13、0.18、0.25、0.35、0.5、0.7、1、1.4、2mm の中から選択するが、これらの数値は、CAD データを紙に出力する場合の規定値である。実際に出図される線の太さは出力装置により異なるため、近似値としてよい。

線の太さの組み合わせを表 1-9 に示す。

表 1-9　線の太さの組み合わせ

線グループ	細線	太線	極太線
0.25 ㎜	0.13 ㎜	0.25 ㎜	0.5 ㎜
0.35 ㎜	0.18 ㎜	0.35 ㎜	0.7 ㎜
0.5 ㎜	0.25 ㎜	0.5 ㎜	1.0 ㎜
0.7 ㎜	0.35 ㎜	0.7 ㎜	1.4 ㎜
1.0 ㎜	0.5 ㎜	1.0 ㎜	2.0 ㎜

CAD 画面上での線の太さは、CAD ソフトウェアによっては線の太さを表示する機能を持たないものがあり、また、太さ表示機能を持つ CAD ソフトウェアにおいても画面表示時の拡大縮小程度によっては必ずしも太さの違いが認識できない場合があるので、線の太さについては用紙に出力した場合を対象としている。

1.3.7 文字

1. 文字は、JIS Z 8313：1998「製図－文字」に基づくことを原則とする。
2. 文字の高さは、1.8、2.5、3.5、5、7、10、14、20mm から選択することを原則とする。
3. 漢字は常用漢字、かなはひらがなを原則とする。ただし、外来語は片仮名とする。
4. CAD で縦書きをする場合は、文字列として入力するとともに、全角文字を用いることを原則とする。

【解説】

(1) 文字の高さ

CAD データを作図する場合は、原則として 1.8、2.5、3.5、5、7、10、14、20mm から選択する。

検査や施工図等で、A1 で紙出力する際には、表題欄やタイトルに使用する文字は、3.5、5、10mm を原則とする。また、図面内に使用するタイトルなどは 14、20 mm とするなど、A3 など縮小版で紙出力した場合でも読みやすいサイズを使用するよう留意する。

(2) 使用できる文字

CAD で文字を書く場合は、CAD ソフトウェアの機能とフォントに依存するため、CAD ソフトウェア固有の文字は使用せず、アウトラインフォント又は製図に用いる文字に類似した文字を使用する。

1.3.8 図形及び寸法の表し方

1. 図形の表し方は、JIS Z 8316:1999「製図－図形の表し方の原則」に準ずる。
2. 寸法の記入方法は、JIS Z 8317: 1999「製図－寸法記入方法－一般原則，定義，記入方法及び特殊な指示方法」及び JIS Z 8318: 1998「製図―長さ寸法及び角度寸法の許容限界記入方法」に準ずる。また、引出線を用いて寸法値を記入する場合は、JIS Z8322: 2003「引出線及び参照線の基本事項と適用」に準ずる。

【解説】

図形や寸法の記入方法は、JIS により国内標準が定められている。図形や寸法は、できるだけ簡潔に表現して不要な重複を避ける。その配置、線の太さ、文字の寸法などに十分注意を払い、分かりやすく描く。

(1) 図形の表し方

CAD 製図においてよく使われる図示記号類については、シンボル機能（CAD ソフトウェアによっては部品機能と呼ばれる）を使って作図することが望ましい。

(2) 寸法の表し方

CAD ソフトウェアでは、寸法を入力するための専用の機能を持つものが多い。図面修正時の省力化等を意図として、寸法図形の補助線を動かすことで寸法数値が更新される機能等がこれに該当する。CAD データを作図する場合は、これらの機能を使用することを原則とする。

1.4 保管方法

納品されたデータの保管はフォルダ構成とインデックス情報により行う方法があるが、フォルダ構成による保管方法を標準とする。

【解説】

(1) フォルダ構成による管理

フォルダ構成による管理は、年度別、部署別・業務種別等のフォルダを作成し、それらのフォルダ毎にデータを分類整理するものである。

(2) インデックス情報による管理

インデックス情報による管理は、検索ソフトを利用して、インデックス情報内に記載されている、キーワードにより検索を行うものである。上記のフォルダ等の階層構造による保存を行わず、ランダムに保管することが出来る。

2. 設計図面

2.1　電子平面図

電子平面図は、管きょの台帳「SEMIS」（下水道台帳情報システム）から切出しされた施設情報を保持した台帳図（下水道施設および地形図）を基に、設計、工事、工事変更等の各作業工程による図形（幾何図形）を追加または変更した平面図とする。

【解説】

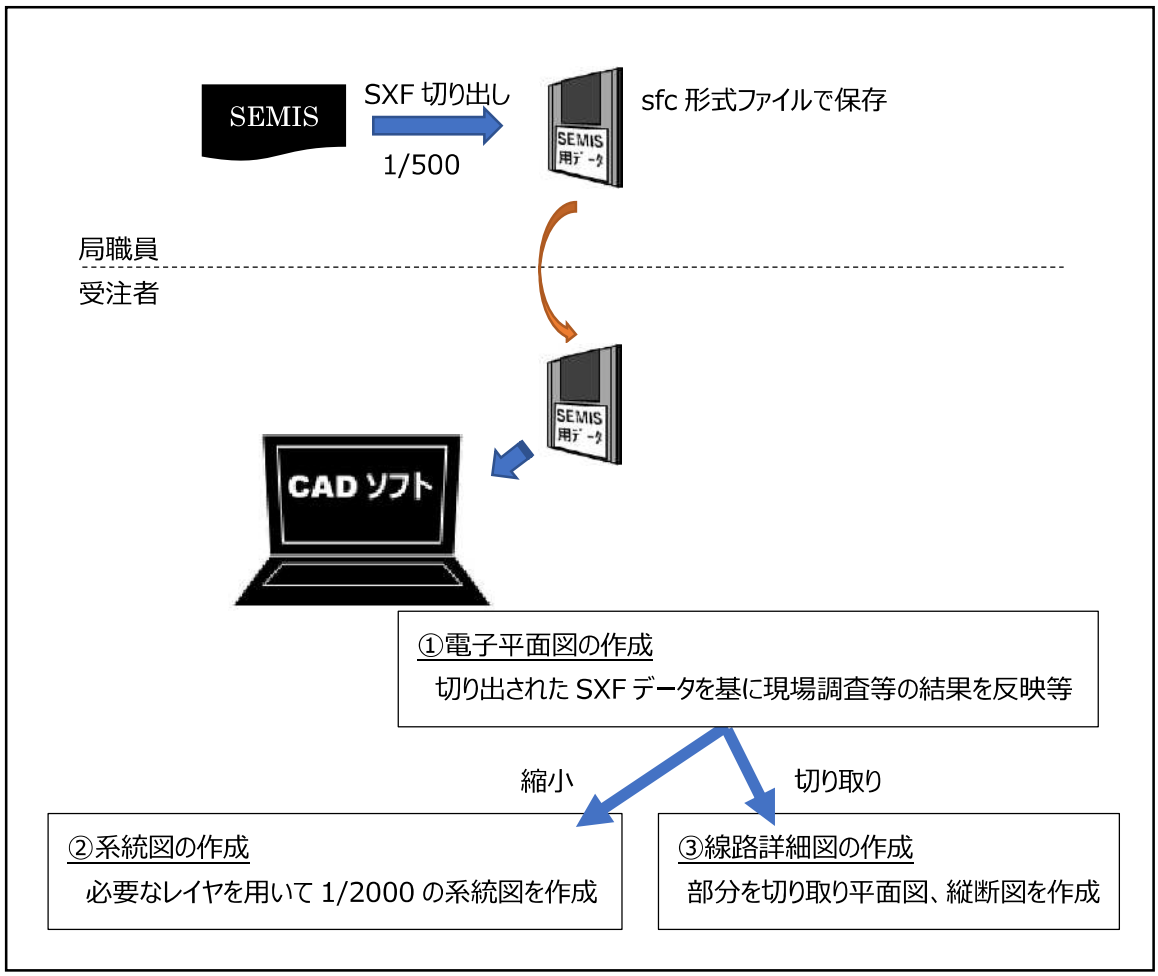
(1) 電子平面図は、「SEMIS」から切出しされたSXF(レベル2　Ver.3.0)データに基づき作成する。

(2) 電子平面図の尺度は、1：500とする。

(3) 電子平面図は、系統図および線路詳細図内の平面図を作成する上で必要な図形情報を記載する。

(4) 電子平面図の方位は、図面の上を北方向として作成する。また、施工区域が離れている2箇所以上の区域の平面図を作成する場合は必ず方位を揃える。

(5) 電子平面図の様式を、図2-1に示す。



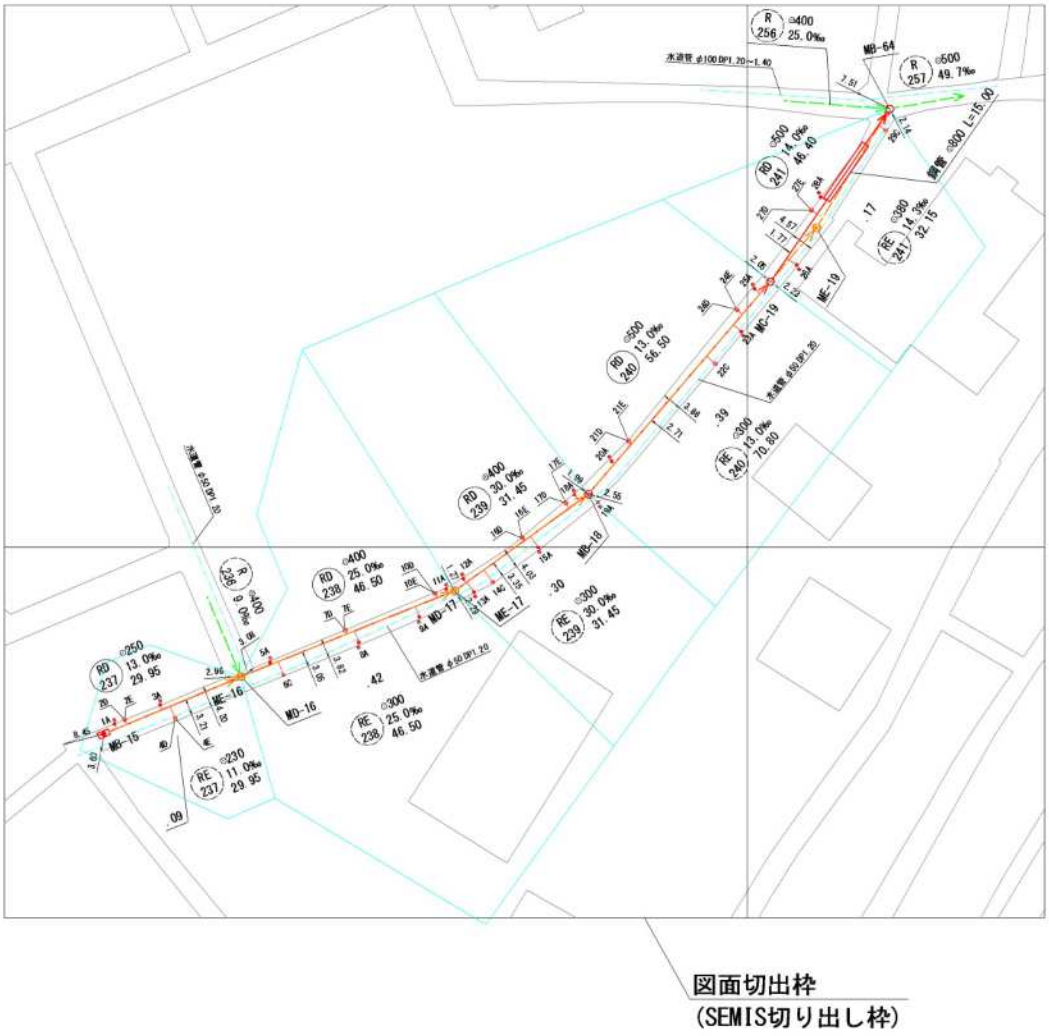


図 2-1　電子平面図の様式

電子平面図に記載する路線、人孔、桝、取付管、鞘管、地下埋設物、区画線、オフセット、道路幅員、「SEMIS」の図面切出枠の図形は、系統図、線路詳細図および帳票を作成するために必要な図形(基本的な記号、名称および数値)を記入する。

2.1.1 路線

路線は、図 2-2 に示す路線記号、副管記号、振分記号、路線引出情報により構成される。

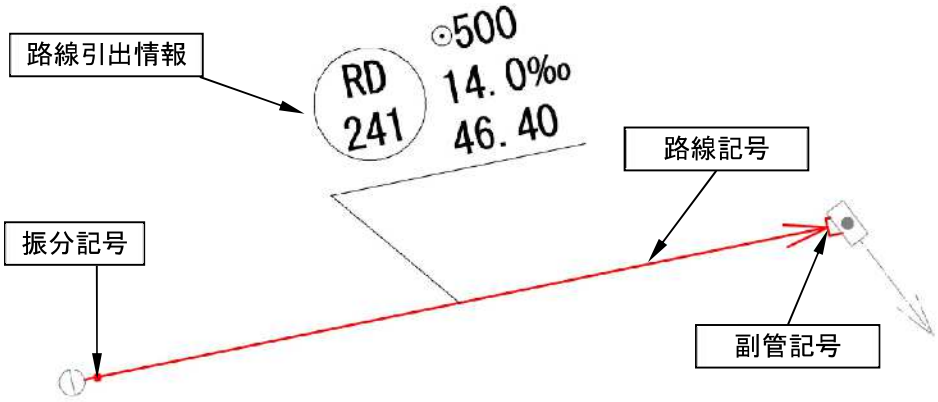


図 2-2　路線の構成

a) 路線記号

※ 路線記号の開始位置は、人孔記号の輪郭線と路線記号との交点位置とし、終点位置は、人孔記号の輪郭線または副管記号と路線中心線との交点位置とする。

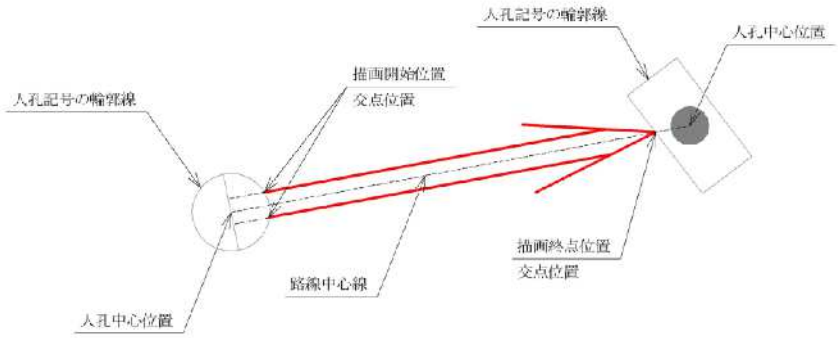


図 2-3　路線記号

※図 2-3 において、記載方法をわかりやすくするため、幹線表示しています。

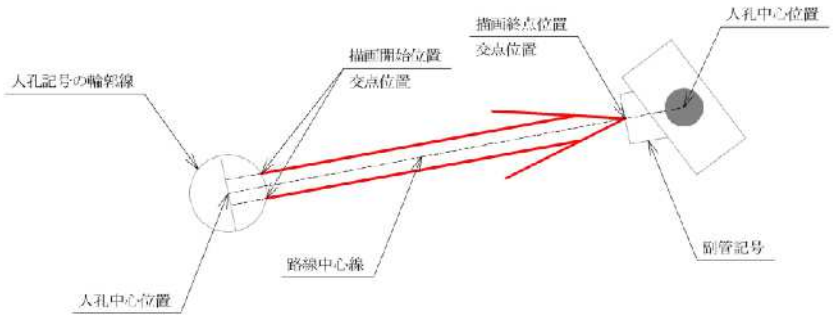


図 2-4　路線記号(副管設置)

※ 路線記号は、幹線管きょを**二重線**で、枝線管きょは**単線**で記載する。

※ 路線記号の形状およびサイズは、「2.5.1　シンボル記号」を参照する。

※ 路線終点位置に描画する流下方向矢印は、流下方向矢印の長さより路線記号の描画範囲が小さくなる場合は、流下方向矢印が路線記号の描画範囲が小さくなるように矢印の長さおよび角度を調整する。

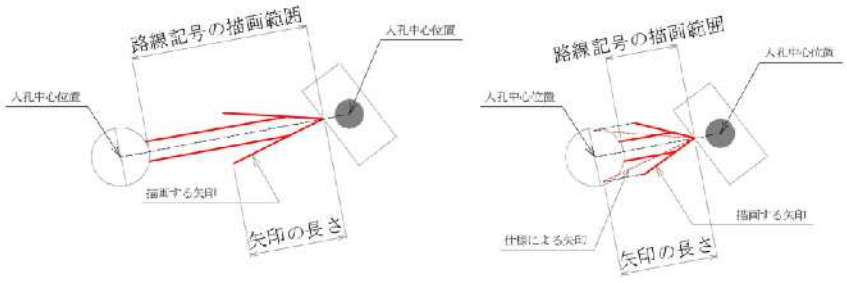


図 2-5　流下方向の矢印

b)　副管記号

※ 副管記号は、路線記号(中心線)に対して平行に作成する。

※ 副管記号の描画位置は、人孔記号の輪郭線と副管記号との交点位置とする。

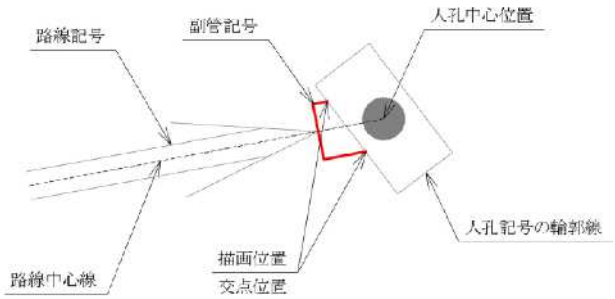


図 2-6　副管記号

※ 副管記号の形状およびサイズは、「2.5.1　シンボル記号」編を参照する。

c) 振分記号

※ 振分記号の描画位置は、路線中心線上とする。

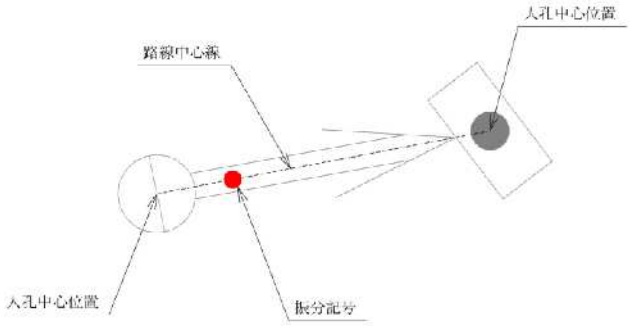


図 2-7　振分記号

※ 記号の形状およびサイズは、「2.5.1　シンボル記号」を参照する。

d) 路線引出情報

※ 路線引出情報は、図 2-8 に示す設計区分、路線番号、路線番号記号、断面記号、内径、勾配、延長および引出線により構成される。

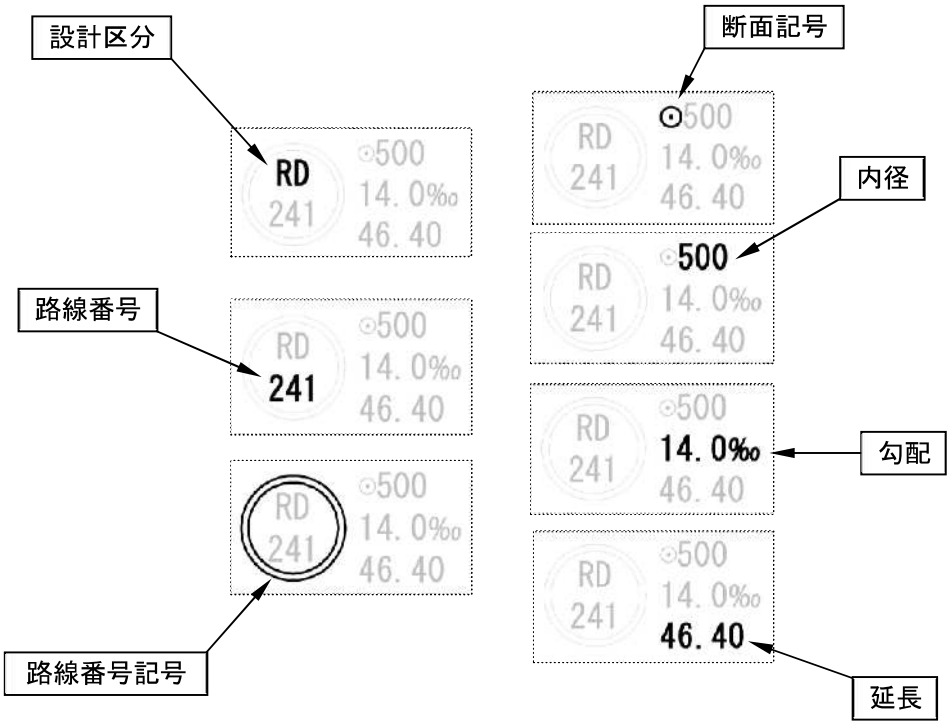


図 2-8　路線引出情報

※ 設計区分文字は、表 2-1 を標準とする。

表 2-1　路線の設計区分文字

工事分類	設置区分							
	既設活用	修正(更生)	新設		計画	撤去	存置	工事終了
			新設	布設替				
再構築工事	RA	RB	RC	RD	RA	RE	RE	R
改良工事	KA	KB	KC	KD	KA	KE	KE	K

※ 断面形状が円形または卵形以外の内径は、管幅と管高を記載(二文字間に“×”を付加した一文字列)する。

※ 路線番号記号は、幹線路線を二重円で、枝線路線を単円で記載し、線種を路線記号と同一とする。

※ 勾配は、接尾に“‰”を付加した文字列を記載する。

※ 設置区分が計画または工事終了の場合は、延長の記載を省略する。

※ 設計・施工対象外から流入または設計・施工対象外に流出する路線の場合は、延長の記載を省略する。

※ 路線の布設替えを行う場合、撤去および新設を行う各路線の設計路線番号内の路線番号文字は同一の番号を使用し、設置区分による設計区分文字により区別を行う。

※ 路線引出情報の配置角度は、路線記号(中心線)に対して平行な角度を原則とし、図面の下側および右側から読むことができるような角度とする。

※ 引出線の引出開始位置は、路線中心線上とする。

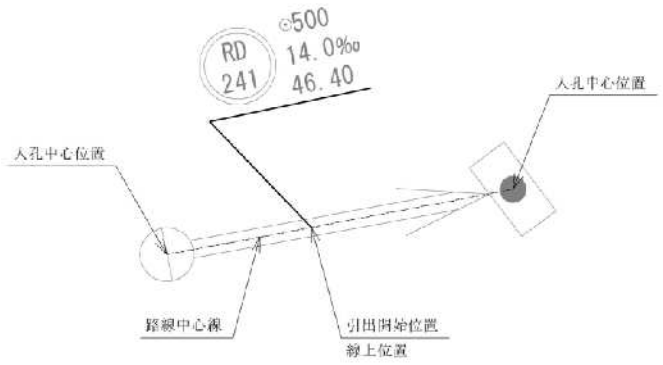


図 2-9　引出線の開始位置

※ 引出線は、引出情報に対して参照線(アンダーライン)を設けるものとし、引出情報の配置角度に平行な参照線(アンダーライン)を作成する。

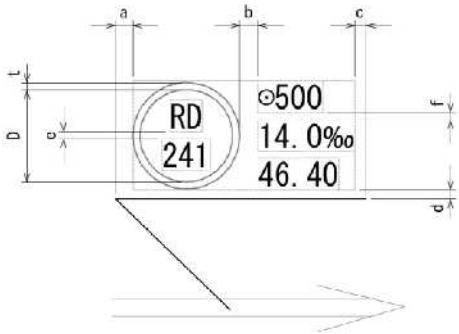
※ 引出線の線端は無いものを原則とする。また、線端矢印付きを使用する場合は、全ての路線引出線に対して同一な線端矢印を使用する。

※ 線端矢印付きの引出線を使用する場合は、引出し線(構造化要素の引出し線フィーチャ)により記載し、線端の無い引出線を使用する場合は、折線(SXF 幾何要素/表記要素の折線フィーチャ)により記載する。

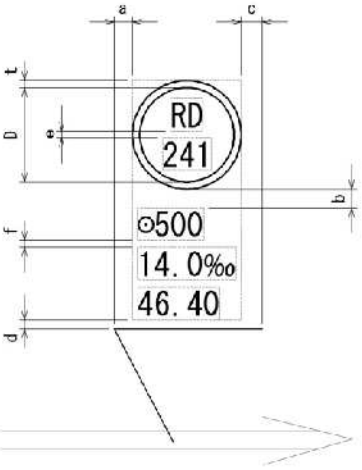
※ 引出線は省略することができる。

※ 引出情報の形状およびサイズは、下記を標準とする。

横配置



縦配置



路線引出情報を表す図形のサイズおよび位置関係

位置	設定値 (㎜)	説明
a	1	引出線(アンダーライン)の左側端点から路線引出情報内の図形の左端までの間隔
b	2	路線番号記号から路線形状(内径・勾配・延長等)の文字列までの間隔
c	1	引出線(アンダーライン)の右側端点から路線引出情報内の図形の右端までの間隔
d	1	引出線(アンダーライン)から路線形状(内径・勾配・延長等)の文字列または路線番号記号までの間隔
e	1	設計区分と路線番号の文字列間の間隔
f	1	路線形状(内径・勾配・延長等)の文字列間の間隔
D	13	路線番号記号(円)の直径
t	1	路線番号記号が二重円の場合の間隔

路線引出情報を表す文字の大きさは、5mm とする。

2.1.2 人孔

人孔は、図 2-10 に示す人孔記号、人孔引出情報により構成され、CAD ソフトウェアにより各図形に属性情報を付加する。

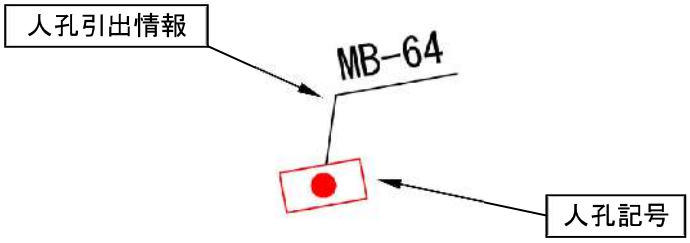


図 2-10　人孔の構成

a) 人孔記号

※ 人孔記号の配置角度は、流出管の流出方向に対して平行な角度を原則とする。

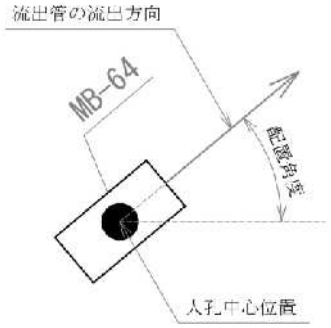


図 2-11　人孔記号

※ 記号の形状およびサイズは、「2.5.1　シンボル記号」を参照する。

b) 人孔引出情報

※ 人孔引出情報は、図 2-12 に示す人孔番号および引出線により構成される。

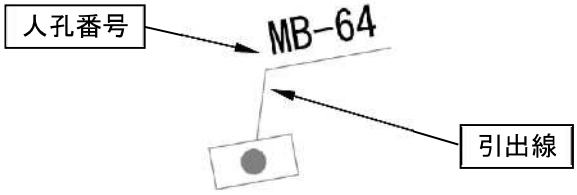


図 2-12　人孔引出情報

※ 人孔に設定される設計人孔番号は、前方の設計区分文字と後方の人孔番号文字により構成され、二文字間に半角の “-” (ハイフン)を付加する。

※ 設計区分文字は、表 2-2 を標準とする。

表 2-2　人孔の設計区分文字

設置区分							
既設 活用	修正 (改造)	新設		計画	撤去	存置	工事 終了
		新設	設置替				
MA	MB	MC	MD	MA	ME	ME	M

※ 人孔の設置替えを行う場合、撤去および新設を行う各人孔の設計人孔番号内の人孔番号文字は同一の番号を使用し、設置区分による設計区分文字により区別を行う。

※ 人孔引出情報の配置角度は、人孔記号に対して平行な角度を原則とし、図面の下側および右側から読むことができるような角度とする。

※ 引出線の引出開始位置は、人孔記号の輪郭線と人孔中心点から引出方向に対しての交点位置とする。

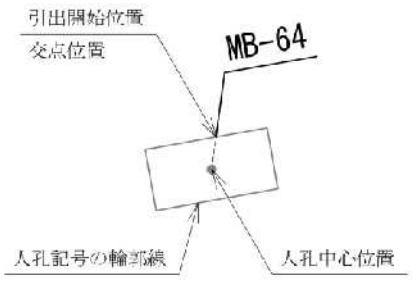


図 2-13　引出線の開始位置

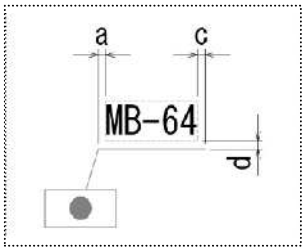
※ 引出線は、引出情報の文字列群に対して参照線(アンダーライン)を設けるものとし、引出情報の配置角度に平行な参照線(アンダーライン)を作成する。

※ 引出線は省略することができる。

※ 引出線の線端は無いものを原則とする。また、線端矢印付きを使用する場合は、全ての路線引出線に対して同一な線端矢印を使用する。

※ 線端矢印付きの引出線を使用する場合は、引出し線(構造化要素の引出し線フィーチャ)により記載し、線端の無い引出線を使用する場合は、折線(SXF 幾何要素/表記要素の折線フィーチャ)により記載する。

※ 引出情報の形状およびサイズは、下記を標準とする。



人孔引出情報を表す図形のサイズおよび位置関係

位置	設定値（㎜）	説明
a	1	参照線(アンダーライン)の左側端点から文字列の開始位置までの間隔
c	1	参照線(アンダーライン)の右側端点から文字列の終了位置までの間隔
d	1	参照線(アンダーライン)から文字列までの間隔

人孔引出情報を表す文字の大きさは、5mm とする。

2.1.3 桝

桝は、図 2-14 に示す桝記号、桝引出情報により構成され、CAD ソフトウェアにより各図形に属性情報を付加する。

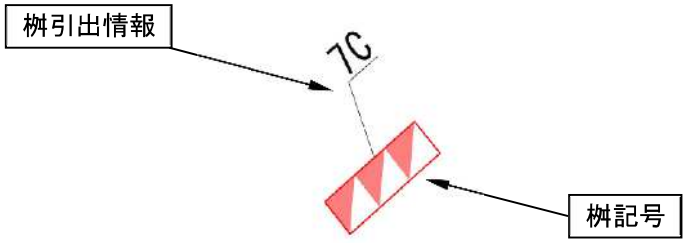


図 2-14　桝の構成

(1) 桝記号

※ 桝記号の配置角度は、取付管の流出方向に対して平行な角度を原則とする。

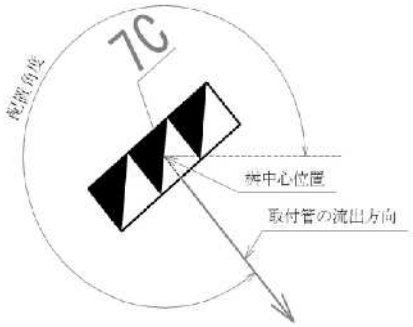


図 2-15　桝記号

※ 記号の形状およびサイズは、「2.5.1　シンボル記号」を参照する。

(2) 桝引出情報

※ 桝引出情報は、図 2-16 に示す桝番号および引出線により構成される。

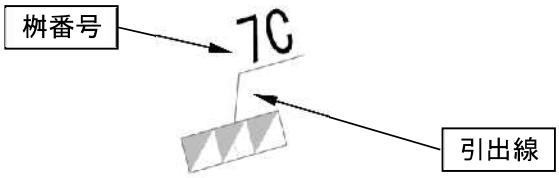


図 2-16　桝引出情報

※ 桝に設定される設計桝番号は、前方の桝番号文字と後方の設計区分文字により構成される。

※ 設計区分文字は、表 2-3 を標準とする。

表 2-3　桝の設計区分文字

設置区分							
既設 活用	修正 (改造)	新設		計画	撤去	存置	工事 終了
		新設	設置替				
A	B	C	D	A	E	E	

※ 桝の設置替えを行う場合、撤去および新設を行う各人孔の設計桝番号内の桝番号文字は同一の番号を使用し、設置区分による設計区分文字により区別を行う。

※ 桝引出情報の配置角度は、桝記号に対して直交な角度を原則とし、図面の下側および右側から読むことができるような角度とする。

※ 引出線の引出開始位置は、桝記号の輪郭線と桝中心点から引出方向に対しての交点位置とする。

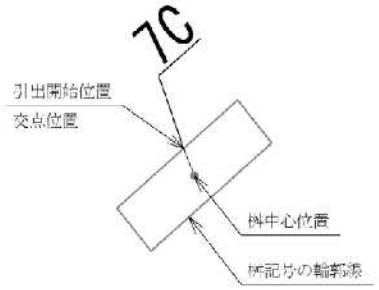


図 2-17　引出線の開始位置

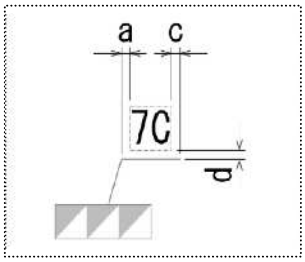
※ 引出線は、引出情報の文字列群に対して参照線(アンダーライン)を設けるものとし、引出情報の配置角度に平行な参照線(アンダーライン)を作成する。

※ 引出線は省略することができる。

※ 引出線の線端は無いものを原則とする。また、線端矢印付きを使用する場合は、全ての路線引出線に対して同一な線端矢印を使用する。

※ 線端矢印付きの引出線を使用する場合は、引出し線(構造化要素の引出し線フィーチャ)により記載し、線端の無い引出線を使用する場合は、折線(SXF 幾何要素/表記要素の折線フィーチャ)により記載する。

※ 引出情報の形状およびサイズは、下記を標準とする。



桝引出情報を表す図形のサイズおよび位置関係

位置	設定値（㎜）	説明
a	0.5	参照線(アンダーライン)の左側端点から文字列の開始位置までの間隔
c	0.5	参照線(アンダーライン)の右側端点から文字列の終了位置までの間隔
d	0.5	参照線(アンダーライン)から文字列までの間隔

桝引出情報を表す文字の大きさは、3.5mm とする。

2.1.4 取付管

取付管は、図 2-18 に示す取付管記号のみで構成される。

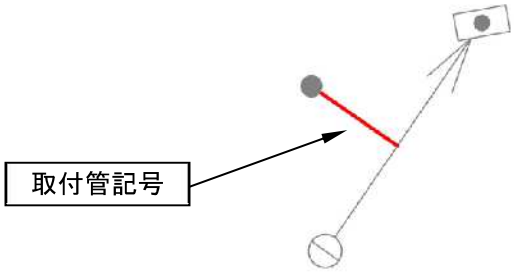


図 2-18　取付管の構成

(1) 取付管記号

※ 取付管記号の開始位置は、桝記号の輪郭線と取付管記号との交点位置とし、終点位置は、路線に接続する場合は路線中心線上に、人孔または桝に接続する場合は人孔記号または桝記号の輪郭線と取付管記号との交点位置とする。

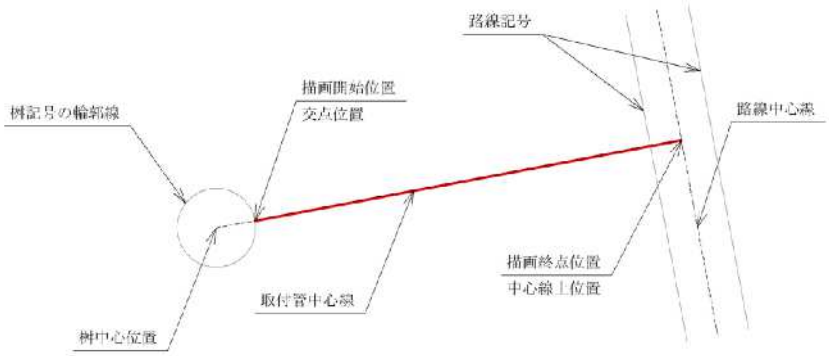


図 2-19　取付管記号(路線に接続)

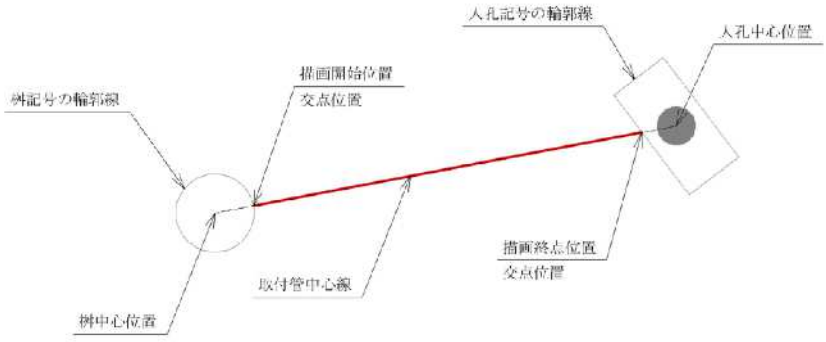


図 2-20　取付管記号(人孔または桝に接続)

※ 路線記号の形状およびサイズは、「2.5.1　シンボル記号」を参照する。

2.1.5 鞘管

鞘管は、図 2-21 に示す鞘管記号、鞘管引出情報により構成される。

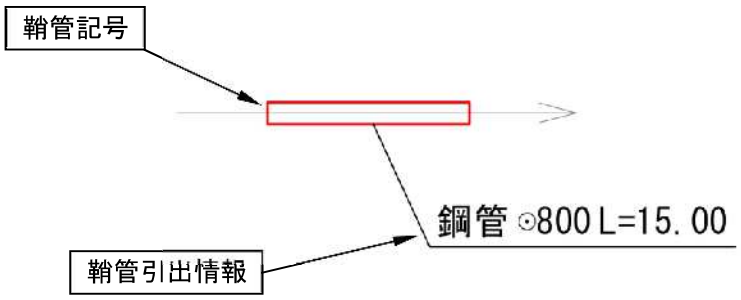


図 2-21　鞘管の構成

(1) 鞘管記号

※ 鞘管記号は、鞘管を設置する路線の路線記号(中心線)に対して平行に作成する。

※ 鞘管記号は折線(SXF 幾何要素/表記要素の折線フィーチャ)により記載し、頂点数は５点とする。また、第１頂点座標と第５頂点座標は必ず同一座標とし、閉合した折線とする。

※ 鞘管記号の形状およびサイズは、「2.5.1　シンボル記号」を参照する。

(2) 鞘管引出情報

※ 鞘管引出情報は、図 2-22 に示す管種名、断面記号、内径、勾配および引出線により構成される。

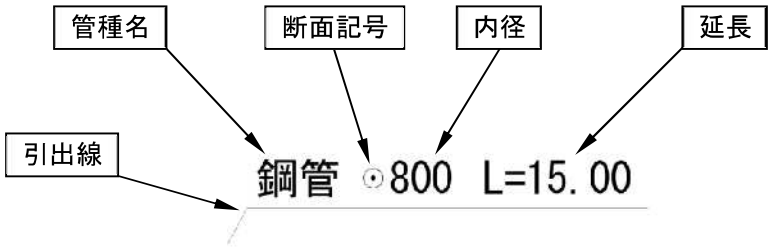


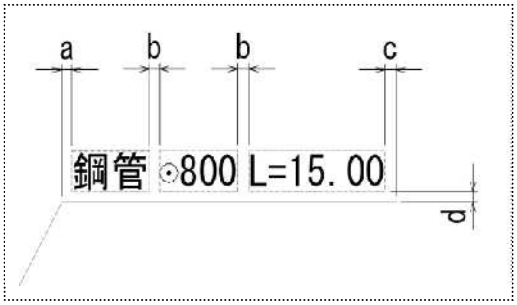
図 2-22　鞘管引出情報

※ 鞘管引出情報は、管種名、内径、延長の順に３文字列により記載する。

※ 断面形状が円形または卵形以外の内径は、管幅と管高を記載(二文字間に“×”を付加した一文字列)する。

※ 延長は、接頭に“L=”を付加した文字列を記載する。

※ 鞘管引出情報の配置角度は、鞘管記号に対して平行な角度を原則とし、図面の下側および右側から読むことができるような角度とする。
※ 鞘管引出線の引出開始位置は、鞘管記号上とする。
※ 引出線は、引出情報に対して参照線(アンダーライン)を設けるものとし、引出情報の配置角度に平行な参照線(アンダーライン)を作成する。
※ 引出線の線端は無いものを原則とする。また、線端矢印付きを使用する場合は、全ての路線引出線に対して同一な線端矢印を使用する。
※ 線端矢印付きの引出線を使用する場合は、引出し線(構造化要素の引出し線フィーチャ)により記載し、線端の無い引出線を使用する場合は、折線(SXF 幾何要素/表記要素の折線フィーチャ)により記載する。
※ 引出線は省略することができる。
※ 引出情報の形状およびサイズは、下記を標準とする。



鞘管引出情報を表す図形のサイズおよび位置関係

位置	設定値（㎜）	説明
a	1	参照線(アンダーライン)の左側端点から文字列の開始位置までの間隔
b	1	文字列と文字列の間隔
c	1	参照線(アンダーライン)の右側端点から文字列の終了位置までの間隔
d	1	参照線(アンダーライン)から文字列までの間隔

鞘管引出情報を表す文字の大きさは、5mm とする。

2.1.6 地下埋設物

地下埋設物は、図 2-23 に示す埋設物記号、埋設物引出情報により構成される。

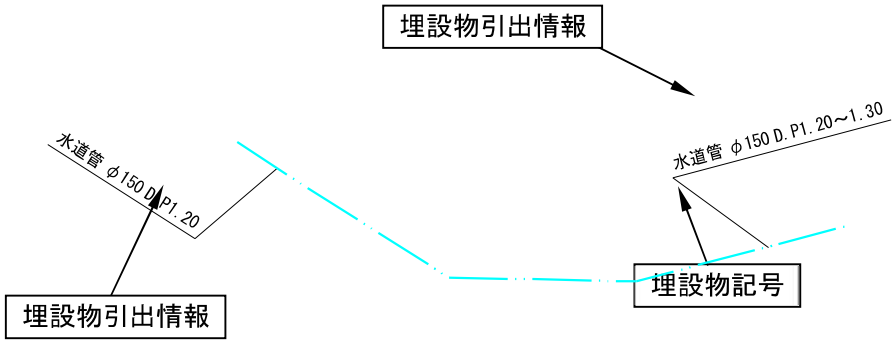


図 2-23　埋設物の構成

(1) 埋設物記号

※ 埋設ブツ記号が単線の場合は一つの折線(SXF 幾何要素/表記要素の折線フィーチャ)により記載し、二重線の場合は二つの折線(SXF 幾何要素/表記要素の折線フィーチャ)により記載する。

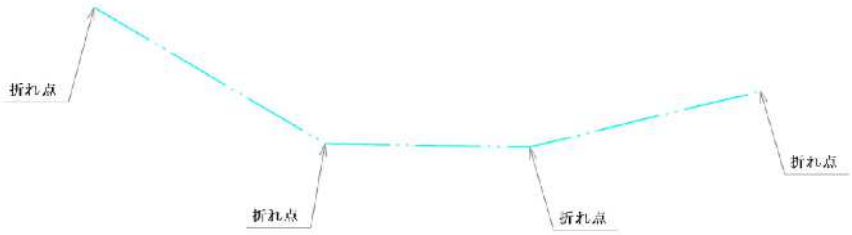


図 2-24　埋設物記号

※ 記号の形状およびサイズは、「2.5.1　シンボル記号」を参照する。

(2) 埋設物引出情報

※ ひとつの地下埋設物に対して複数の埋設物引出情報を記載することができる。但し、埋設物記号の折れ点区間に対して最大ひとつとし、省略することも可能とする。

※ 埋設物引出情報は、図 2-25～2-27 に示す種別名称、管径、条段形状、土被りおよび引出線により構成される。

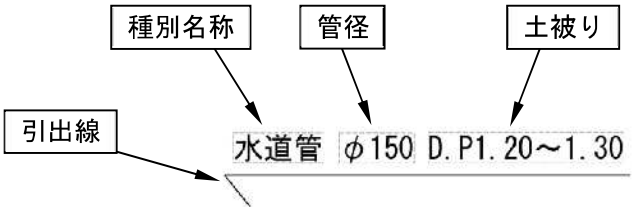


図 2-25　埋設物引出情報(形状が円形)

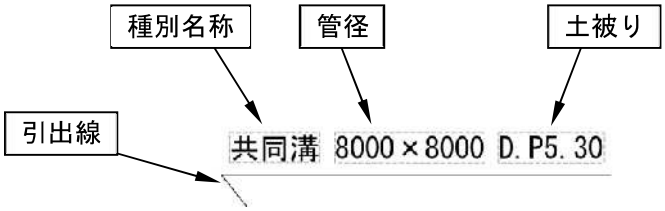


図 2-26　埋設管引出情報(形状が矩形)

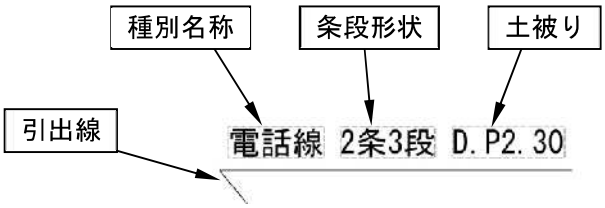


図 2-27　埋設管引出情報(形状が条×段)

※ 埋設引出情報は、種別名称、管径または条段形状、土被りの順に３文字列により記載する。

※ 管径は、形状が円形の場合は内径を記載(接頭に“φ”を付加した一文字列)し、矩形の場合は幅と高さを記載(二文字間に“×”を付加した一文字列)する。

※ 条段は、条数と段数を記載(条数の接尾に “条”、段数の接尾に “段”を付加した一文字列)する。

※ 土被りは、該当の折れ点区間の上流側土被りと下流側土被りを記載(上流側土被りの接頭に“D.P”、下流側土被りの接頭に“～”を付加した一文字列)する。但し、上流側土被りと下流側土被り」が同一の場合は、上流側土被りのみ記載（上流土被りの接頭に“D.P”、を付加した一文字列）する。

※ 埋設物引出情報の配置角度は、該当の折れ点区間の埋設物記号(中心線)に対して平行な角度を原則とし、図面の下側および右側から読むことができるような角度とする。

※ 埋設物引出線の引出開始位置は、埋設物中心線上とする。

※ 引出線は、引出情報に対して参照線(アンダーライン)を設けるものとし、引出情報の配置角度に平行な参照線(アンダーライン)を作成する。

※ 引出線の線端は無いものを原則とする。また、線端矢印付きを使用する場合は、全ての路線引出線に対して同一な線端矢印を使用する。

※ 線端矢印付きの引出線を使用する場合は、引出し線(構造化要素の引出し線フィーチャ)により記載し、線端の無い引出線を使用する場合は、折線(SXF 幾何要素/表記要素の折線フィーチャ)により記載する。

※ 引出線は省略することができる。

※ 引出情報の形状およびサイズは、下記を標準とする。



埋設物引出情報を表す図形のサイズおよび位置関係

位置	設定値（㎜）	説明
a	0.5	参照線(アンダーライン)の左側端点から文字列の開始位置までの間隔
b	1	文字列と文字列の間隔
c	0.5	参照線(アンダーライン)の右側端点から文字列の終了位置までの間隔
d	0.5	参照線(アンダーライン)から文字列までの間隔

埋設物引出情報を表す文字の大きさは、3.5mm とする。

2.1.7 区画線

区画線は、図 2-28 に示す区画線記号、地先面積により構成される。

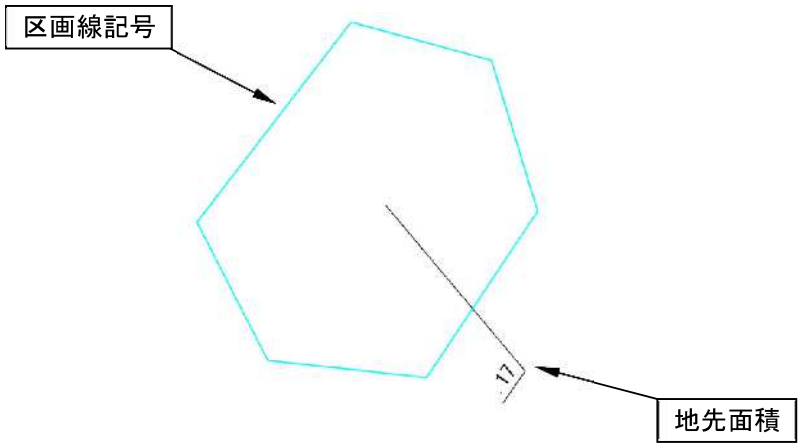


図 2-28　区画線の構成

※ 区画線は設計・施工対象路線のみ記載する。

※ 設計･施工対象外からの流入路線または設計･施工対象外への流出路線は、区画線の記載を行わない。

※ 路線の設置区分が工事終了に設定されている路線の場合は､区画線の記載を行わない。

(1) 区画線記号

※ 区画線記号は折線(SXF 幾何要素/表記要素の折線フィーチャ)により記載し、頂点数は４点以上とする。また、第１頂点座標と最終頂点座標は必ず同一座標とし、閉合した折線とする。

(2) 地先面積

※ 地先面積は、図 2-29 に示す地先面積および引出線により構成される。

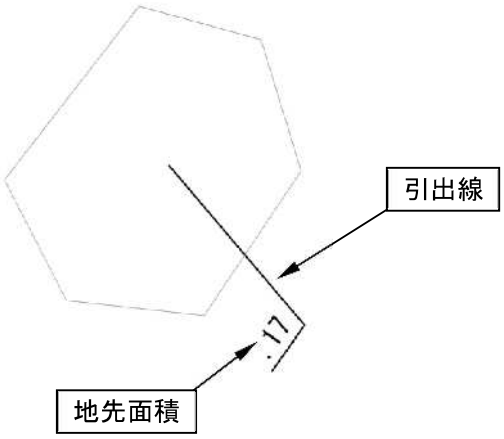
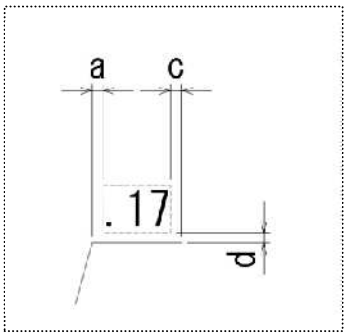


図 2-29　地先面積の構成

※ 地先面積が 1(ha)未満の場合は、先頭(1 桁目)の“0”の記載を省略する。
※ 地先面積の文字の文字角度は、該当の路線記号（中心線）に対して平行な角度を原則とし、図面の下側および右側から読むことができるような角度とする。
※ 引出線は、引出情報に対して参照線(アンダーライン)を設けるものとし、引出情報の配置角度に平行な参照線(アンダーライン)を作成する。
※ 引出線の線端は無いものを原則とする。また、線端矢印付きを使用する場合は、全ての路線引出線に対して同一な線端矢印を使用する。
※ 線端矢印付きの引出線を使用する場合は、引出し線(構造化要素の引出し線フィーチャ)により記載し、線端の無い引出線を使用する場合は、折線(SXF 幾何要素/表記要素の折線フィーチャ)により記載する。
※ 引出線は省略することができる。
※ 引出情報の形状およびサイズは、下記を標準とする。



地先面積を表す図形のサイズおよび位置関係

位置	設定値（㎜）	説明
a	1	参照線(アンダーライン)の左側端点から文字列の開始位置までの間隔
c	1	参照線(アンダーライン)の右側端点から文字列の終了位置までの間隔
d	1	参照線(アンダーライン)から文字列までの間隔

地先面積を表す文字の大きさは、5mm とする。

2.1.8 オフセット

オフセットは、図 2-30 に示すオフセット寸法、引出線により構成される。

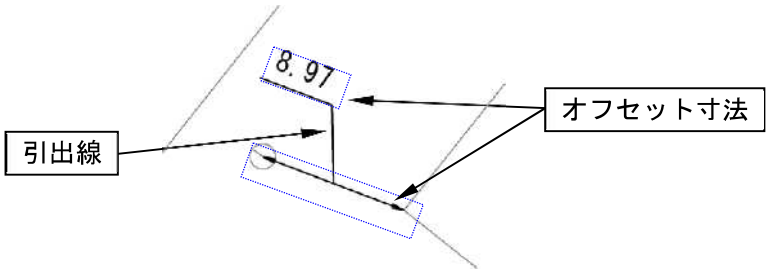
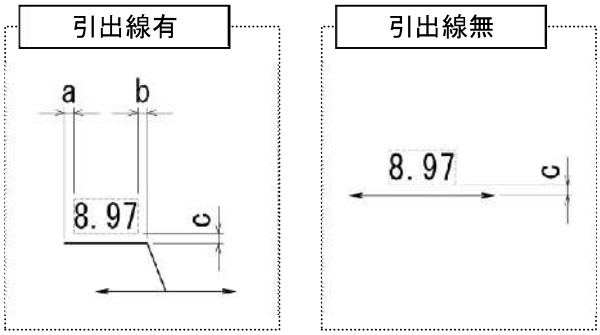


図 2-30　オフセットの構成

※ オフセット寸法は、直線寸法(SXF 構造化要素の直線寸法フィーチャ)により記載する。
※ オフセット寸法の寸法文字の文字回転角は、寸法線に対して平行な角度を原則とし、図面の下側および右側から読むことができるような角度とする。
※ 直線寸法フィーチャ内の矢印１配置点と補助線１基点および矢印２配置点と補助線２基点は同一位置とする。
※ 直線寸法フィーチャ内の補助線１および補助線２の有無フラグは、無を原則とする。
※ 引出線の引出開始位置は、オフセット寸法の寸法線上とし、寸法矢印間の中点位置を原則とする。
※ 引出線は、オフセット寸法の寸法文字に対して参照線(アンダーライン)を設けるものとし、寸法文字の配置角度に平行な参照線(アンダーライン)を作成する。
※ 引出線の線端は無いものを原則とし、折線(SXF 幾何要素/表記要素の折線フィーチャ)により記載する。
※ 引出線は省略することができる。
※ オフセット寸法の形状およびサイズは、下記を標準とする。



寸法値を表す文字列と引出線の参照線(アンダーライン)部分との位置関係

位置	設定値（㎜）	説明
a	1.0	参照線(アンダーライン)の左側端点から文字列の開始位置までの間隔
b	1.0	参照線(アンダーライン)の右側端点から文字列の終了位置までの間隔
c	1.0	参照線(アンダーライン)から文字列までの間隔

寸法値を表す文字サイズ

項目	名称値	説明
フォント名	ＭＳゴシック	
文字高 (㎜)	3.5	
文字幅 (㎜)	3.5	２バイト文字当りの文字幅
文字間隔 (㎜)	0	

2.1.9 道路幅員

道路幅員は、図 2-31 に示す道路幅員寸法、引出線により構成される。

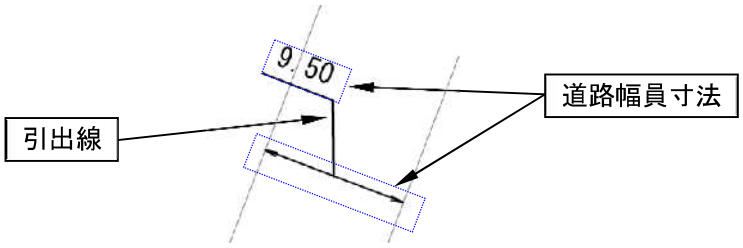
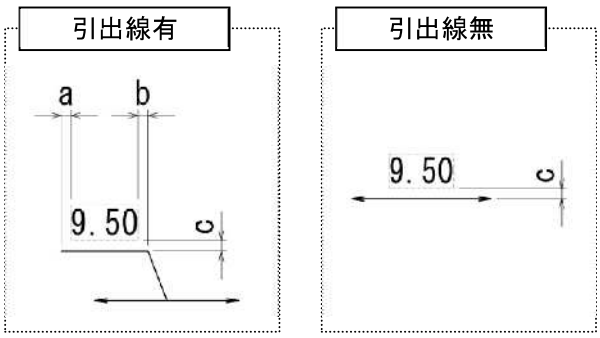


図 2-31　道路幅員の構成

※ 道路幅員寸法は、直線寸法(SXF 構造化要素の直線寸法フィーチャ)により記載する。
※ 道路幅員寸法の寸法文字の文字回転角は、寸法線に対して平行な角度を原則とし、図面の下側および右側から読むことができるような角度とする。
※ 直線寸法フィーチャ内の矢印１配置点と補助線１基点および矢印２配置点と補助線２基点は同一位置とする。
※ 直線寸法フィーチャ内の補助線１および補助線２の有無フラグは、無を原則とする。
※ 引出線の引出開始位置は、道路幅員寸法の寸法線上とし、寸法矢印間の中点位置を原則とする。
※ 引出線は、道路幅員寸法の寸法文字に対して参照線(アンダーライン)を設けるものとし、寸法文字の配置角度に平行な参照線(アンダーライン)を作成する。
※ 引出線の線端は無いものを原則とし、折線(SXF 幾何要素/表記要素の折線フィーチャ)により記載する。
※ 引出線は省略することができる。
※ 道路幅員寸法の形状およびサイズは、下記を標準とする。



寸法値を表す文字列と引出線の参照線(アンダーライン)部分との位置関係

位置	設定値 (㎜)	説明
a	1.0	参照線(アンダーライン)の左側端点から文字列の開始位置までの間隔
b	1.0	参照線(アンダーライン)の右側端点から文字列の終了位置までの間隔
c	1.0	参照線(アンダーライン)から文字列までの間隔

寸法値を表す文字サイズ

項目	名称値	説明
フォント名	ＭＳゴシック	
文字高 (㎜)	3.5	
文字幅 (㎜)	3.5	２バイト文字当りの文字幅
文字間隔 (㎜)	0	

2.1.10 図面切出枠

図面切出枠は、管きょの台帳「SEMIS」(下水道台帳情報システム)から切出しされた台帳図の切り出し範囲とする。

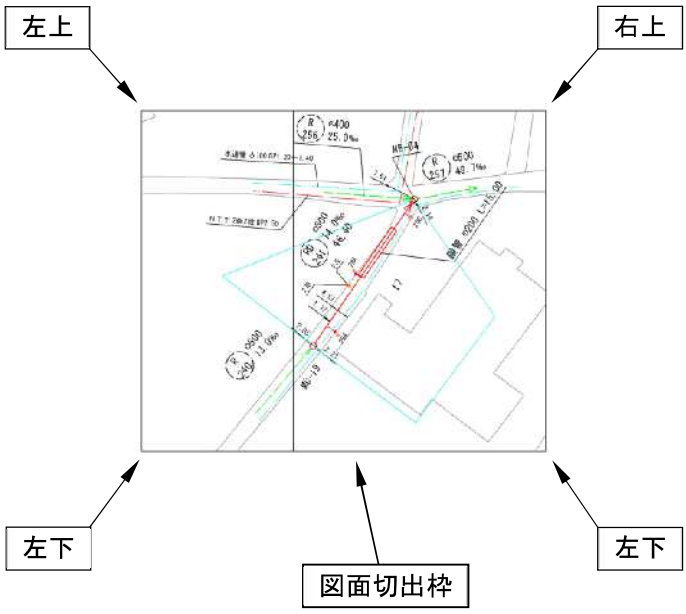


図 2-32　図面切出枠

※ 図面切出枠は、水平垂直な矩形領域とする。

※ 図面切出枠は、折線(SXF 幾何要素/表記要素の折線フィーチャ)により記載し、座標は左下点を１番目の点とし、並び順は時計回りに左下、左上、右上、右下、左下と５点で構成する。

※ 工事完了後の電子平面図に記載された図面切出枠を基準に「SEMIS」の施設情報等の更新を行う。

2.1.11「SEMIS」番号等

人孔の「SEMIS」番号、管きょの情報等については、下水道台帳（SEMIS）及び施設情報などにより入手する。これらについては、設計、工事、工事完了等で必要となる。

※「SEMIS」から切出しされた路線、人孔等の「SEMIS」番号や情報は、設計、工事、工事完了等の各段階で必要となる。

※ 新たに「SEMIS」番号を設定する場合は、監督員と協議すること。

2.2　系統図

系統図は、設計全区域の下水道管路系統を示す平面図で、設計現場案内図をかねるものである。

【解説】

(1)系統図は、東京都公共下水道台帳管理図を利用して作成する。

(2)系統図の尺度は、2,000分の1とする。

(3)記載事項

提案路線の位置と、これに関連する路線を明記するとともに、工事区域内の主要物件を示す。

①管理図番号、小図面番号（メッシュ番号）、図面割線

②町名、丁目、番地街路名、区境、河川名、橋梁名、公共施設名等

③路線、人孔、防潮扉室、吐口、幹線及び各々の番号等

④流れの方向、線の記号、管径及び形状、勾配、延長、方位等

⑤凡例、水準基標、基準点、案内図

⑥工事内人孔番号表、工事内管きょ集計表

⑦施工上の注意事項（施工区分、埋戻し方式、道路復旧方法等）

⑧その他必要事項

(4)管理図番号、小図面番号（メッシュ番号）、図面割線は、図2-33に示す。

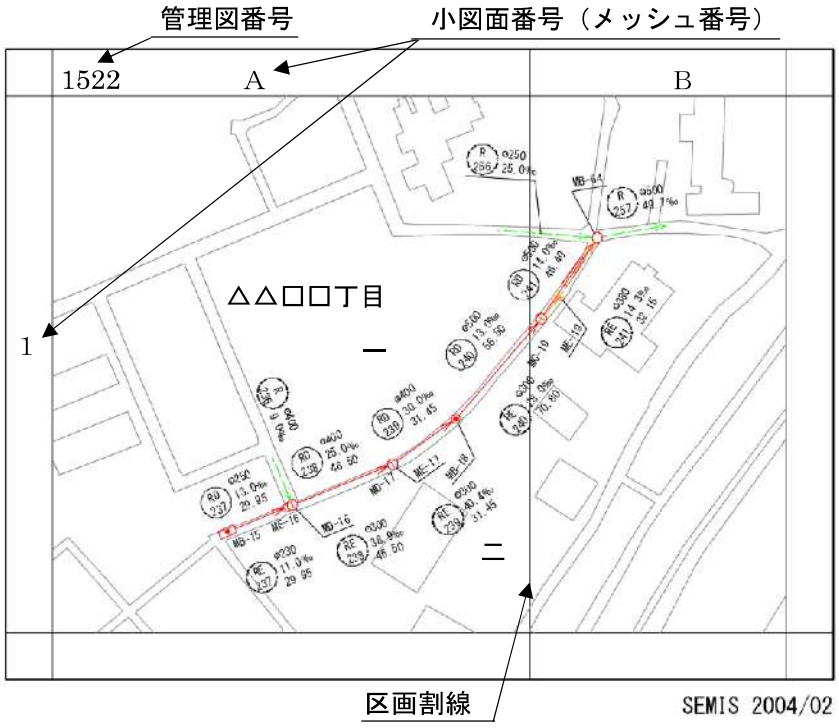


図 2-33　系統図の様式

(5)系統図の方位は、図面の上を北方向として作成する。また、施工区域が離れている2箇所以上の区域の系統図を作成する場合は必ず方位を揃える。

(6)凡例は、表2-4を標準とする。（東京都公共下水道台帳凡例による）

(7)系統図の路線は、路線記号、副管記号、振分記号および路線引出情報を記入する。

(8)工事内管きょ集計表に該当工事の路線番号及び管径別延長を記入する。

(9)系統図の人孔は、人孔記号および人孔引出情報を記入する。

(10) 工事内人孔番号表に管理図番号、小画面内人孔番号及び人孔の形状を記入する。

(11) 注）管きょ布設及び人孔、ます、構造等特に設計図に記入のないものについては、「東京都下水道設計標準による。」という語句を記入する。

また、注意書きについては、表2-5を標準とする。

(12) 水準基標・基準点は、提案設計区域に最も近いものを使用し、必要事項を記入する。なお、水準基標値は、「水準基標測量成果表」*による。

(13) 施工区分、基礎種別、埋戻し方法、道路復旧方法、施工方法、路面覆工等で一般共通事項は本図に一括記入してもよい。記入例参照

(14) 街路（呼称道路名）、鉄道を記入した場合、方向先を「至○○」として記入する。

(15) 同年度に同一箇所の上流及び下流を別々に提案するときは、施工時期などの調整のため、早退する提案路線を計画戦で示し、引出線により「当年度別途施工」と明記する。

(16) 鞘管は、鞘管記号および鞘管引出情報の図形で明記する。

(17) 作図枠、図枠、台帳図の切り出しを行ったアプリケーション名および切り出し年月を記入する。

(18) 系統図には、現場説明及び現場案内図において施工場所を容易に知ることができるように、目標となる地形図(方位、町丁名番地、街路、河川・橋梁、公共施設、その他コントロールとなる地物情報を必ず記入する。

(19)副管及び仮取入の表記は、表示することができる。

(20)私道排水設備取入管は、実線で表示し、引出線により「内径、勾配、路線延長」を記入する。

(21)公道（実線）と私道（破線）を分けて記入する。

(22)都市計画道路、河川区域、河川保全区域等は、一点鎖線で明示する。

(23)人孔番号は、工事内での通し番号とする。

表 2-4　凡例

記　号	名　称	記　号	名　称
幹線 枝線	提　案　路　線		副　管　取　付
幹線 枝線	既　設　路　線		汚水ます及び取付管
幹線 枝線	計　画　路　線		小型汚水ます及び　〃
	矩形人孔　内法 90×60		特殊汚水ます及び　〃
	円形人孔　内径 90		既設雨水ます及び　〃
	楕円形人孔　内径 120×90		浸透雨水ます（雨水抑制二連ます）
	円形人孔　内径 120	Ⓢ	宅地排水用雨水貯留浸透ます
	〃　〃 150	Ⓗ	光ﾌｧｲﾊﾞｰｹｰﾌﾞﾙます
	〃　〃 180	☆	管接合
	〃　〃 200	汚水ます A	既設汚水ます活用
	〃　〃 220	汚水ます B	既設汚水ます改造
K1	都型組立人孔 内法 90×60	汚水ます C	汚水ます新設
K2	〃 内法 120×60	汚水ます D	汚水ます撤去・新設
K3	〃 内法 120×80	汚水ます E	既設汚水ます撤去
K4	〃 内法 120×90		しゃ集汚水管
①	組立円形人孔内径 90		ＮＴＴ地中線
②	〃　内径 120		水　道　管
③	〃　内径 150		ガ　ス　管
④	〃　内径 180		東京電力地中線
⑤	〃　内径 200		舗　装　境
	特　殊　人　孔		道路管理境
	分　水　人　孔		区　境
	振　分　人　孔		町境、丁目境

(注)　1.計画人孔の場合は一点短鎖線となる。既設人孔の場合は破線で表示する。
（詳細は、2.5.1 シンボル記号を参照）

表 2-5　注意書き

註

一、管きょ布設及び人孔、桝、構造等特に設計図に記入のないものについては、東京都下水道設計標準による。

一、施工区分

RD 23 RB 10 RB 39 路線は深夜間施工とし、その他の路線は昼間施工とする。

一、施工方法

RC 4 路線は特殊推進工法（土圧式）、

RC 5 路線は推進工法（刃口式）、

RB 19 RB 26 路線は管きょ内面被覆工法（製管工法）、

RB 55 路線は管きょ内面被覆工法（反転・形成工法）

その他の路線は、開削工法とする。

一、管きょ内面被覆工法（反転・形成工法）の呼び径について

既設管内径 250mm～400mm の呼び径は、A 種材・B 種材両方採用可能な場合、B 種材の表示としている。

一、新設の鉄筋コンクリート管は全て ERP とし、ERP はスーパーアッシュを利用した管きょであることを示す。

一、新設の組立人孔は全て ERM とし、ERM はスーパーアッシュを利用した人孔であることを示す。

一、埋戻し方法

全て改良土埋戻しとする。

一、道路復旧方法

本工事は全て自費復旧とする。

一、路面覆工

RD 23 RD 34 路線は路面覆工とする。

「管きょ再構築設計の手引き(H26.9)の系統図記載例
・汚水桝深さの表示のないものは、深さ 0.8m である。
・汚水桝取付管の管径表示のないものは、管径 150mm である。
の記載については、汚水桝・取付管一覧表に表示するため、
注意書きへの記載は不要

一、桝及び取付管

取付管は、下水道用硬質塩化ビニル管とする。

在来雨水枡取付管及び既設活用汚水桝取付管は、本管掘削内のみ撤去新設とする。

汚水桝・取付管一覧表内の小型汚水桝は小型汚水桝（Ｌ型用）である。

一、人孔番号は、本工事内の通し番号である。

一、人孔の SEMIS 番号は、東京都公共下水道施設管理図で使用している番号である。

一、図面に表示のない人孔蓋は、都型標準蓋（T-20）を使用する。

一、人孔蓋の取替は蓋、枠、調整コンクリートの取替えとする。

一、足掛金物の取替えは二次製品部分は機械施工とし、その他は人力施工とする。

一、耐震化工事の施工内容は、耐震化一覧表による。

一、使用している管理図（二〇〇〇分の一）は、令和〇年〇月版である。

これらはあくまで一例であり、工事内容により項目を追加・削除する。

2.2.1　路線

系統図の路線は、電子平面図に記載されている路線（路線記号、副管記号、振分記号、路線引出情報）の図形を基に作成する。

系統図に記載する路線は、図 2-34 に示す路線記号、振分記号、路線引出情報により構成される。

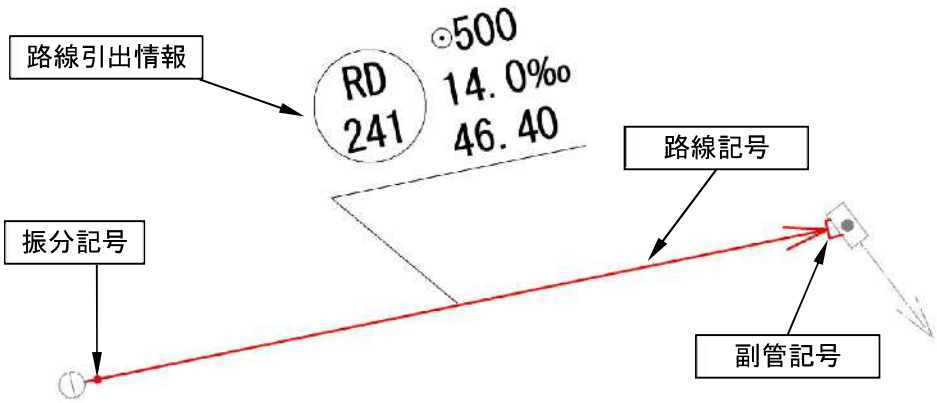


図 2-34　路線の構成

※ 系統図に記載する路線記号、振分記号、路線引出情報の記載手法は、電子平面図と同様とする。尚、路線記号、振分記号、路線引出情報の各サイズは、電子平面図に記載するサイズの 1/2 とする。

※ 副管記号の記載は省略する。

2.2.2　人孔

系統図に記載する人孔は、電子平面図に記載されている人孔（人孔記号、人孔引出情報）の図形を基に作成する。

系統図に記載する人孔は、図 2-35 に示す人孔記号、人孔引出情報により構成される。

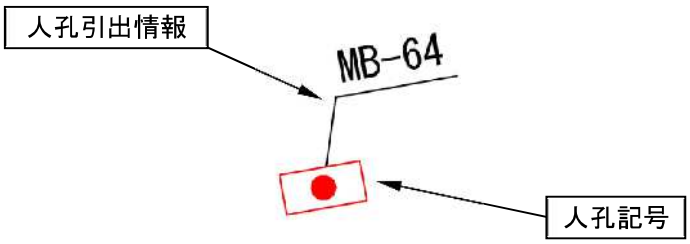


図 2-35　人孔の構成

※ 系統図に記載する人孔記号、人孔引出情報の記載手法は、電子平面図と同様とする。尚、人孔引出情報のサイズは、電子平面図に記載するサイズの 1/2 とする。

2.2.3　鞘管

系統図に記載する鞘管は、電子平面図に記載されている鞘管（鞘管記号、鞘管引出情報）の図形を基に作成する。

系統図に記載する鞘管は、図 2-36 に示す鞘管記号にのみ構成される。なお、全ての鞘管に対して系統図への記載を省略することができる。

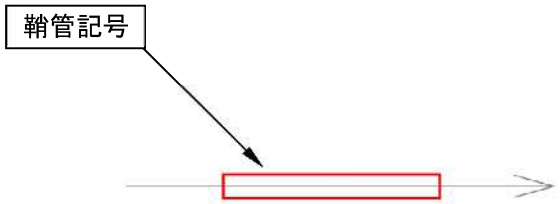


図 2-36　系統図の鞘管の構成

※ 系統図に記載する鞘管記号の記載手法は、電子平面図と同様とする。

※ 鞘管引出情報の記載は省略する。

2.2.4　系統図枠

系統図に記載する系統図枠は、電子平面図に記載されている図面切出枠の図形を基に作成する。

系統図は、図 2-.37 に示す図枠、作図枠、アプリケーション名、切出年月により構成される。

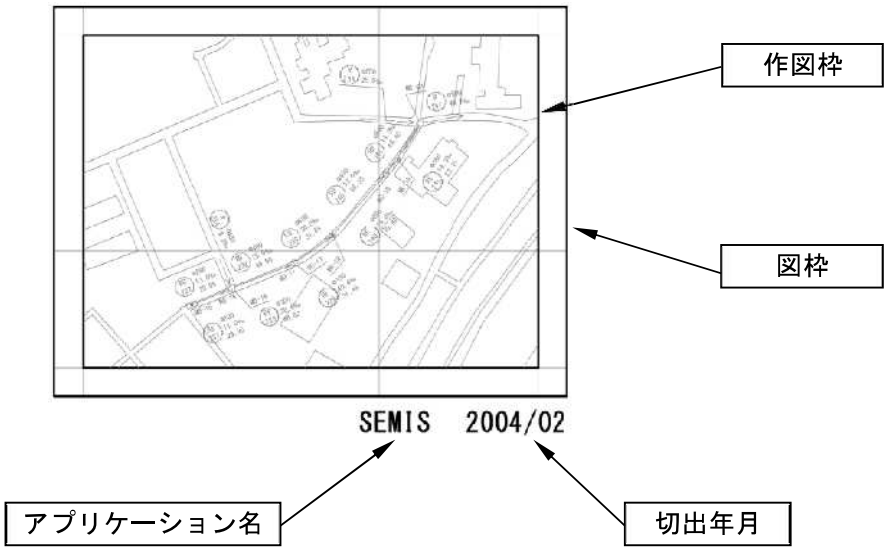


図 2-37　系統図枠の構成

a) 作図枠

※ 作図枠は、電子平面図に記載されている図面切出枠と一致する水平垂直な矩形領域とする。

※ 作図枠は、電子平面図に記載されている図面切出枠の図形および属性情報を基に作成する。

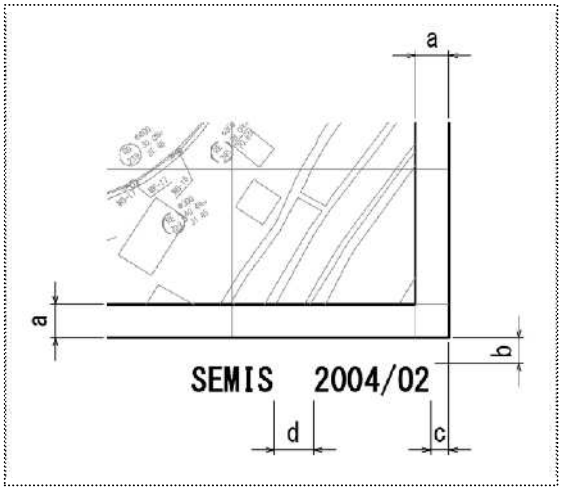
※ 作図枠は、電子平面図に記載されている図面切出枠と同様に折線(SXF 幾何要素/表記要素の折線フィーチャ)により記載し、座標は左下点を１番目の点とし、並び順は時計回りに左下、左上、右上、右下、左下と５点で構成する。

b) 図枠

※ 図枠は、作図枠に対して一定の間隔の外側に存在する水平垂直な矩形領域とする。

※ 図枠は、作図枠と同様に折線(SXF 幾何要素/表記要素の折線フィーチャ)により記載し、座標は左下点を１番目の点とし、並び順は時計回りに左下、左上、右上、右下、左下と５点で構成する。

※ 図枠、アプリケーション名および切出年月の形状およびサイズは、下記を標準とする。



図枠、アプリケーション名および切出年月を表す図形のサイズおよび位置関係

位置	設定値（㎜）	説明
a	10	作図枠から図枠までの間隔
b	3	図枠から文字列までの垂直方向の間隔
c	0	図枠から文字列までの水平方向の間隔
d	3	文字列と文字列の間隔

c) アプリケーション名

※ アプリケーション名は、電子平面図の既設データ(台帳図)の切出しを行ったアプリケーションの名称を記載する。

※ アプリケーション名を表す文字の大きさは、3.5mm とする。

d) 切出年月

※ 切出年月は、電子平面図の既設データ(台帳図)の切出しを行った年月を記載する。

※ 切出年月は、電子平面図に記載されている図面切出枠の属性情報を基に作成する。

※ 切出年月は、年および月の二文字間に“/”(半角)を付加した一文字列により記載する。

※ 切出年月を表す文字の大きさは、3.5mm とする。

2.3 線路詳細図

線路詳細図の作成は、次の事項によるものとする。

(1) 平面図は、提案路線及びその周辺の詳細を示し、工事施工に必要な事項を記載し、地下の支障物件、特殊工法及び道路種別などを具体的に明記する。

(2) 断面図は、提案路線の縦断関係を示すもので、地盤高、管底高、管勾配及び土被り等の関係に加えて、再構築下水道管きょの施工方法も明記する。

また、提案路線を横断、又は縦断的に近接する埋設物、河川、軌道等が存在する場合は、これらの詳細（提案路線との離隔等）も明示する。

2.3.1 平面図

平面図は、路線、人孔、桝、取付管、鞘管、地下埋設物、オフセット、道路幅員、地形図、方位記号を記載する。

平面図の様式を、図 2-38 に示す。

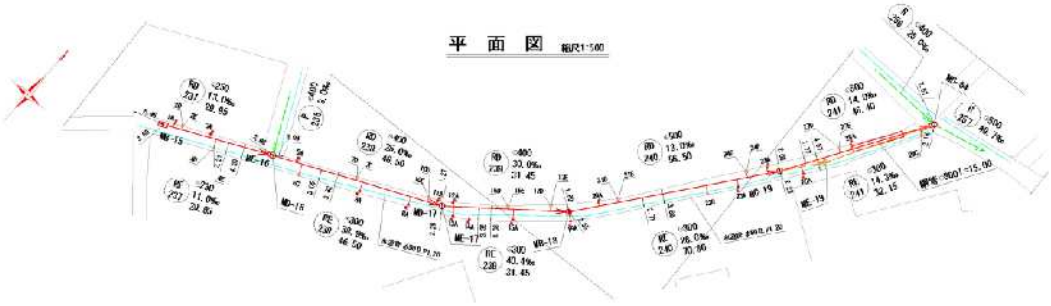


図 2-38　平面図(線路詳細図)の様式

平面図は、電子平面図に記載した路線、人孔、桝、取付管、鞘管、地下埋設物、オフセット、道路幅員、地形図を基に作成する。

2.3.1.1　路線

平面図に記載する路線は、電子平面図に記載されている路線(路線記号、副管記号、振分記号、路線引出情報)の図形を基に作成する。

平面図に記載する路線は、図 2-39 に示す路線記号、副管記号、振分記号、路線引出情報により構成される。

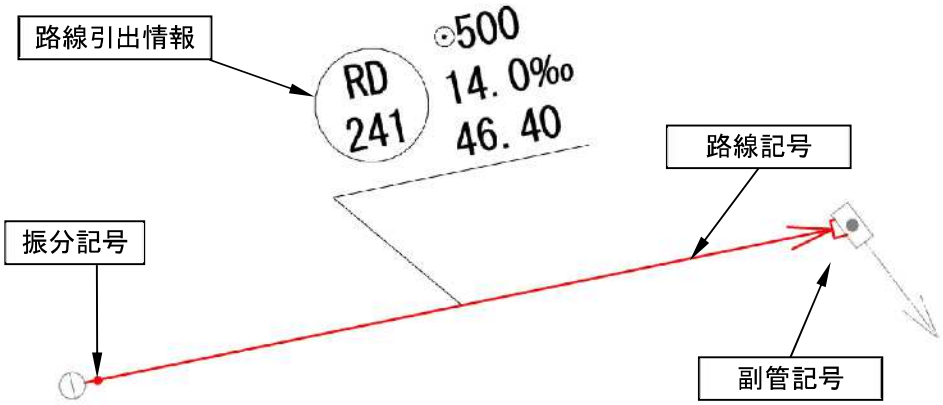


図 2-39　平面図の路線の構成

※ 平面図に記載する路線記号、副管記号、振分記号、路線引出情報の記載手法は、電子平面図と同様とする。

2.3.1.2　人孔

平面図に記載する人孔は、電子平面図に記載されている人孔(人孔記号、人孔引出情報)の図形および属性情報を基に作成する。

平面図に記載する人孔は、図 2-40 に示す人孔記号、人孔引出情報により構成される。

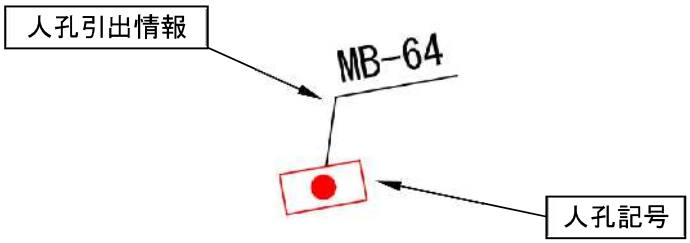


図 2-40　平面図の人孔の構成

※ 平面図に記載する人孔記号、人孔引出情報の記載手法は、電子平面図と同様とする。

2.3.1.3　桝

平面図に記載する桝は、電子平面図に記載されている桝(桝記号、桝引出情報)の図形および属性情報を基に作成する。

平面図に記載する桝は、図 2-41 に示す桝記号、桝引出情報により構成される。

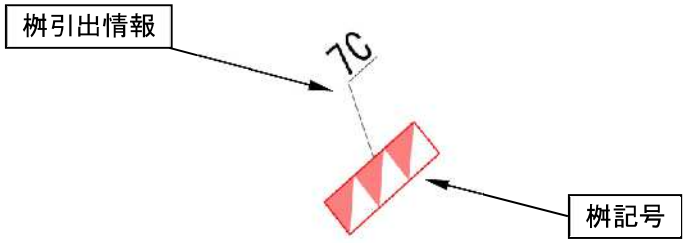


図 2-41　平面図の桝の構成

※ 平面図に記載する桝記号、桝引出情報の記載手法は、電子平面図と同様とする。

2.3.1.4　取付管

平面図に記載する取付管は、電子平面図に記載されている取付管(取付管記号)の図形および属性情報を基に作成する。

平面図に記載する取付管は、図 2-42 に示す取付管記号のみにより構成される。

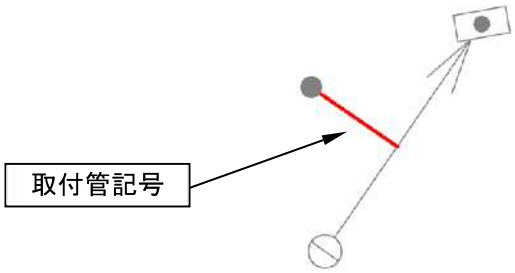


図 2-42　平面図の取付管の構成

※ 平面図に記載する取付管記号の記載手法は、電子平面図と同様とする。

2.3.1.5　鞘管

平面図に記載する鞘管は、電子平面図に記載されている鞘管(鞘管記号、鞘管引出情報)の図形および属性情報を基に作成する。

平面図に記載する鞘管は、図 2-43 に示す鞘管記号および鞘管引出情報により構成される。

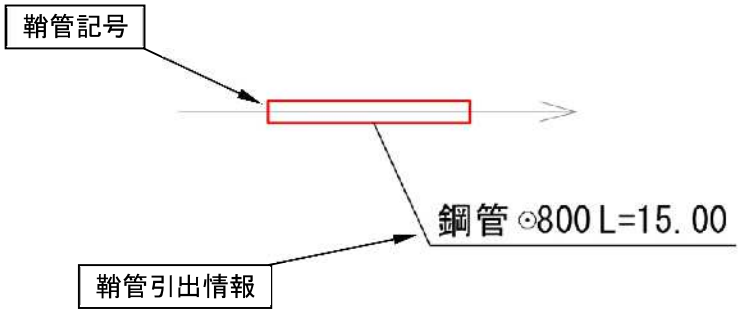


図 2-43　平面図の鞘管の構成

※ 平面図に記載する鞘管記号、鞘管引出情報の記載手法は、電子平面図と同様とする。

2.3.1.6　地下埋設物

平面図に記載する地下埋設物は、電子平面図に記載されている地下埋設物(埋設物記号、埋設物引出情報)の図形および属性情報を基に作成する。

平面図に記載する地下埋設物は、図 2-44 に示す埋設物記号および埋設物引出情報により構成される。

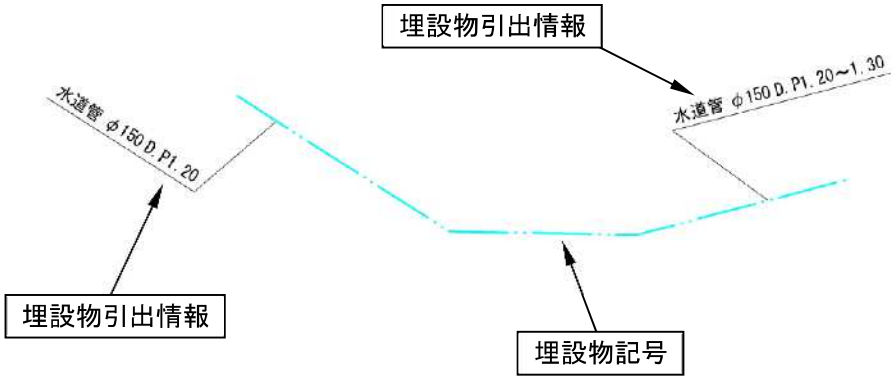


図 2-44　平面図の地下埋設物の構成

※ 平面図に記載する埋設物記号、埋設物引出情報の記載手法は、電子平面図と同様とする。

2.3.1.7　オフセット

平面図に記載するオフセットは、電子平面図に記載されているオフセット(オフセット寸法、引出線)の図形および属性情報を基に作成する。

平面図に記載するオフセットは、図 2-45 に示すオフセット寸法および引出線により構成される。

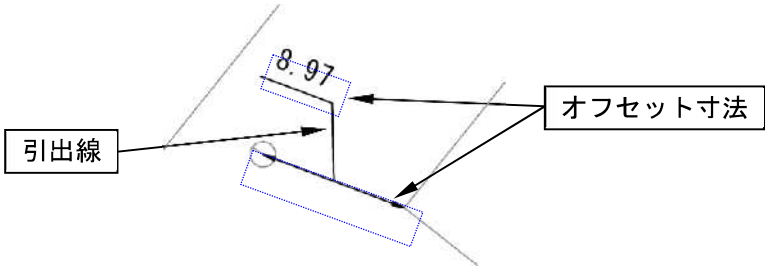


図 2-45　平面図のオフセットの構成

※ 平面図に記載するオフセット寸法、引出線の記載手法は、電子平面図と同様とする。

2.3.1.8　道路幅員

平面図に記載する道路幅員は、電子平面図に記載されている道路幅員(道路幅員寸法、引出線)の図形および属性情報を基に作成する。

平面図に記載する道路幅員は、図 2-46 に示す道路幅員寸法および引出線により構成される。

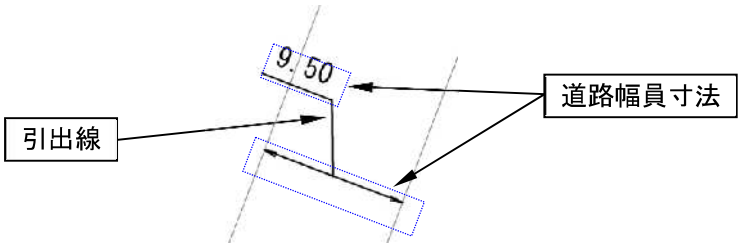


図 2-46　平面図の道路幅員の構成

※ 平面図に記載する道路幅員寸法、引出線の記載手法は、電子平面図と同様とする。

2.3.2　縦断面図

縦断面図は、提案路線の縦断関係を示すもので、地盤高、管底高、管勾配および土被り等の関係を明記するとともに、再構築下水道管きょの施工方法も明らかにする。

また、路線が、埋設物、河川、軌道等を横断、あるいは縦断する場合は、この関係も示さなければならない。

【解説】

(1) 縦断面図の尺度および記載事項は、表2-6のとおりとする。

表 2-6　縦断面図の尺度および記載事項

項目	内容
尺度	H=1：500、V=1：100とする。
記載事項	1) 帯部に提案路線の縦断関係を示す事項を以下の順番で記載 1. 地盤高 2. 土被り 3. 更新管の管底高 4. 既設管の管底高 2) DL線下部の記載事項 1. 提案路線の路線情報(設計区分・路線番号、管径、勾配および延長) 3) DL線上部の記載事項 1. 地盤線 2. 提案路線の更新管路線および既設管路線 3. 流入および流出する接続管路の位置、接続路線情報(設計区分・路線番号、管径、勾配および管底高) 4. 施工内容(舗装、更新管および既設管の施工内容) 等 5. 地下埋設物との交差位置および種類 4) 旗上げ部の記載事項 1. 人孔旗上情報(人孔番号、人孔種別、人孔深、副管タイプ、副管高さおよび副管径等) 5) 製図領域部の記載事項 1.工事の起終点およびその前後の関連性 2.ボーリング柱状図等 6) 表題欄部の記載事項 1. 縦断面図に記載した区間全ての提案路線の作図路線情報(設計区分・路線番号)

(2) 縦断図面の様式を、図2-47に示す。

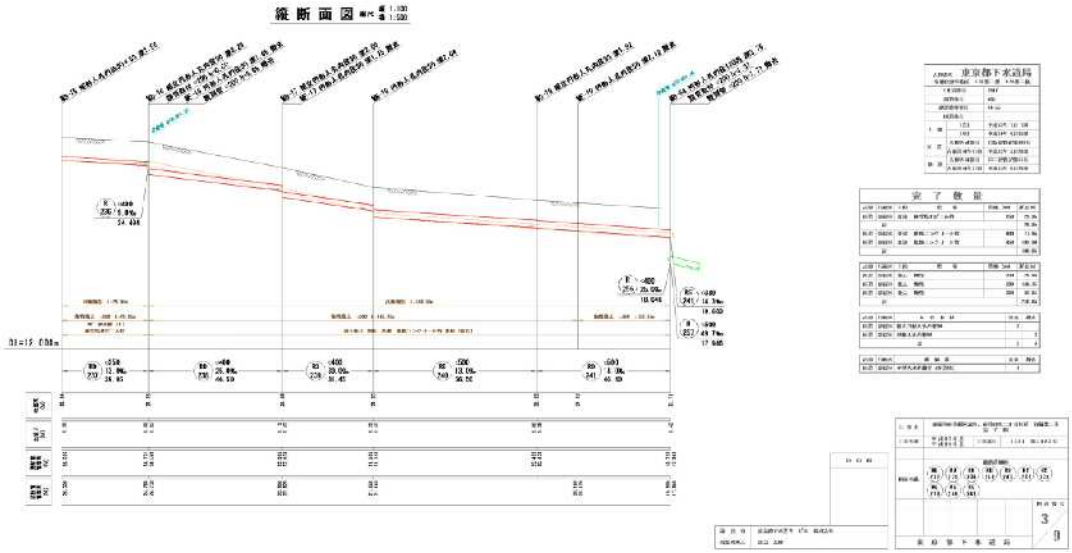


図 2-47　縦断面図(線路詳細図)の様式

(3) 縦断面図は、電子平面図に記載した路線、人孔、鞘管、地下埋設物を基に作成する。

(4) 縦断面図は、帯部、DL線下部、DL線上部（接続路線に関する作図項目のみ）、旗揚げ部により構成される。

(5) 上記以外に注意する事項としては、以下の項目がある。

※ 起点を左に、終点を右にする事を原則とする。

※ 平面図と縦断面図を併記し、上段に平面図、下段に縦断面図を作図する。

(6) 縦断面図の帯の寸法を、図2-48に示す。また、文字の大きさは、帯内の文字を3.5mm、基準標高を7mmとする。

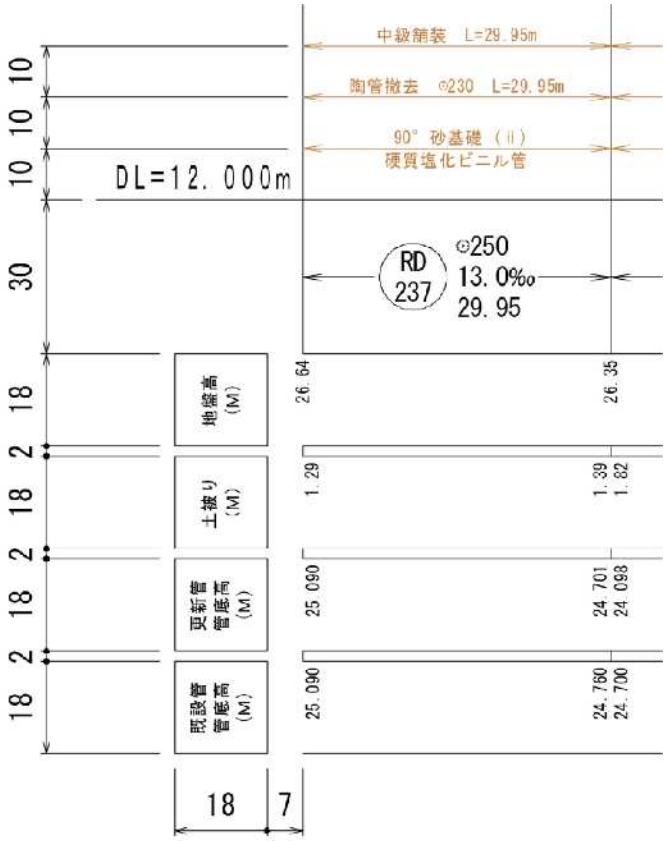

中級舗装 L=29.95m
陶管撤去 φ230 L=29.95m
90° 砂基礎（Ⅱ）
硬質塩化ビニル管
DL=12.000m
RD
237
φ250
13.0‰
29.95
地盤高
(M)
土被り
(M)
更新管
管底高
(M)
既設管
管底高
(M)
26.64
26.35
1.29
1.39
1.82
25.090
24.701
24.098
25.090
24.780
24.700
10
10
10
30
18
2
18
2
18
2
18
18
7

図 2-48　縦断面図の帯

2.3.2.1　帯部

縦断面図の帯部に記載する提案路線の縦断関係を示す作図項目(地盤高、土被り、更新管管底高、既設管管底高)は、電子平面図に記載されている路線の属性情報を基に作成する。

(1)縦断関係を示す作図項目

※ 提案路線の縦断関係を示す作図項目は、図 2-49 に示す地盤高、土被り、更新管管底高、既設管管底高により構成される。

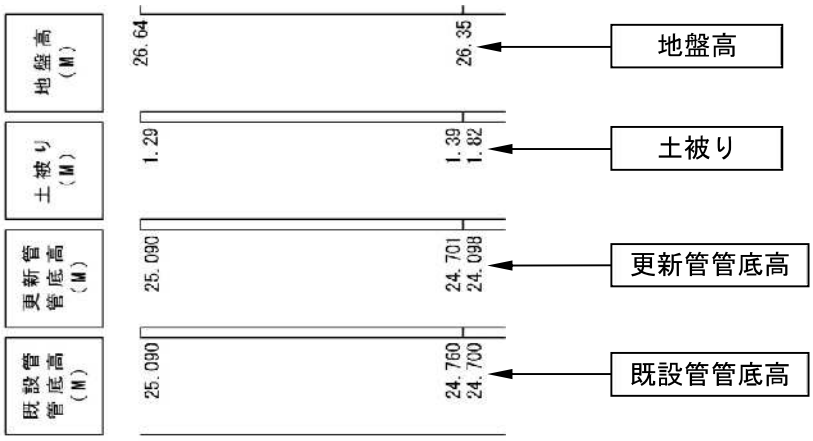
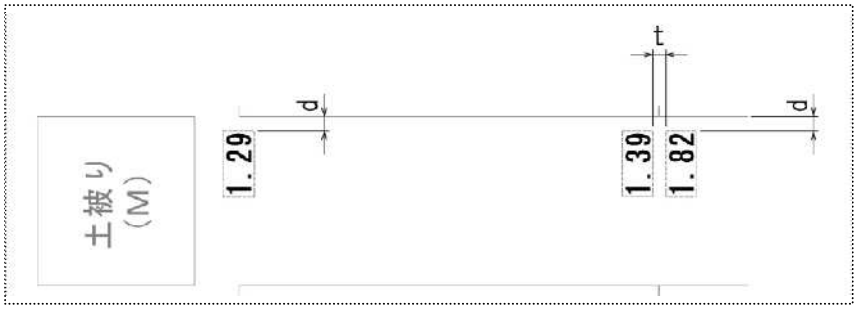


図 2-49　帯部の構成

※ 縦断関係を表す文字の位置関係およびサイズは、下記を標準とする。



縦断関係を表す文字列の位置関係

位置	設定値 (mm)	説明
d	1	帯枠から文字列の終点位置までの間隔
t	0.5	文字列間の間隔

縦断関係を表す文字の大きさは、3.5mm とする。

2.3.2.2　DL 線下部

縦断面図の DL 線下部に記載する図 2-50 に示す提案路線の路線情報は、電子平面図に記載されている路線の属性情報を基に作成する。

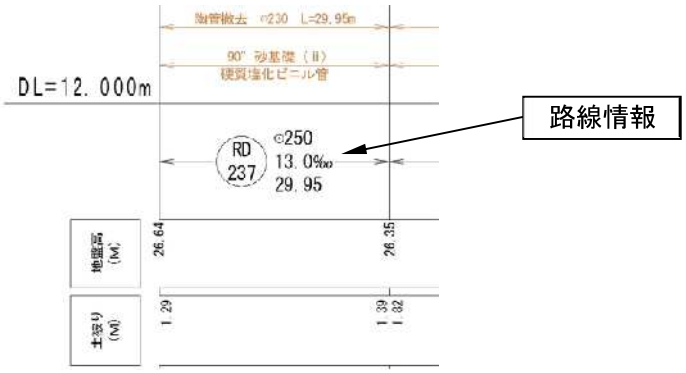


図 2-50　DL 線下部に記載する項目

(1)路線情報

※ 提案路線の路線情報は、図 2-51 に示す設計区分、路線番号、路線番号記号、断面記号、内径、勾配および延長により構成される。

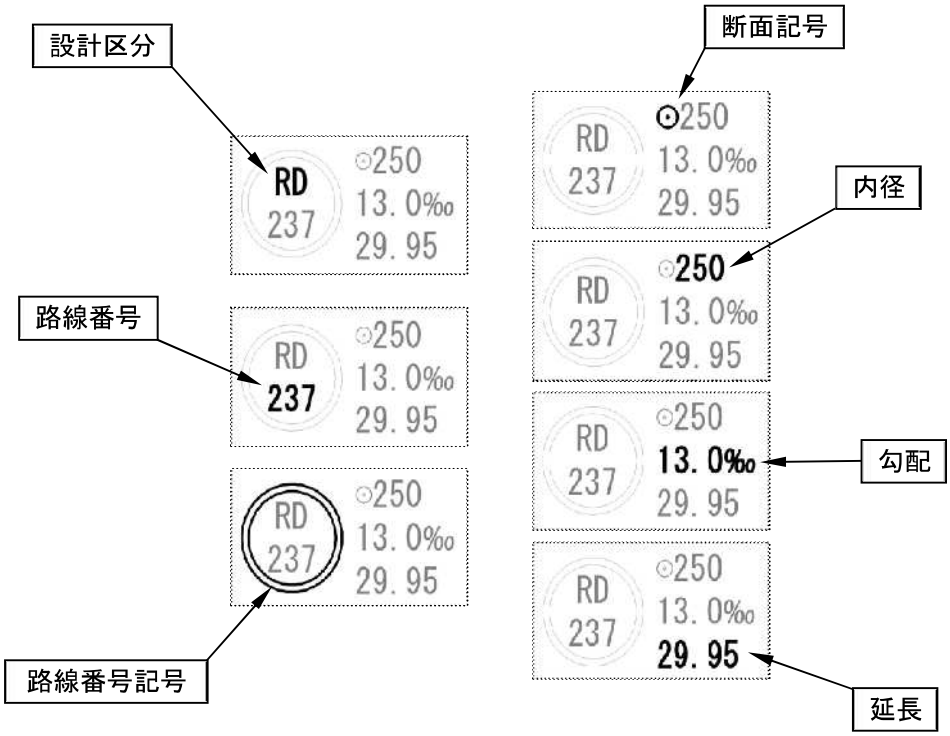
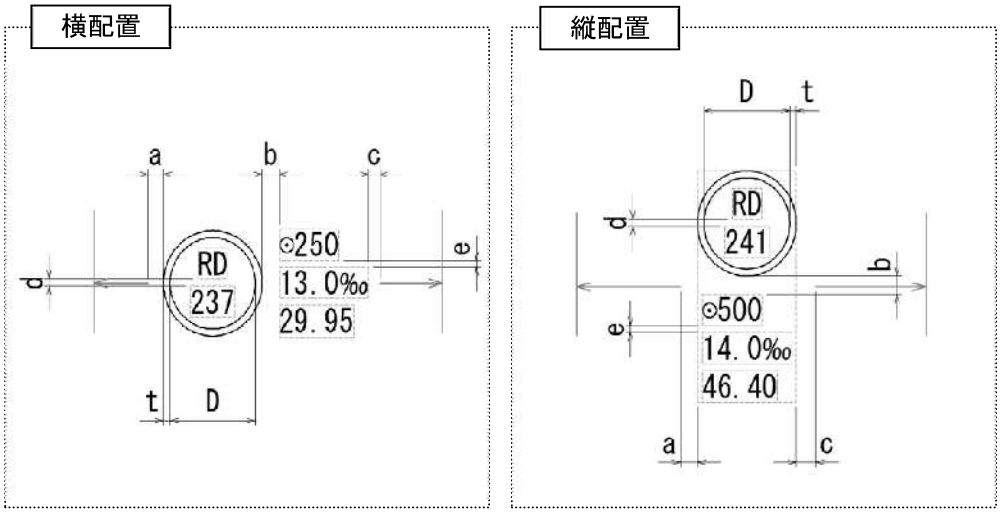


図 2-51　路線情報の構成

※ 縦断面図に記載する提案路線の路線情報の記載手法は、電子平面図の路線引出情報と同様とする。

※ 路線情報の形状およびサイズは、下記を標準とする。



路線情報を表す図形のサイズおよび位置関係

位置	設定値（㎜）	説明
a	1	寸法線の左側端点から縦断面図路線情報内の図形の左端までの間隔
b	2	路線番号記号から路線形状(内径・勾配・延長等)の文字列までの間隔
c	1	寸法線の右側端点から縦断面図路線情報内の図形の右端までの間隔
d	1	設計区分と路線番号の文字列間の間隔
e	1	路線形状(内径・勾配・延長等)の文字列間の間隔
D	13	路線番号記号(円)の直径
t	1	路線番号記号が二重円の場合の間隔

路線情報を表す文字の大きさは、5mm とする。

2.3.2.3　DL 線上部

縦断面図の DL 線上部に記載する図 2-52 に示す地盤線、提案路線の管路線、接続路線位置、接続路線情報、工事内容(舗装、更新管、既設管)および地下埋設物情報(交差位置、種類)は、電子平面図に記載されている路線、人孔および地下埋設物の属性情報を基に作成する。

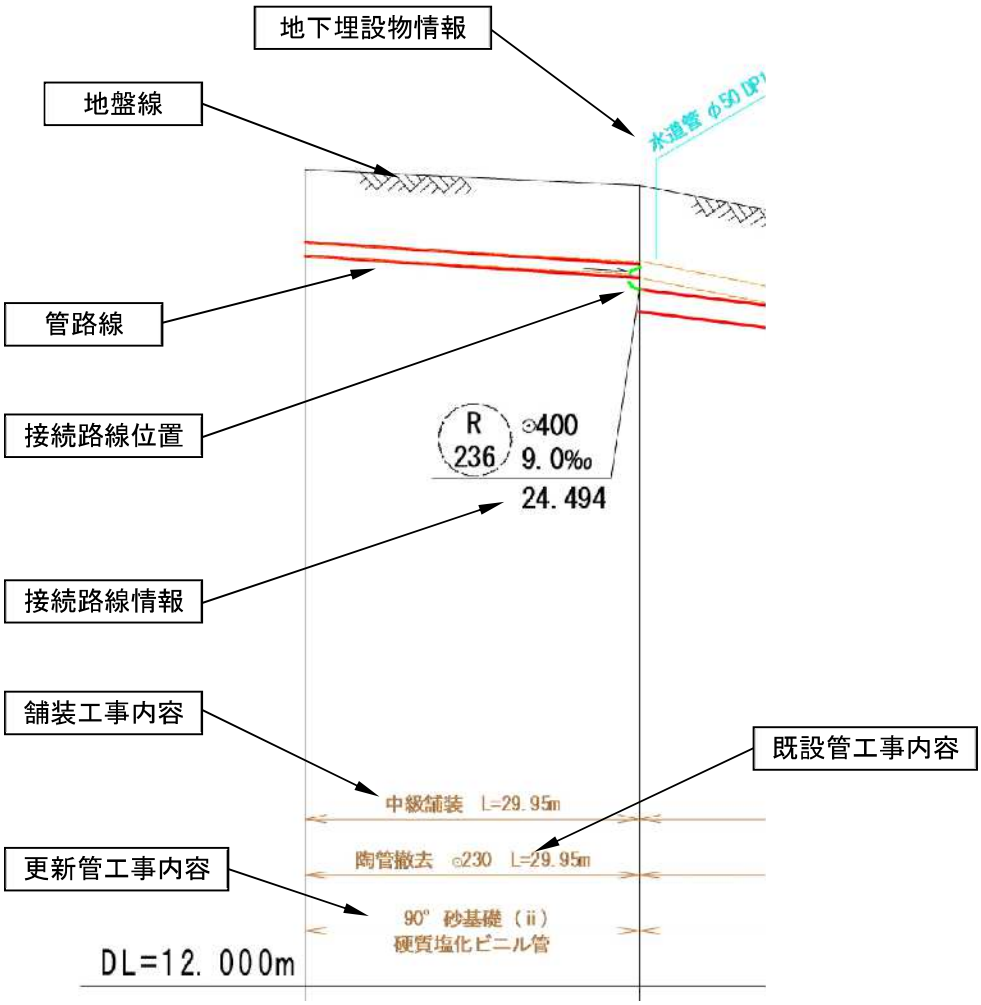


図 2-52　DL 線上部に記載する項目

(1)接続路線情報

※ 流入および流出する路線の接続路線情報は、図 2-53 に示す設計区分、路線番号、路線番号記号、断面記号、内径、勾配および管底高により構成される。

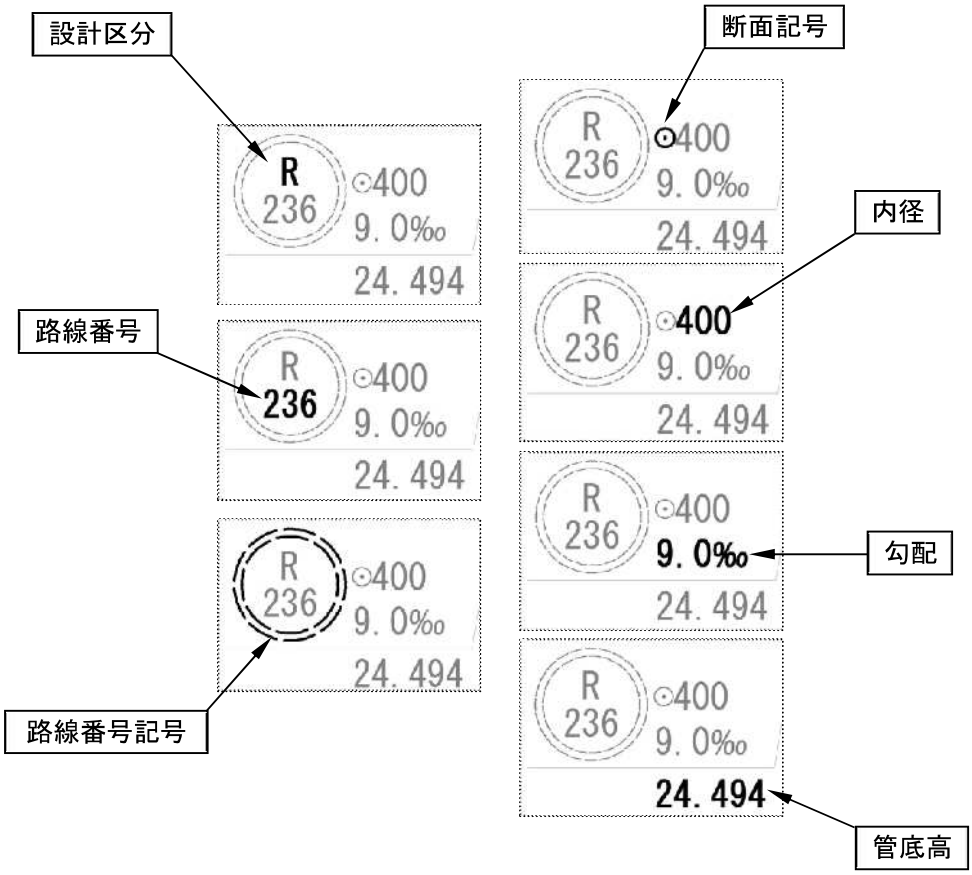
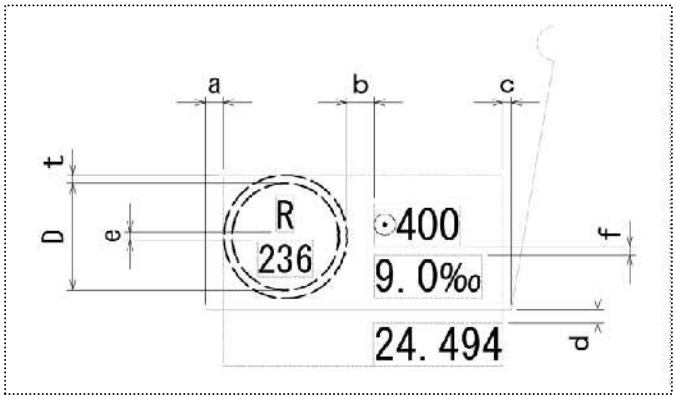


図 2-53　接続路線情報の構成

※ 縦断面図に記載する流入および流出する路線の接続路線情報の記載手法は、平面図の路線引出情報と同様とする。

※ 接続路線情報の形状およびサイズは、下記を標準とする。



接続路線情報を表す図形のサイズおよび位置関係

位置	設定値（㎜）	説明
a	1	引出線(アンダーライン)の左側端点から縦断面図流入路線情報内の図形の左端までの間隔
b	2	路線番号記号から路線形状(内径・勾配・管底高等)の文字列までの間隔
c	1	引出線(アンダーライン)の右側端点から縦断面図流入路線情報内の図形の右端までの間隔
d	1	引出線(アンダーライン)から路線形状(勾配・管底高)の文字列および路線番号記号までの間隔
e	1	設計区分と路線番号の文字列間の間隔
f	1	路線形状(内径・勾配)の文字列間の間隔
D	13	路線番号記号(円)の直径
t	1	路線番号記号が二重円の場合の間隔

接続路線情報を表す文字の大きさは、5mm とする。

(2) 舗装工事内容

※ 舗装工事内容は、提案路線が新設、布設替え、撤去の場合、または、舗装種別が設定されている提案路線のみ記載する。

※ 舗装の復旧工事内容に関する舗装工事内容は、図 2-54 に示す舗装種別、舗装(復旧)延長および寸法線により構成される。

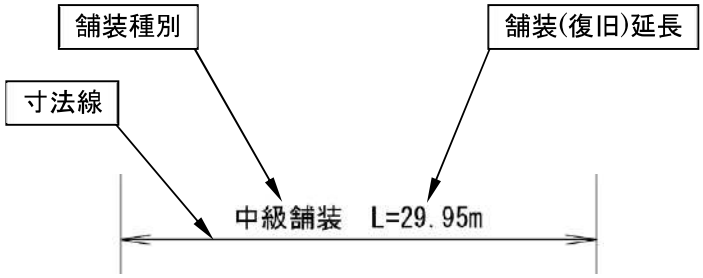
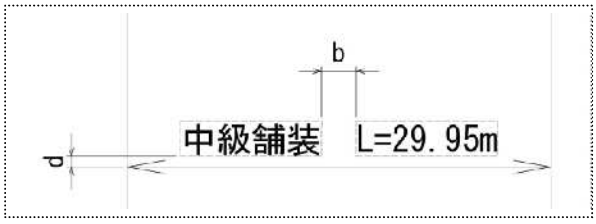


図 2-54　舗装(復旧)延長の構成

※ 舗装(復旧)延長は、接頭に“L=”を付加した文字列を記載する。

※ 舗装工事内容の形状およびサイズは、下記を標準とする。



舗装工事内容を表す図形のサイズおよび位置関係

位置	設定値（㎜）	説明
b	3.5	文字列と文字列の間隔
d	1	寸法線から文字列までの間隔

舗装工事内容を表す文字の大きさは、3.5mm とする。

(3)既設管工事内容

※ 既設管工事内容は、提案路線が既設活用、修正(更生)、布設替え、撤去、存置、工事終了の場合のみ記載する。

※ 既設管の工事内容に関する既設管工事内容は、図 2-55 に示す施工区分、管種、断面記号、内径、撤去延長および寸法線により構成される。

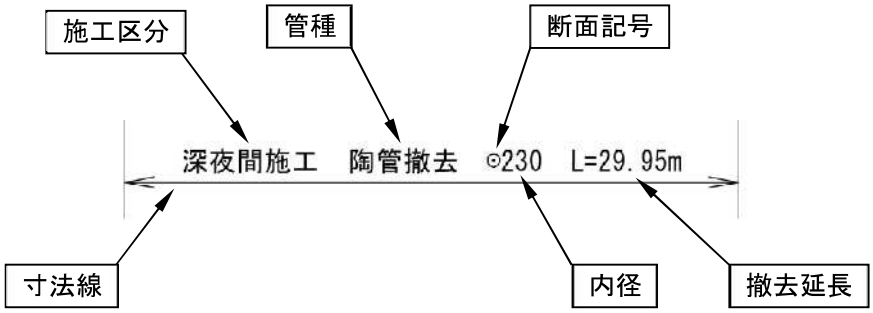


図 2-55　既設管

※ 昼間施工(昼間 8 時間労働)以外の施工区分のみ、施工区分を記載する。

※ 既設管が既に更生工事が行われている場合の管種は、接頭に“更生管（”、接尾に “)” を付加した文字列を記載する。

※ 布設替えにより撤去する既設管および撤去のみを行う既設管の管種は、接尾に “撤去” を付加した文字列を記載する。

※ 断面形状が円形または卵形以外の内径は、管幅と管高を記載(二文字間に“×”を付加した一文字列)する。

※ 撤去延長は、布設替えにより撤去する既設管および撤去のみを行う既設管の場合のみ記載し、接頭に“L=”を付加した文字列を記載する。

※ 既設管工事内容の形状およびサイズは、舗装工事内容と同様とする。

(4)更新管工事内容

※ 更新管工事内容は、提案路線が修正(更生)、新設の場合のみ記載する。

※ 更新管が布設替え、新設による更新管工事内容は、図 2-56 に示す施工区分、基礎種類、管渠規格(管種・継手形状・管渠強度)および寸法線により構成される。

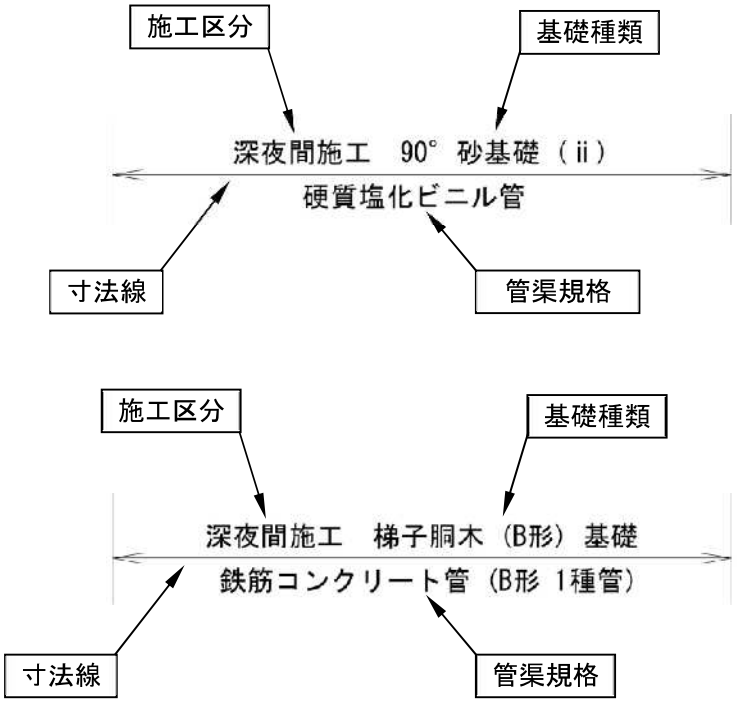


図 2-56　新設による新設管工事内容の構成

※ 更新管が修正(更生)による更新管工事内容は、図 2-57 に示す施工区分、管渠規格、更生工法および寸法線により構成される。

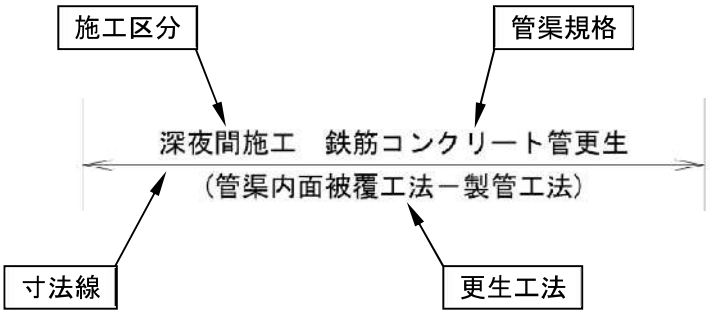


図 2-57　修正(更生)による新設管工事内容の構成

※ 施工区分は、昼間施工(昼間 8 時間労働)以外の施工区分のみ記載する。
※ 基礎種類は、提案路線が布設替え、新設の場合のみ記載する。
※ 提案路線が布設替え、新設の管渠規格は、図 2-58 に示す管種と、継手形状および管渠強度を合成(二文字間に半角スペースを付加)した文字列に対して、接頭に全角の“（”を、接尾に全角の“）”を付加した文字列とを合成(一文字列)し記載する。

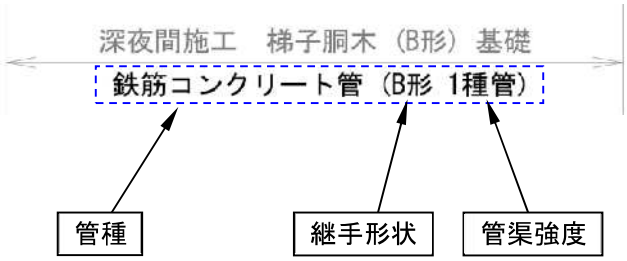


図 2-58　新設による管渠規格の構成

※ 提案路線が修正(更生)の管渠規格は、管種の接尾に“更生”を付加した文字列を記載する。
※ 更生工法は、提案路線が修正(更生)の場合のみ記載する。
※ 新設管工事内容の形状およびサイズは、舗装工事内容と同様とする。

(5)地下埋設物情報

※ 提案路線と交差する地下埋設物情報は、図 2-59 に示す埋設物、種別名称、内径、土被りおよび引出線により構成される。

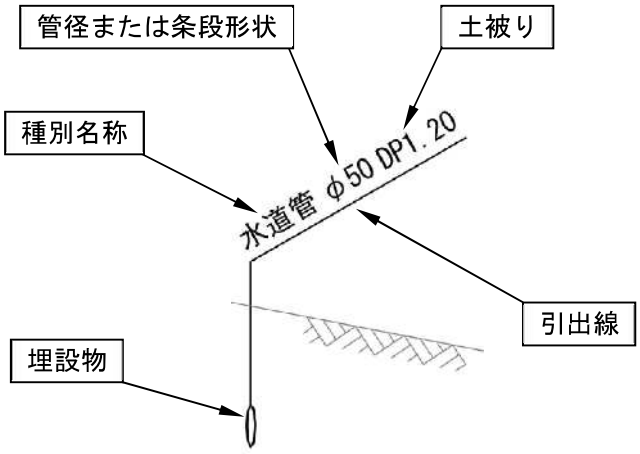
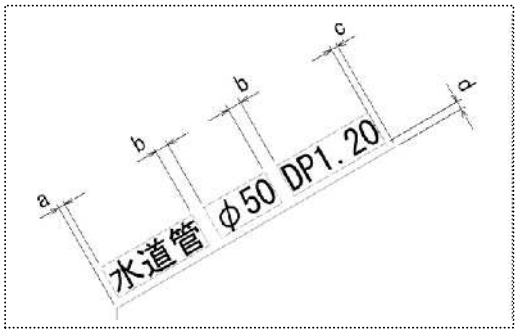


図 2-59　地下埋設管情報

※ 縦断面図に記載する地下埋設物情報内の種別、内径および土被りの記載手法は、電子平面図の埋設物引出情報と同様とする。

※ 地下埋設物情報の形状およびサイズは、下記を標準とする。



地下埋設物情報を表す図形のサイズおよび位置関係

位置	設定値（㎜）	説明
a	0.5	引出線の左側端点から各情報内の先頭の文字列までの間隔
b	1	文字列と文字列の間隔
c	0.5	引出線の右側端点から各情報内の最後の文字列までの間隔
d	0.5	引出線から文字列までの間隔

地下埋設物情報を表す文字の大きさは、3.5mm とする。

2.3.2.4　旗上げ部

縦断面図の旗上げ部に記載する図 2-60 に示す人孔旗上情報および副管旗上情報は、電子平面図に記載されている路線および人孔の属性情報を基に作成する。

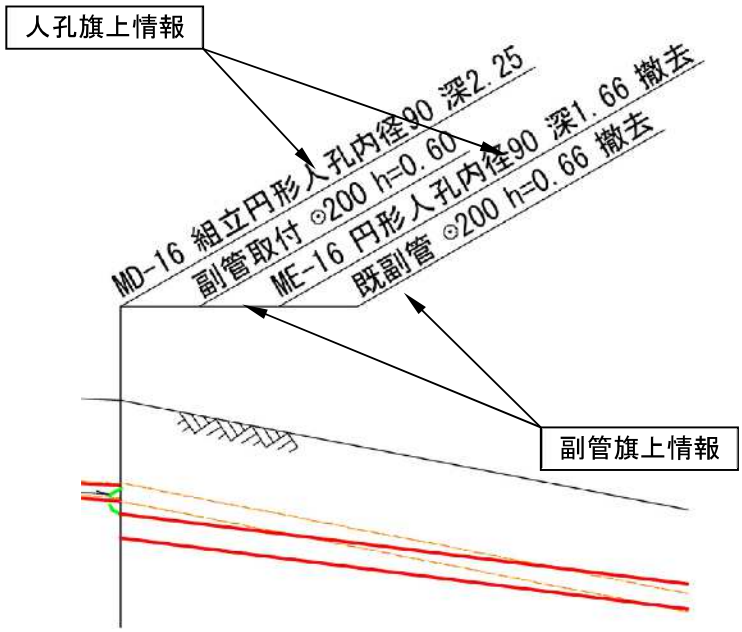


図 2-60　旗上げ部に記載する項目

(1) 人孔旗上情報

※ 人孔旗上情報は、図 2-61 に示す人孔番号、人孔種別、人孔深、設置区分および引出線により構成される。

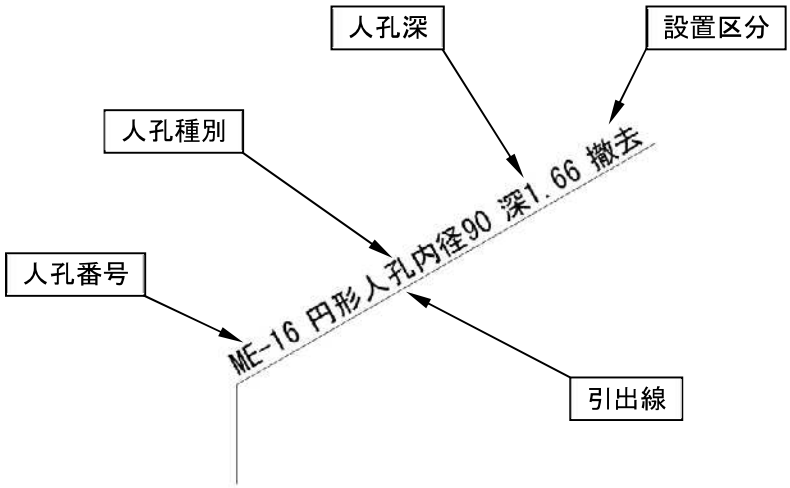


図 2-61　人孔旗上情報の構成

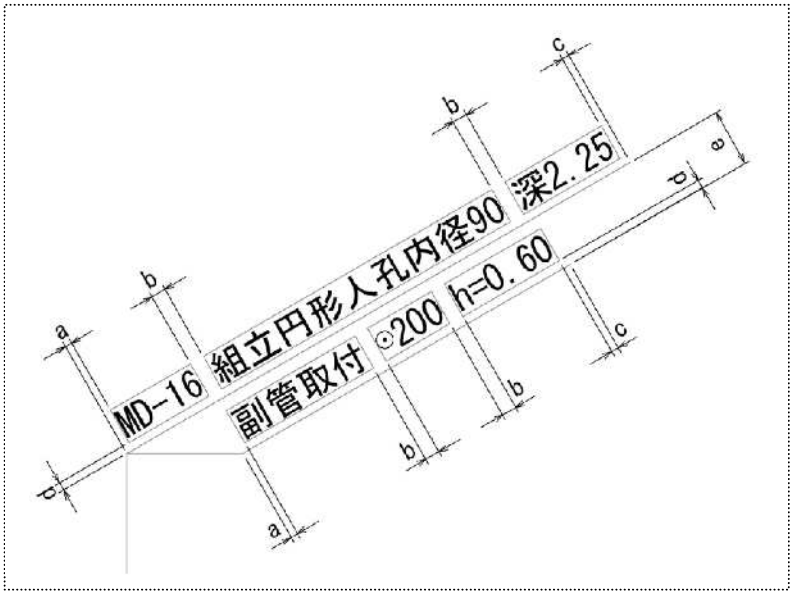
※ 人孔深は、接頭に“深”を付加した文字列を記載する。

※ 設置区分は、設置替えにより撤去する人孔、撤去のみを行う人孔および存置する人孔のみ記載する。

※ 設置替えにより撤去する人孔または撤去のみを行う人孔の場合は、設置区分として“撤去”を記載する。

※ 存置する人孔の場合は、設置区分として“存置”を記載する。

※ 人孔旗上情報および副管旗上情報の形状およびサイズは、下記を標準とする。



人孔旗上情報および副管旗上情報を表す図形のサイズおよび位置関係

位置	設定値（㎜）	説明
a	1	引出線の左側端点から各情報内の先頭の文字列までの間隔
b	2	文字列と文字列の間隔
c	1	引出線の右側端点から各情報内の最後の文字列までの間隔
d	1	引出線から文字列までの間隔
e	8	引出線の間隔

人孔旗上情報および副管旗上情報を表す文字の大きさは、5mm とする。

(2)副管旗上情報

※ 副管旗上情報は、図 2-62 に示す副管タイプ、副管径、副管高さ、設置区分および引出線により構成される。

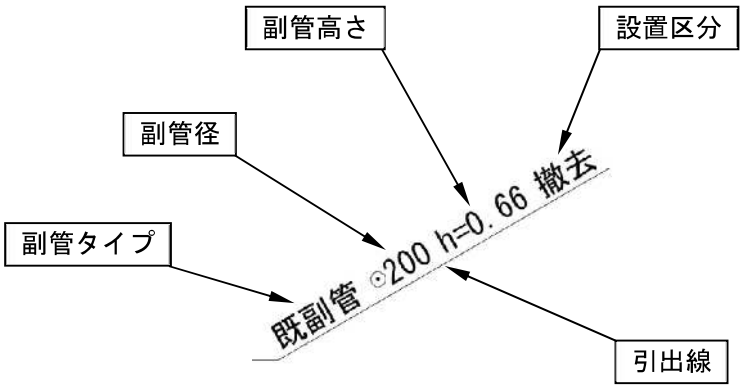


図 2-62　副管旗上情報の構成

※ 副管タイプには、副管の設置区分による表 2-7 の接頭文字および接尾文字を付加した文字列を記載する。

表 2-7　副管タイプの接頭および接尾文字

設置区分	接頭文字	接尾文字	備考
既設活用	既		
修正(改造)		改造	
新設		取付	
取替え	既		撤去する既設の副管
		取付	新設する副管
計画		取付	
撤去	既		
存置	既		モルタル閉塞し既設を残す副管
工事終了	既		

※ 副管高さは、接頭に“h=”(半角)を付加した文字列を記載する。

※ 設置区分は、取替えにより撤去する副管、撤去のみを行う副管および存置する副管のみ記載する。

※ 取替えにより撤去する副管または撤去のみを行う副管の場合は、設置区分として“撤去”を記載する。

※ 存置する副管の場合は、設置区分として“撤去（モルタル閉塞）”を記載する。

2.3.2.5　表題欄部

縦断面図の表題欄部に記載する図 2-63 に示す提案路線の作図路線情報(縦断面図に記載した提案路線)は、電子平面図に記載されている路線の属性情報を基に作成する。

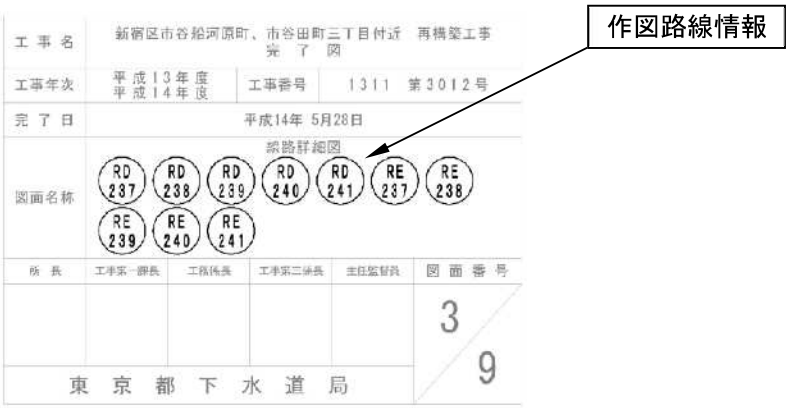


図 2-63　表題欄部に記載する項目

(1)作図路線情報

※ 縦断面図に記載した提案路線の作図路線情報は、図 2-64 に示す設計区分、路線番号および路線番号記号により構成される。

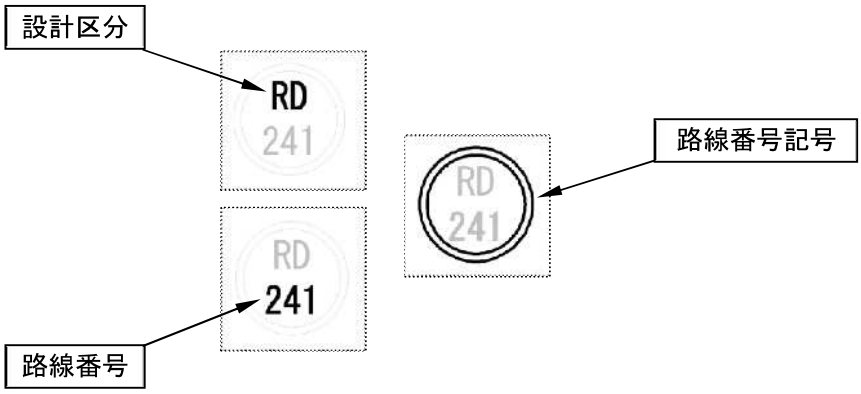
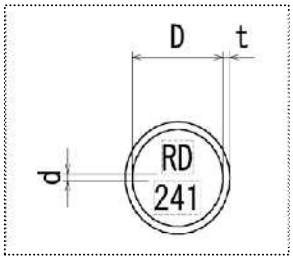


図 2-64　作図路線情報の構成

※ 作図路線情報の記載手法は、電子平面図の路線引出情報内の設計区分および路線番号と同様とする。

※ 作図路線情報の形状およびサイズは、下記を標準とする。



作図路線情報を表す図形のサイズおよび位置関係

位置	設定値（㎜）	説明
d	1	設計区分と路線番号の文字列間の間隔
D	13	路線番号記号(円)の直径
t	1	路線番号記号が二重円の場合の間隔

作図路線情報を表す文字の大きさは、5mm とする。

※ 表題欄部(図面名称欄)に作図路線情報がおさまらない場合は、上記サイズの 70%のサイズにより作図路線情報を記載する。

2.4 帳票

帳票には、工事内管きょ集計表、占用完了数量集計表、工事内管きょ番号表、工事内人孔番号表、桝・取付管一覧表等がある。

【解説】

(1) 帳票の尺度および記載事項は、表2-8のとおりとする。

表 2-8　帳票の記載事項

項目	内容
尺度	適宜とする。
記載事項	1) 工事内管きょ集計表は、「既設管活用管渠」、「更生管渠」、「布設替管渠」、「新設管渠」、「雨水吐管」、「増補管」、「バイパス管」、「光ファイバーケーブル連絡管」、「光ファイバーケーブルアプローチ管」、「光ファイバーケーブル民間用アプローチ管」、「エアー抜管」、「点検用連絡管」、「共同溝」、「放流渠」、「仮取り入れ管」および「撤去管」の16種類に分類し、この分類を「管渠の種類」として集計表を作成する。 2) 占用完了数量集計表は、新設または修正された路線延長の集計表、撤去された路線延長の集計表、新設または撤去された人孔箇所数の集計表および新設または撤去された桝箇所数の集計表を作成する。 3) 工事内管きょ番号表は、「管渠の種類」を「既設管活用管渠」、「更生管渠」、「布設替管渠」、「新設管渠」、「雨水吐管」、「増補管」、「バイパス管」、「光ファイバーケーブル連絡管」、「光ファイバーケーブルアプローチ管」、「光ファイバーケーブル民間用アプローチ管」、「エアー抜管」、「点検用連絡管」、「共同溝」、「放流渠」および「仮取り入れ管」に分類されている再構築管きょによる管きょ番号表、「管渠の種類」を「撤去管」に分類されている撤去管きょによる管きょ番号表を作成する。 4) 工事内人孔番号表は、既設活用、改造または新設された再構築人孔による人孔番号表、撤去された撤去人孔による人孔番号表を作成する。 5) 桝・取付管一覧表は、汚水桝による一覧表、雨水桝または雨水浸透桝による一覧表を作成する。

2.4.1　工事内管きょ集計表

工事内管きょ集計表は、「既設管活用管渠」、「更生管渠」、「布設替管渠」、「新設管渠」、「雨水吐管」、「増補管」、「バイパス管」、「光ファイバーケーブル連絡管」、「光ファイバーケーブルアプローチ管」、「光ファイバーケーブル民間用アプローチ管」、「エアー抜管」、「点検用連絡管」、「共同溝」、「放流渠」、「仮取り入れ管」および「撤去管」の 16 種類に分類し、この分類を「管渠の種類」として集計表を作成する。

工事内管きょ集計表の様式を、図2-65に示す。

また、文字の大きさは、タイトルの文字を7mm、他の文字を3.5mmとする。

工事内管渠集計表

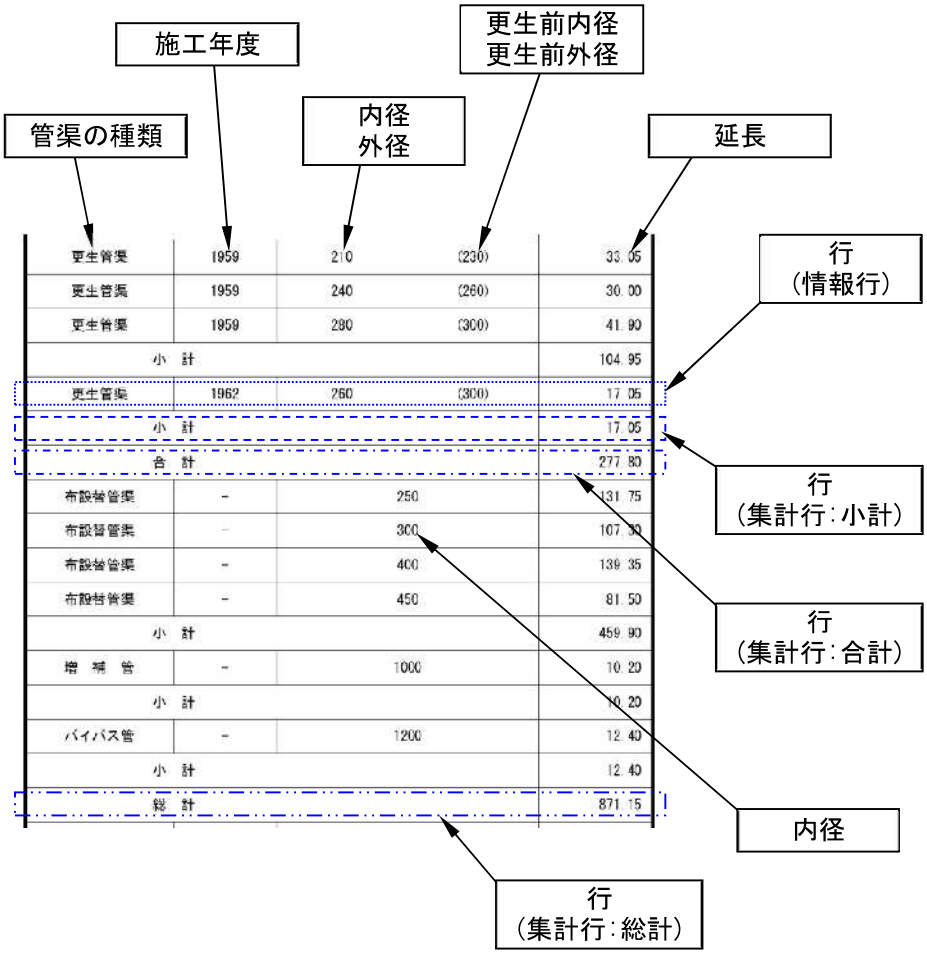
管渠の名称	施工年度	管径 (mm)	延長 (m)
既設活用管渠	-	200	10.15
既設活用管渠	-	300	72.90
既設活用管渠	-	380	27.80
計			110.85
更生管渠	1936	260 (300)	36.00
更生管渠	1936	410 (450)	85.30
小　計			121.30
更生管渠	1937	280 (300)	34.50
小　計			34.50
更生管渠	1959	210 (230)	33.05
更生管渠	1959	240 (260)	30.00
更生管渠	1959	280 (300)	41.90
小　計			104.95
更生管渠	1962	260 (300)	17.05
小　計			17.05
合　計			277.80
布設替管渠	-	250	131.75
布設替管渠	-	300	107.30
布設替管渠	-	400	139.35
布設替管渠	-	450	81.50
小　計			459.90
増　補　管	-	1000	10.20
小　計			10.20
バイパス管	-	1200	12.40
小　計			12.40
総　計			871.15
撤　去　管	1930	700	11.00
撤　去　管	1930	800	23.00
小　計			34.00
撤　去　管	1936	450	25.85
撤　去　管	1936	500	34.40
撤　去　管	1936	800	48.60
小　計			108.85
撤　去　管	1937	600	75.90
小　計			75.90
撤　去　管	1959	700	60.20
撤　去　管	1959	800	27.40
小　計			87.60
撤　去　管	1962	800	42.70
小　計			42.70
合　計			349.05

図 2-65　工事内管きょ集計表の様式

(1)　概要

工事内管きょ集計表は、平面図に記載されている路線を基に作成する。

工事内管きょ集計表は、図 2-66 に示す情報行(管渠の種類、施工年度、内径または外径、更生前内径または外径および延長)、集計行(小計延長、合計延長および総計延長)により構成される。



更生管渠	1959	210	(230)	33.05
更生管渠	1959	240	(260)	30.00
更生管渠	1959	280	(300)	41.90
小　計				104.95
更生管渠	1962	260	(300)	17.05
小　計				17.05
合　計				277.80
布設替管渠	-	250		131.75
布設替管渠	-	300		107.30
布設替管渠	-	400		139.35
布設替管渠	-	450		81.50
小　計				459.90
増　補　管	-	1000		10.20
小　計				10.20
バイパス管	-	1200		12.40
小　計				12.40
総　計				871.15

図 2-66　工事内管きょ集計表の概要図

16 種類に分類する「管渠の種類」は、設置区分、布設替の有無および管渠機能により、表 2-9 とする。

表 2-9　管渠の種類

	管渠の種類	設置区分	布設替	管渠機能	作図順
1	既設管活用管渠	既設活用	－	－	1
2	更生管渠	修正(更生)	－	－	2
3	布設替管渠	新設	有	－	3
4	雨水吐管	新設	無	雨水吐管	5
5	増補管	新設	無	増補管	6
6	バイパス管	新設	無	バイパス管	7
7	光ファイバーケーブル連絡管	新設	無	光ファイバーケーブル連絡管	8
8	共同溝	新設	無	共同溝	13
9	放流渠	新設	無	放流渠	14
10	仮取り入れ管	新設	無	仮取り入れ管	15
11	撤去管	撤去	－	－	16
12	新設管渠	新設	無	機能なし	4
13	光ファイバーケーブルアプローチ管	新設	無	光ファイバーケーブルアプローチ管	9
14	光ファイバーケーブル民間用アプローチ管	新設	無	光ファイバーケーブル民間用アプローチ管	10
15	エアー抜管	新設	無	エアー抜管	11
16	点検用連絡管	新設	無	点検用連絡管	12

(2)　情報行

工事内管きょ集計表内の情報行は、図 2-66 に示す管渠の種類、施工年度、内径または外径、更生前内径または外径、延長により構成される。

※ 情報行の行方向の作図順について、「管渠の種類」は表 2-9 の作図順、施工年度が古い順(「管渠の種類」が「更生管渠」および「撤去管」のみ)、内径 (「管渠の種類」が「更生管渠」の場合は、更生後の内径)の小さい順とする。また、施工年度が不明は、最後に記載する。

※「管渠の種類」が「既設活用管渠」、「更生管渠」または「撤去管」以外の場合は、本体情報(管種、管径等)による組合せ毎の合計延長の情報行を記載する。

※「管渠の種類」が「既設活用管渠」、「更生管渠」および「撤去管」の場合は、本体情報(管種、管径等)および更新管情報(更生工法、更生後の管径等)による組合せ毎の合計延長の情報行を記載する。

※ 施工年度は、「管渠の種類」が「更生管渠」または「撤去管」の場合のみ記載する。但し、施工年度が不明の場合は、“不明”の文字を記載する。

※「管渠の種類」が「更生管渠」または「撤去管」以外の施工年度は、全角の“－”(マイナス)を

記載する。

※ 管径は、内径または外径のどちらか一方を記載する。また、「管渠の種類」が「更生管渠」の場合の管径は、更生後の内径または外径を記載する。

※ 更生前内径または更生前外径は、どちらか一方を記載し、「管渠の種類」が「更生管渠」の場合のみ記載をする。

※ 「管渠の種類」が「更生管渠」の場合の管径の記載は、更生後および更生前の両方の情報を記載(左側に更生後、右側に更生前の情報)する。この場合、更生後の情報により内径または外径を、更生前の情報により更生前内径または更生前外径を記載する。

※ 「管渠の種類」が「更生管渠」の場合の更生前内径または更生前外径の記載は、接頭に半角の“(”を、接尾に半角の“)”を付加した文字列を記載する。

※ 内径、外径、更生前内径または更生前外径は、断面形状が円形または卵形の場合は管幅を記載し、円形または卵形以外の場合は管幅と管高を記載(二文字間に“×”を付加した一文字列)する。

※ 施工年度、管径および延長に使用する数値文字は、全て半角文字により記載する。

(3) 集計行

工事内管きょ集計表内の情報行は、図 2-66 に示す延長のみにより構成される。

※ 「管渠の種類」が「更生管渠」に設定されている路線が存在する場合は、「施工年度」毎の各合計延長の集計行(小計)を記載する。

※ 「管渠の種類」が「撤去管」に設定されている路線が存在する場合は、「施工年度」毎の各合計延長の集計行(小計)を記載する。

※ 「管渠の種類」が「既設活用管渠」、「更生管渠」、「布設替管渠」、「新設管渠」、「雨水吐管」、「増補管」、「バイパス管」、「光ファイバーケーブル連絡管」、「光ファイバーケーブルアプローチ管」、「光ファイバーケーブル民間用アプローチ管」、「エアー抜管」、「点検用連絡管」、「共同溝」、「放流渠」、「仮取り入れ管」および「撤去管」に設定されている路線が存在する場合は、「管渠の種類」毎の合計延長の集計行(合計)を記載する。

※ 「管渠の種類」が「既設活用管渠」、「更生管渠」、「布設替管渠」、「新設管渠」、「雨水吐管」、「増補管」、「バイパス管」、「光ファイバーケーブル連絡管」、「光ファイバーケーブルアプローチ管」、「光ファイバーケーブル民間用アプローチ管」、「エアー抜管」、「点検用連絡管」、「共同溝」、「放流渠」および「仮取り入れ管」に設定されている路線が存在する場合は、上記の「管渠の種類」の合計延長を「再構築下水道管渠」の集計行(総計)として記載する。

※ 延長に使用する数値文字は、全て半角文字により記載する。

2.4.2　工事内管きょ番号表

工事内管きょ番号表は、「管渠の種類」を「既設管活用管渠」、「更生管渠」、「布設替管渠」、「新設管渠」、「雨水吐管」、「増補管」、「バイパス管」、「光ファイバーケーブル連絡管」、「光ファイバーケーブルアプローチ管」、「光ファイバーケーブル民間用アプローチ管」、「エアー抜管」、「点検用連絡管」、「共同溝」、「放流渠」および「仮取り入れ管」に分類されている再構築管きょによる工事内管きょ番号表、「管渠の種類」を「撤去管」に分類されている撤去管きょによる工事内管きょ番号表の2タイプを作成する。

工事内管きょ番号表の様式を、図2-67に示す。また、文字の大きさは、タイトルの文字を7mm、他の文字を3.5mmとする。

工事内管渠番号表（再構築下水道管渠）

路線番号	区　分	施工年度	管　種	管径（mm）	延長（m）	工　事　内　容
RD-231	布設替管渠	－	硬質塩化ビニル管	250	30.00	90°砂基礎（ii）
RD-232	布設替管渠	－	硬質塩化ビニル管	250	30.20	90°砂基礎（ii）
RB-233	更生管渠	1959	陶管	280	41.90	反転・形成工法
RB-234	更生管渠	1959	陶管	210	33.05	反転・形成工法
RB-235	更生管渠	1959	陶管	240	30.00	反転・形成工法
RA-236	既設活用管渠	1965	鉄筋コンクリート管	400	27.40	
RD-237	布設替管渠	－	硬質塩化ビニル管	250	29.95	90°砂基礎（ii）
RA-238	既設活用管渠	1965	鉄筋コンクリート管	400	46.50	
RA-239	既設活用管渠	1965	鉄筋コンクリート管	400	31.45	
RA-240	既設活用管渠	1965	鉄筋コンクリート管	500	56.50	
RA-241	既設活用管渠	1965	鉄筋コンクリート管	500	46.40	
RA-242	既設活用管渠	1965	鉄筋コンクリート管	300	50.00	
RA-243	既設活用管渠	1965	鉄筋コンクリート管	350	27.80	
RA-244	既設活用管渠	1965	鉄筋コンクリート管	250	10.15	
RB-245	更生管渠	1962	鉄筋コンクリート管	260	17.05	反転・形成工法
RD-246	布設替管渠	－	硬質塩化ビニル管	300	42.70	90°砂基礎（ii）
RD-247	布設替管渠	－	鉄筋コンクリート管	450	47.45	梯子胴木（B形）基礎　B形　1種管
RD-248	布設替管渠	－	硬質塩化ビニル管	250	25.85	90°砂基礎（ii）
RD-249	布設替管渠	－	硬質塩化ビニル管	300	34.40	90°砂基礎（ii）
RB-250	更生管渠	1959	鉄筋コンクリート管	430	25.60	製管工法
RB-251	更生管渠	1959	鉄筋コンクリート管	410	45.75	製管工法
RB-252	更生管渠	1959	鉄筋コンクリート管	410	36.30	製管工法
RD-253	布設替管渠	－	硬質塩化ビニル管	250	45.95	90°砂基礎（ii）
RA-254	既設活用管渠	1968	鉄筋コンクリート管	250	22.90	
RB-255	更生管渠	1937	鉄筋コンクリート管	260	34.50	反転・形成工法
RB-256	更生管渠	1936	鉄筋コンクリート管	410	3.25	製管工法
RB-257	更生管渠	1936	鉄筋コンクリート管	490	15.70	製管工法
RB-258	更生管渠	1936	鉄筋コンクリート管	490	10.15	製管工法
RB-259-1	更生管渠	1958	鉄筋コンクリート管	630	12.15	製管工法
RB-259-2	更生管渠	1958	鉄筋コンクリート管	630	10.50	製管工法
RB-260	更生管渠	1962	鉄筋コンクリート管	630	22.00	製管工法
RB-261	更生管渠	1962	鉄筋コンクリート管	720	15.35	製管工法
RB-262	更生管渠	1936	鉄筋コンクリート管	290	36.00	反転・形成工法
RB-263	更生管渠	1936	鉄筋コンクリート管	410	34.00	製管工法
RD-264	布設替管渠	－	鉄筋コンクリート管	450	34.05	梯子胴木（B形）基礎　B形　1種管
RD-265	布設替管渠	－	鉄筋コンクリート管	500	42.05	梯子胴木（B形）基礎　B形　1種管
RD-266	布設替管渠	－	鉄筋コンクリート管	600	40.20	梯子胴木（B形）基礎　B形　2種管
RD-267	布設替管渠	－	鉄筋コンクリート管	600	69.90	梯子胴木（B形）基礎　B形　2種管
RB-268	更生管渠	1956	鉄筋コンクリート管	910	10.20	製管工法
RB-269	更生管渠	1956	鉄筋コンクリート管	1080	12.40	製管工法
合　計					1237.65	

工事内管渠番号表（撤去管）

路線番号	区　分	施工年度	管　種	管径（mm）	延長（m）	工　事　内　容
RE-231	撤去管	1936	陶管	230	30.00	
RE-232	撤去管	1937	陶管	230	30.20	
RE-237	撤去管	1936	陶管	230	29.95	
RE-246	撤去管	1936	陶管	280	42.70	
RE-247	撤去管	1937	陶管	410	47.45	
RE-248	撤去管	1936	陶管	230	25.85	
RE-249	撤去管	1936	陶管	280	34.40	
RE-253	撤去管	1937	陶管	230	45.95	
RE-264	撤去管	1936	鉄筋コンクリート管	490	34.05	
RE-265	撤去管	1936	鉄筋コンクリート管	490	42.05	
RE-266	撤去管	1936	鉄筋コンクリート管	490	40.20	
RE-267	撤去管	1936	鉄筋コンクリート管	490	69.90	
合　計					472.70	

図 2-67　工事内管きょ番号表の様式

(1) 概要

工事内管きょ番号表は、電子平面図に記載されている路線を基に作成する。

工事内管きょ番号表は、図 2-68 に示す情報行(路線番号、管渠の種類、施工年度、管種、内径または外径、延長、基礎種類、継手形状、管渠強度および更生工法)、集計行(合計延長)により構成される。

工事内管きょ番号表に記載する情報行は、路線番号、管渠の種類、施工年度、管種、内径または外径、延長、基礎種類、継手形状、管渠強度および更生工法を、集計行は、合計延長を記載する。

管きょの施工年度については、下水道台帳（SEMIS）や施設情報などにより確認を行い記載する。

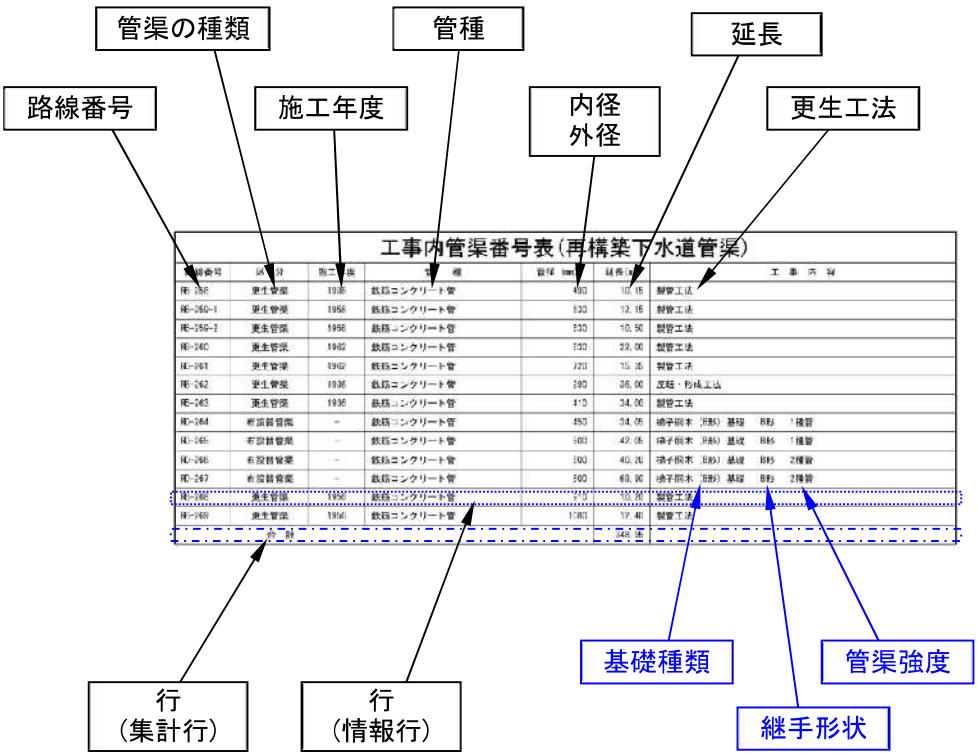


図 2-68　工事内管きょ番号表の概要図

区分に記載する 16 種類に分類する「管渠の種類」は、設置区分、布設替の有無および管渠機能により、表 2-9 とする。

(2) 情報行

工事内管きょ番号表内の情報行は、図 2-68 に示す路線番号、管渠の種類、施工年度、管種、内径または外径、延長、基礎種類、継手形状、管渠強度、更生工法により構成される。

※ 情報行の行方向の作図順は、路線番号(設計区分文字は取除いた路線番号文字)の小さい順に記載する。

※ 区分は、表 2-9 による「管渠の種類」を記載する。
※ 施工年度は、「管渠の種類」が「既設活用管渠」、「更生管渠」または「撤去管」の場合のみ記載する。但し、施工年度が不明の場合は、“不明”の文字を記載する。
※ 「管渠の種類」が「既設活用管渠」、「更生管渠」または「撤去管」以外の施工年度は、全角の“－” (マイナス)を記載する。
※ 「管渠の種類」が「既設活用管渠」または「撤去管」で、既に更生工事が行われている場合の管種は、接頭に“更生管（”、接尾に“)”を付加した文字列を記載する。
※ 管径は、内径または外径のどちらか一方を記載する。また、「管渠の種類」が「更生管渠」の場合の管径は、更生後の内径または外径を記載する。
※ 内径、外径、更生前内径または更生前外径は、断面形状が円形または卵形の場合は管幅を記載し、円形または卵形以外の場合は管幅と管高を記載(二文字間に“×”を付加した一文字列)する。
※ 基礎種類、継手形状、管渠強度は、「管渠の種類」が「布設替管渠」、「雨水吐管」、「増補管」、「バイパス管」、「光ファイバーケーブル連絡管」、「光ファイバーケーブルアプローチ管」、「光ファイバーケーブル民間用アプローチ管」、「エアー抜管」、「点検用連絡管」、「共同溝」、「放流渠」または「仮取り入れ管」の場合のみ記載する。
※ 更生工法は、「管渠の種類」が「更生管渠」の場合のみ記載する。
※ 施工年度、管径および延長に使用する数値文字は、全て半角文字により記載する。

(3) 集計行

工事内管きょ集計表内の情報行は、図 2-68 に示す延長のみにより構成される。
※ 「管渠の種類」が「既設活用管渠」、「更生管渠」、「布設替管渠」、「新設管渠」、「雨水吐管」、「増補管」、「バイパス管」、「光ファイバーケーブル連絡管」、「光ファイバーケーブルアプローチ管」、「光ファイバーケーブル民間用アプローチ管」、「エアー抜管」、「点検用連絡管」、「共同溝」、「放流渠」および「仮取り入れ管」に設定されている路線の合計延長を、再構築管きょによる工事内管きょ番号表の最後の行に集計行として記載する。
※ 「管渠の種類」が「撤去管」に設定されている路線の合計延長を、撤去管きょによる工事内管きょ番号表の最後の行に集計行として記載する。
※ 延長に使用する数値文字は、全て半角文字により記載する。

2.4.3　工事内人孔番号表

工事内人孔番号表は、既設活用、改造または新設された再構築人孔による工事内人孔番号表、撤去された撤去人孔による工事内人孔番号表の 2 タイプを作成する。

工事内人孔番号表の様式を、図2-69に示す。また、文字の大きさは、タイトルの文字を7mm、他の文字を3.5mmとする。

工事内人孔番号表(再構築人孔)

人孔番号	区分	人孔形状	SEMIS番号	人孔深(m)	工事内容
MB-1	改造	円形人孔内径90	19172C004	1.48	鉄蓋（内径６０ｃｍ） 取替　足掛人力取替 3本　既設インバート改造
MB-2	改造	円形人孔内径90	19172C005	1.57	既設インバート改造
MD-3	新設	組立円形人孔内径90	19172C125	2.05	組立マンホール
MD-4	新設	組立円形人孔内径90	19172D117	2.04	組立マンホール
MD-5	新設	組立円形人孔内径90	19172D118	1.92	組立マンホール
MD-6	新設	組立円形人孔内径120A	19172D119	2.35	組立マンホール
MD-7	新設	組立円形人孔内径120A	19172D120	2.37	組立マンホール
MB-8	改造	円形人孔内径90	19173C013	1.55	鉄蓋（内径６０ｃｍ） 取替　足掛人力取替 3本
MB-9	改造	円形人孔内径90	19173C018	1.63	鉄蓋（内径６０ｃｍ） 取替　足掛人力取替 3本
MD-10	新設	組立円形人孔内径90	19172C124	1.75	組立マンホール
MB-11	改造	円形人孔内径90	19172C018	1.66	鉄蓋（内径６０ｃｍ） 取替　足掛人力取替 3本
MB-12	改造	円形人孔内径90	19172C019	1.93	人孔防食工（焼却灰有）　鉄蓋（内径６０ｃｍ） 取替　足掛人力取替 4本
MB-13	改造	円形人孔内径90	19172C020	1.98	人孔防食工（焼却灰有）　鉄蓋（内径６０ｃｍ） 取替　足掛人力取替 4本
MB-14	改造	円形人孔内径90	19172C021	2.12	鉄蓋（内径６０ｃｍ） 取替　足掛人力取替 4本　斜壁取替
MB-15	改造	円形人孔内径90	19172D002	2.35	既設インバート改造
MD-16	新設	組立円形人孔内径90	19172D123	2.43	組立マンホール
MD-17	新設	組立円形人孔内径90	19173C121	2.55	組立マンホール
MD-18	新設	組立円形人孔内径90	19173C122	2.67	組立マンホール
MD-19	新設	組立円形人孔内径90	19173C123	2.56	組立マンホール
MD-20	新設	組立円形人孔内径90	19173C124	2.61	組立マンホール
MD-21	新設	組立円形人孔内径90	19173D111	2.75	組立マンホール
MD-22	新設	組立円形人孔内径90	19173D112	2.83	組立マンホール
MB-23	改造	円形人孔内径120丙	19172D004	3.05	鉄蓋（内径６０ｃｍ） 取替　足掛人力取替 6本　斜壁取替　既設インバート改造
MB-24	改造	円形人孔内径120丙	19172D005	3.12	人孔防食工（焼却灰有）　足掛人力取替 6本　既設インバート改造
MB-25	改造	矩形人孔内法120×90	19172D012	3.17	人孔防食工（焼却灰有）　足掛人力取替 6本　既設インバート改造
MB-26	改造	円形人孔内径120丙	19172D016	3.06	鉄蓋（内径６０ｃｍ） 取替　足掛人力取替 6本　斜壁取替　既設インバート改造
MB-27	改造	円形人孔内径120丙	19173C009	3.26	鉄蓋（内径６０ｃｍ） 取替　足掛人力取替 7本　斜壁取替　既設インバート改造
MB-28	改造	矩形人孔法210	19173C011	3.32	鉄蓋（内径６０ｃｍ） 取替　足掛人力取替 7本　既設インバート改造
MD-29	新設	組立円形人孔内径120A	19172D121	3.18	組立マンホール
MD-30	新設	組立円形人孔内径120A	19172D122	3.24	組立マンホール
MB-31	改造	円形人孔内径120丙	19172C007	3.52	鉄蓋（内径６０ｃｍ） 取替　足掛人力取替 7本　斜壁取替　既設インバート改造
MB-32	改造	円形人孔内径120丙	19172C008	3.73	鉄蓋（内径６０ｃｍ） 取替　足掛人力取替 8本　斜壁取替　既設インバート改造
MB-33	改造	円形人孔内径120丙	19172C009	3.69	鉄蓋（内径６０ｃｍ） 取替　足掛人力取替 7本　斜壁取替
MB-34	改造	円形人孔内径90	19172C013	3.83	鉄蓋（内径６０ｃｍ） 取替　足掛人力取替 8本　斜壁取替
MB-35	改造	円形人孔内径150丙	19172C014	3.97	鉄蓋（内径６０ｃｍ） 取替　足掛人力取替 8本　斜壁取替　既設インバート改造
MB-36	改造	円形人孔内径150丙	19172C015	4.03	鉄蓋（内径６０ｃｍ） 取替　足掛人力取替 8本　斜壁取替　既設インバート改造
MB-37	改造	円形人孔内径200	19172C016	4.11	人孔防食工（焼却灰有）　足掛人力取替 9本　転落防止ネット付
MB-38	改造	円形人孔内径200	19172C017	4.26	人孔防食工（焼却灰有）　足掛人力取替 9本　転落防止ネット付
MB-39	改造	矩形人孔内法260	19173D013	4.53	形成工法　足掛人力取替 10本　斜壁取替　転落防止ネット付

工事内人孔番号表(撤去人孔)

人孔番号	区分	人孔形状	SEMIS番号	人孔深(m)	工事内容
ME-3	撤去	円形人孔内径90	19172C025	2.07	
ME-4	撤去	円形人孔内径90	19172D017	2.06	
ME-5	撤去	楕円形人孔内法120×90	19172D018	1.95	
ME-6	撤去	楕円形人孔内法120×90	19172D019	1.93	
ME-7	撤去	円形人孔内径120丙	19172D020	2.01	
ME-10	撤去	円形人孔内径90	19172C024	1.65	
ME-16	撤去	円形人孔内径90	19172D023	2.21	
ME-17	撤去	円形人孔内径90	19173C021	2.39	
ME-18	撤去	円形人孔内径90	19173C022	2.59	
ME-19	撤去	円形人孔内径90	19173C023	2.51	
ME-20	撤去	円形人孔内径90	19173C024	2.55	
ME-21	撤去	円形人孔内径90	19173D011	2.63	
ME-22	撤去	円形人孔内径90	19173D012	2.73	
ME-29	撤去	楕円形人孔内法120×90	19172D021	2.95	
ME-30	撤去	楕円形人孔内法120×90	19172D022	3.23	

図 2-69　工事内人孔番号表の様式

(1) 概要

工事内人孔番号表は、平面図に記載されている人孔を基に作成する。

工事内人孔番号表は、図 2-70 に示す情報行による人孔番号、人孔の目的、人孔形状、登録人孔番号(「SEMIS」で管理する施設番号)、人孔深および工事内容(人孔製品名、更生工法、防食補修工法、人孔蓋、足掛金物、斜壁交換、インバート改造、転落防止ネット)により構成される。

工事内人孔番号表に記載する情報行には、人孔番号、人孔の目的、人孔形状、登録人孔番号、人孔深、人孔製品名、更生工法、防食補修工法、人孔蓋、足掛金物、斜壁交換、インバート改造および転落防止ネットを記載する。

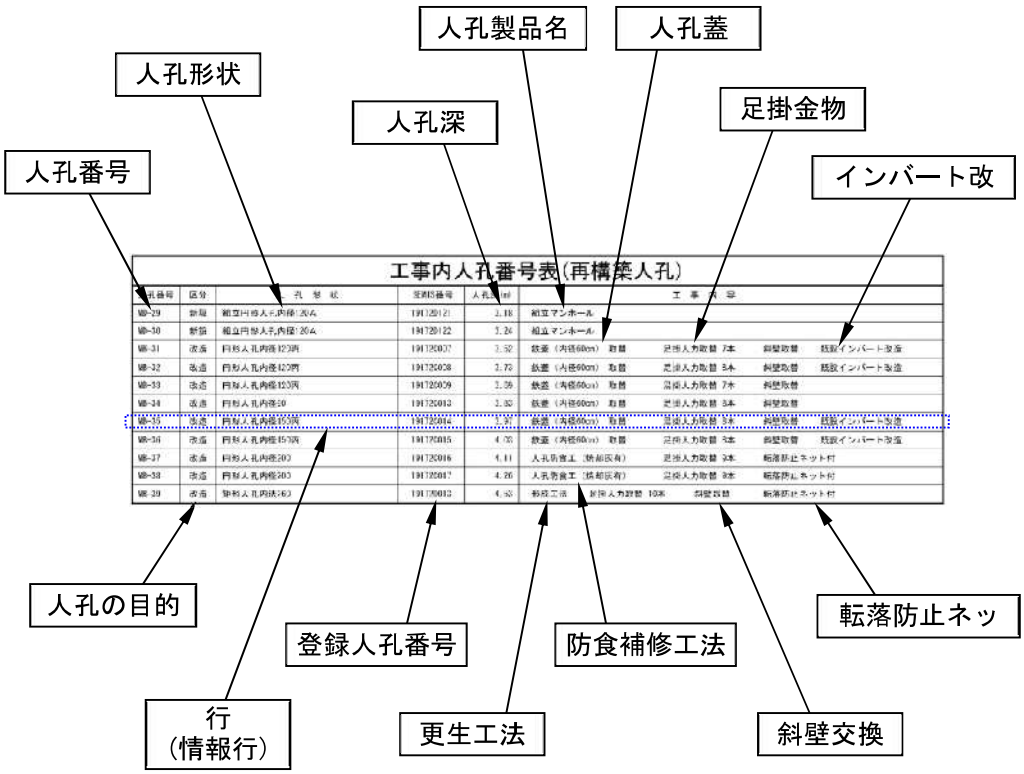


図 2-70　工事内人孔番号表の概要図

「人孔の目的」は、設置区分により、表 2-10 とする。

表 2-10　人孔の目的

コード	人孔の目的	設置区分
1	既設	既設活用
2	改造	修正(改造)
3	新設	新設
5	撤去	撤去

(2)　情報行

工事内人孔番号表内の情報行は、図 2-70 に示す人孔番号、人孔の目的、人孔形状、登録人孔番号(「SEMIS」で管理する施設番号)、人孔深、人孔製品名、更生工法、防食補修工法、人孔蓋、足掛金物、斜壁交換、インバート改造、転落防止ネットにより構成される。

※ 情報行の行方向の作図順は、人孔番号(設計区分文字は取除いた人孔番号文字)の小さい順に記載する。

※ 区分は、表 2-10 による「人孔の目的」を記載する。

※ 「人孔の目的」が「新設」の登録人孔番号は、工事完了時の作業工程で記載する。

※ 「SEMIS」で管理されていない「人孔の目的」が「既設」または「改造」の登録人孔番号は、工事完了時の作業工程で記載する。

※ 工事内容の作図順は、人孔製品名、更生工法、防食補修工法、人孔蓋、足掛金物、斜壁交換、インバート改造、転落防止ネットの順で記載する。

※ 人孔製品名は、「人孔の目的」が「新設」の場合のみ記載する。

※ 防食補修工法は、「人孔の目的」が「改造」で、且つ、防食補修工事を実施する場合のみ記載する。

※ 更生工法は、「人孔の目的」が「改造」で、且つ、更生工事を実施する場合のみ記載する。

※ 人孔蓋は、「人孔の目的」が「改造」で、且つ、人孔蓋が新規、撤去、取替えまたは再使用される場合のみ、図 2-71 に示す人孔蓋の種別および工事区分を記載する。

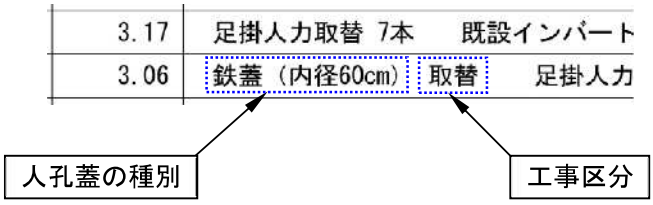


図 2-71　人孔蓋(工事内容)の記入例

※ 人孔蓋の工事区分は、蓋設置区分により、表 2-11 とする。

表 2-11　人孔蓋の工事区分

コード	工事区分	蓋設置区分
2	新設	新規
3	撤去	撤去
4	取替	取替え
5	再使用	再使用

※ 人孔蓋の工事内容は、人孔蓋の種別および工事区分の文字列を合成(二文字間に半角スペースを付加した一文字列)して記載する。

※ 足掛金物は、「人孔の目的」が「新設」で、且つ、足掛金物を新規する場合、または、「人孔の目的」が「改造」で、且つ、足掛金物を新規、撤去、人力取替えおよび機械取替えする場合のみ、図 2-72 に示す足掛金物の工事区分および工事本数を記載する。

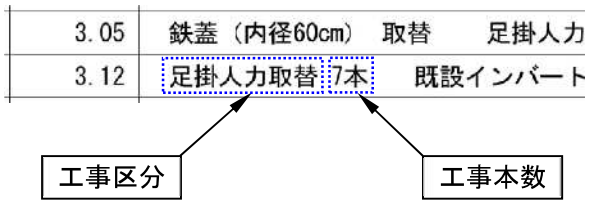


図 2-72　人孔蓋(工事内容)の記入例

※ 足掛金物の工事区分は、足掛金物設置区分により、表 2-12 とする。

表 2-12　足掛金物の工事区分

コード	工事区分	足掛金物設置区分
1	足掛新規	新規
2	足掛撤去	撤去
3	足掛人力取替	人力取替え
4	足掛機械取替	機械取替え

※ 足掛金物の工事内容は、工事区分および工事本数の文字列を合成(二文字間に半角スペースを付加した一文字列)して記載する。

※ 足掛金物の工事本数に使用する数値文字は半角文字を使用し、接尾に“本”を付加した文字列を記載する。

※ 斜壁交換は、「人孔の目的」が「改造」で、且つ、斜壁を交換または撤去する場合のみ記載する。

※ 既設インバート改造は、「人孔の目的」が「改造」で、且つ、インバートが改造されている場合のみ記載する。

※ 落防止ネットは、「人孔の目的」が「新設」または「改造」で、且つ、転落防止ネットを新設する場合のみ記載する。

2.4.4　桝･取付管一覧表

桝・取付管一覧表は、既設活用、改造、新設、設置替えまたは撤去された桝(汚水桝または雨水桝)、既設活用、修正(更生)、新設、布設替えまたは撤去された取付管により作成し、分流地区汚水桝または合流地区汚水桝に設定されている汚水桝および取付管による汚水桝・取付管一覧表、桝用途区分を分流地区雨水桝、合流地区雨水桝または雨水浸透桝に設定されている雨水桝および取付管による雨水桝･取付管一覧表の 2 タイプを作成する。

桝・取付管一覧表の様式を、図2-73に示す。また、文字の大きさは、タイトルの文字を7mm、他の文字を3.5mmとする。

汚水桝・取付管一覧表

図面番号	人孔番号又は画線番号	接続位置(m)	占用幅(m)	汚水桝 桝番号	汚水桝 桝の種類 既設	汚水桝 桝の種類 新設又は取替え	汚水桝 桝深さ(m)	汚水桝 工事内容	取付管 既設 管径	取付管 既設 管種	取付管 新設又は布設替え 管径	取付管 新設又は布設替え 管種	取付管 工事内容
2/12	RD-231	1.25	2.00	1A	汚水桝(塑幅30		0.80		150	陶管			
2/12	RD-231	3.45	2.10	2D	汚水桝(塑幅30	小型汚水桝蓋型（歩道用）	0.80	撤去・新設	150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=2.10 新設L=2.25
2/12	RD-231	16.00	2.00	3E	汚水桝(塑幅30		1.10	撤去	150	陶管			撤去 L=2.00
2/12	RD-231	19.50	3.15	4C		小型汚水桝蓋型（歩道用）	0.80	新設	150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	新設 L=3.15
2/12	MH-22	0.00	1.25	5A	汚水桝(塑幅30		0.80		150	陶管			
2/12	RD-232	4.25	3.95	6D	汚水桝(塑幅30	小型汚水桝蓋型（歩道用）	1.10	撤去・新設	150	陶管	130	反転・形成工法	改良 L=3.95
2/12	RD-232	4.30	3.25	7A	汚水桝(塑幅30		0.80		150	陶管			
2/12	RD-232	12.50	2.20	8C		小型汚水桝蓋型（歩道用）	0.80	新設			150	硬質塩化ビニル管	新設 L=2.20
2/12	RD-232	13.55	2.20	9C		小型汚水桝蓋型（歩道用）	0.80	新設			150	硬質塩化ビニル管	新設 L=2.20
2/12	RD-232	16.50	2.00	10A	汚水桝(塑幅30		0.80		150	陶管			
3/12	RD-233	1.30	3.15	11D	汚水桝(塑幅30	小型汚水桝蓋型（歩道用）	1.10	撤去・新設	150	陶管	130	反転・形成工法	改良 L=2.10
3/12	RD-233	1.45	1.25	12A	汚水桝(塑幅30		0.80		150	陶管			
3/12	RD-233	6.40	3.95	13C		小型汚水桝蓋型（歩道用）	0.80	新設			150	硬質塩化ビニル管	新設 L=3.95
3/12	RD-233	7.55	3.25	14C		小型汚水桝蓋型（歩道用）	0.80	新設			150	硬質塩化ビニル管	新設 L=3.25
3/12	RD-234	1.75	2.20	15A	汚水桝(塑幅30		0.80		150	陶管			
3/12	RD-234	2.00	2.20	16A	汚水桝(塑幅30		0.80		150	陶管			
3/12	RD-234	12.55	2.20	17A	汚水桝(塑幅30		0.80		150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=2.20
3/12	RD-234	19.55	2.00	18A	汚水桝(塑幅30		0.80		150	陶管			
3/12	MH-31	0.00	3.15	19D	汚水桝(塑幅30	小型汚水桝蓋型（歩道用）	1.10	撤去・新設	150	陶管	130	反転・形成工法	改良 L=3.15
4/12	RD-235	4.35	1.25	20D	汚水桝(塑幅30	小型汚水桝蓋型（歩道用）	0.80	撤去・新設	150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=1.25
4/12	RD-235	5.50	3.95	21A	汚水桝(塑幅30		0.80		150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=3.95
4/12	RD-235	15.65	3.25	22D	汚水桝(塑幅30	小型汚水桝蓋型（歩道用）	1.10	撤去・新設	150	陶管	130	反転・形成工法	改良 L=3.25
4/12	RD-235	18.25	2.20	23A	汚水桝(塑幅30		0.80		150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=2.20
4/12	RD-235	21.60	2.20	24A	汚水桝(塑幅30		0.80		150	陶管			
4/12	RD-235	26.20	2.20	25C		小型汚水桝蓋型（歩道用）	0.80	新設			150	硬質塩化ビニル管	新設 L=2.20
4/12	RD-236	9.55	2.00	26C		小型汚水桝蓋型（歩道用）	0.80	新設			150	硬質塩化ビニル管	新設 L=2.00
4/12	RD-236	12.55	3.15	27A	汚水桝(塑幅30		0.80		150	陶管			
4/12	RD-237	2.75	1.25	28A	汚水桝(塑幅30		0.80		150	陶管			
4/12	RD-237	12.85	3.95	29A	汚水桝(塑幅30		0.80		150	陶管			
5/12	RD-238	2.35	3.25	30D	汚水桝(塑幅30	小型汚水桝蓋型（歩道用）	0.80	撤去・新設	150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=3.25 新設L=2.40
5/12	RD-238	4.45	2.20	31D	汚水桝(塑幅30	小型汚水桝蓋型（歩道用）	0.80	撤去・新設	150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=2.20 新設L=2.35
5/12	RD-238	16.15	2.20	32A	汚水桝内径50		0.80		150	陶管			
5/12	RD-238	16.95	2.20	33A	汚水桝内径70		0.80		150	陶管			
5/12	RD-238	29.75	2.20	34A	汚水桝(塑幅30		0.80		150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=2.20
5/12	RD-239	1.25	2.20	35A	汚水桝(塑幅30		0.80		150	陶管			
5/12	RD-239	1.95	2.00	36C		小型汚水桝蓋型（車道用）	0.80	新設			150	硬質塩化ビニル管	新設 L=2.00
5/12	RD-239	12.65	3.15	37C		小型汚水桝蓋型（車道用）	0.80	新設			150	硬質塩化ビニル管	新設 L=3.15
5/12	RD-239	19.35	1.25	38A	汚水桝内径50		0.80		150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=1.25

雨水桝・取付管一覧表

図面番号	人孔番号又は画線番号	接続位置(m)	占用幅(m)	雨水桝 桝番号	雨水桝 桝の種類 既設	雨水桝 桝の種類 新設又は取替え	雨水桝 桝深さ(m)	雨水桝 工事内容	取付管 既設 管径	取付管 既設 管種	取付管 新設又は布設替え 管径	取付管 新設又は布設替え 管種	取付管 工事内容
2/12	RD-231	2.20	2.00	39D	巾30	浸透雨水桝（L型用）	0.80	撤去・新設	150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=2.00
2/12	RD-231	3.35	2.10	40D	巾30	浸透雨水桝（L型用）	0.80	撤去・新設	150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=2.10
2/12	RD-231	16.95	2.00	41D	巾30	浸透雨水桝（L型用）	0.80	撤去・新設	150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=2.00
2/12	RD-231	12.50	3.15	42D	巾30	浸透雨水桝（L型用）	0.80	撤去・新設	150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=3.15
2/12	RD-232	5.50	3.95	43D	巾30	浸透雨水桝（L型用）	0.80	撤去・新設	150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=3.95
2/12	RD-232	5.85	3.25	44D	巾30	浸透雨水桝（L型用）	0.80	撤去・新設	150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=3.25
2/12	RD-232	15.55	2.20	45D	巾30	浸透雨水桝（L型用）	0.80	撤去・新設	150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=2.20
2/12	RD-232	16.50	2.20	46D	巾30	浸透雨水桝（L型用）	0.80	撤去・新設	150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=2.20
3/12	RD-233	2.25	3.15	47D	巾30	浸透雨水桝（L型用）	0.80	撤去・新設	150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=3.15
3/12	RD-233	3.15	1.25	48D	巾30	浸透雨水桝（L型用）	0.80	撤去・新設	150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=1.25
3/12	RD-233	8.50	3.95	49D	巾30	浸透雨水桝（L型用）	0.80	撤去・新設	150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=3.95
3/12	RD-233	8.95	3.25	50D	巾30	浸透雨水桝（L型用）	0.80	撤去・新設	150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=3.25
3/12	RD-234	15.55	2.20	51D	巾30	浸透雨水桝内径50	0.80	撤去・新設	150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=2.20 新設L=2.05
3/12	RD-234	16.15	2.00	52D	巾30	浸透雨水桝内径50	0.80	撤去・新設	150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=2.00 新設L=1.80
4/12	RD-235	3.15	1.25	53D	巾30	浸透雨水桝（L型用）	0.80	撤去・新設	150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=1.25
4/12	RD-235	3.90	3.95	54D	巾30	浸透雨水桝（L型用）	0.80	撤去・新設	150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=3.95
4/12	RD-235	16.95	3.25	55D	巾30	浸透雨水桝（L型用）	0.80	撤去・新設	150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=3.25
4/12	RD-235	17.35	2.20	56D	巾30	浸透雨水桝（L型用）	0.80	撤去・新設	150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=2.20
4/12	RD-235	24.35	2.20	57D	巾30	浸透雨水桝（L型用）	0.80	撤去・新設	150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=2.20
4/12	RD-235	25.15	2.20	58D	巾30	浸透雨水桝（L型用）	0.80	撤去・新設	150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=2.20
4/12	RD-236	10.05	2.00	59D	巾30	浸透雨水桝内径50	0.80	撤去・新設	150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=2.00 新設L=1.85
4/12	RD-236	10.85	3.15	60D	巾30	浸透雨水桝内径50	0.80	撤去・新設	150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=3.15 新設L=2.95
4/12	RD-237	5.40	1.25	61D	巾30	浸透雨水桝（L型用）	0.80	撤去・新設	150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=1.25
4/12	RD-237	6.70	3.95	62D	巾30	浸透雨水桝（L型用）	0.80	撤去・新設	150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=3.95
5/12	RD-238	3.05	3.25	63D	巾30	浸透雨水桝内径50	0.80	撤去・新設	150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=3.25 新設L=3.10
5/12	RD-238	3.70	2.20	64D	巾30	浸透雨水桝内径50	0.80	撤去・新設	150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=2.20 新設L=2.00
5/12	RD-238	14.55	2.20	65D	巾30	浸透雨水桝内径50	0.80	撤去・新設	150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=2.20 新設L=2.00
5/12	RD-238	15.20	2.20	66D	巾30	浸透雨水桝内径50	0.80	撤去・新設	150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=2.20 新設L=2.00
5/12	RD-239	3.20	2.20	67D	巾30	浸透雨水桝（L型用）	0.80	撤去・新設	150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=2.20
5/12	RD-239	3.90	2.00	68D	巾30	浸透雨水桝（L型用）	0.80	撤去・新設	150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=2.10
5/12	RD-239	14.25	3.15	69D	巾30	浸透雨水桝（L型用）	0.80	撤去・新設	150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=3.15
5/12	RD-239	15.15	1.25	70D	巾30	浸透雨水桝（L型用）	0.80	撤去・新設	150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=1.25

図 2-73　桝・取付管一覧表の様式

(1)　概要

桝・取付管一覧表は、電子平面図に記載されている桝および取付管の属性情報を基に作成する。

桝・取付管一覧表は、図 2-74 に示す情報行による図面番号、接続設計番号、接続位置、占用幅、桝番号、既設桝形状、新設桝形状、桝深さ、桝工事内容(桝施工区分)、既設内径、既設管種、新設内径、新設管種、取付管工事内容(更生工法および取付管施工区分)により構成される。

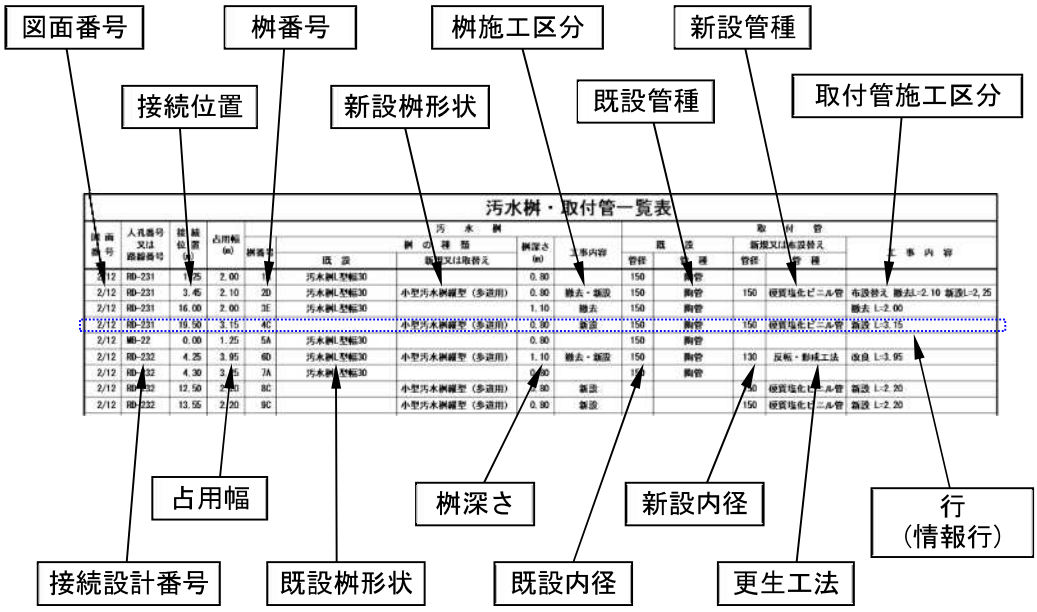


図 2-74　桝・取付管一覧表の概要図

「桝の目的」は、設置区分および布設替の有無により、表2-13とする。

表 2-13　桝の目的

コード	桝の目的	設置区分	設置替
1	既設	既設活用	―
2	改造	修正(改造)	―
3	新設	新設	無
4	撤去・新設	新設	有
5	撤去	撤去	―

「取付管の目的」は、設置区分および布設替の有無により、表2-14とする。

表 2-14　取付管の目的

コード	取付管の目的	設置区分	布設替
1	既設	既設活用	―
2	改良	修正(更生)	―
3	新設	新設	無
4	布設替え	新設	有
5	撤去	撤去	―

(2)　情報行

桝・取付管一覧表内の情報行は、図 2-74 に示す図面番号、接続設計番号、接続位置、占用幅、桝番号、既設桝形状、新設桝形状、桝深さ、桝施工区分、既設内径、既設管種、新設内径、新設管種、更生工法および取付管施工区分により構成される。

※ 情報行の行方向の作図順は、桝番号(設計区分文字は取除いた桝番号文字)の小さい順に記載する。また、設計区分文字(A・B・C・D・E)を取除いた同一の桝番号が複数存在する場合は、設計区分文字の A→B→C→D→E の順で記載する。

※ 人孔番号又は路線番号は、「取付管の目的」が「既設」、「改造」または「撤去」の場合は既設活用、改良または撤去する取付管が接続する施設の設計番号を、「取付管の目的」が「新設」または「撤去・新設」の場合は新設または布設替え後の取付管が接続する施設の設計番号を記載する。

※ 人孔番号又は路線番号は、取付管が人孔に接続する場合は設計人孔番号を、路線に接続する場合は設計路線番号を、桝に接続する場合は設計桝番号を記載する。

※ 接続位置は、「取付管の目的」が「既設」、「改造」または「撤去」の場合は既設活用、改良または撤去する取付管の接続位置を、「取付管の目的」が「新設」または「撤去・新設」の場合は新設または布設替え後の取付管の接続位置を記載する。

※ 接続位置は、取付管が路線に接続する場合のみ取付管が接続する路線の上流人孔中心からの距離を記載し、人孔または桝に接続する場合は全角の“－”(マイナス)を記載する。

※ 占用幅は、「取付管の目的」が「既設」、「改造」または「撤去」の場合は既設活用、改良または撤去する取付管の占用幅を、「取付管の目的」が「新設」または「撤去・新設」の場合は新設または布設替え後の取付管の占用幅を記載する。

※ 桝番号は、「桝の目的」が「既設」、「改造」または「撤去」の場合は既設活用、改造または撤去する桝の設計桝番号を、「桝の目的」が「新設」または「撤去・新設」の場合は新設または取替え後の桝の設計桝番号を記載する。

※ 既設桝形状は、「桝の目的」が「既設」、「改造」、「撤去・新設」または「撤去」の場合のみ、既設活用、改造または撤去する桝の種別を記載する。

※ 新設桝形状は、「桝の目的」が「新設」または「撤去・新設」の場合の場合のみ、新設または取替え後の桝の種別を記載する。

※ 桝深さは、「桝の目的」が「既設」、「改造」または「撤去」の場合の既設活用、改造または撤去する桝の深さを、「桝の目的」が「新設」または「撤去・新設」の場合は新設または取替え後の桝の深さを記載する。

※ 桝施工区分は、表 2-13 による「桝の目的」を記載する。但し、「桝の目的」が「既設」の場合は、桝施工区分の記載は省略する。

※ 既設内径は、「取付管の目的」が「既設」、「改良」、「布設替え」または「撤去」の場合のみ、既設活用、改良または撤去する取付管の内径を記載する。但し、既に更生工事が行われている場合は更生後の内径を記載する。

※ 既設管種は、「取付管の目的」が「既設」、「改良」、「布設替え」または「撤去」の場合のみ、既設活用、改良または撤去する取付管の管種を記載する。但し、既に更生工事が行われている場合の管種は、接頭に“更生管（”、接尾に“）”を付加した文字列を記載する。

※ 新設内径は、「取付管の目的」が「新設」または「布設替え」の場合の新設または布設替え後の取付管の内径を記載し、「取付管の目的」が「改良」、且つ、更生工事を実施する場合は更生後の内径を記載する。

※ 新設管種は、「取付管の目的」が「新設」または「布設替え」の場合の新設または布設替え後の取付管の管種を記載し、「取付管の目的」が「改良」で、且つ、更生工事を実施する場合は更生工法を記載する。

※ 取付管施工区分は、図 2-75 に示す表 2-14 による「取付管の目的」および工事延長を記載する。但し、「取付管の目的」が「既設」または「取付管の目的」が「改良」で、且つ、更生工事を実施しない場合は、取付管施工区分の記載は省略する。

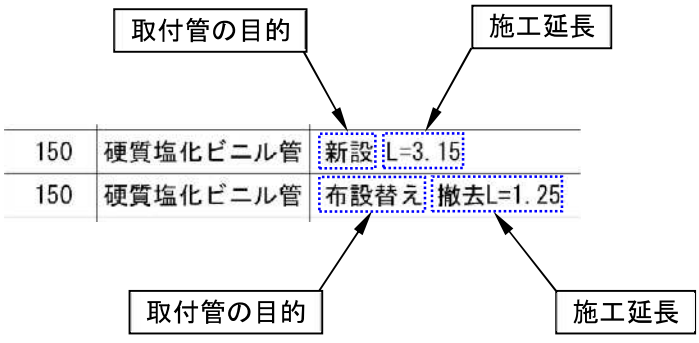


図 2-75　取付管施工区分の記入例

※ 取付管施工区分は、「取付管の目的」および取付管の工事延長による文字列を合成(文字列間に半角スペースを付加した一文字列)して記載する。

※ 取付管施工区分の工事延長に使用する数値文字は半角文字を使用し、接頭に“L=” を付加した文字列を記載する。

※ 「取付管の目的」が「布設替え」の場合の工事延長は、撤去する取付管の工事延長(接頭に“ 撤去 L=” を付加した文字列) と、布設替え後の取付管の工事延長(接頭に“新設 L=”を付加した文字列)とを合成(文字列間に半角スペースを付加した一文字列)して記載する。但し、撤去する取付管の工事延長と布設替え後の取付管の工事延長が同一の場合は、布設替え後の取付管の工事延長の記載は省略する。

2.4.5　占用完了数量集計表

占用完了数量集計表は、**工事の完了図**に記載するもので、当該工事における新設または修正(更生)された路線の延長を集計した「再構築管渠占用完了数量集計表」、撤去された路線の延長を集計した「撤去管渠占用完了数量集計表」、新設または撤去された人孔の箇所数を集計した「人孔占用完了数量集計表」および新設または撤去された桝の箇所数を集計した「取付桝占用完了数量集計表」の4タイプに分けて作成する。

占用完了数量集計表の様式を、図2-76に示す。また、文字の大きさは、タイトルの文字を7mm、他の文字を3.5mmとする。

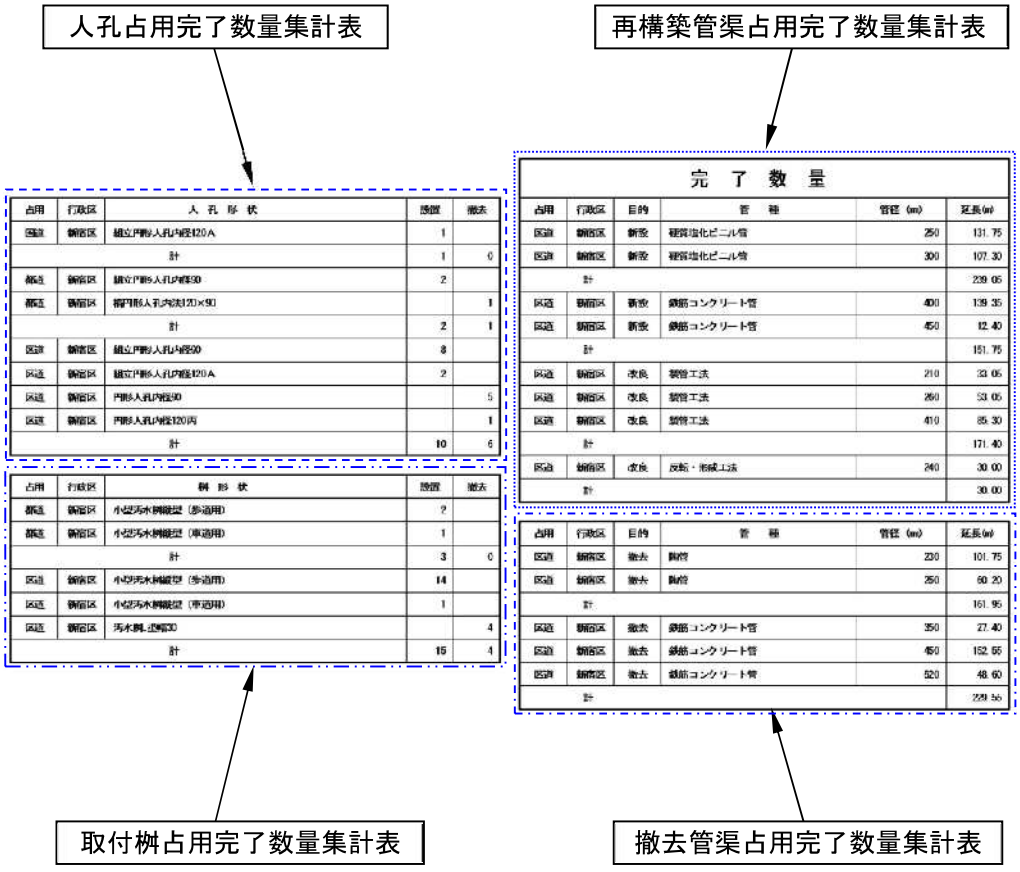


図 2-76　占用完了数量集計表の様式

2.4.5.1　再構築管渠占用完了数量集計表

再構築管渠占用完了数量集計表は、電子平面図に記載されている路線の属性情報を基に作成する。

(1)　概要

再構築管渠占用完了数量集計表は、図 2-77 に示す情報行(占用、行政区、管渠の目的、管種、更生工法、内径または外径および延長)、集計行(合計延長)により構成される。

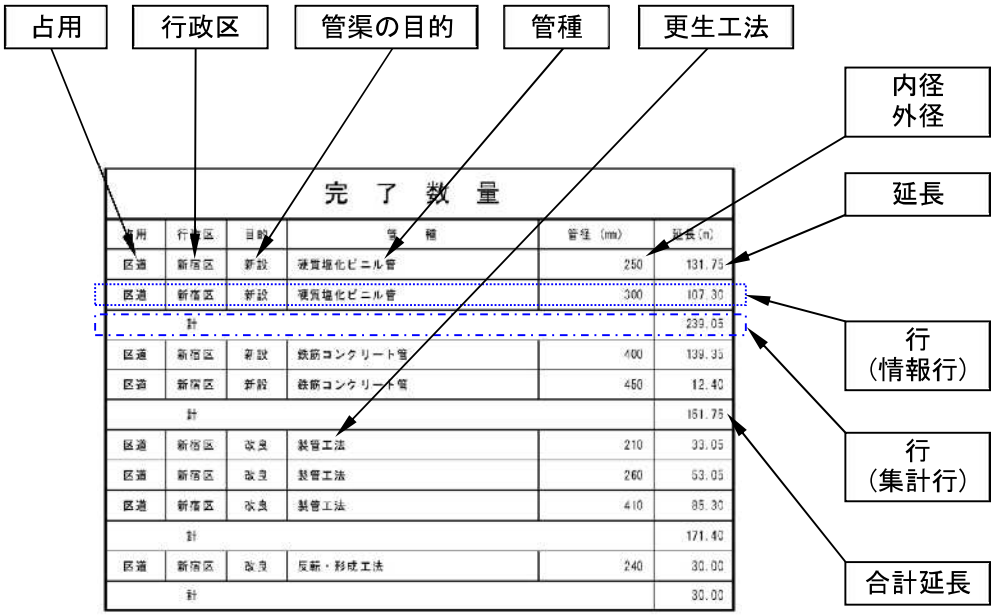


図 2-77　再構築管渠占用完了数量集計表の概要

「管渠の目的」は、設置区分により、表 2-15 とする。

表 2-15　管きょの目的

コード	管渠の目的	設置区分
2	改造	修正(更生)
3	新設	新設
5	撤去	撤去

「占用」は、表 2-16 とする。

表 2-16　占用

コード	占　用	コード	占　用	コード	占　用
1	国道	6	区地	11	鉄道地
2	国地	7	他都市道	12	土整地
3	都道	8	他都市地	13	公団地
4	都地	9	私有地		
5	区道	10	企業地		

(2)　情報行

再構築管渠占用完了数量集計表内の情報行は、図 2-77 に示す占用、行政区、管渠の目的、管種、更生工法、内径または外径により構成される。

※ 再構築管渠占用完了数量集計表の行方向の作図順は、占用のコードの小さい順、行政区のコードの小さい順、「管渠の目的」のコードの小さい順、管種または更生工法のコードの小さい順、内径(「管渠の目的」が「改造」の場合は、更生後の内径)の小さい順とする。

※「管渠の目的」が「新設」の場合は、本体情報(管種、管径等)および管理者情報(行政区、土地管理者、土地用途種別等) による組合せの情報行を記載する。

※「管渠の目的」が「改造」の場合は、本体情報(管種、管径等)、更新管情報(更生工法、更生後の管径等)および管理者情報(行政区、土地管理者、土地用途種別等) による組合せの情報行を記載する。

※「管渠の目的」が「改造」の場合の管種は、更生工法を記載する。

※ 管径は、内径または外径のどちらか一方を記載する。また、「管渠の目的」が「改造」の場合の管径は、更生後の内径または外径を記載する。

※ 内径または外径は、断面形状が円形または卵形の場合は管幅を記載し、円形または卵形以外の場合は管幅と管高を記載(二文字間に“×”を付加した一文字列)する。

※ 管径および延長に使用する数値文字は、全て半角文字により記載する。

(3)　集計行

再構築管渠占用完了数量集計表内の情報行は、図 2-77 に示す合計延長のみにより構成される。

※「管渠の目的」が「新設」の場合は、本体情報(管種等)および管理者情報(行政区、土地管理者および土地用途種別等)による組合せ毎の合計延長の集計行を、各組合せ情報行の最後に作成する。

※「管渠の目的」が「改造」の場合は、更新管情報(更生工法、更生後の管径等)および管理者情報(行政区、土地管理者、土地用途種別等) による組合せ毎の合計延長の集計行を、各組合せ情報行の最後に作成する。

2.4.5.2　撤去管渠占用完了数量集計表

撤去管渠占用完了数量集計表は、電子平面図に記載されている路線の属性情報を基に作成する。

(1)　概要

撤去管渠占用完了数量集計表は、図 2-78 に示す情報行(占用、行政区、管渠の目的、管種、内径または外径および延長)、集計行(合計延長)により構成される。

撤去管渠占用完了数量集計表に記載する情報行(占用、行政区、管渠の目的、管種、内径または外径および延長)、集計行(合計延長)の図形には、電子平面図の図形および属性情報との整合性の確認および図面間の自動チェックを容易にするため、CAD ソフトウェアにより属性情報を付加する。

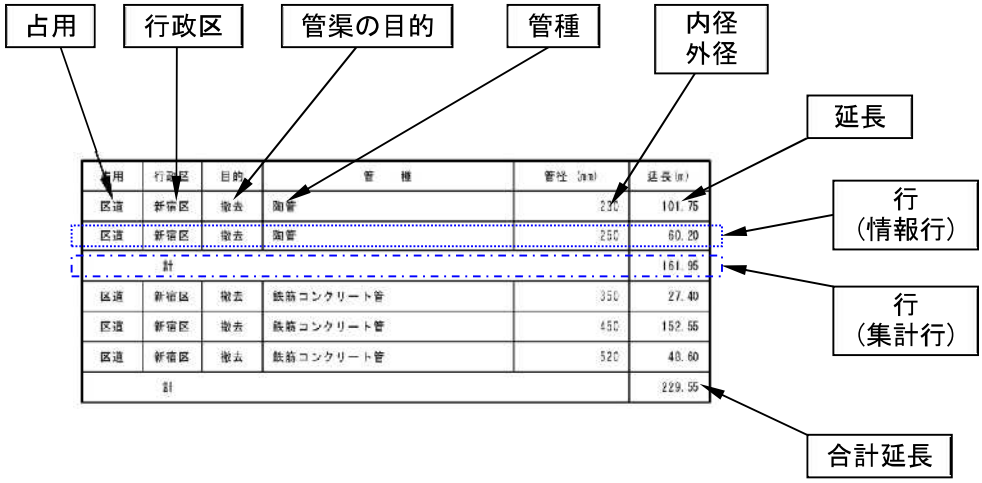


図 2-78　撤去管渠占用完了数量集計表の概要図

(2) 情報行

撤去管渠占用完了数量集計表内の情報行は、図 2-78 に示す占用、行政区、管渠の目的、管種、内径または外径により構成される。

※ 撤去管渠占用完了数量集計表の行方向の作図順は、占用のコードの小さい順、行政区のコードの小さい順、管種のコードの小さい順、内径(更生工事が行われている場合は、更生後の内径)の小さい順とする。

※ 本体情報(管種、管径等)および管理者情報(行政区、土地管理者、土地用途種別等) による組合せの情報行を記載する。但し、更生工事が行われている場合は、更新管情報(更生工法、更生後の管径等)も含めた組合せの情報行を記載する。

※ 更生工事が行われている場合の管種は、接頭に“更生管（”、接尾に “)” を付加した文字列を記載する。

※ 管径は、内径または外径のどちらか一方を記載する。また、更生工事が行われている場合の管径は、更生後の内径または外径を記載する。

※ 内径または外径は、断面形状が円形または卵形の場合は管幅を記載し、円形または卵形以外の場合は管幅と管高を記載(二文字間に“×”を付加した一文字列)する。

※ 管径および延長に使用する数値文字は、全て半角文字により記載する。

(3) 集計行

撤去管渠占用完了数量集計表内の情報行は、図 2-78 に示す合計延長のみにより構成され、CAD ソフトウェアにより各図形に属性情報を付加する。

※ 本体情報(管種等)および管理者情報(行政区、土地管理者および土地用途種別等)による組合せ毎の合計延長の集計行を、各組合せ情報行の最後に作成する。但し、更生工事が行われている場合は、更新管情報(更生工法、更生後の管径等)も含めた組合せ毎の合計延長の集計行を、各組合せ情報行の最後に作成する。

2.4.5.3　人孔占用完了数量集計表

人孔占用完了数量集計表は、電子平面図に記載されている人孔の属性情報を基に作成する。

(1)　概要

人孔占用完了数量集計表は、図 2-79 に示す情報行(占用、行政区、人孔形状、設置および撤去)、集計行(設置合計および撤去合計)により構成される。

人孔占用完了数量集計表に記載する情報行(占用、行政区、人孔形状、設置および撤去)、集計行(設置合計および撤去合計)の図形には、電子平面図の図形および属性情報との整合性の確認および図面間の自動チェックを容易にするため、CAD ソフトウェアにより属性情報を付加する。

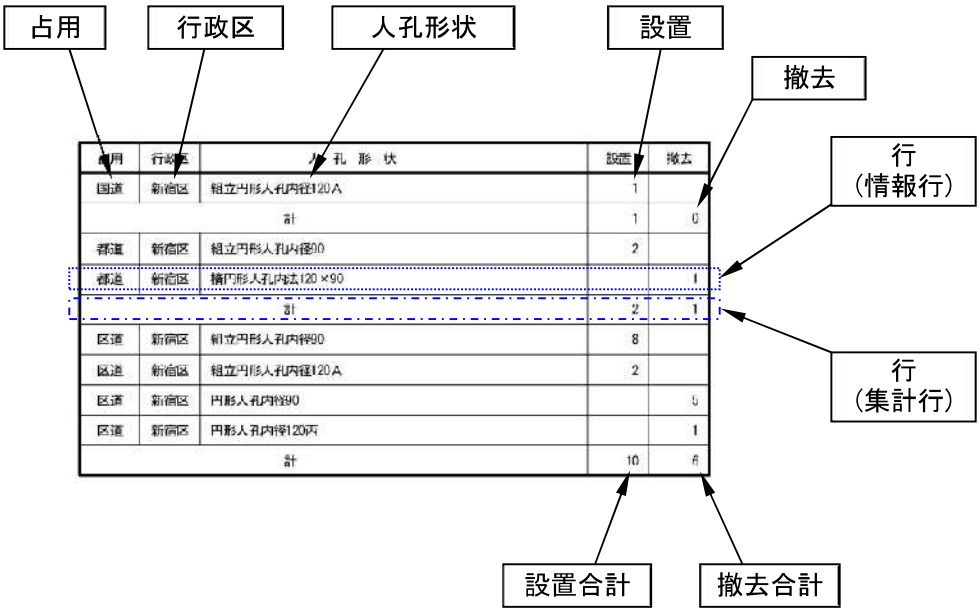


図 2-79　人孔占用完了数量集計表の概要図

(2) 情報行

人孔占用完了数量集計表内の情報行は、図 2-79 に示す占用、行政区、人孔形状、設置および撤去により構成される。

※ 人孔占用完了数量集計表の行方向の作図順は、占用のコードの小さい順、行政区のコードの小さい順、人孔種別のコードの小さい順とする。

※ 本体情報(人孔種別等)および管理者情報(行政区、土地管理者、土地用途種別等) による組合せによる人孔の設置数および撤去数を集計し情報行を記載する。

※ 設置数の集計が 0 の情報行は、設置の記載を省略する。

※ 撤去数の集計が 0 の情報行は、撤去の記載を省略する。

※ 設置および撤去に使用する数値文字は、全て半角文字により記載する。

(3) 集計行

人孔占用完了数量集計表内の情報行は、図 2-79 に示す設置合計、撤去合計により構成され、CAD ソフトウェアにより各図形に属性情報を付加する。

※ 管理者情報(行政区、土地管理者および土地用途種別等)による組合せ毎の人孔の設置合計および撤去合計の集計行を、各組合せ情報行の最後に作成する。

2.4.5.4　取付桝占用完了数量集計表

取付桝占用完了数量集計表は、電子平面図に記載されている桝の属性情報を基に作成する。

(1)　概要

取付桝占用完了数量集計表は、図 2-80 に示す情報行(占用、行政区、桝形状、設置および撤去)、集計行(設置合計および撤去合計)により構成される。

取付桝占用完了数量集計表に記載する情報行(占用、行政区、桝形状、設置および撤去)、集計行(設置合計および撤去合計)の図形には、電子平面図の図形および属性情報との整合性の確認および図面間の自動チェックを容易にするため、CAD ソフトウェアにより属性情報を付加する。

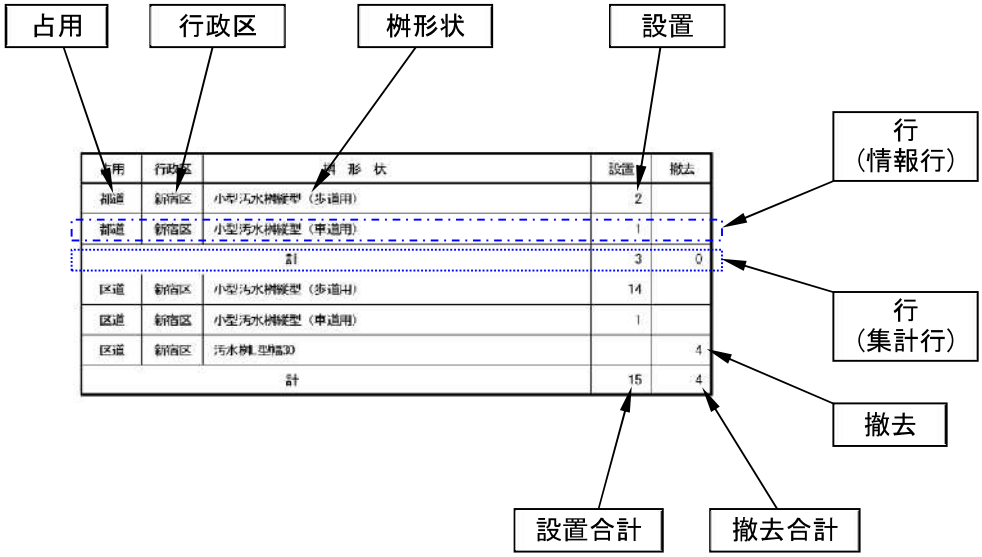


図 2-80　取付桝占用完了数量集計表の概要図

(2)　情報行

取付桝占用完了数量集計表内の情報行は、図 2-80 に示す占用、行政区、桝形状、設置および撤去により構成される。

※ 取付桝占用完了数量集計表の行方向の作図順は、占用のコードの小さい順、行政区のコードの小さい順、人孔種別のコードの小さい順とする。

※ 本体情報(桝種別等)および管理者情報(行政区、土地管理者、土地用途種別等) による組合せによる取付桝の設置数および撤去数を集計し情報行を記載する。

※ 設置数の集計が 0 の情報行は、設置の記載を省略する。

※ 撤去数の集計が 0 の情報行は、撤去の記載を省略する。

※ 設置および撤去に使用する数値文字は、全て半角文字により記載する。

(3) 集計行

取付桝占用完了数量集計表内の情報行は、図 2-80 に示す設置合計、撤去合計により構成され、CAD ソフトウェアにより各図形に属性情報を付加する。

※ 管理者情報(行政区、土地管理者および土地用途種別等)による組合せ毎の取付桝の設置合計および撤去合計の集計行を、各組合せ情報行の最後に作成する。

2.5　構造図

構造図には、管きょの構造図、特殊人孔構造図、仮取入構造図、仮締切構造図、仮設図、地盤改良図等がある。

【解説】

(1) 構造図は、平面図、断面図、詳細図から構成される。

(2) 尺度は、構造物の種類により1：10～1：100の範囲を原則とする。

(3) 築造物ごとに名称及び縮尺を記入し、図示する。類似した築造物が２つ以上ある場合は、標準構造図に代表することができる。
この場合、寸法材料等は一覧表にして構造物別に明示する。

(4) 断面の切り方は、その築造物の構造が具体的に表現できるように工夫する。

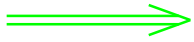
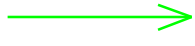
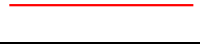
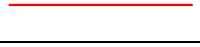
(5) 特殊人孔の中心は、路線延長との関係を明確に表現できるように定め、構造図に明記する。

(6) 仮設図
仮設構造（山留、覆工等）については、表示しない。ただし、掘削深が10mを超える場合、または、施工場所の環境、地下埋設物の状態、施工方法が特殊である等の条件により、特殊な仮設構造を採用したときには、施工者に設計者の意図が明確に判るように詳細な仮設構造を作成する。

2.6　図面の記号および標準図

2.6.1　シンボル記号

2.6.1.1　記号

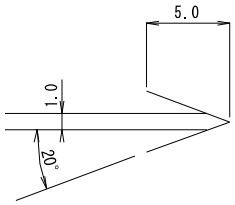
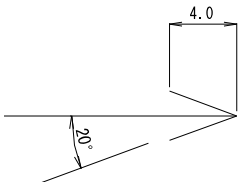
	記号	名称	規格	備考
幹線管きょ		既設活用管渠	既設 (実線)	既設を利用する。
		更生管渠、新設管渠	修正、新設 (実線)	
		計画管渠	計画 (一点短鎖線)	将来に設置する。
		撤去管渠	撤去 (破線)	
		残置管渠	残置 (実線)	
		工事終了管渠	工事終了 (破線)	今回施工に対象外な管きょ
枝線管きょ		既設活用管渠	既設 (実線)	既設を利用する。
		更生管渠、新設管渠	修正、新設 (実線)	
		計画管渠	計画 (一点短鎖線)	将来に設置する。
		撤去管渠	撤去 (破線)	
		残置管渠	残置 (実線)	
		工事終了管渠	工事終了 (破線)	今回施工に対象外な管きょ
取付管		既設取付管	既設 (実線)	既設を利用する。
		更生取付管、新設取付管	修正、新設 (実線)	
		計画取付管	計画 (一点短鎖線)	将来に設置する。
		撤去取付管	撤去 (破線)	
		残置取付管	残置 (実線)	

	記号	名称	規格	備考
		工事終了取付管	工事終了 (破線)	今回施工に対象外な取付管
鞘管		既設活用鞘管	既設 (実線)	既設を利用する。
		改造鞘管、新設鞘管	修正、新設 (実線)	
		計画鞘管	計画 (一点短鎖線)	将来に設置する。
		撤去鞘管	撤去 (破線)	
		残置鞘管	残置 (実線)	
		工事終了鞘管	工事終了 (破線)	今回施工に対象外な鞘管
人孔・桝		既設活用人孔･桝	既設 (実線)	既設を利用する。
		改造人孔･桝、新設人孔･桝	修正、新設 (実線)	
		計画人孔･桝	計画 (一点短鎖線)	将来に設置する。
		撤去人孔･桝	撤去 (破線)	
		残置人孔･桝	残置 (実線)	
		工事終了人孔･桝	工事終了 (破線)	今回施工に対象外な人孔･桝
地下埋設物		電話線	一点長鎖線	
		水道管	二点短鎖線	
		地下鉄	二点長鎖線	
		ガス管	三点長鎖線	
		電力線	長破線	

	記号	名称	規格	備考
		民間光ファイバー	二点鎖線	
		共同溝	一点鎖線	
		他企業埋設物	一点二短鎖線	
付帯設備		分水人孔		
		振分人孔		
		副管		

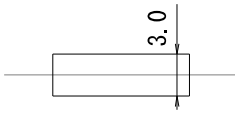
2.6.1.2　路線記号

※ 下表の路線記号および取付管記号サイズは、平面図または線路詳細図内の平面図に使用するサイズとし、系統図に使用する場合は、1/2 のサイズにより記載する。

	記号規格	種別（名称）	備考
		幹線管きょ	
		枝線管きょ	
		取付管	

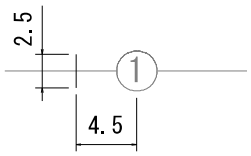
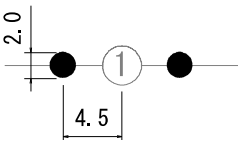
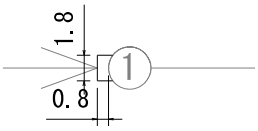
2.6.1.3　鞘管記号

※ 下表の鞘管記号サイズは、平面図または線路詳細図内の平面図に使用するサイズとし、系統図に使用する場合は、1/2 のサイズにより記載する。

	記号規格	種別（名称）	備考
		鞘管	

2.6.1.4　付帯設備

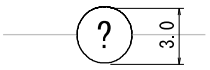
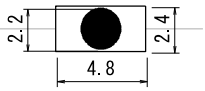
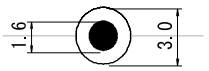
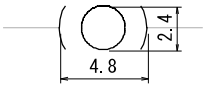
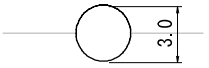
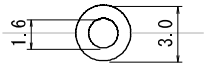
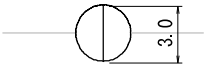
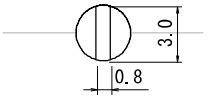
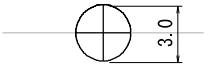
※ 下表の付帯設備の記号サイズは、平面図または線路詳細図内の平面図に使用するサイズとし、系統図に使用する場合は、1/2 のサイズにより記載する。

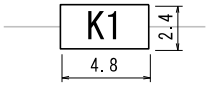
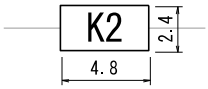
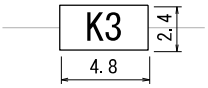
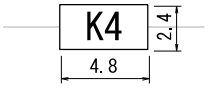
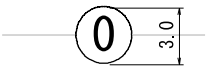
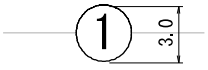
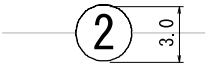
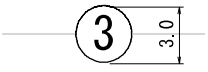
	記号規格	種別(名称)	備考
		分水人孔	
		振分人孔	
		副管	

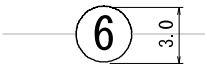
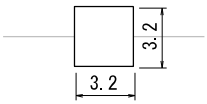
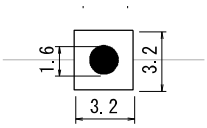
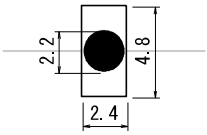
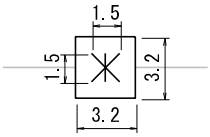
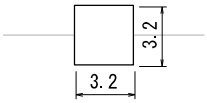
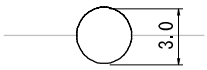
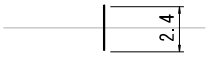
2.6.1.5　人孔記号

※ 下表の人孔記号サイズは、平面図または線路詳細図内の平面図に使用するサイズとし、系統図に使用する場合は、1/2 のサイズにより記載する。

※ 人孔を桝として利用する場合は、下表の人孔記号サイズの 1/2 のサイズにより桝記号として記載する。

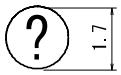
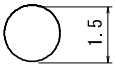
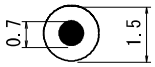
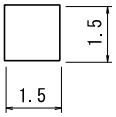
	記号規格	種別(名称)	備考
		（不明）	
		矩形人孔内法９０×６０	
		円形人孔内径９０	
		楕円形人孔内法１２０×９０	
		円形人孔内径１２０ 円形人孔内径１２０丙 円形人孔内径１２０丁	
		円形人孔内径１５０ 円形人孔内径１５０丙 円形人孔内径１５０丁	
		円形人孔内径１８０	
		円形人孔内径２００	
		円形人孔内径２２０	

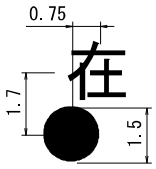
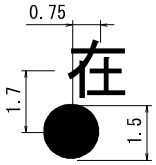
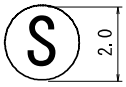
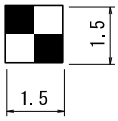
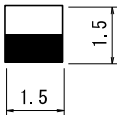
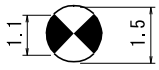
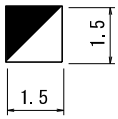
	記号規格	種別(名称)	備考
		都型組立矩形人孔内法９０×６０	
		都型組立矩形人孔内法１２０×６０	
		都型組立矩形人孔内法１２０×８０	
		都型組立矩形人孔内法１２０×９０	
		組立円形人孔内径７５	
		組立円形人孔内径９０	
		組立円形人孔内径１２０Ａ	
		組立円形人孔内径１２０Ｂ	
		組立円形人孔内径１５０	
		組立円形人孔内径１５０Ｂ	
		組立円形人孔内径１８０	
		組立円形人孔内径２００	

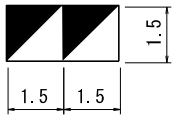
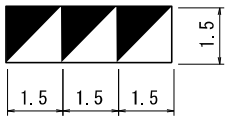
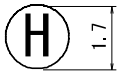
	記号規格	種別(名称)	備考
		組立円形人孔内径２２０	
		矩形人孔内法２１０	
		矩形人孔内法２６０	
		矩形人孔内法３００	
		特殊矩形人孔内法１２０×１２０	
		特殊矩形人孔内法１５０×１５０	
		特殊矩形人孔内法１８０×１８０	
		特殊人孔内法○、内法○×○	
		特殊人孔内法○	内径 90ｃｍ未満
		特殊矩形人孔内法６０×９０	
		特殊人孔(兼用)内法○、内法○×○	
		組立特殊人孔	
		組立円形人孔	
		人孔無し	
		人孔無し（管理変化点）	

2.6.1.6　桝記号

※ 下表の桝記号サイズは、平面図または線路詳細図内の平面図に使用するサイズとする。

	記号規格	種別(名称)	備考
		（不明）	
		汚水桝	
		汚水桝内径３０	
		汚水桝内径３６	
		汚水桝内径７０（人孔蓋付）	
		汚水桝用取付端末	
		Ｕ型汚水桝	
		底部有孔汚水桝（Ｌ型用）	
		底部有孔汚水桝（底部有孔）	
		汚水桝Ｌ型幅３０	
		汚水桝Ｌ型幅３５	
		汚水桝内径５０	
		汚水桝内径７０	
		塩ビ桝	
		小型汚水桝	
		小型汚水桝縦型（車道用）	
		小型汚水桝縦型（歩道用）	
		小型汚水桝横型（車道用）	
		小型汚水桝横型（歩道用）	
		特殊汚水桝	
		桝無し（汚水）	
		桝無し（雨水）	
		雨水桝	
		雨水桝二枚蓋Ｌ形用	
		雨水特殊桝	

	記号規格	種別(名称)	備考
		雨水特殊桝（既設）	
		雨水桝内径５０	
		雨水桝内法３０×３０	
		雨水桝内法４０×４０	
		雨水桝内法４５×４５	
		雨水桝内法５０×５０	
		浸透雨水桝（Ｌ型用）	
		浸透雨水桝内径５０	
		浸透雨水小型桝横型（車道用）	
		浸透雨水小型桝横型（歩道用）	
		宅地排水用雨水桝	
		宅地排水用小型雨水桝	
		宅地雨水桝用取付端末	
		雨水桝用取付端末	
		雨水桝Ｌ形用	
		宅地排水用雨水貯留浸透桝	
		道路排水用ＬＵ雨水桝	
		ＬＵ最終特殊雨水桝	
		宅地排水用雨水桝中継街きょ桝	
		浸透雨水桝（浸透抑制一連桝）	

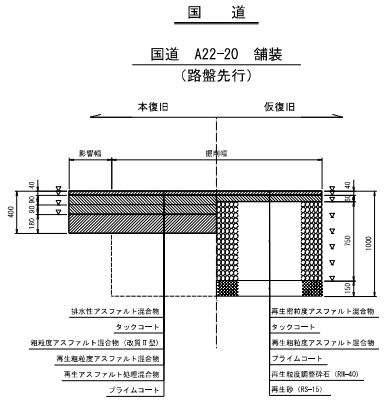
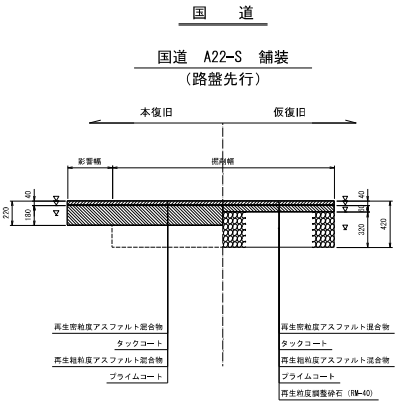
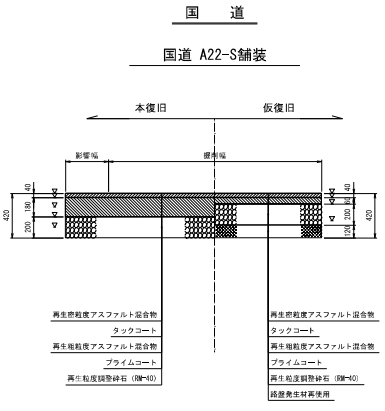
	記号規格	種別(名称)	備考
		浸透雨水桝（雨水抑制二連桝）	
		道路用雨水貯留浸透桝	
		浸透雨水桝（雨水抑制三連桝）	
		光ファイバーケーブル用桝	

2.6.2　標準図（参考）

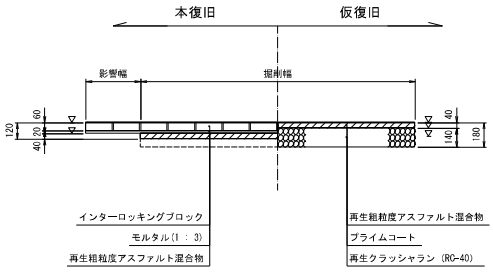
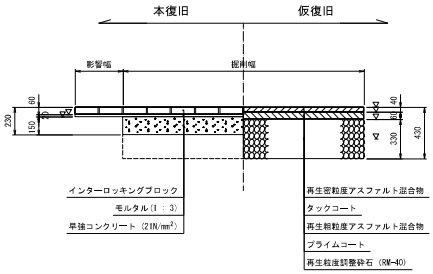
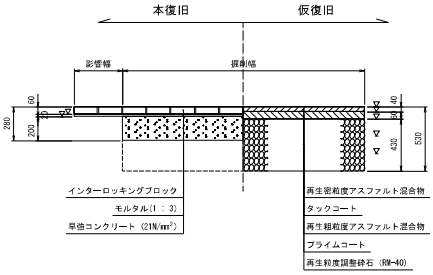
2.6.2.1　舗装構成図

舗装構造図は、令和２年度時点でのデータであるため、必ず道路管理者に確認すること。

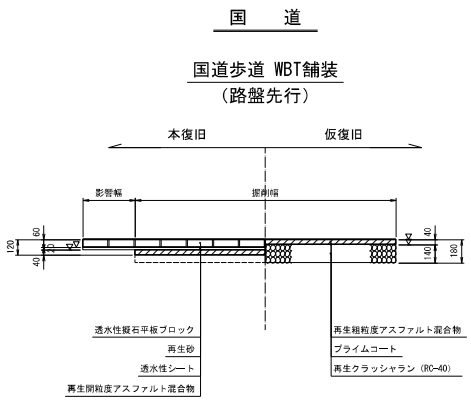
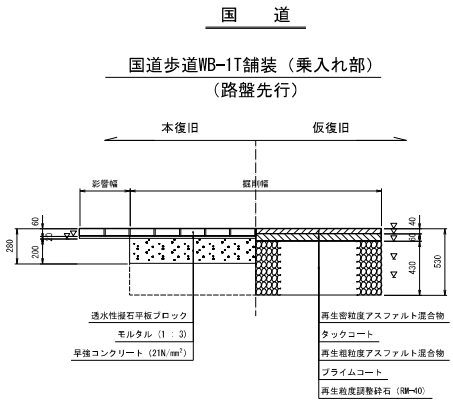
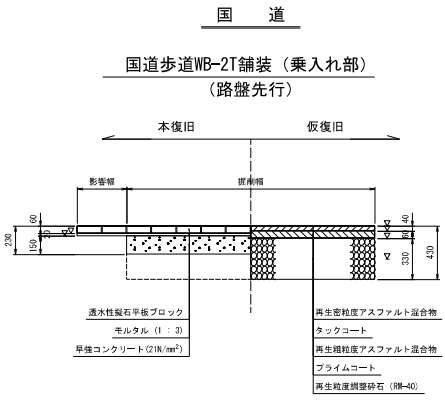
(a)　国道

名称	図
国 A22-20(路盤先行)	
国 A22-S(路盤先行)	
国 A22-S	

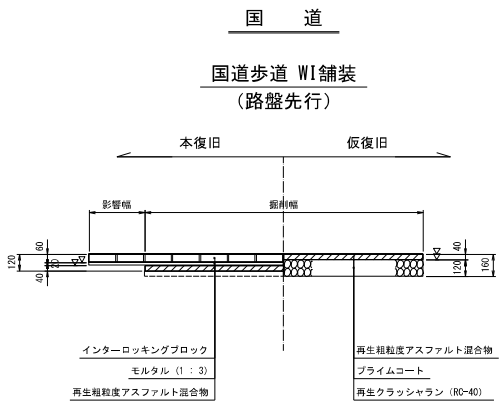
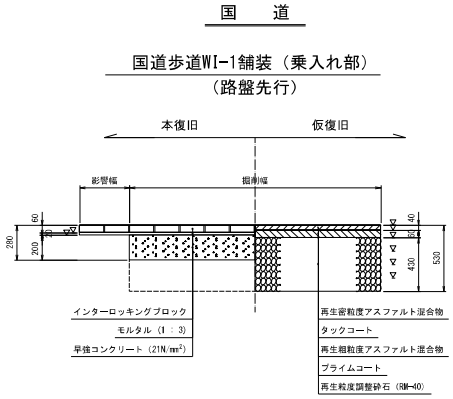
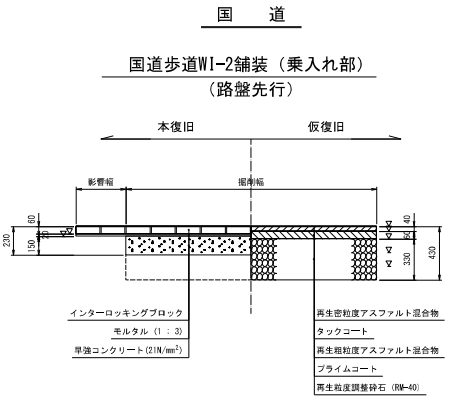
舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

名称	図
国 ILB18 型(路盤先行)	国　道 国道歩道インターロッキングブロック舗装 18型 (路盤先行) 
国 ILB43 型(車乗入部)(路盤先行)	国　道 国道歩道インターロッキングブロック舗装 43型(乗入れ部) (路盤先行) 
国 ILB53 型(車乗入部)(路盤先行)	国　道 国道歩道インターロッキングブロック舗装 53型(乗入れ部) (路盤先行) 

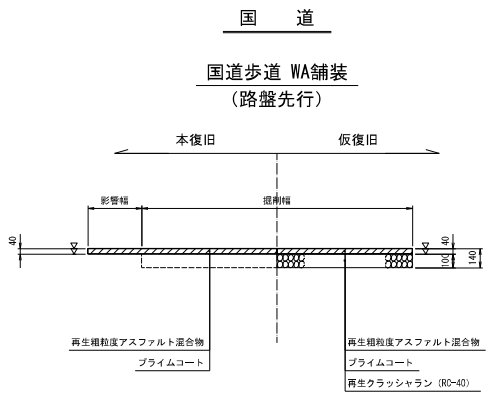
舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

名称	図
国 WBT(路盤先行)	
国 WB-1T(路盤先行)	
国 WB-2T(路盤先行)	

舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

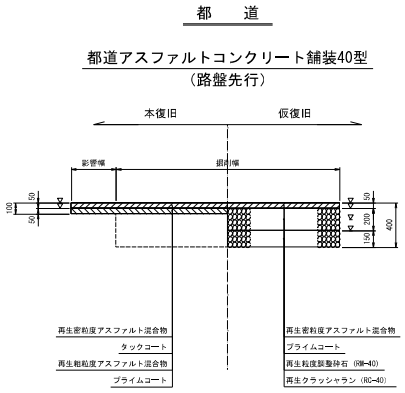
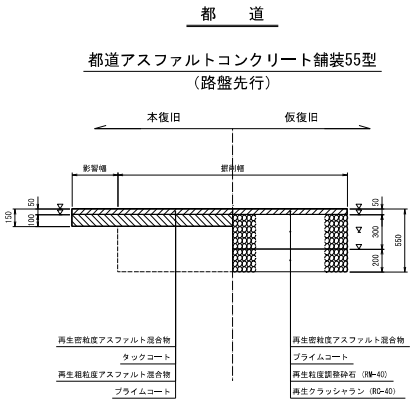
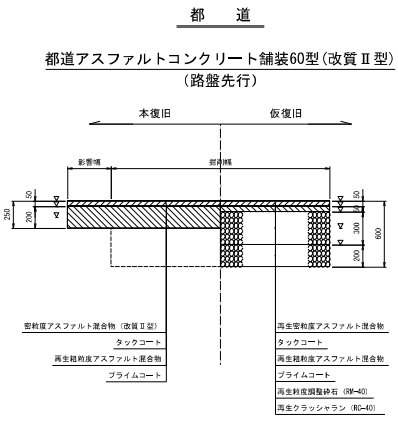
名称	図
国 WI(路盤先行)	
国 WI-1(路盤先行)	
国 WI-2(路盤先行)	

舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

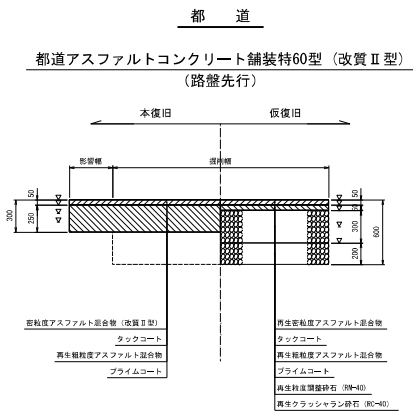
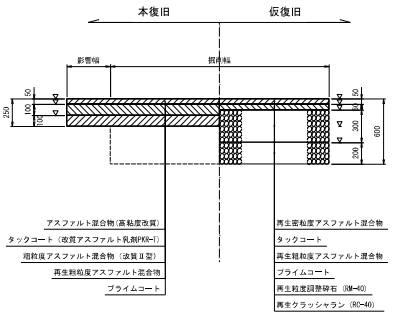
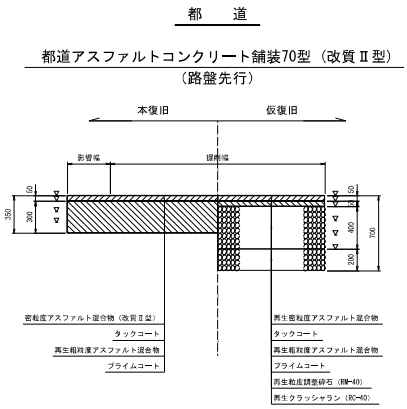
名称	図
国 WA(路盤先行)	

舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

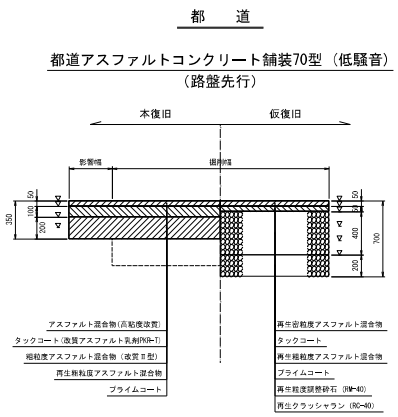
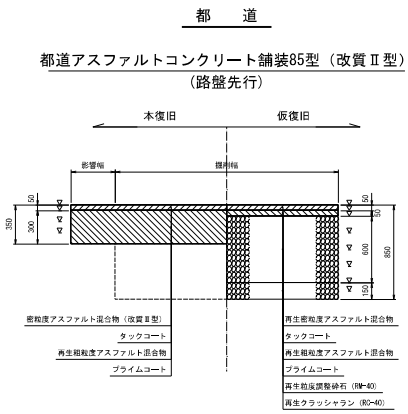
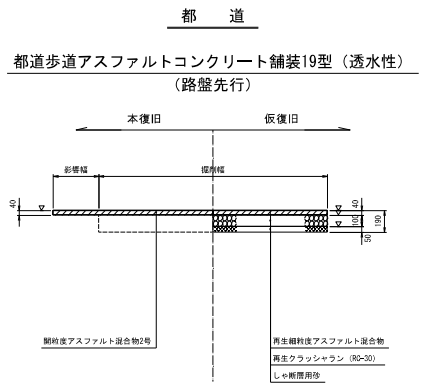
(b)　都道

名称	図
都 AS40 型(路盤先行)	
都 AS55 型(路盤先行)	
都 AS60 型（改質Ⅱ型)(路盤先行)	

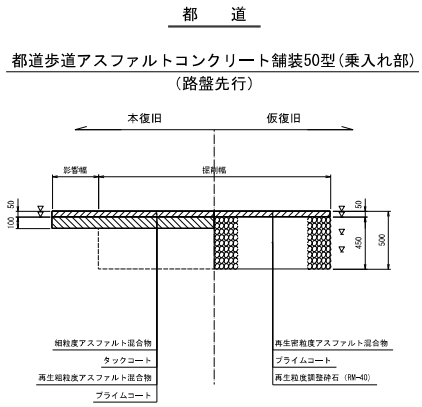
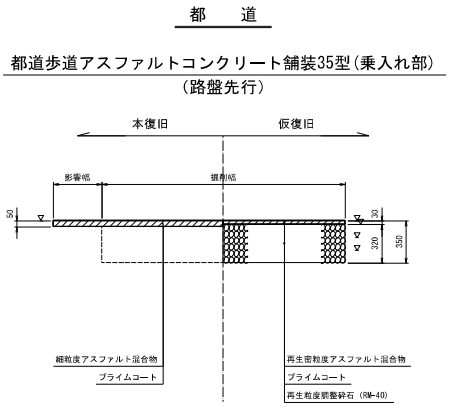
舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

名称	図
都 AS 特 60 型(改質Ⅱ型)(路盤先行)	
都 AS60 型(低騒音)(路盤先行)	
都 AS70 型(改質Ⅱ型)(路盤先行)	

舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

名称	図
都 AS70 型(低騒音)(路盤先行)	
都 AS85 型(改質Ⅱ型)(路盤先行)	
都 AS19 型(透水性)(路盤先行)	

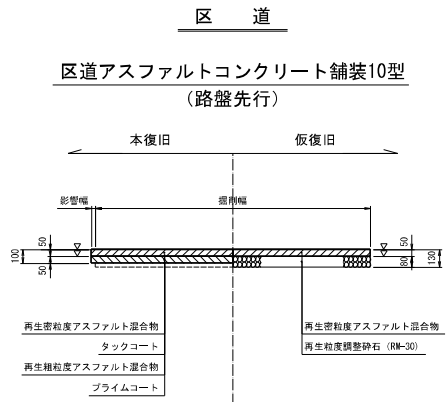
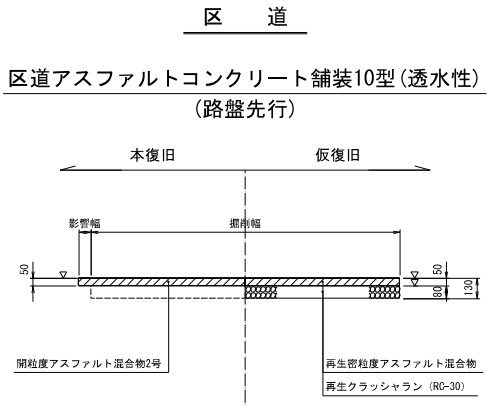
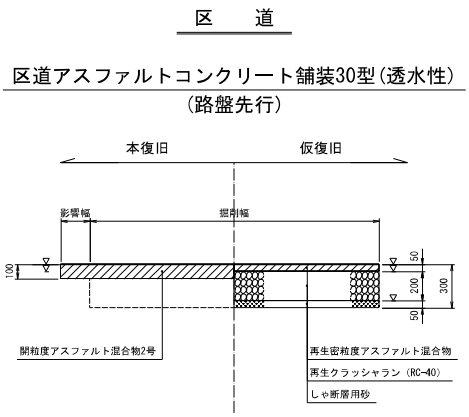
舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

名称	図
都 AS50 型(車乗入部)(路盤先行)	
都 AS35 型(車乗入部)(路盤先行)	

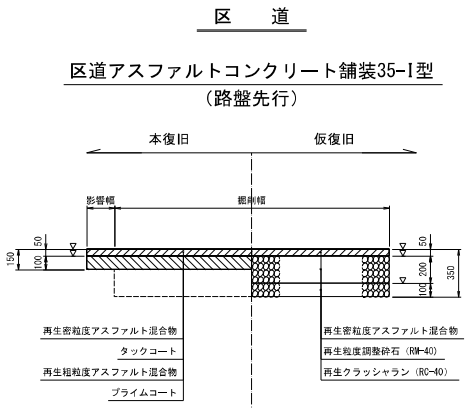
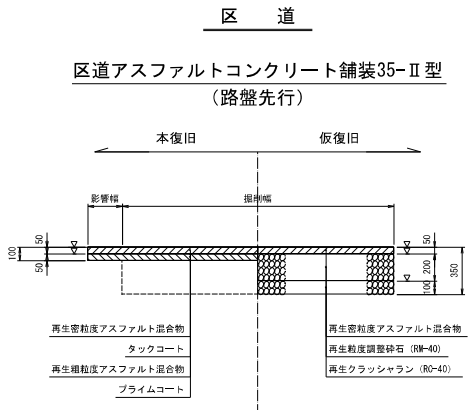
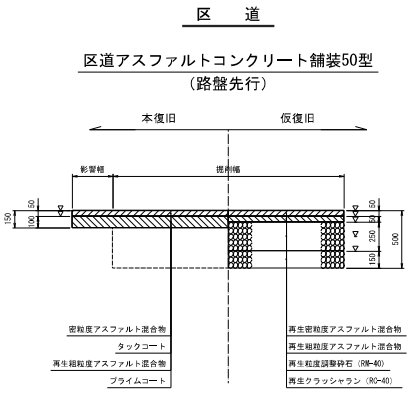
舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

(c)　区道

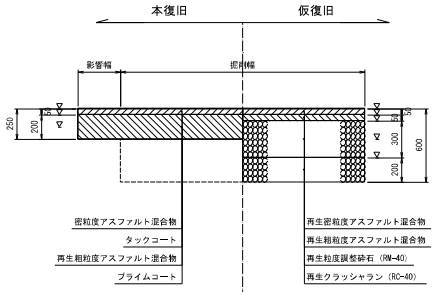
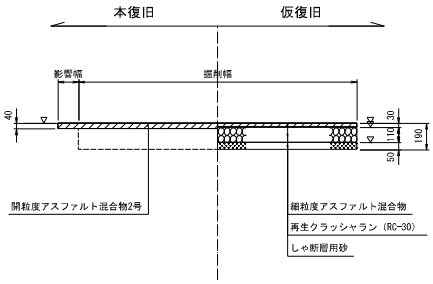
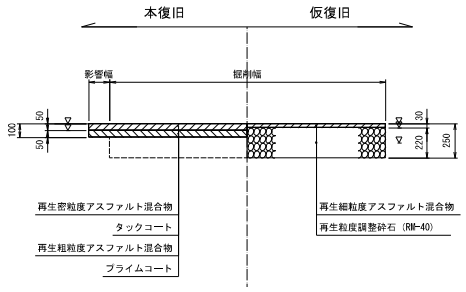
（1）千代田区

名称	図
AS10 型(路盤先行)	
AS10 型(透水性)(路盤先行)	
AS30 型(透水性)(路盤先行)	

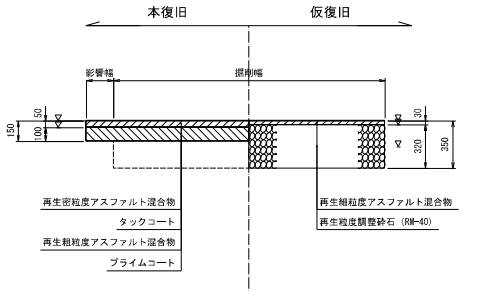
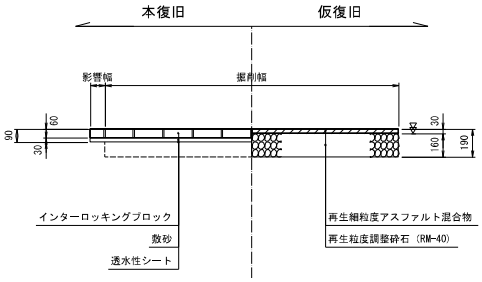
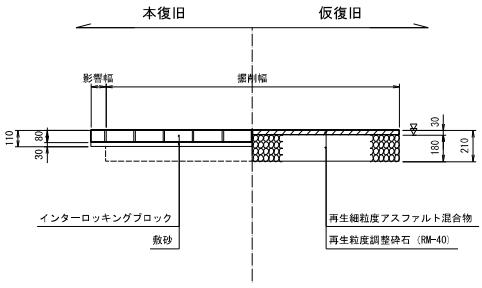
舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

名称	図
AS35-Ⅰ型(路盤先行)	
AS35-Ⅱ型(路盤先行)	
AS50 型(路盤先行)	

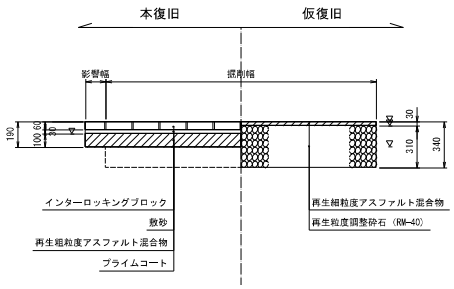
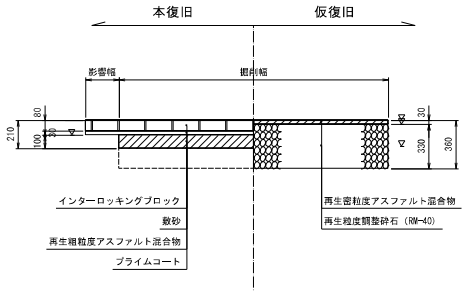
舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

名称	図
AS60 型(路盤先行)	区　道 区道アスファルトコンクリート舗装60型 (路盤先行) 
AS19 型(透水性)(路盤先行)	区　道 区道歩道アスファルトコンクリート舗装19型(透水性) (路盤先行) 
AS25 型(車乗入部)(路盤先行)	区　道 区道歩道アスファルトコンクリート舗装25型(乗入れ部) (路盤先行) 

舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

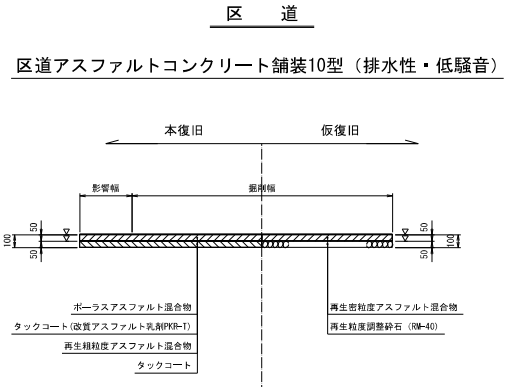
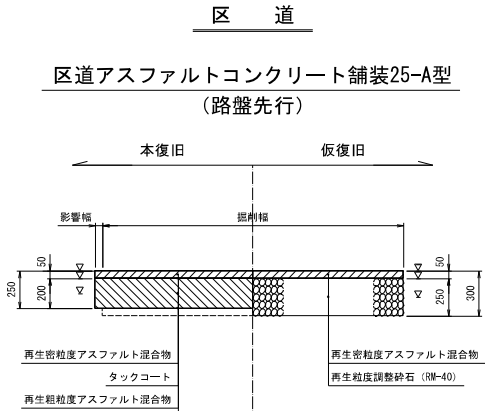
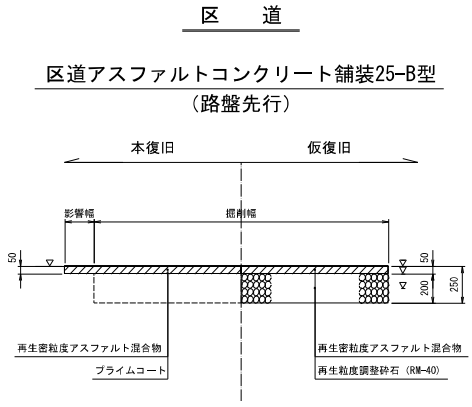
名称	図
AS35 型(車乗入部)(路盤先行)	区　道 区道歩道アスファルトコンクリート舗装35型(乗入れ部) (路盤先行) 
ILB19 型(路盤先行)	区　道 区道歩道インターロッキングブロック舗装19型 (路盤先行) 
ILB21 型(路盤先行)	区　道 区道歩道インターロッキングブロック舗装21型 (路盤先行) 

舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

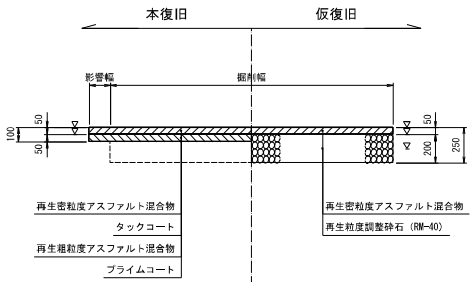
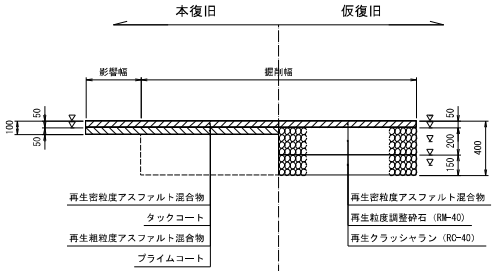
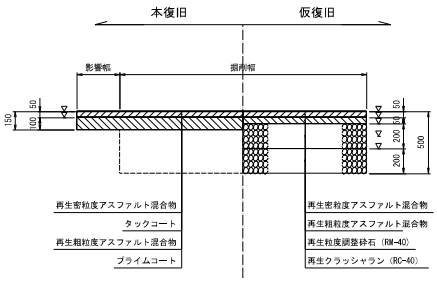
名称	図
ILB34 型(路盤先行)	区　道 区道歩道インターロッキングブロック舗装34型 (路盤先行) 
ILB36 型(路盤先行)	区　道 区道歩道インターロッキングブロック舗装36型 (路盤先行) 

舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

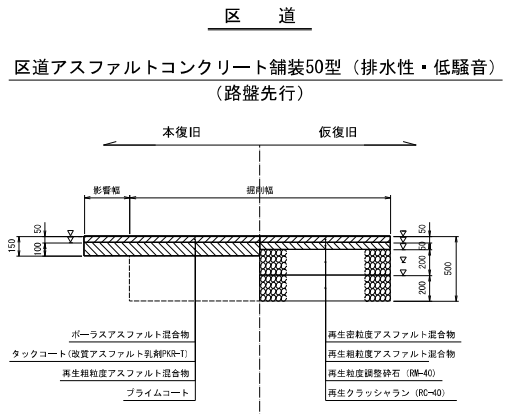
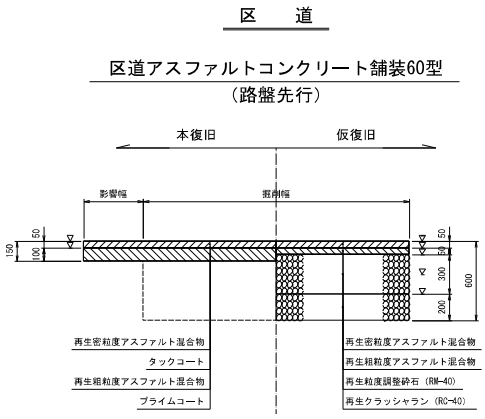
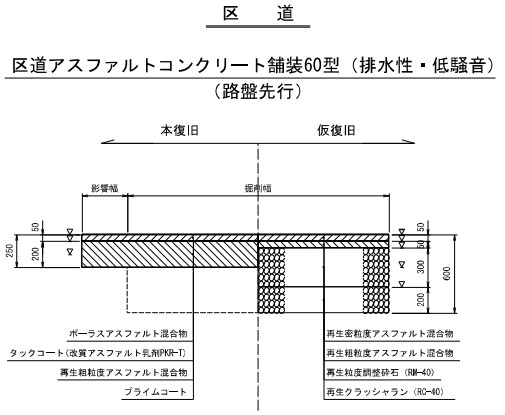
(2) 中央区

名称	図
AS10 型(排水性・低騒音)	
AS25-A 型(路盤先行)	
AS25-B 型(路盤先行)	

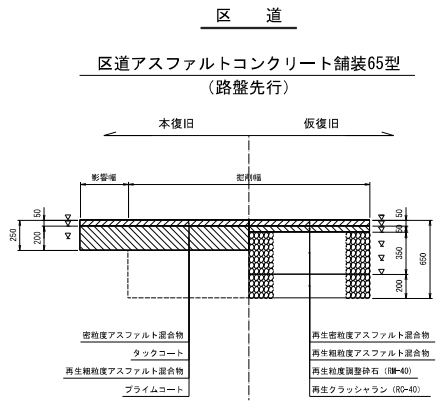
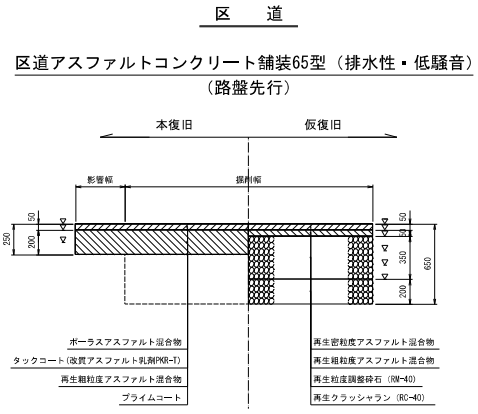
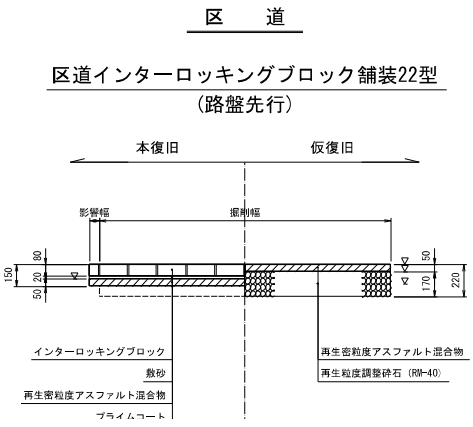
舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

名称	図
AS25-C 型(路盤先行)	区　道 区道アスファルトコンクリート舗装25-C型 (路盤先行) 
AS40 型(路盤先行)	区　道 区道アスファルトコンクリート舗装40型 (路盤先行) 
AS50 型(路盤先行)	区　道 区道アスファルトコンクリート舗装50型 (路盤先行) 

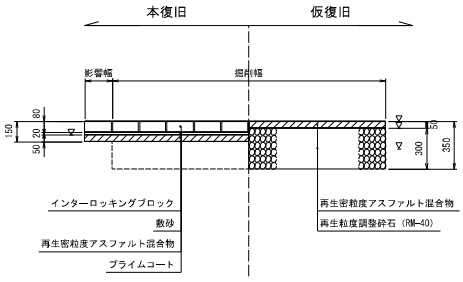
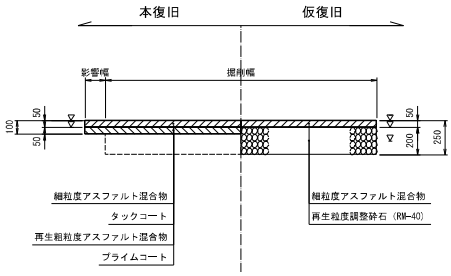
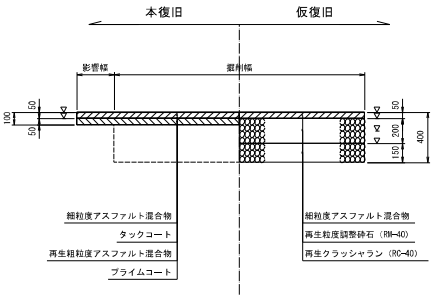
舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

名称	図
AS50 型(排水性・低騒音)(路盤先行)	
AS60 型(路盤先行)	
AS60 型(排水性・低騒音)(路盤先行)	

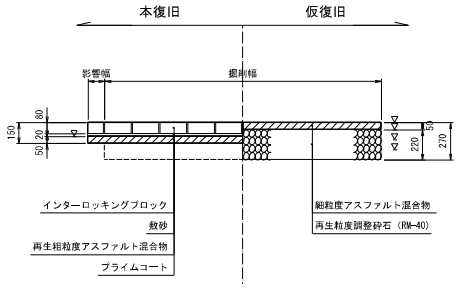
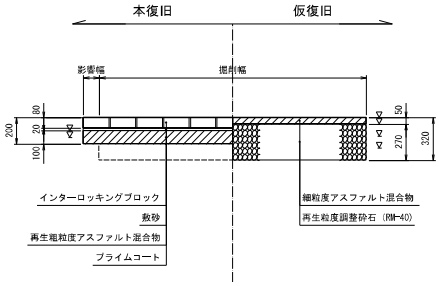
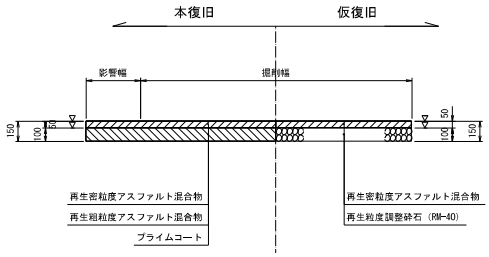
舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

名称	図
AS65 型(路盤先行)	
AS65 型(排水性・低騒音)(路盤先行)	
ILB22 型(路盤先行)	

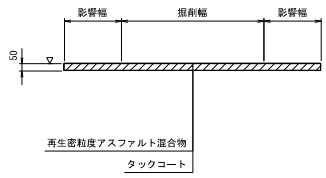
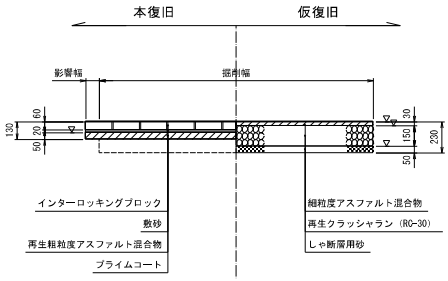
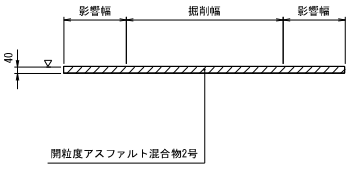
舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

名称	図
ILB35 型(路盤先行)	区　道 区道インターロッキングブロック舗装35型 (路盤先行) 
AS25 型(路盤先行)	区　道 区道歩道アスファルトコンクリート舗装25型 (路盤先行) 
AS40 型(路盤先行)	区　道 区道歩道アスファルトコンクリート舗装40型 (路盤先行) 

舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

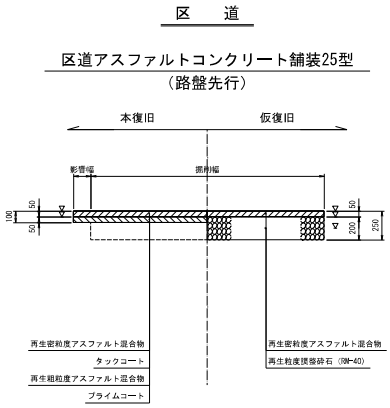
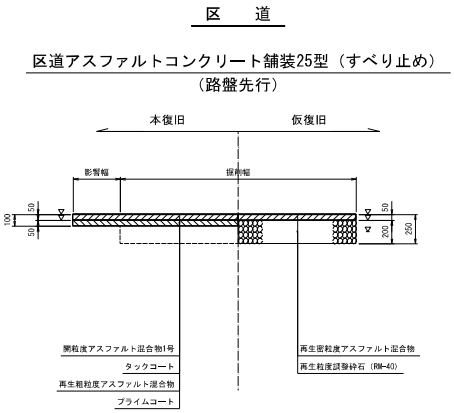
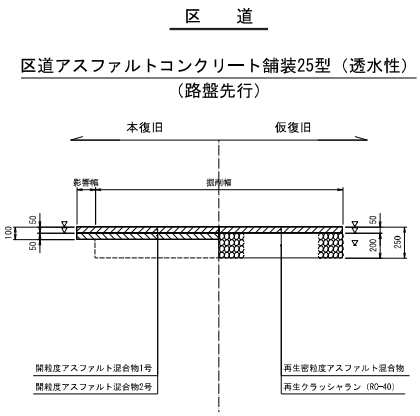
名称	図
ILB27 型(路盤先行)	区　道 区道歩道インターロッキングブロック舗装27型 (路盤先行) 
ILB32 型(路盤先行)	区　道 区道歩道インターロッキングブロック舗装32型 (路盤先行) 
AS15 型(路盤先行)	区　道 区道アスファルトコンクリート舗装15型 (路盤先行) 

舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

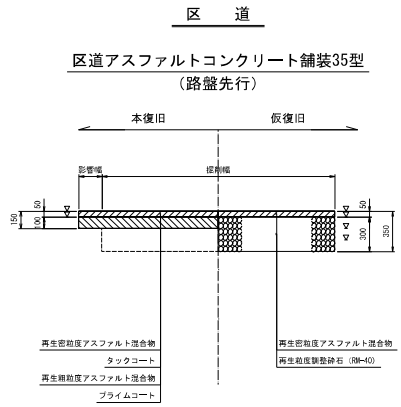
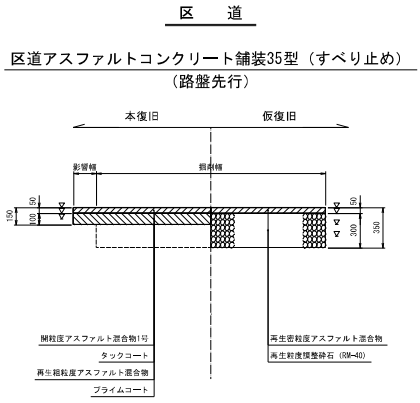
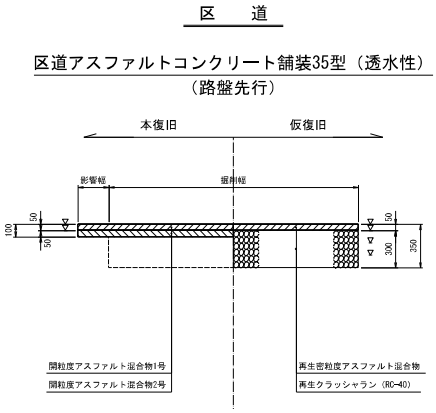
名称	図
AS5 型	区　道 区道アスファルトコンクリート舗装5型 
ILB23 型(路盤先行)	区　道 区道歩道インターロッキングブロック舗装23型(透水性) (路盤先行) 
AS4 型(透水性)	区　道 区道歩道アスファルトコンクリート舗装4型 (透水性) 

舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

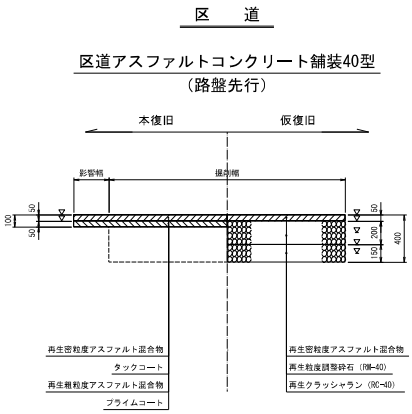
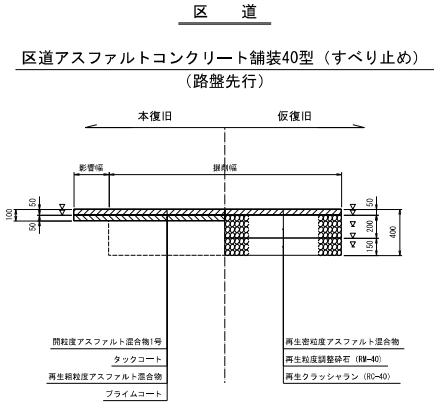
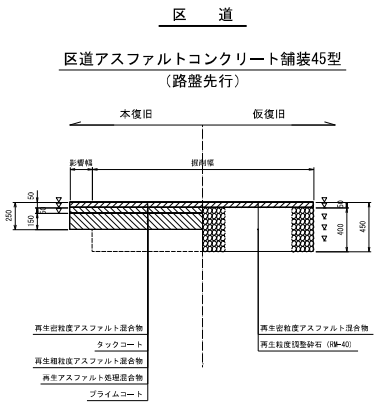
(3) 港区

名称	図
AS25 型(路盤先行)	
AS25 型(すべり止め)(路盤先行)	
AS25 型(透水性)(路盤先行)	

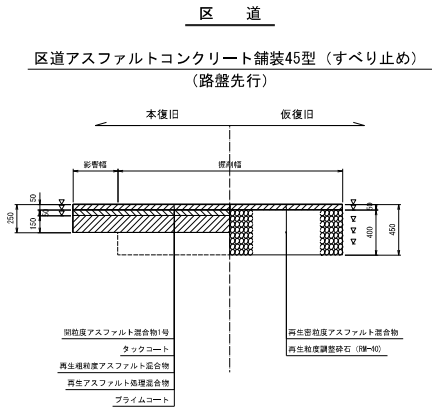
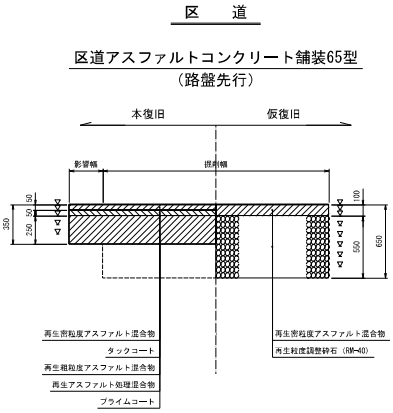
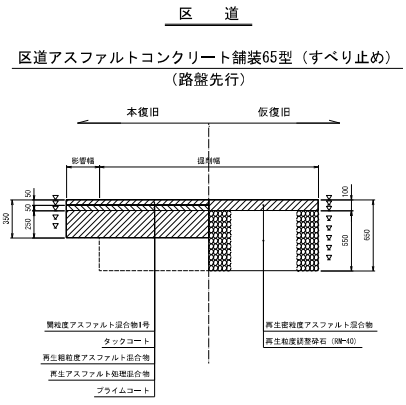
舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

名称	図
AS35 型(路盤先行)	
AS35 型(すべり止め)(路盤先行)	
AS35 型(透水性)(路盤先行)	

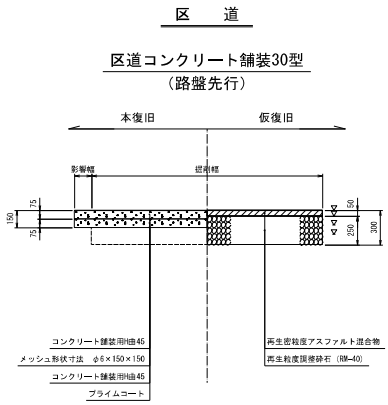
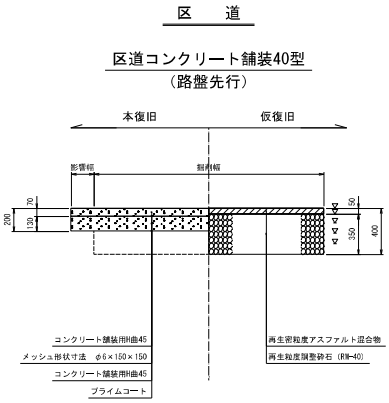
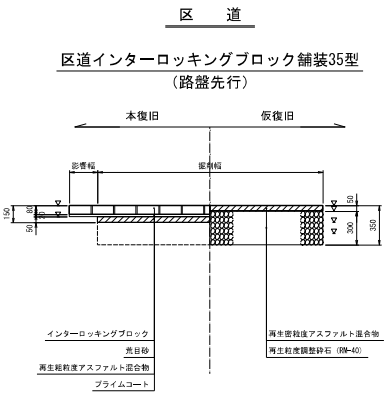
舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

名称	図
AS40 型(路盤先行)	
AS40 型(すべり止め)(路盤先行)	
AS45 型(路盤先行)	

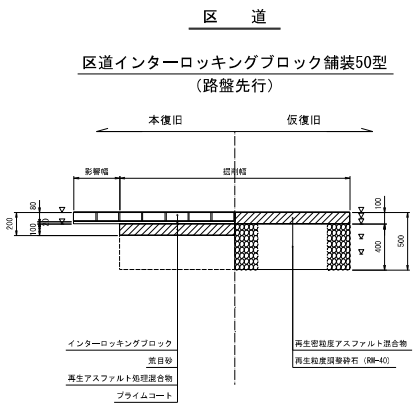
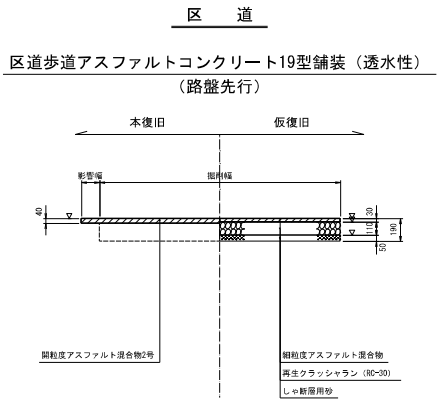
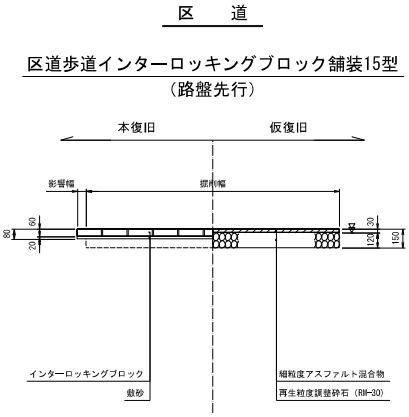
舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

名称	図
AS45 型(すべり止め)(路盤先行)	
AS65 型(路盤先行)	
AS65 型(すべり止め)(路盤先行)	

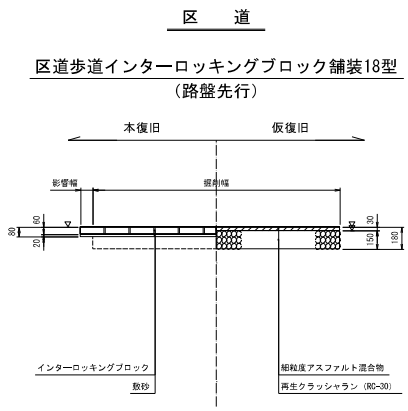
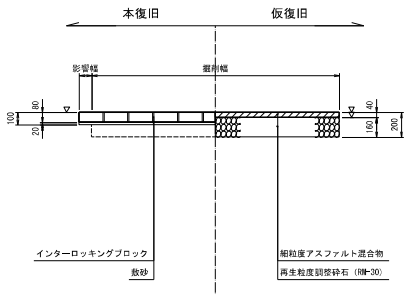
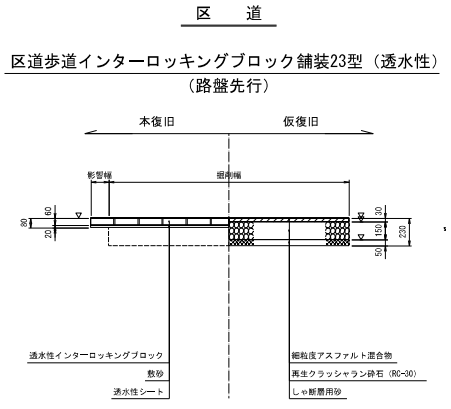
舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

名称	図
CO30 型(路盤先行)	
CO40 型(路盤先行)	
ILB35 型(路盤先行)	

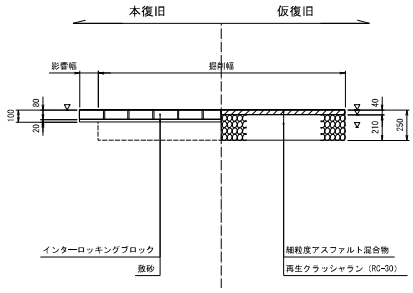
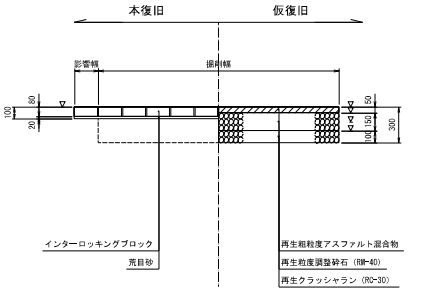
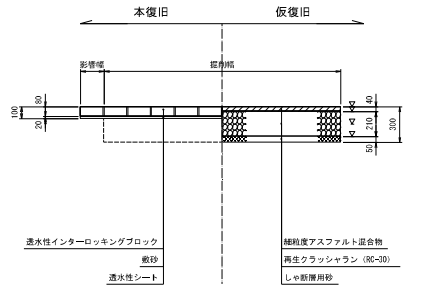
舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

名称	図
ILB50 型(路盤先行)	
AS19 型(透水性)(路盤先行)	
ILB15 型(路盤先行)	

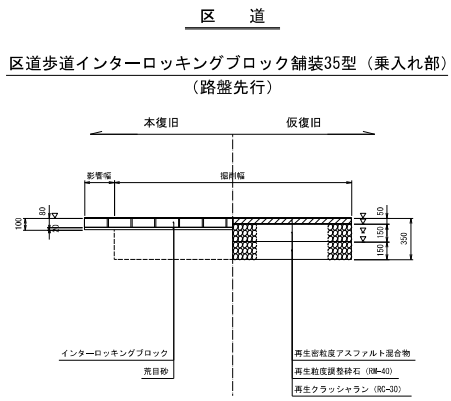
舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

名称	図
ILB18 型(路盤先行)	
ILB20 型(路盤先行)	
ILB23 型(透水性)(路盤先行)	

舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

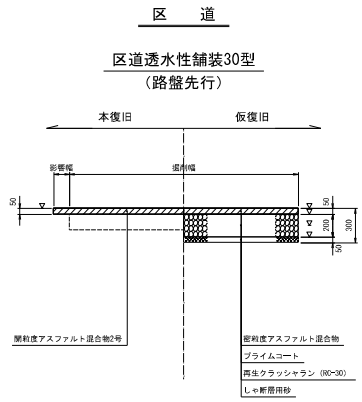
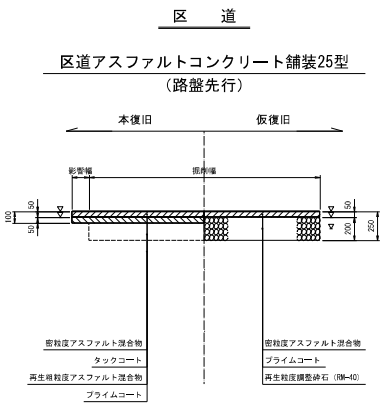
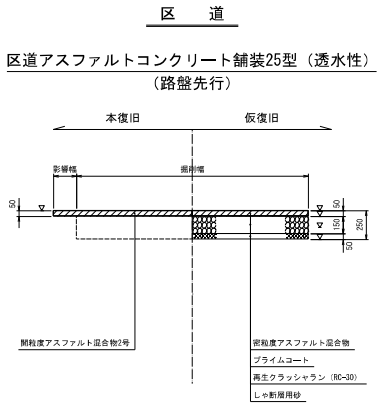
名称	図
ILB25 型(路盤先行)	区　道 区道歩道インターロッキングブロック舗装25型 （路盤先行） 
ILB30 型(車乗入部)(路盤先行)	区　道 区道歩道インターロッキングブロック30型舗装（乗入れ部） （路盤先行） 
ILB30 型(透水性)(路盤先行)	区　道 区道歩道インターロッキングブロック舗装30型（透水性） （路盤先行） 

舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

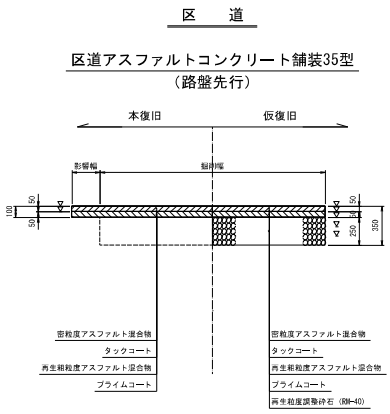
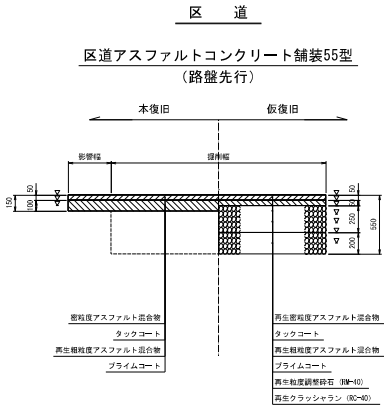
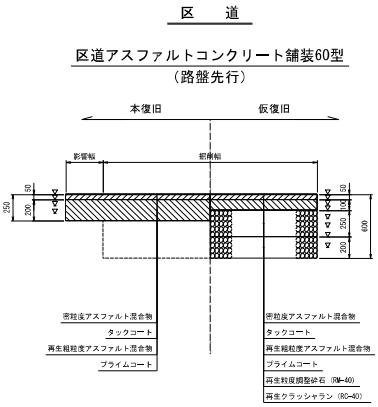
名称	図
ILB35 型(車乗入部)(路盤先行)	

舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

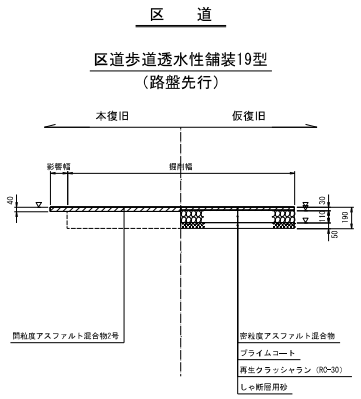
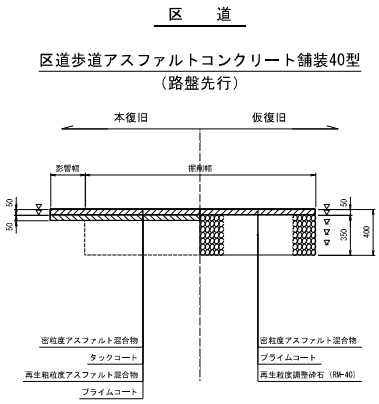
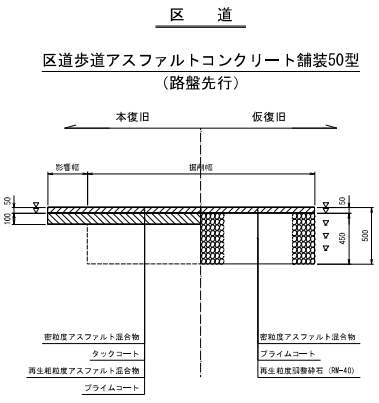
(4) 新宿区

名称	図
30 型(透水性)(路盤先行)	
AS25 型(路盤先行)	
AS25 型(透水性)(路盤先行)	

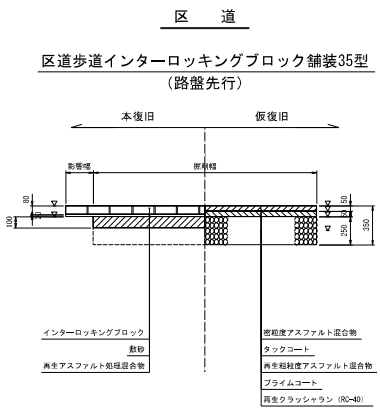
舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

名称	図
AS35 型(路盤先行)	
AS55 型(路盤先行)	
AS60 型(路盤先行)	

舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

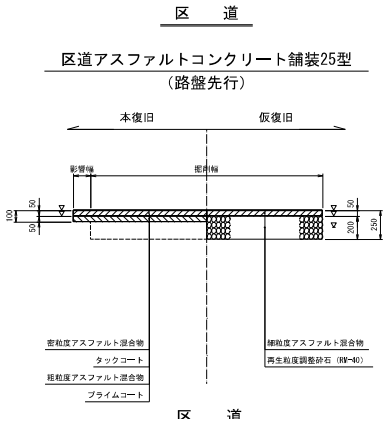
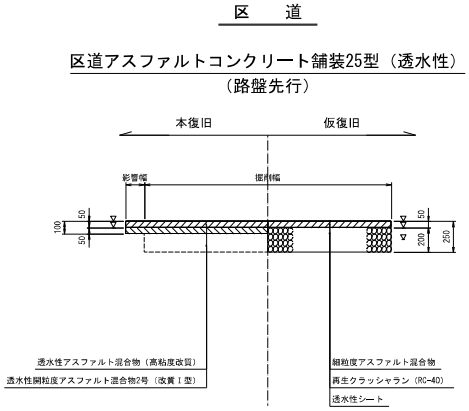
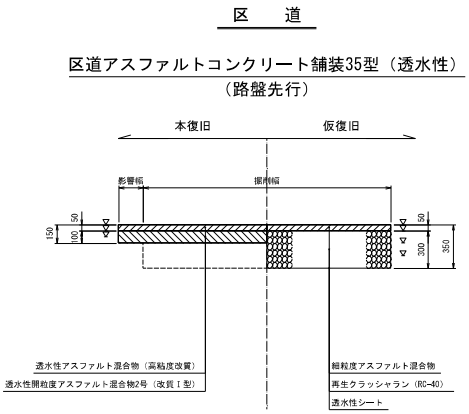
名称	図
19 型(透水性)(路盤先行)	
AS40 型(路盤先行)	
AS50 型(路盤先行)	

舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

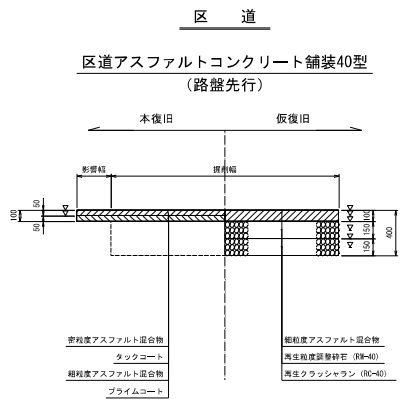
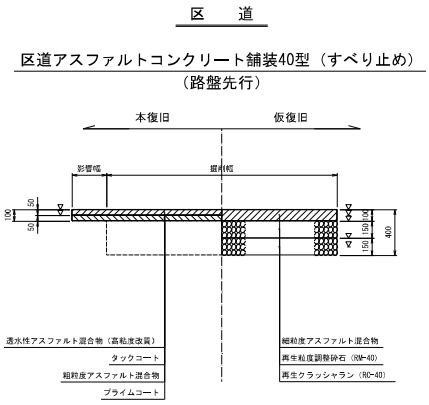
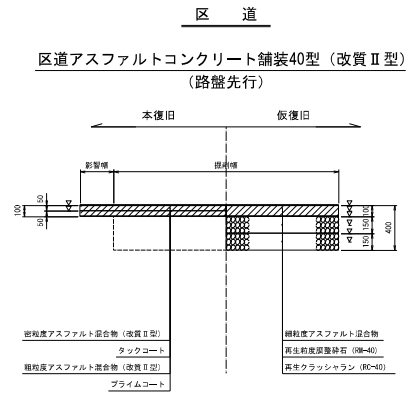
名称	図
ILB30 型(路盤先行)	

舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

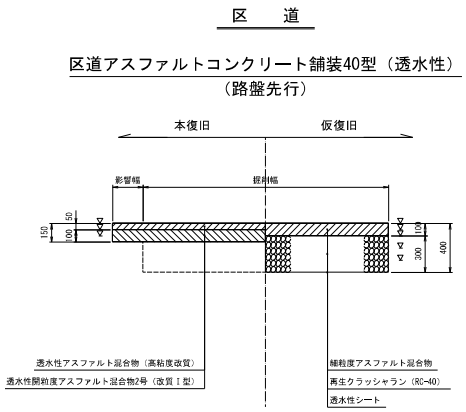
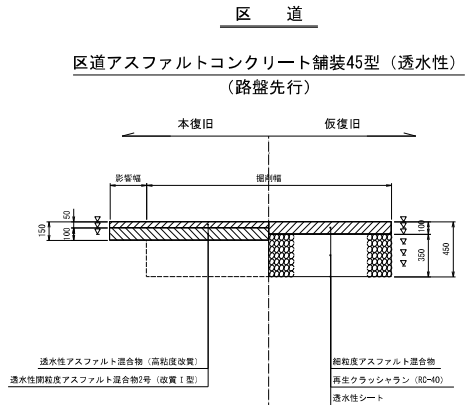
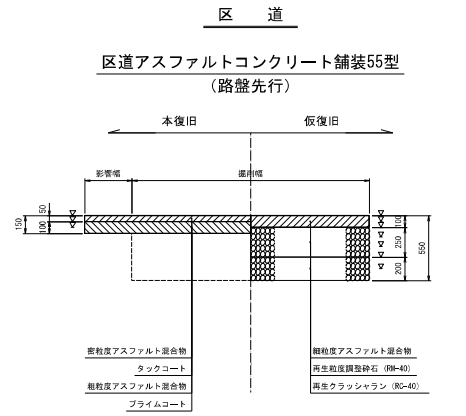
(5) 文京区

名称	図
AS25 型(路盤先行)	
AS25 型(透水性)(路盤先行)	
AS35 型(透水性)(路盤先行)	

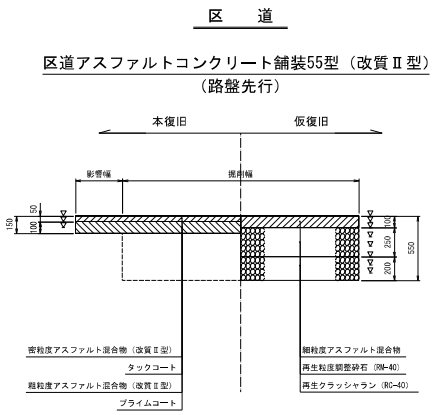
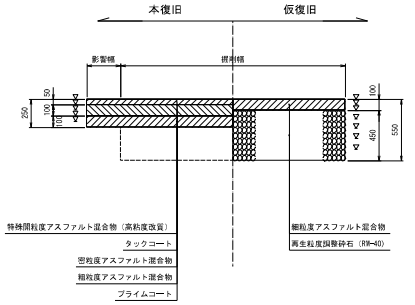
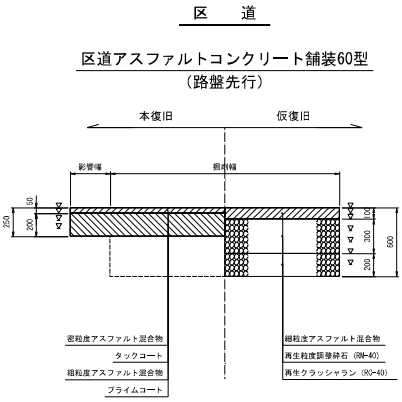
舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

名称	図
AS40 型(路盤先行)	
AS40 型(すべり止め)(路盤先行)	
AS40 型(改質Ⅱ型)(　路盤先行)	

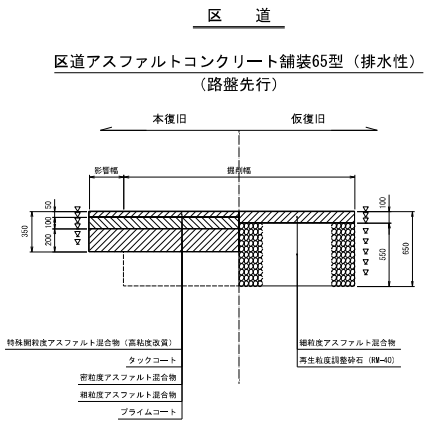
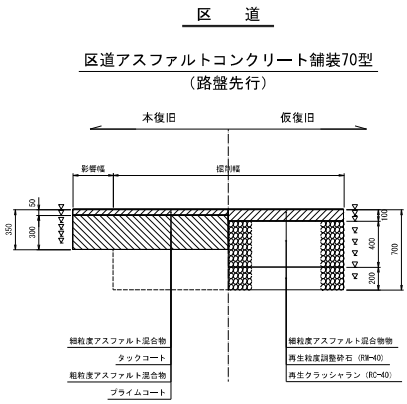
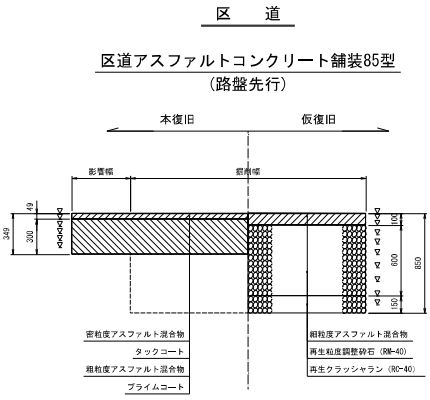
舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

名称	図
AS40 型(透水性)(路盤先行)	
AS45 型(透水性)(路盤先行)	
AS55 型(路盤先行)	

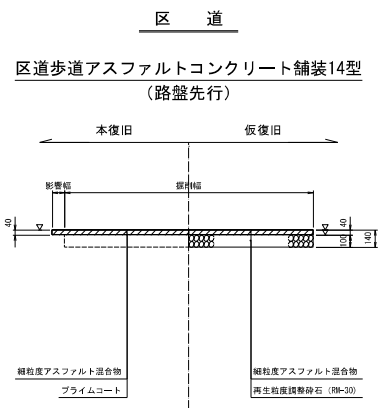
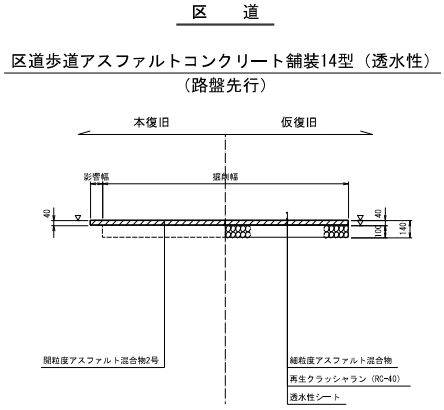
舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

名称	図
AS55 型(改質Ⅱ型)(路盤先行)	
AS55 型(排水性)(路盤先行)	
AS60 型(路盤先行)	

舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

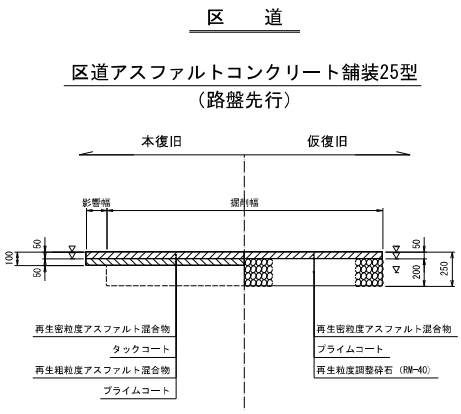
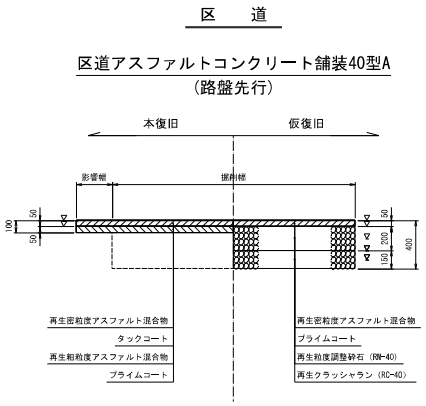
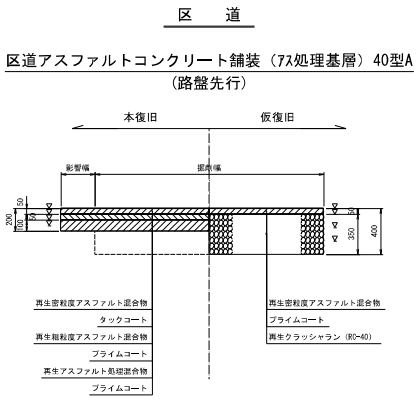
名称	図
AS65 型(排水性)(路盤先行)	
AS70 型(路盤先行)	
AS85 型(路盤先行)	

舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

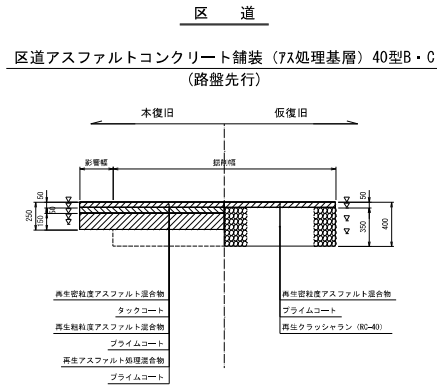
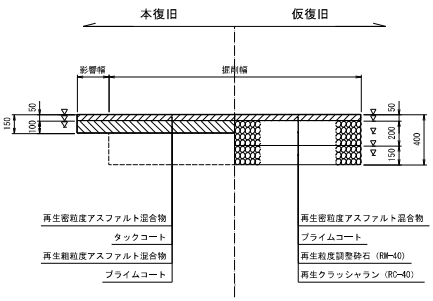
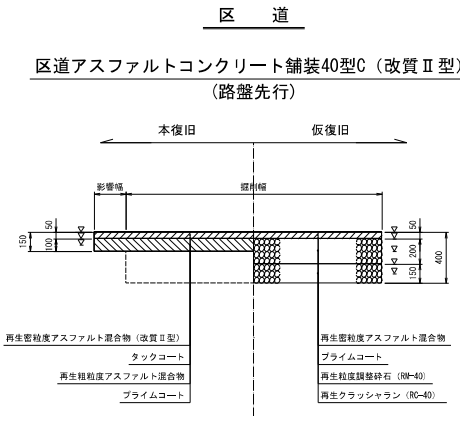
名称	図
AS14 型(路盤先行)	
AS14 型(透水性)(路盤先行)	

舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

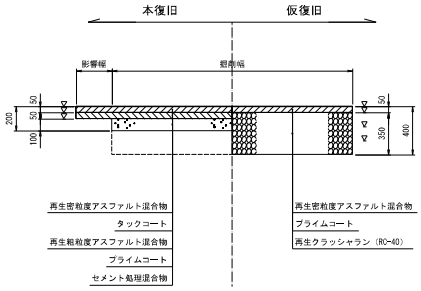
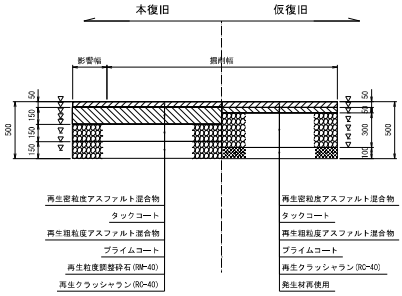
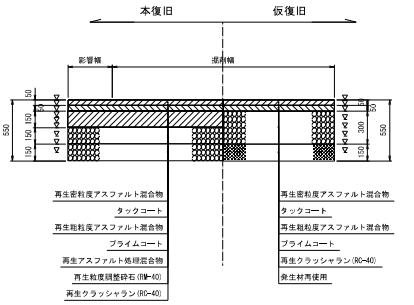
(6) 台東区

名称	図
AS25 型(路盤先行)	
AS40 型-A(路盤先行)	
AS40 型-A(アス処理基層)(路盤先行)	

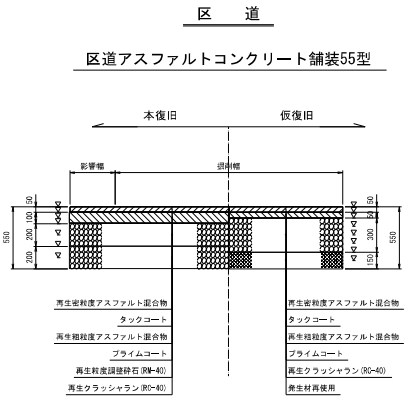
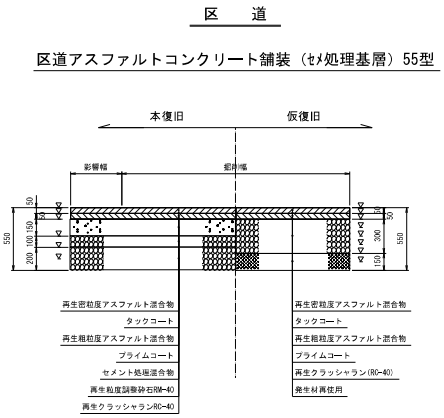
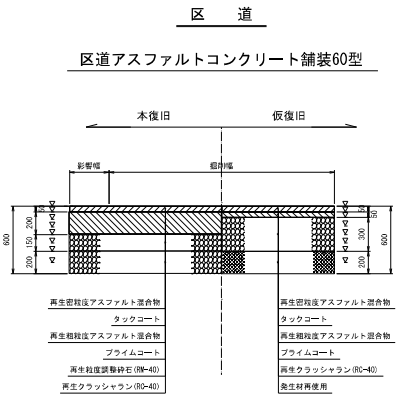
舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

名称	図
AS40 型-B･C(アス処理基層)(路盤先行)	
AS40 型-B(路盤先行)	
AS40 型-C(改質Ⅱ型)(路盤先行)	

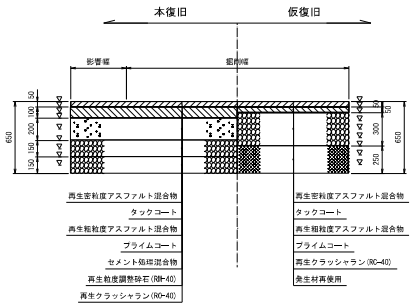
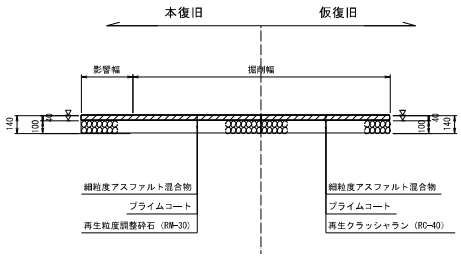
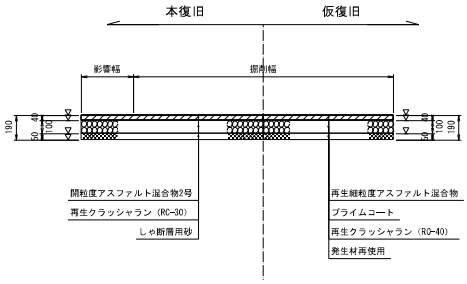
舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

名称	図
AS40 型(セメ処理基層)(路盤先行)	区　道 区道アスファルトコンクリート舗装（ｾﾒ処理基層）40型 （路盤先行） 
AS50 型	区　道 区道アスファルトコンクリート舗装50型 
AS55 型-A･B(アス処理基層)	区　道 区道アスファルトコンクリート舗装（ｱｽ処理基層）55型A・B 

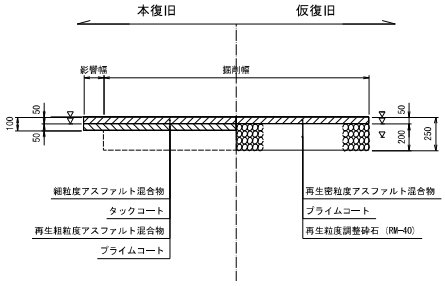
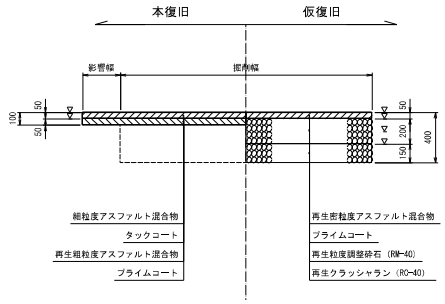
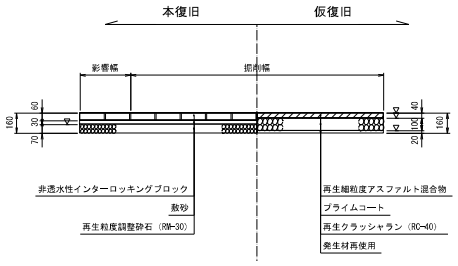
舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

名称	図
AS55 型	
AS55 型(セメ処理基層)	
AS60 型	

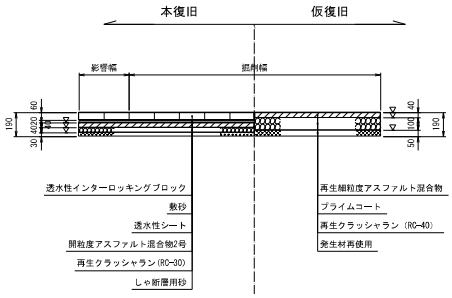
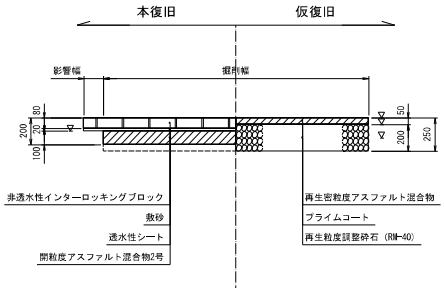
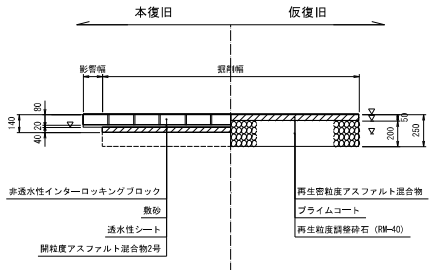
舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

名称	図
AS65 型(セメ処理基層)	区　道 区道アスファルトコンクリート舗装（セメ処理基層）65型 
AS14 型(非透水性)	区　道 区道歩道アスファルトコンクリート舗装14型（非透水性） 
AS19 型(透水性)	区　道 区道歩道アスファルトコンクリート舗装19型（透水性） 

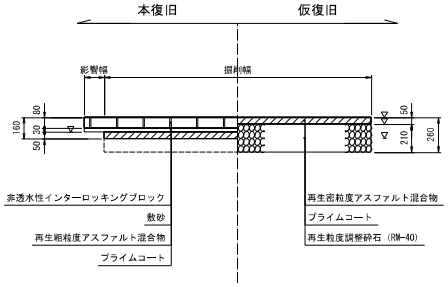
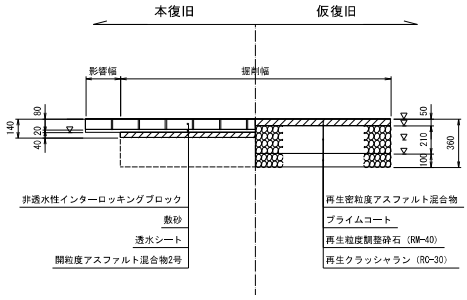
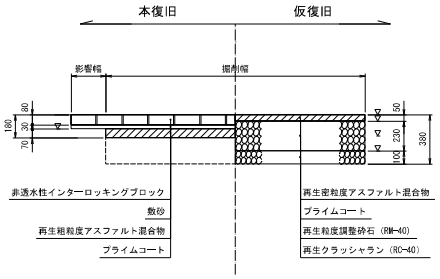
舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

名称	図
AS25 型(車乗入部)(路盤先行)	区　道 区道歩道アスファルトコンクリート舗装25型(乗入れ部) (路盤先行) 
AS40 型(車乗入部)(路盤先行)	区　道 区道歩道アスファルトコンクリート舗装40型(乗入れ部) (路盤先行) 
ILB16 型(非透水性)	区　道 区道歩道インターロッキングブロック舗装16型（非透水性） 

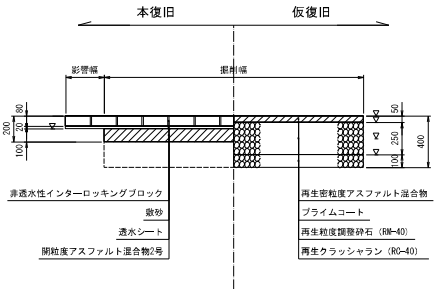
舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

名称	図
ILB19 型(透水性)	区　道 区道歩道インターロッキングブロック舗装19型(透水性) 
ILB25 型-①(車乗入部)(路盤先行)	区　道 区道歩道インターロッキングブロック舗装25型①(乗入れ部) (路盤先行) 
ILB25 型-②(車乗入部)(路盤先行)	区　道 区道歩道インターロッキングブロック舗装25型②(乗入れ部) (路盤先行) 

舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

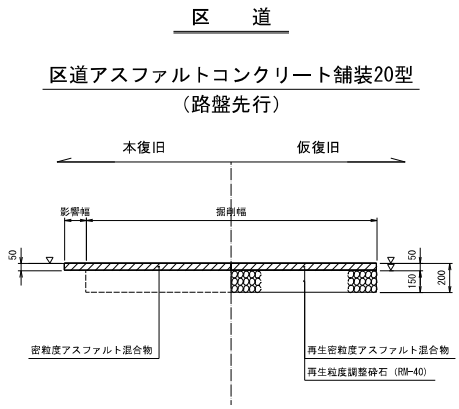
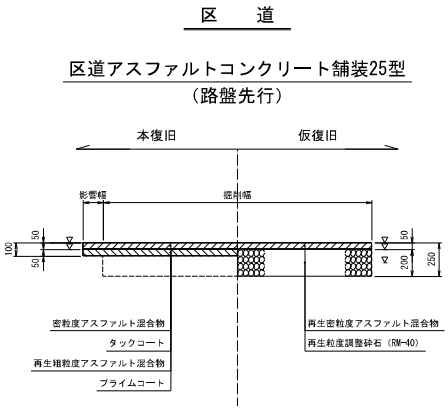
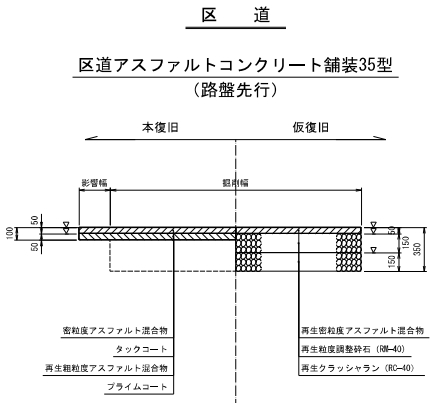
名称	図
ILB26 型(車乗入部)(路盤先行)	区　　道 区道歩道インターロッキングブロック舗装26型(乗入れ部) (路盤先行) 
ILB36 型(車乗入部)(路盤先行)	区　　道 区道歩道インターロッキングブロック舗装36型(乗入れ部) (路盤先行) 
ILB38 型(車乗入部)(路盤先行)	区　　道 区道歩道インターロッキングブロック舗装38型(乗入れ部) (路盤先行) 

舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

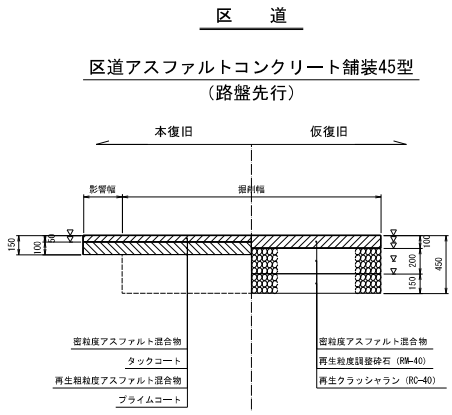
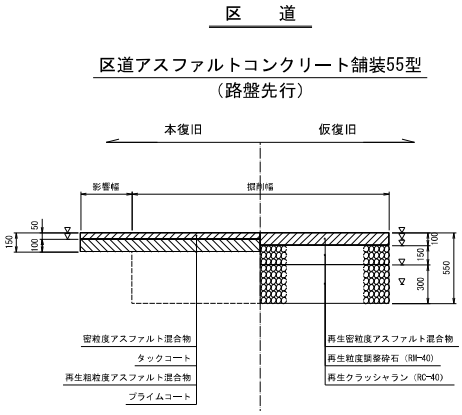
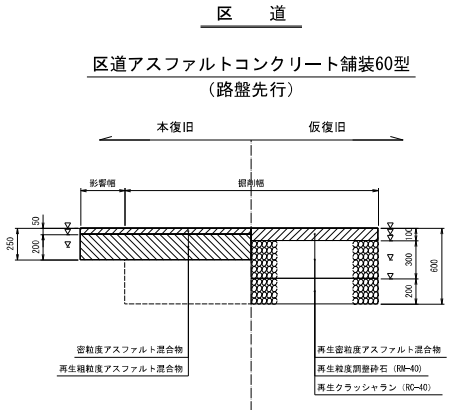
名称	図
ILB40 型(車乗入部)(路盤先行)	区　道 区道歩道インターロッキングブロック舗装40型(乗入れ部) (路盤先行) 

舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

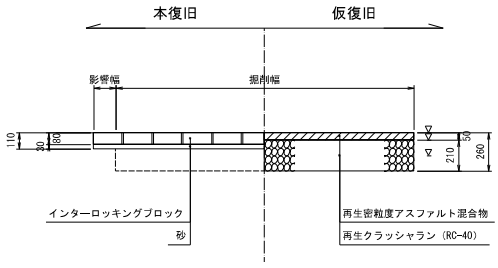
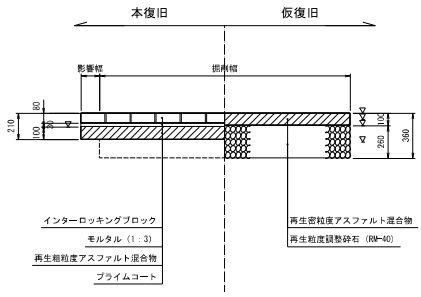
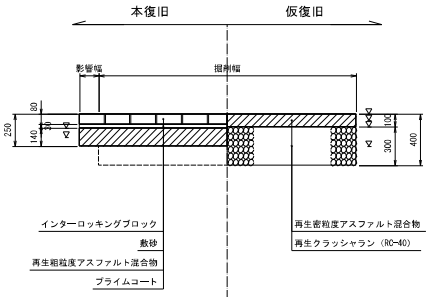
(7) 墨田区

名称	図
AS20 型(路盤先行)	
AS25 型(路盤先行)	
AS35 型(路盤先行)	

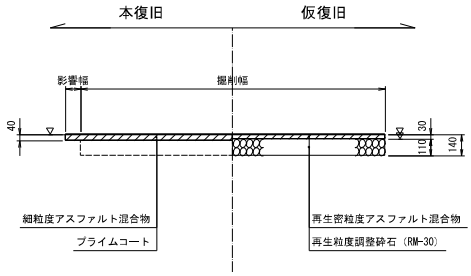
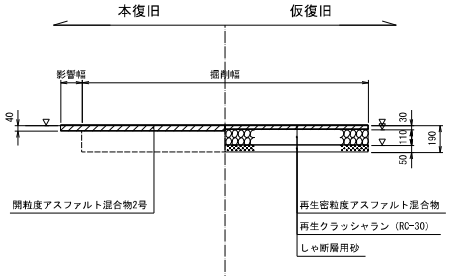
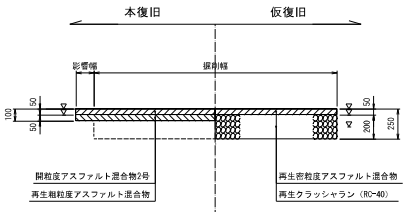
舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

名称	図
AS45 型(路盤先行)	
AS55 型(路盤先行)	
AS60 型(路盤先行)	

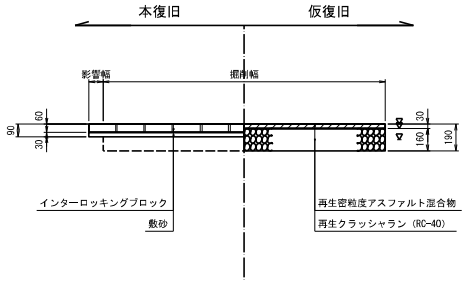
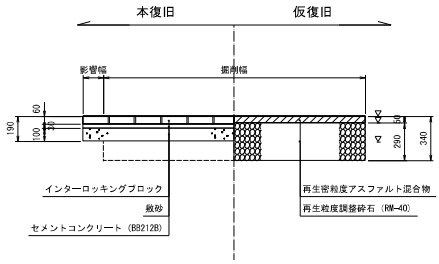
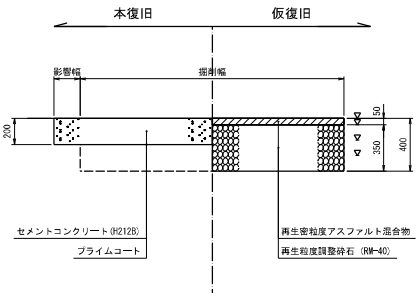
舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

名称	図
ILB26 型(路盤先行)	区　道 区道インターロッキングブロック舗装26型 （路盤先行） 
ILB36 型(路盤先行)	区　道 区道インターロッキングブロック舗装36型 （路盤先行） 
ILB40 型(路盤先行)	区　道 区道インターロッキングブロック舗装40型 （路盤先行） 

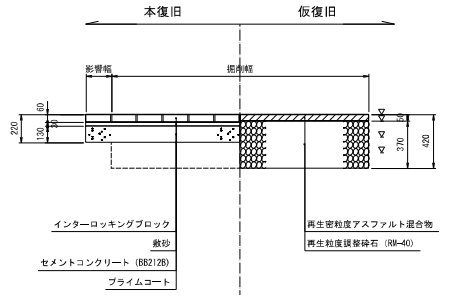
舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

名称	図
AS14 型(路盤先行)	区　道 区道歩道アスファルトコンクリート舗装14型 （路盤先行） 
AS19 型(透水性)(路盤先行)	区　道 区道歩道アスファルトコンクリート舗装19型（透水性） （路盤先行） 
AS25 型(透水性)(車乗入部)(路盤先行)	区　道 区道歩道アスファルトコンクリート舗装25型(透水性)（乗入れ部） （路盤先行） 

舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

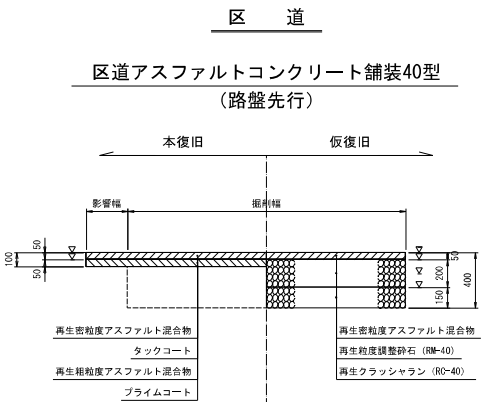
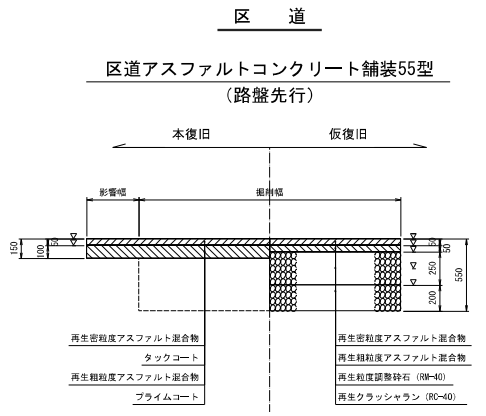
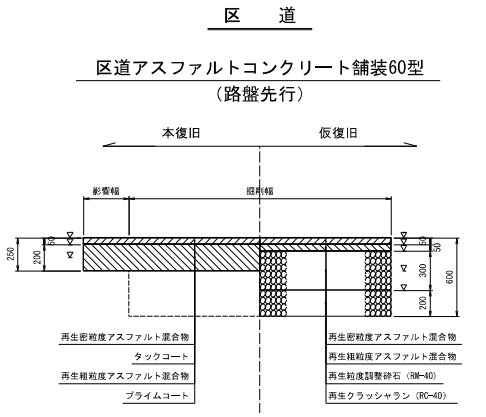
名称	図
ILB19 型(路盤先行)	区　道 区道歩道インターロッキングブロック舗装19型 (路盤先行) 
ILB34 型(車乗入部)(路盤先行)	区　道 区道歩道インターロッキングブロック舗装34型（乗入れ部） (路盤先行) 
CO40 型(車乗入部)(路盤先行)	区　道 区道歩道セメントコンクリート舗装40型（乗入れ部） (路盤先行) 

舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

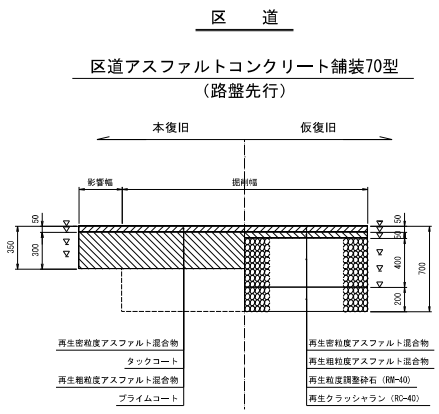
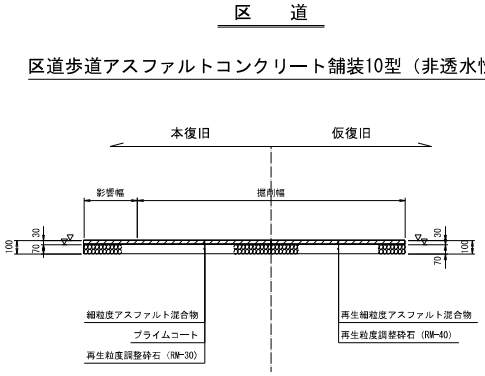
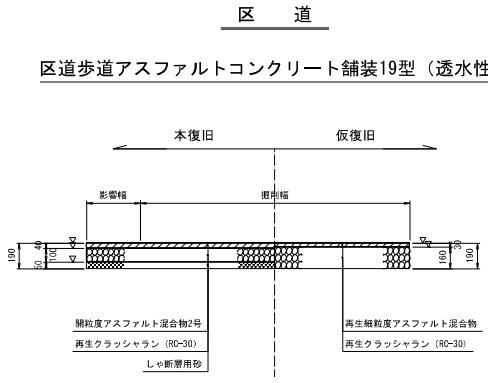
名称	図
ILB42 型(車乗入部)(路盤先行)	区　道 区道歩道インターロッキングブロック舗装42型（乗入れ部） （路盤先行） 

舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

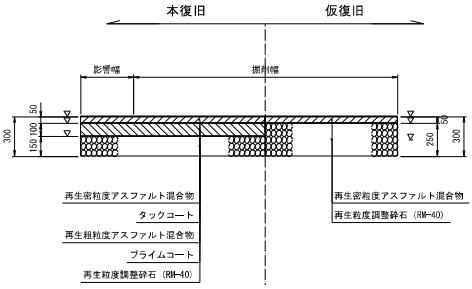
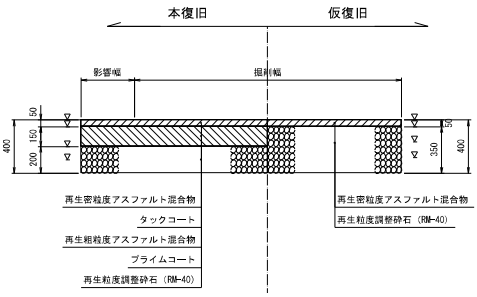
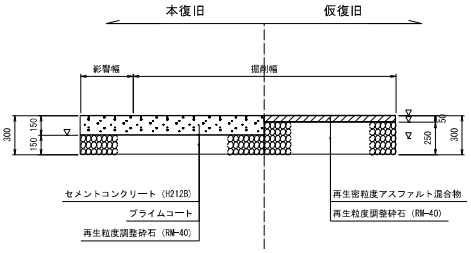
(8) 江東区

名称	図
AS40 型(路盤先行)	
AS55 型(路盤先行)	
AS60 型(路盤先行)	

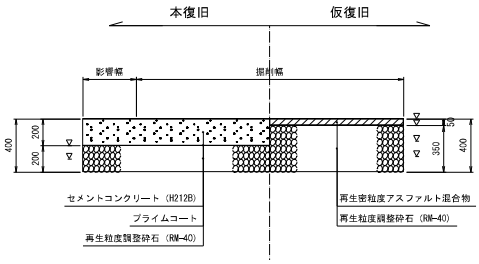
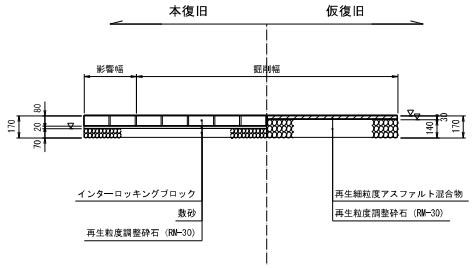
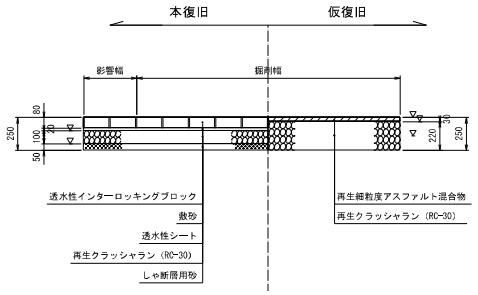
舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

名称	図
AS70 型(路盤先行)	
AS10 型(非透水性)	
AS19 型(透水性)	

舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

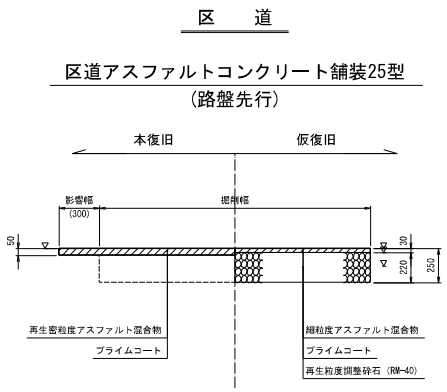
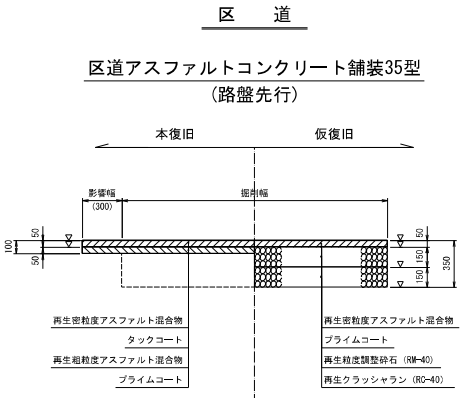
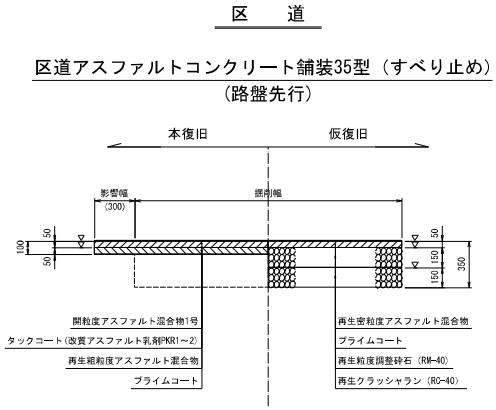
名称	図
AS30 型(車乗入部)	区　道 区道歩道アスファルトコンクリート舗装30型(乗入れ部) 
AS40 型(車乗入部)	区　道 区道歩道アスファルトコンクリート舗装40型(乗入れ部) 
CO30 型(車乗入部)	区　道 区道歩道セメントコンクリート舗装30型(乗入れ部) 

舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

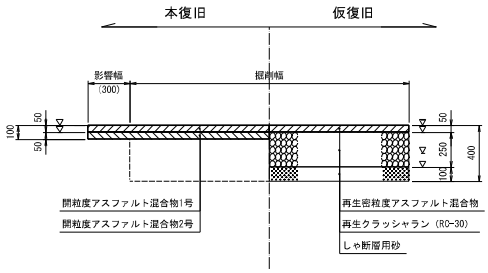
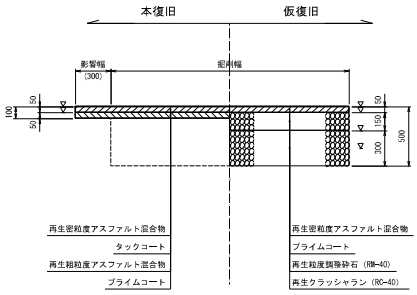
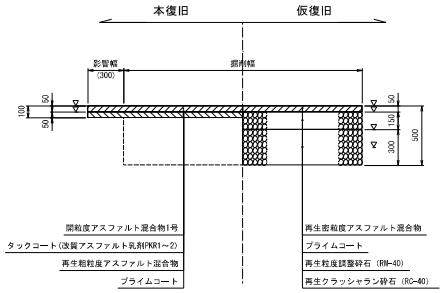
名称	図
CO40 型(車乗入部)	区　道 区道歩道セメントコンクリート舗装40型(乗入れ部) 
ILB17 型(非透水性)	区　道 区道歩道インターロッキングブロック舗装17型（非透水性） 
ILB25 型(透水性)	区　道 区道歩道インターロッキングブロック舗装25型（透水性） 

舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

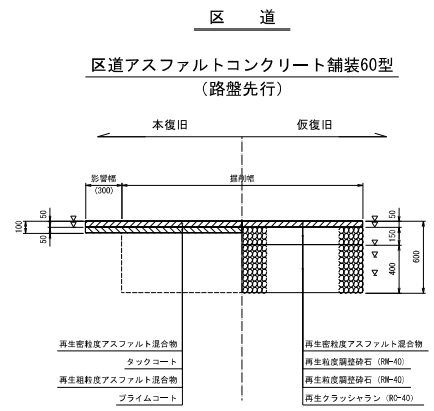
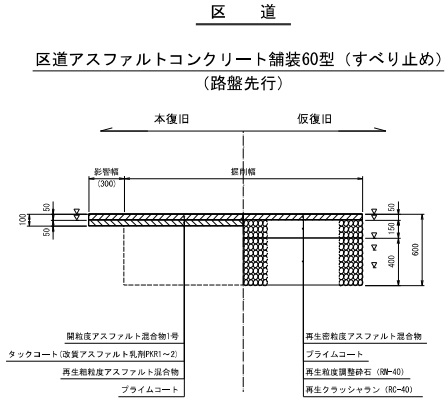
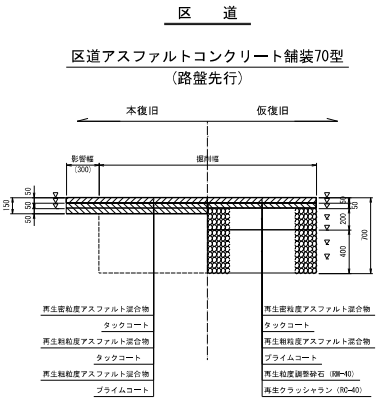
(9) 品川区

名称	図
AS25 型(路盤先行)	
AS35 型(路盤先行)	
AS35 型(すべり止め)(路盤先行)	

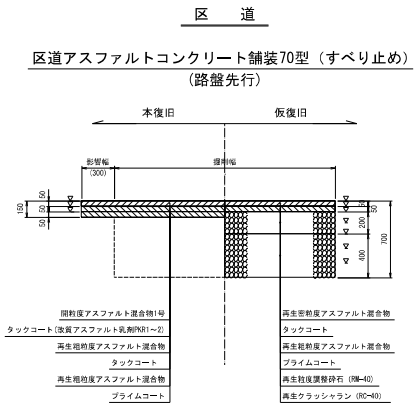
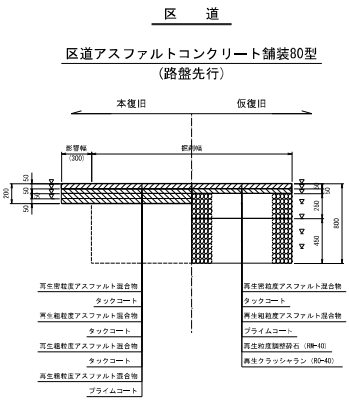
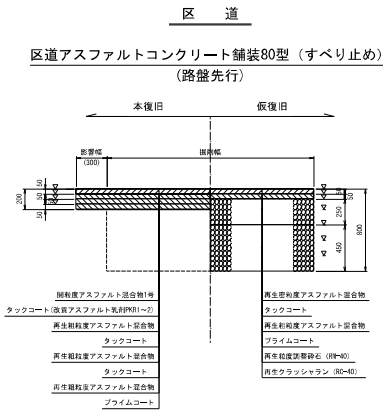
舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

名称	図
AS40 型(透水性)(路盤先行)	区　道 区道アスファルトコンクリート舗装40型（透水性） （路盤先行） 
AS50 型(路盤先行)	区　道 区道アスファルトコンクリート舗装50型 （路盤先行） 
AS50 型(すべり止め)(　路盤先行)	区　道 区道アスファルトコンクリート舗装50型（すべり止め） （路盤先行） 

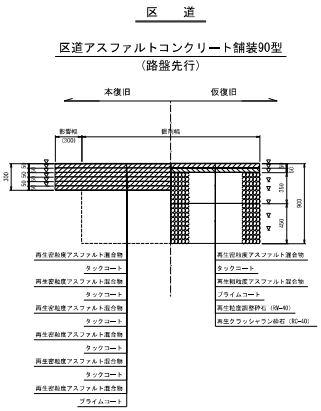
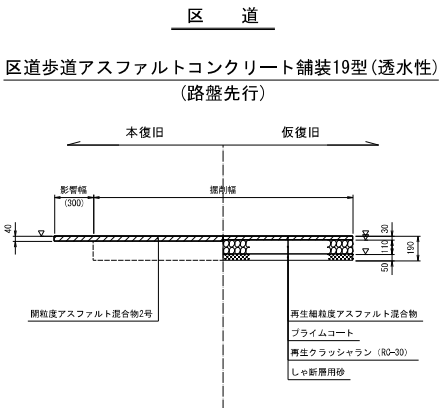
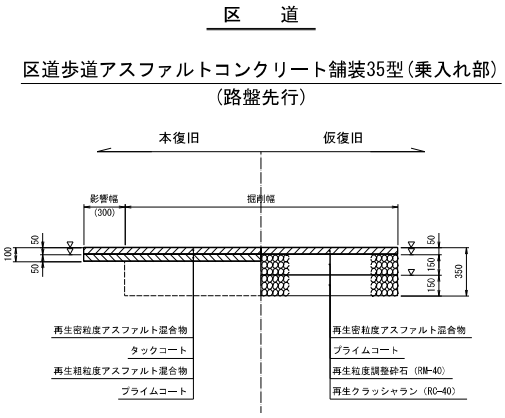
舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

名称	図
AS60 型(路盤先行)	
AS60 型(すべり止め)(路盤先行)	
AS70 型(路盤先行)	

舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

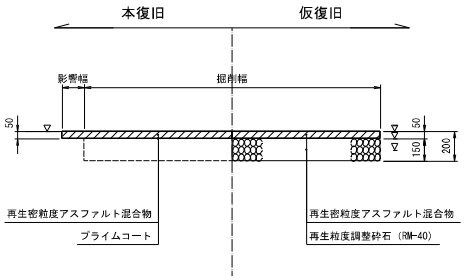
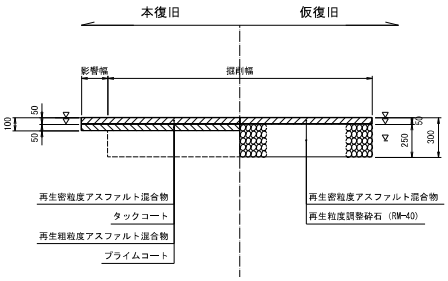
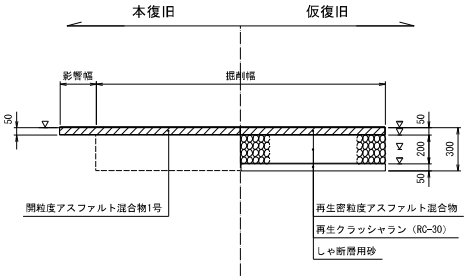
名称	図
AS70 型(すべり止め)(路盤先行)	
AS80 型(路盤先行)	
AS80 型(すべり止め)(路盤先行)	

舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

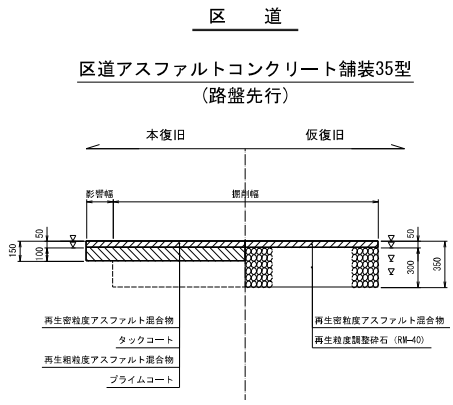
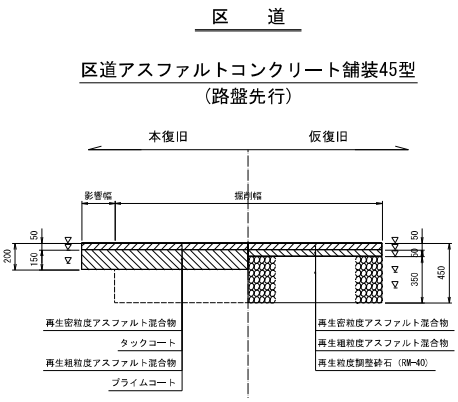
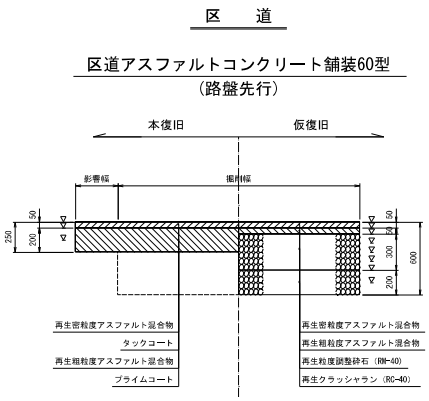
名称	図
AS90 型(路盤先行)	
AS19 型(透水性)(路盤先行)	
AS35 型(車乗入部)(路盤先行)	

舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

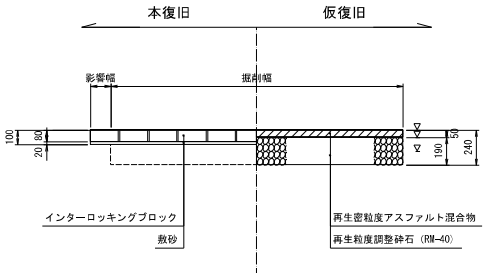
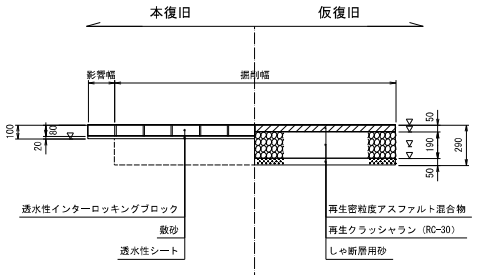
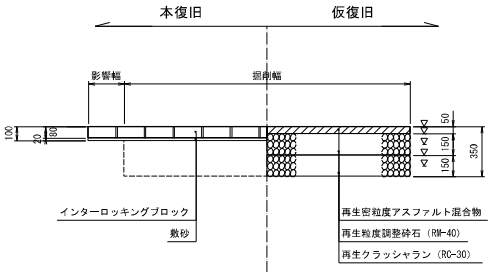
(10) 目黒区

名称	図
AS20 型(路盤先行)	区　道 区道アスファルトコンクリート舗装20型 （路盤先行） 
AS30 型(路盤先行)	区　道 区道アスファルトコンクリート舗装30型 （路盤先行） 
AS30 型(透水性)(路盤先行)	区　道 区道アスファルトコンクリート舗装30型（透水性） （路盤先行） 

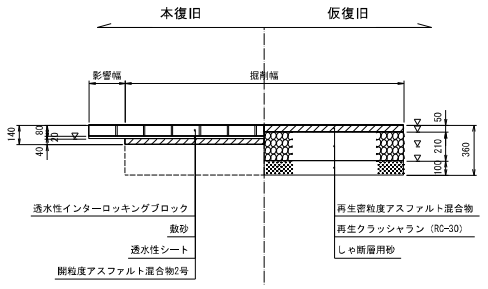
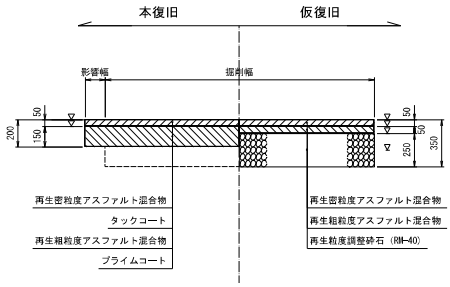
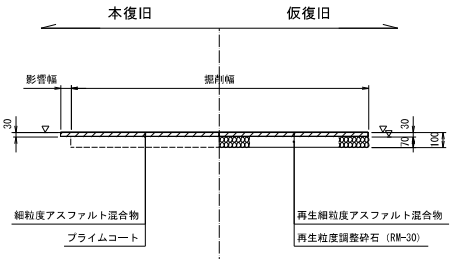
舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

名称	図
AS35 型(路盤先行)	
AS45 型(路盤先行)	
AS60 型(路盤先行)	

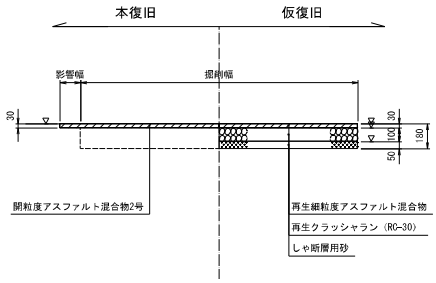
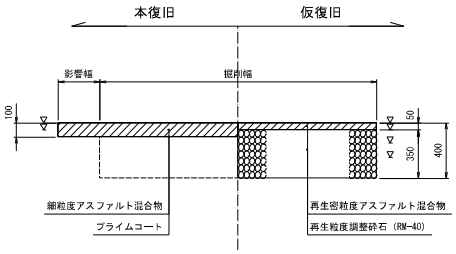
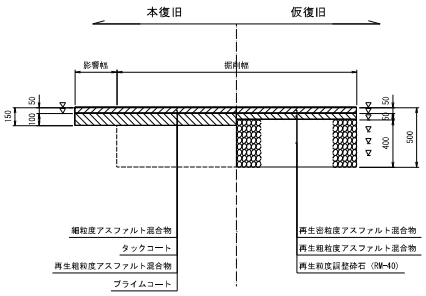
舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

名称	図
ILB24 型(路盤先行)	区　道 区道インターロッキングブロック舗装24型 （路盤先行） 
ILB29 型(透水性)(路盤先行)	区　道 区道インターロッキングブロック舗装29型（透水性） （路盤先行） 
ILB35 型(路盤先行)	区　道 区道インターロッキングブロック舗装35型 （路盤先行） 

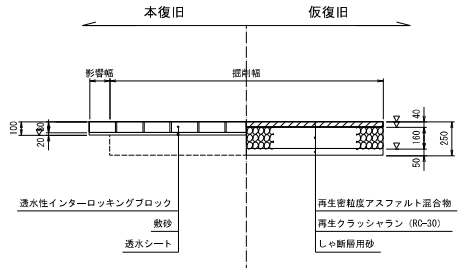
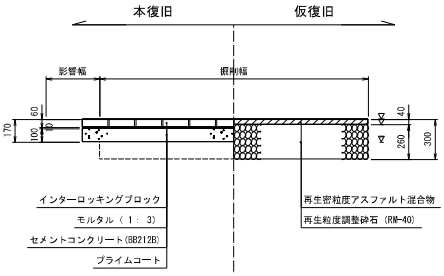
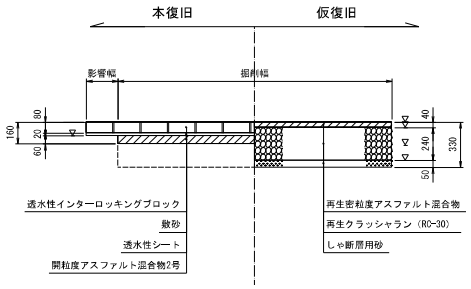
舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

名称	図
ILB36 型(透水性)(路盤先行)	区　道 区道インターロッキングブロック舗装36型（透水性） （路盤先行） 
AS35 型(街路)(路盤先行)	区　道 区道アスファルトコンクリート舗装35型 （街路）(路盤先行) 
AS10 型(路盤先行)	区　道 区道歩道アスファルトコンクリート舗装10型 （路盤先行） 

舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

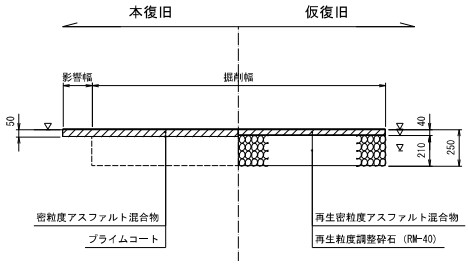
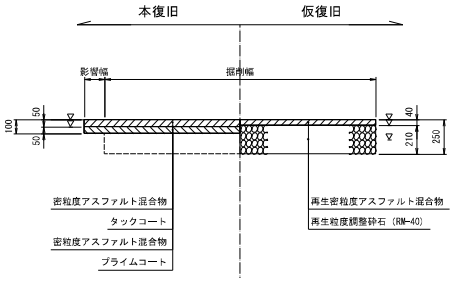
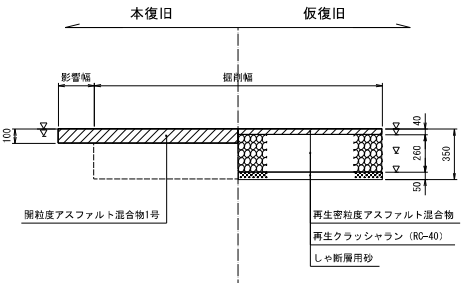
名称	図
AS18 型(透水性)(路盤先行)	区　道 区道歩道アスファルトコンクリート舗装18型（透水性） （路盤先行） 
AS40 型(車乗入部)(路盤先行)	区　道 区道歩道アスファルトコンクリート舗装40型(乗入れ部) （路盤先行） 
AS50 型(車乗入部)(路盤先行)	区　道 区道歩道アスファルトコンクリート舗装50型（乗入れ部） （路盤先行） 

舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

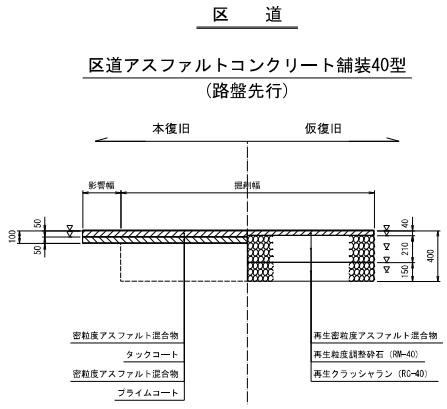
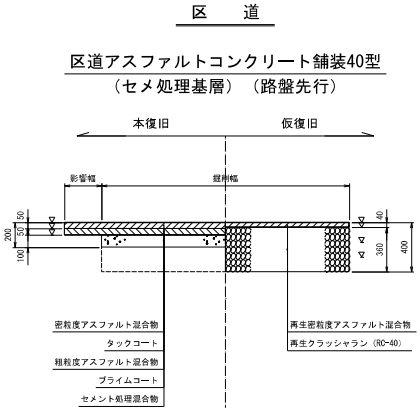
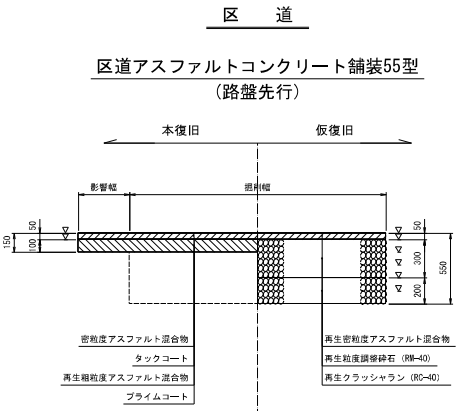
名称	図
ILB25 型(透水性)(路盤先行)	区　道 区道歩道インターロッキングブロック舗装25型（透水性） （路盤先行） 
ILB30 型(路盤先行)	区　道 区道歩道インターロッキングブロック舗装30型 （路盤先行） 
ILB33 型(透水性)(路盤先行)	区　道 区道歩道インターロッキングブロック舗装33型（透水性） （路盤先行） 

舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

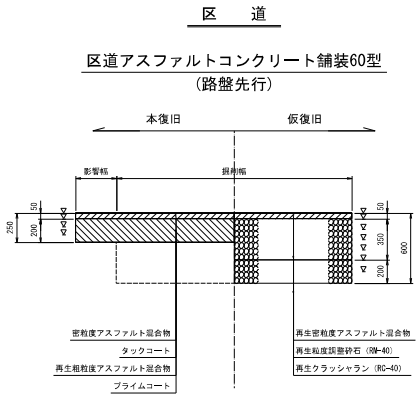
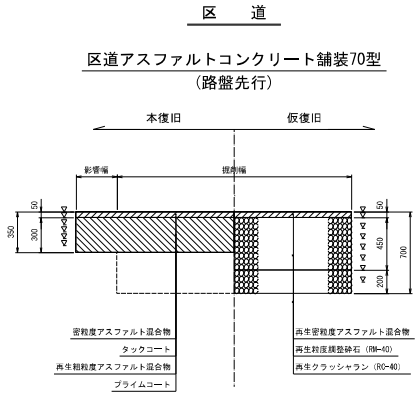
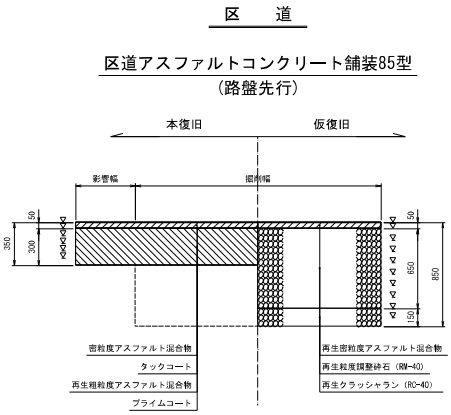
(11)大田区

名称	図
AS25 型-Ⅰ(路盤先行)	区　道 区道アスファルトコンクリート舗装25型（Ⅰ） （路盤先行） 
AS25 型-Ⅱ(路盤先行)	区　道 区道アスファルトコンクリート舗装25型（Ⅱ） （路盤先行） 
AS35 型(透水性)(路盤先行)	区　道 区道アスファルトコンクリート舗装35型（透水性） （路盤先行） 

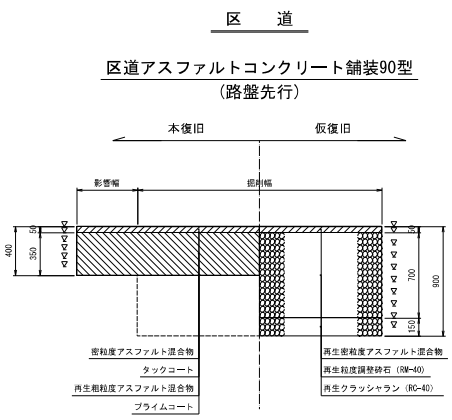
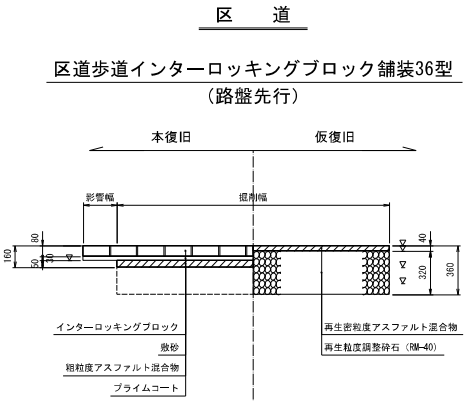
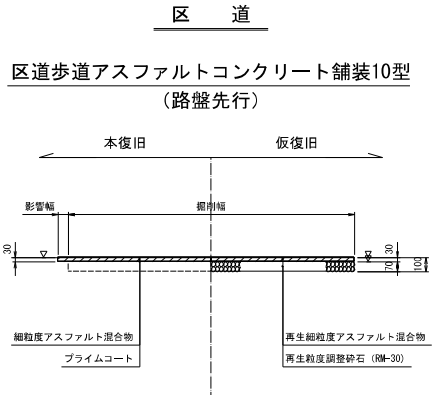
舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

名称	図
AS40 型(路盤先行)	
AS40 型(セメ処理基層)(路盤先行)	
AS55 型(路盤先行)	

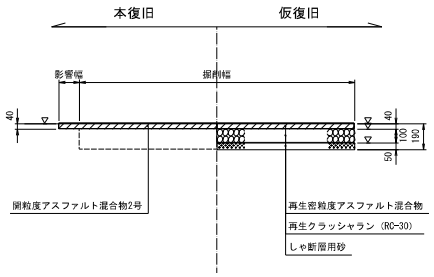
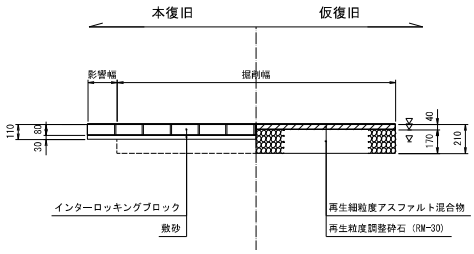
舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

名称	図
AS60 型(路盤先行)	
AS70 型(路盤先行)	
AS85 型(路盤先行)	

舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

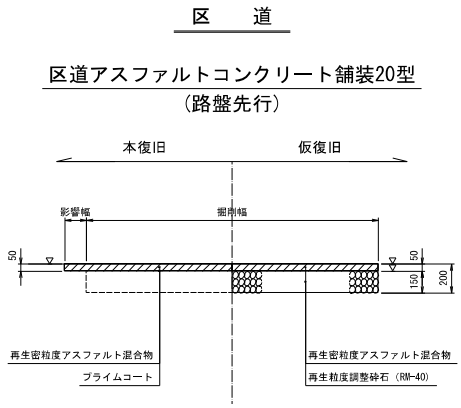
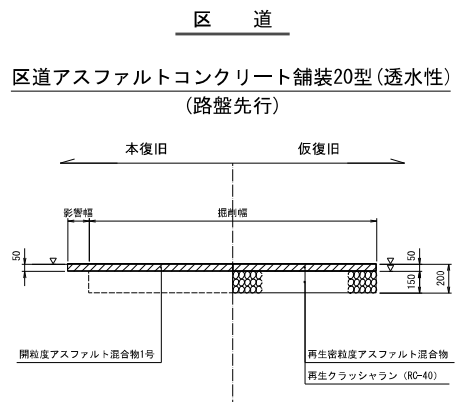
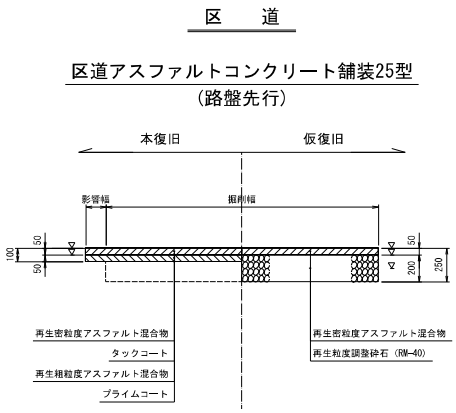
名称	図
AS90 型(路盤先行)	
ILB36 型	
AS10 型(路盤先行)	

舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

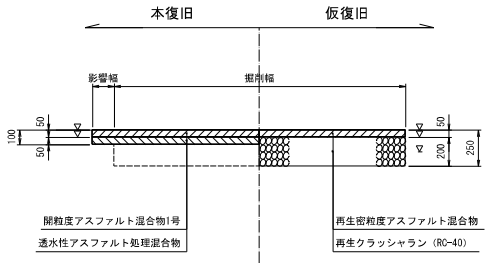
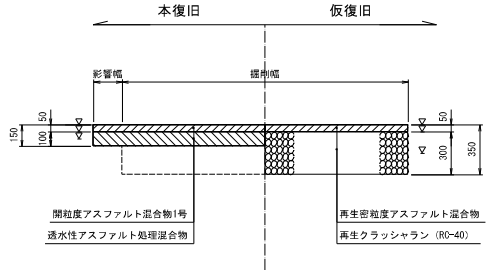
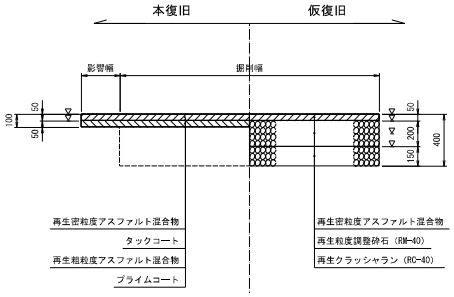
名称	図
AS19 型(透水性)(路盤先行)	区　道 区道歩道アスファルトコンクリート舗装19型(透水性) (路盤先行) 
ILB21 型(路盤先行)	区　道 区道歩道インターロッキングブロック舗装21型 (路盤先行) 

舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

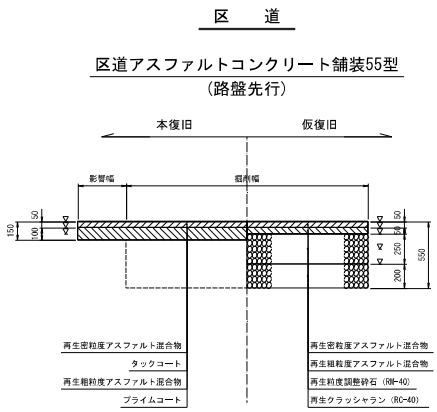
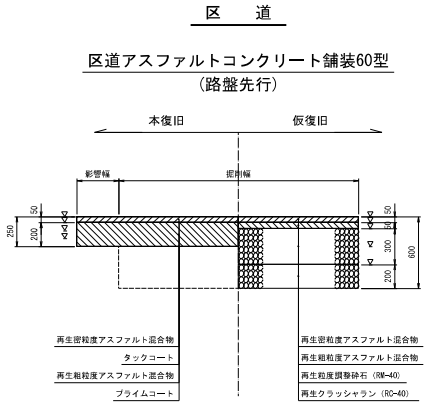
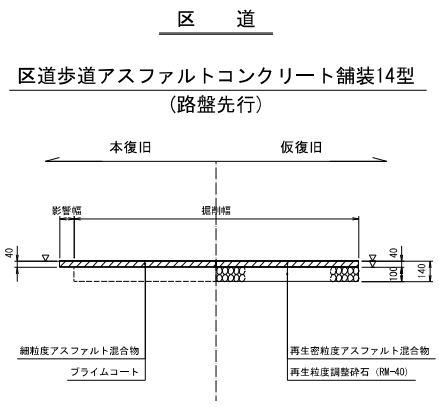
(12)世田谷区

名称	図
AS20 型(路盤先行)	
AS20 型(透水性)(路盤先行)	
AS25 型(路盤先行)	

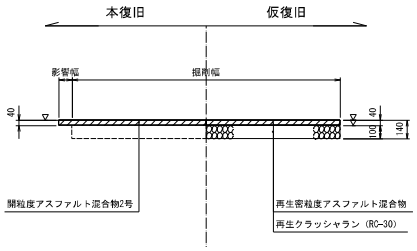
舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

名称	図
AS25 型(透水性)(路盤先行)	区　道 区道アスファルトコンクリート舗装25型(透水性) (路盤先行) 
AS35 型(透水性)(路盤先行)	区　道 区道アスファルトコンクリート舗装35型(透水性) (路盤先行) 
AS40 型(路盤先行)	区　道 区道アスファルトコンクリート舗装40型 (路盤先行) 

舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

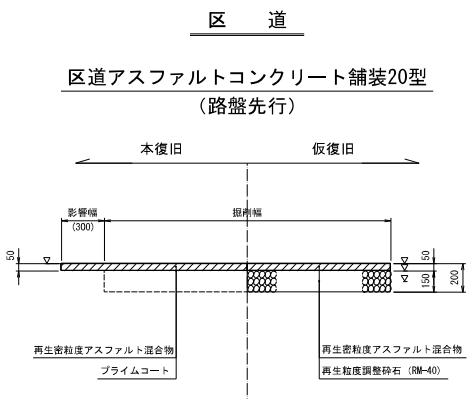
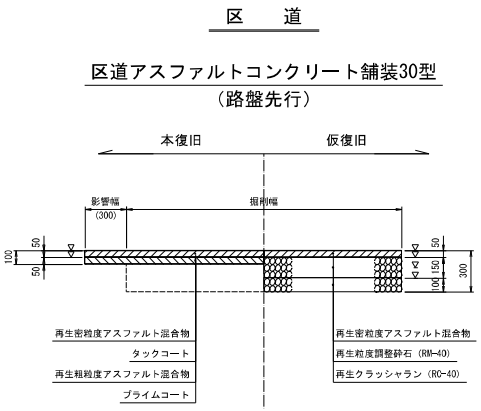
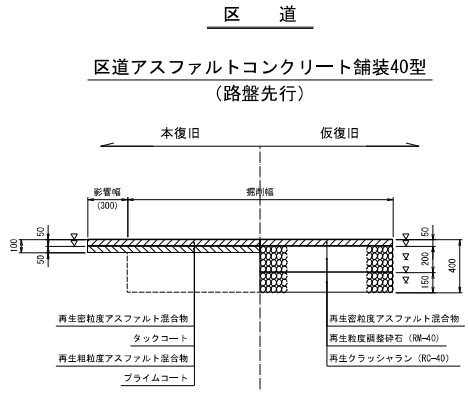
名称	図
AS55 型(路盤先行)	
AS60 型(路盤先行)	
AS14 型(路盤先行)	

舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

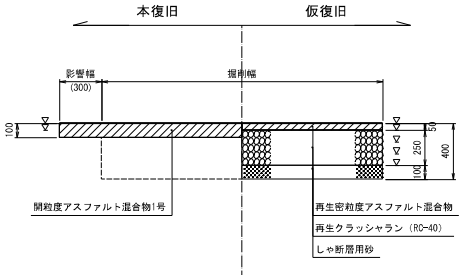
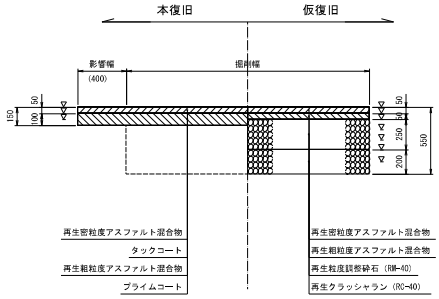
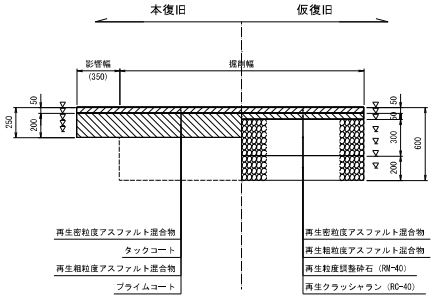
名称	図
AS14 型(透水性)(路盤先行)	区　道 区道歩道アスファルトコンクリート舗装14型（透水性） （路盤先行） 

舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

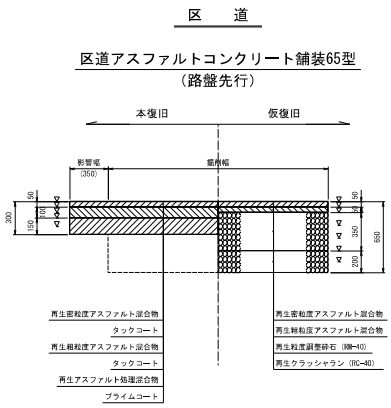
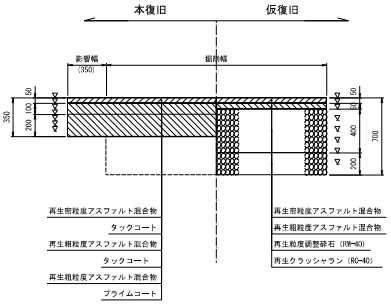
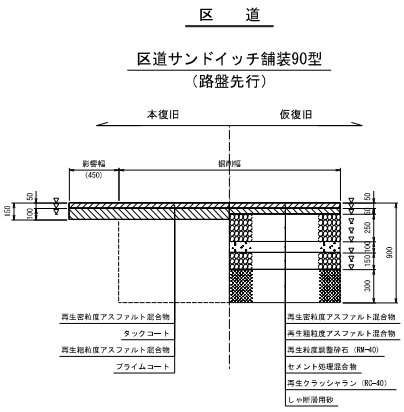
(13) 渋谷区

名称	図
AS20 型(路盤先行)	
AS30 型(路盤先行)	
AS40 型(路盤先行)	

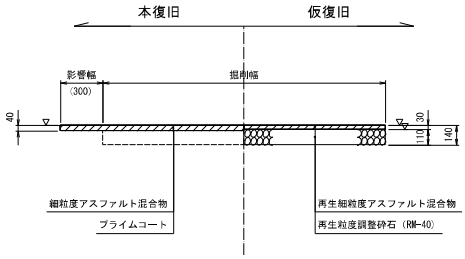
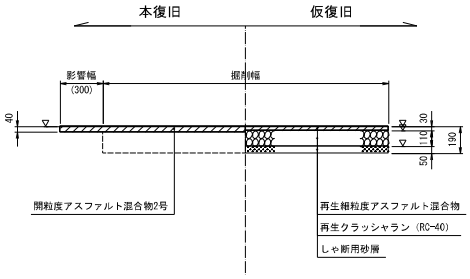
舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

名称	図
AS40 型(透水性)(路盤先行)	区　道 区道アスファルトコンクリート舗装40型(透水性) (路盤先行) 
AS55 型(路盤先行)	区　道 区道アスファルトコンクリート舗装55型 (路盤先行) 
AS60 型(路盤先行)	区　道 区道アスファルトコンクリート舗装60型 (路盤先行) 

舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

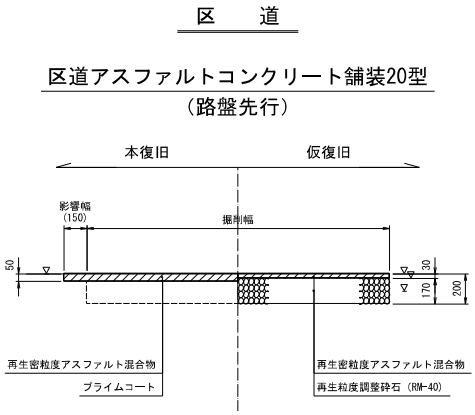
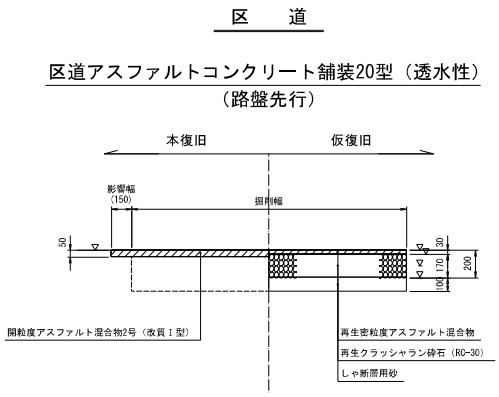
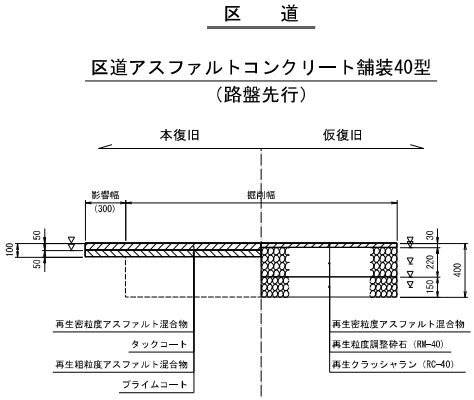
名称	図
AS65 型(路盤先行)	
AS70 型(路盤先行)	
SW90 型(路盤先行)	

舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

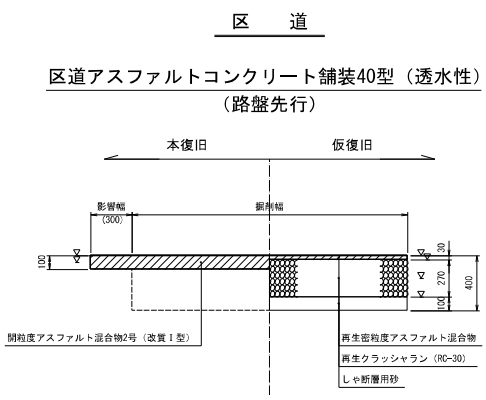
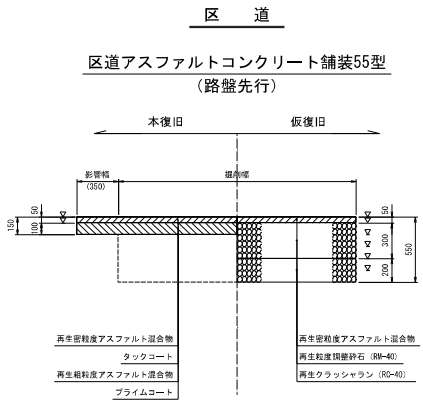
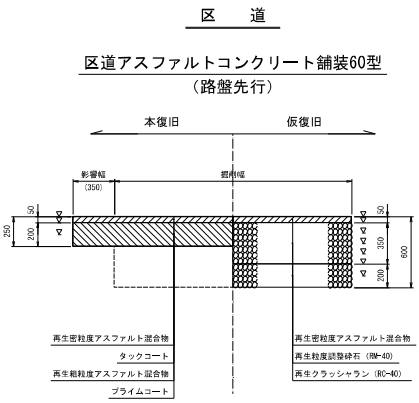
名称	図
AS14 型(路盤先行)	区　道 区道歩道アスファルトコンクリート舗装14型 （路盤先行） 
AS19 型(透水性)(路盤先行)	区　道 区道歩道アスファルトコンクリート舗装19型（透水性） （路盤先行） 

舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

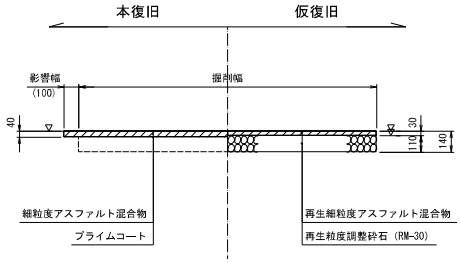
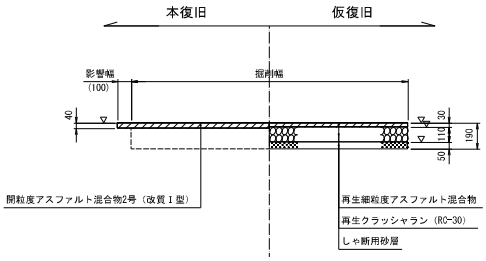
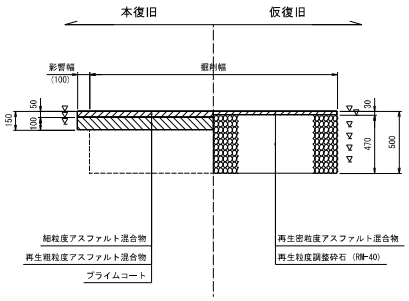
(14) 中野区

名称	図
AS20 型(路盤先行)	
AS20 型(透水性)(路盤先行)	
AS40 型(路盤先行)	

舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

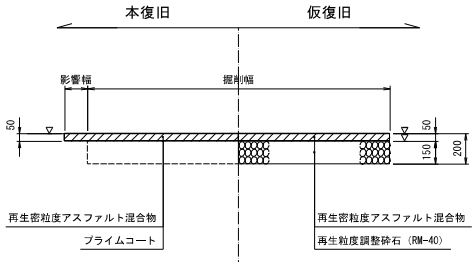
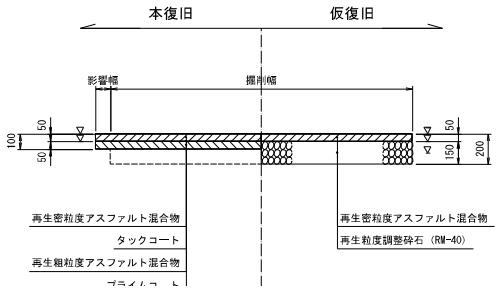
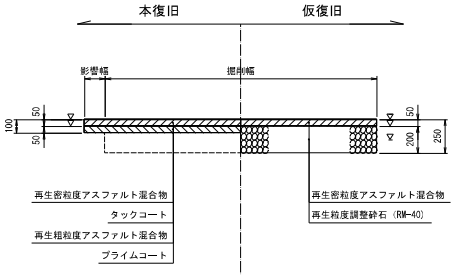
名称	図
AS40 型(透水性)(路盤先行)	
AS55 型(路盤先行)	
AS60 型(路盤先行)	

舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

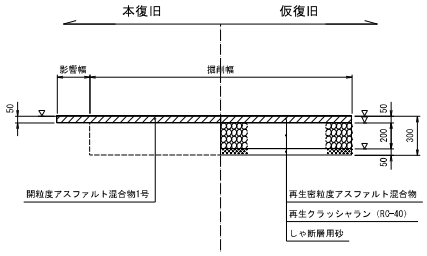
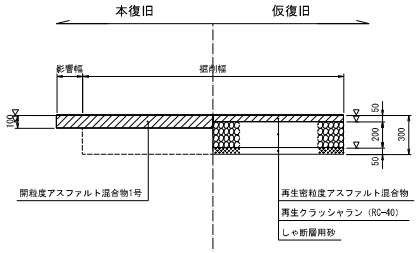
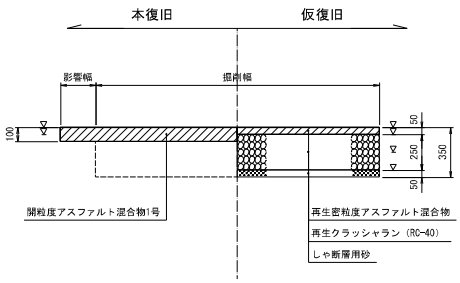
名称	図
AS14 型(路盤先行)	区　　道 区道歩道アスファルトコンクリート舗装14型 （路盤先行） 
AS19 型(透水性)(路盤先行)	区　　道 区道歩道アスファルトコンクリート舗装19型（透水性） （路盤先行） 
AS50 型(車乗入部)(路盤先行)	区　　道 区道歩道アスファルトコンクリート舗装50型（乗入れ部） （路盤先行） 

舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

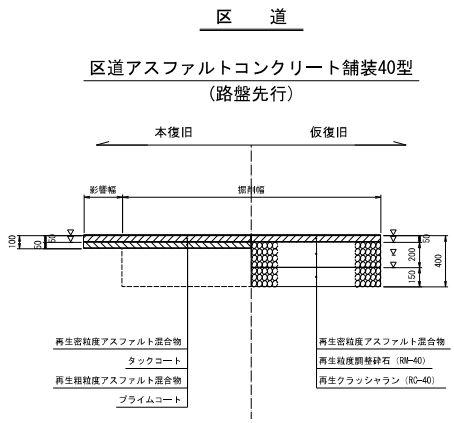
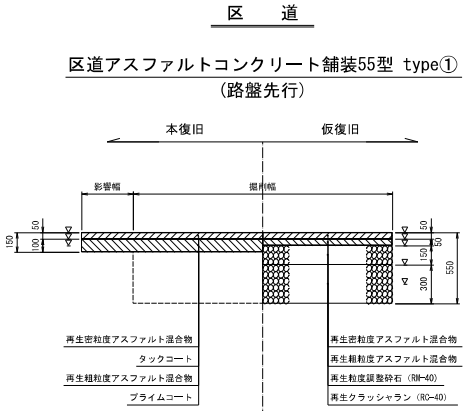
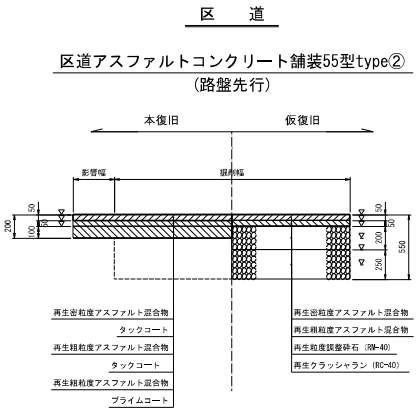
(15)杉並区

名称	図
AS20 型(路盤先行)	区　道 区道アスファルトコンクリート舗装20型 （路盤先行） 
AS20 型(S-20 型)(路盤先行)	区　道 区道アスファルトコンクリート舗装20型（S-20型） （路盤先行） 
AS25 型(路盤先行)	区　道 区道アスファルトコンクリート舗装25型 （路盤先行） 

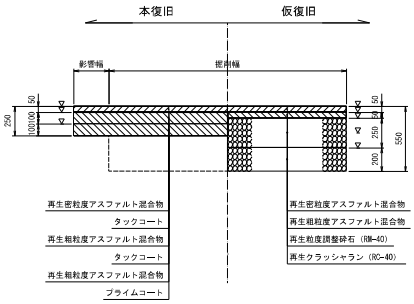
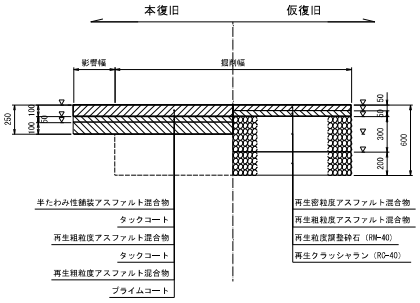
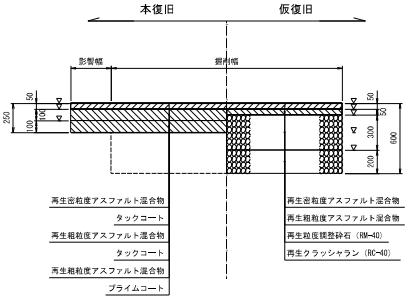
舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

名称	図
AS30 型(透水性)(W-30)(路盤先行)	区　道 区道アスファルトコンクリート舗装30型（透水性）（W-30） （路盤先行） 
AS30 型(透水性)(WS-30)(路盤先行)	区　道 区道アスファルトコンクリート舗装30型（透水性）（WS-30） （路盤先行） 
AS35 型(透水性)(路盤先行)	区　道 区道アスファルトコンクリート舗装35型（透水性） （路盤先行） 

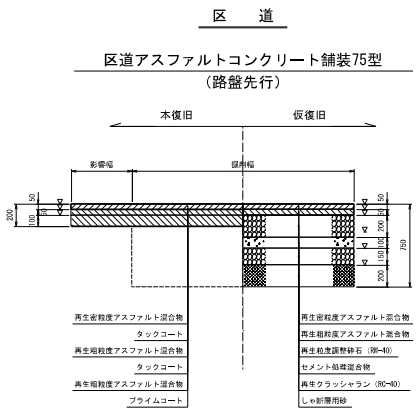
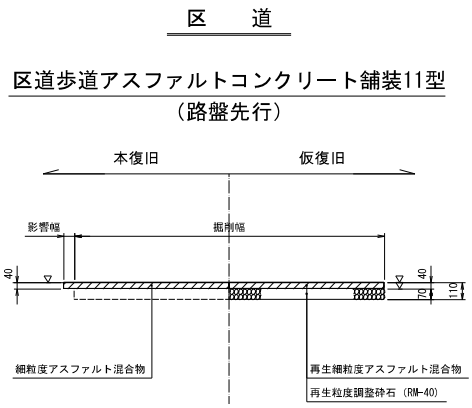
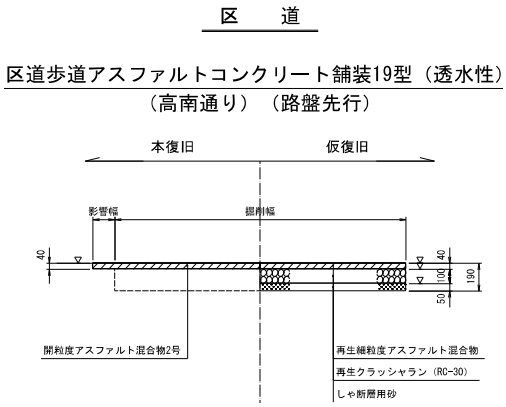
舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

名称	図
AS40 型(路盤先行)	
AS55 型-type①(路盤先行)	
AS55 型-type②(路盤先行)	

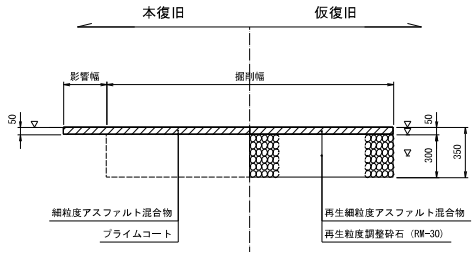
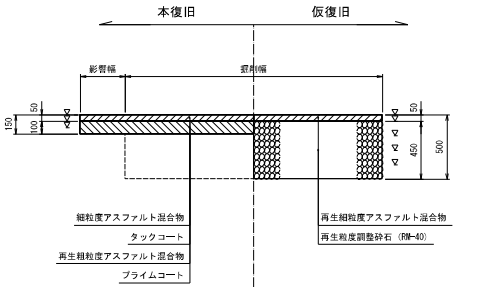
舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

名称	図
AS55 型−type③(路盤先行)	区　道 区道アスファルトコンクリート舗装55型type③ (路盤先行) 
AS60 型(阿佐ヶ谷駅前ロータリー)(路盤先行)	区　道 区道アスファルトコンクリート舗装60型 (阿佐ヶ谷駅前ロータリー)（路盤先行） 
AS60 型(旧都道(高南通り・五日市場ｊ街道))(路盤先行)	区　道 区道アスファルトコンクリート舗装60型 (旧都道（高南通り・五日市街道）)（路盤先行） 

舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

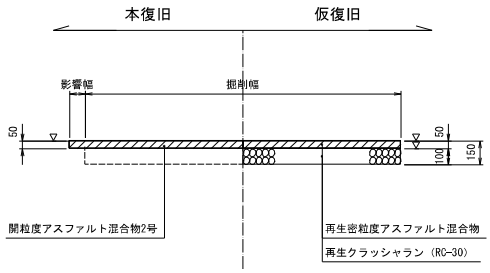
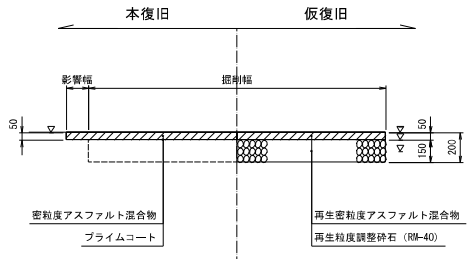
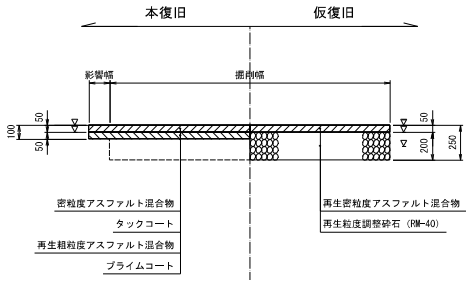
名称	図
AS75 型(路盤先行)	
AS11 型(路盤先行)	
AS19 型(透水性)(高南通り)(路盤先行)	

舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

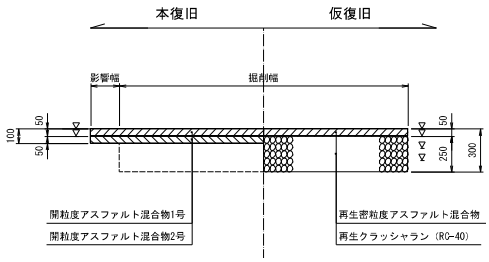
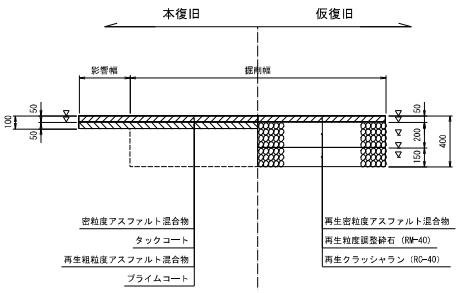
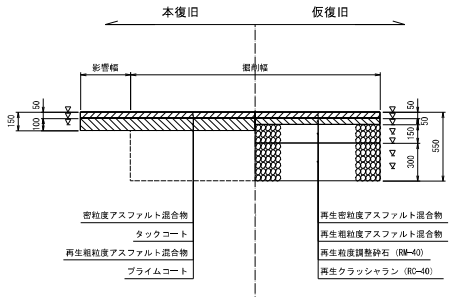
名称	図
AS35 型(車乗入部)(路盤先行)	区　道 区道歩道アスファルトコンクリート舗装35型(乗入れ部) (路盤先行) 
AS50 型(車乗入部)(路盤先行)	区　道 区道歩道アスファルトコンクリート舗装50型(乗入れ部) (路盤先行) 

舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

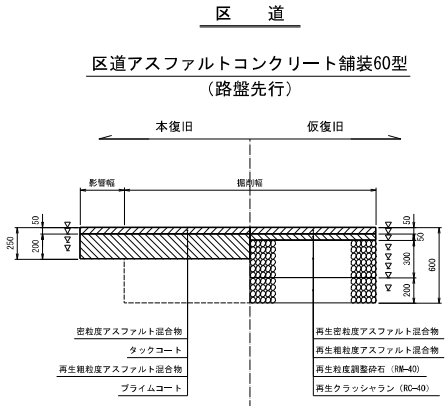
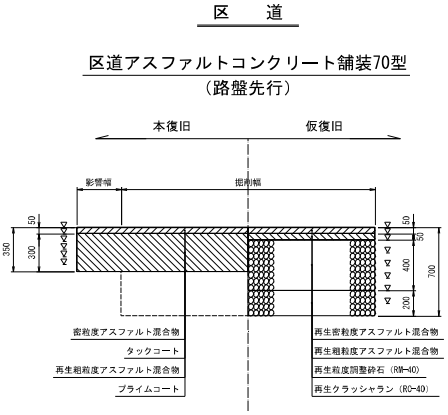
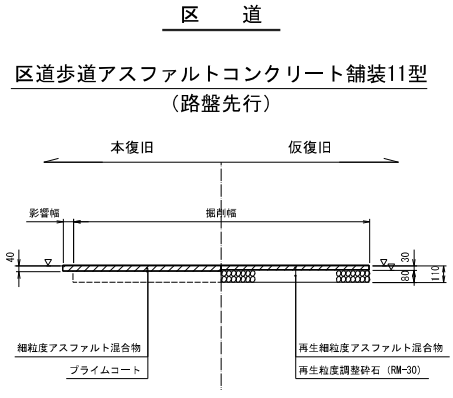
(16)豊島区

名称	図
AS15 型(透水性)(路盤先行)	区　道 区道アスファルトコンクリート舗装15型(透水性) (路盤先行) 
AS20 型(路盤先行)	区　道 区道アスファルトコンクリート舗装20型 (路盤先行) 
AS25 型(路盤先行)	区　道 区道アスファルトコンクリート舗装25型 (路盤先行) 

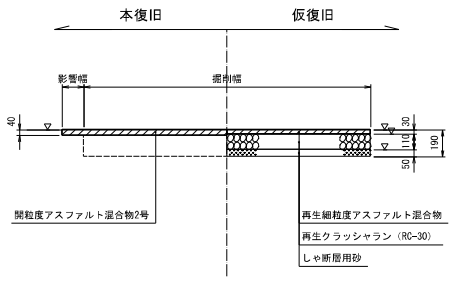
舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

名称	図
AS30 型(透水性)(路盤先行)	区　道 区道アスファルトコンクリート舗装30型(透水性) (路盤先行) 
AS40 型(路盤先行)	区　道 区道アスファルトコンクリート舗装40型 (路盤先行) 
AS55 型(路盤先行)	区　道 区道アスファルトコンクリート舗装55型 (路盤先行) 

舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

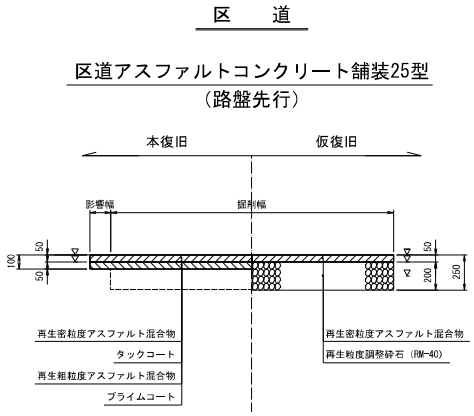
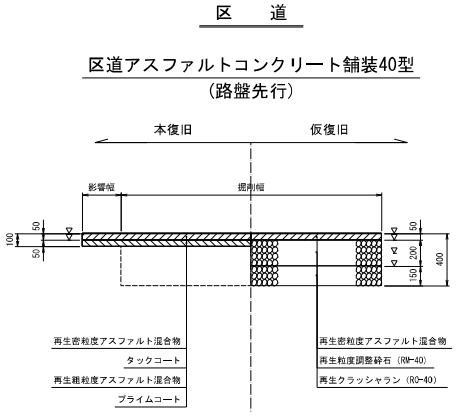
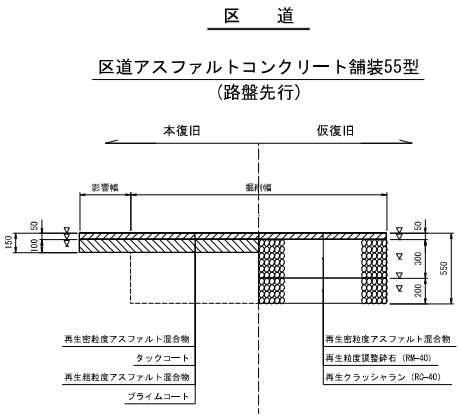
名称	図
AS60 型(路盤先行)	
AS70 型(路盤先行)	
AS11 型(路盤先行)	

舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

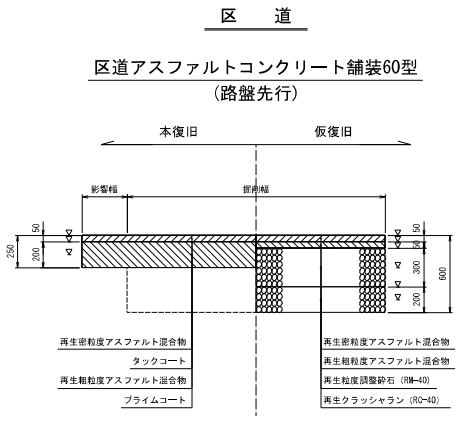
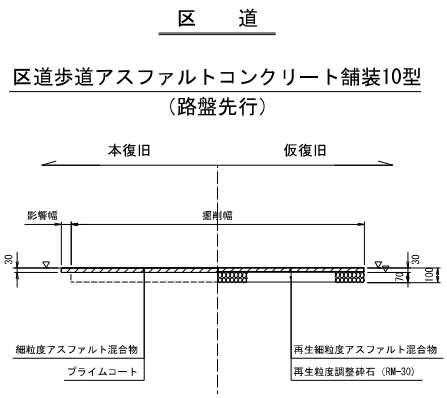
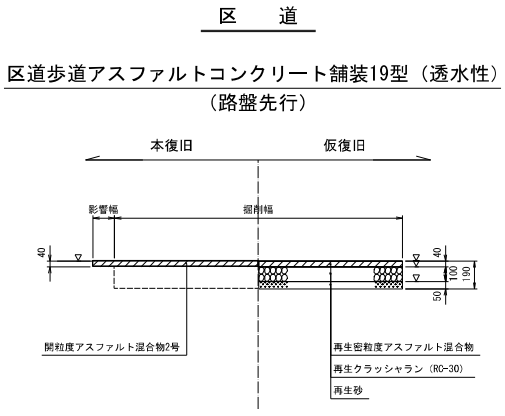
名称	図
AS19 型(透水性)(路盤先行)	区　道 区道歩道アスファルトコンクリート舗装19型（透水性） （路盤先行） 

舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

(17) 北区

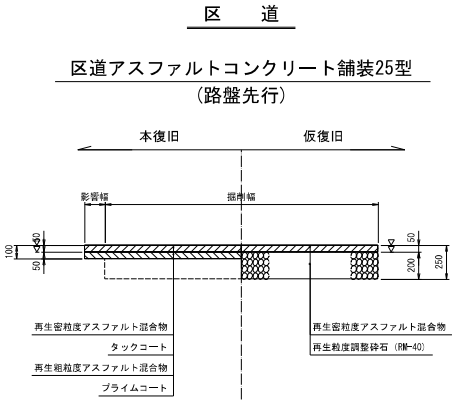
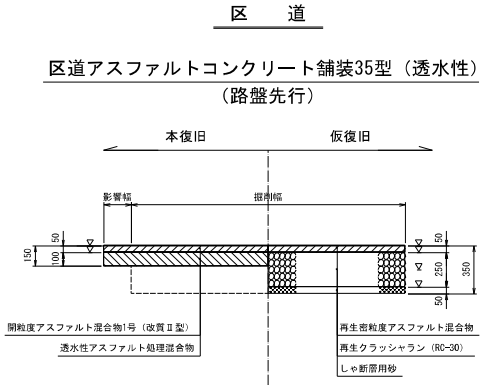
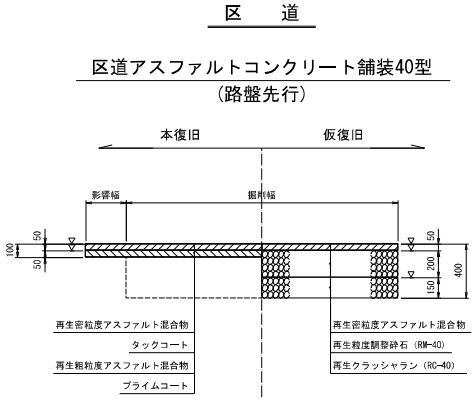
名称	図
AS25 型(路盤先行)	
AS40 型(路盤先行)	
AS55 型(路盤先行)	

舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

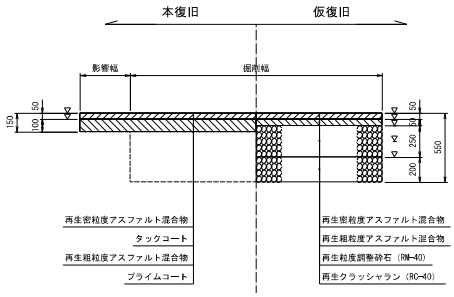
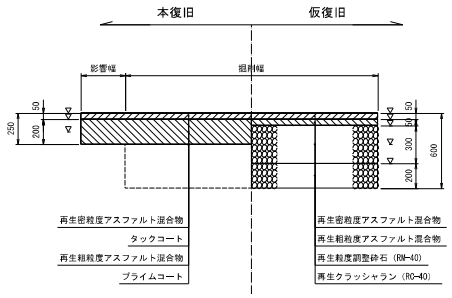
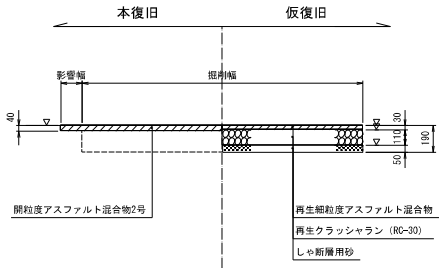
名称	図
AS60 型(路盤先行)	
AS10 型(路盤先行)	
AS19 型(透水性)(路盤先行)	

舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

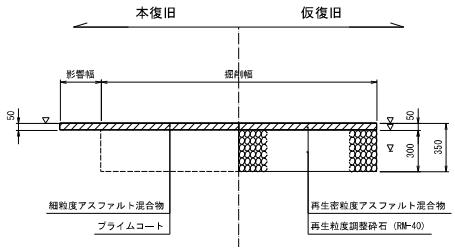
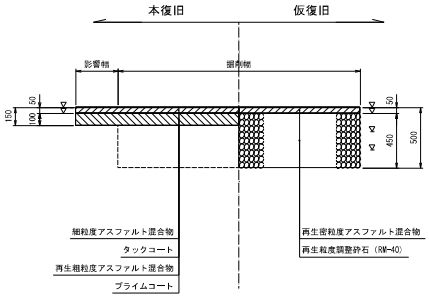
(18) 荒川区

名称	図
AS25 型(路盤先行)	
AS35 型(透水性)(路盤先行)	
AS40 型(路盤先行)	

舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

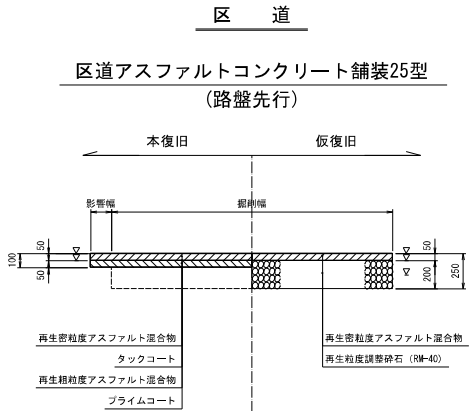
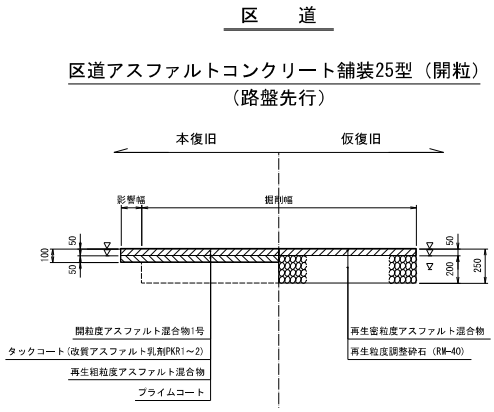
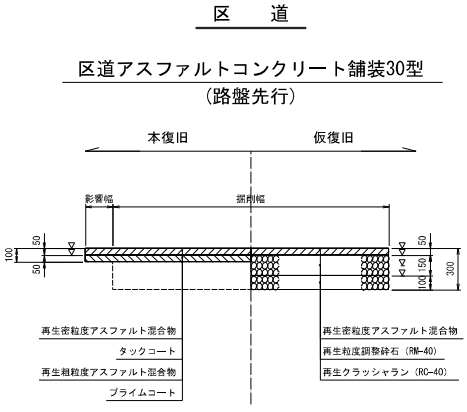
名称	図
AS55 型(路盤先行)	区　道 区道アスファルトコンクリート舗装55型 (路盤先行) 
AS60 型(路盤先行)	区　道 区道アスファルトコンクリート舗装60型 (路盤先行) 
AS19 型(透水性)(　路盤先行)	区　道 区道歩道アスファルトコンクリート舗装19型(透水性) (路盤先行) 

舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

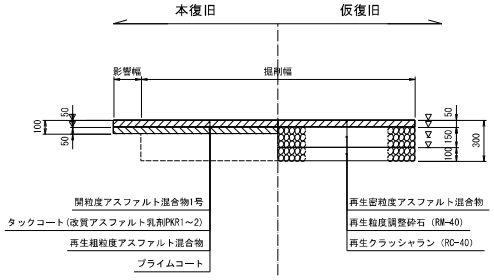
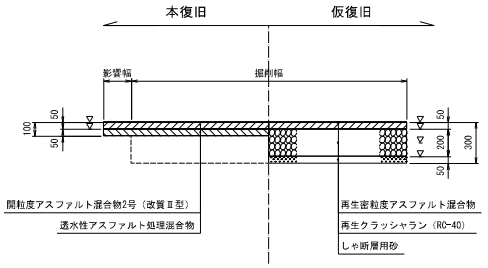
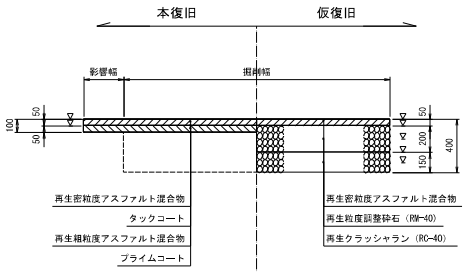
名称	図
AS35 型(車乗入部)(路盤先行)	区　道 区道歩道アスファルトコンクリート舗装35型(乗入れ部) (路盤先行) 
AS50 型(車乗入部)(路盤先行)	区　道 区道歩道アスファルトコンクリート舗装50型（乗入れ部） (路盤先行) 

舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

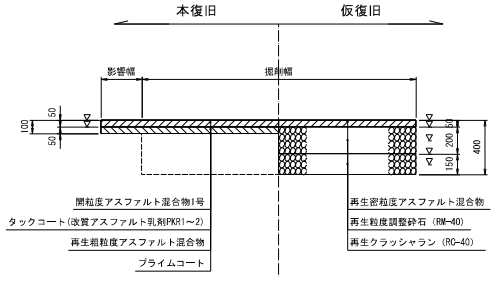
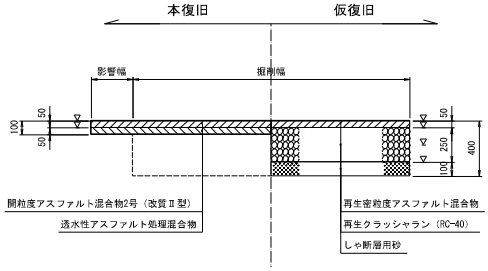
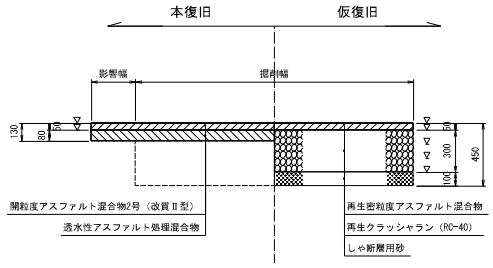
(19) 板橋区

名称	図
AS25 型(路盤先行)	
AS25 型(開粒)(路盤先行)	
AS30 型(路盤先行)	

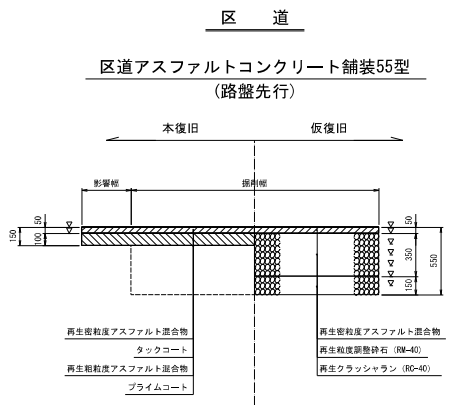
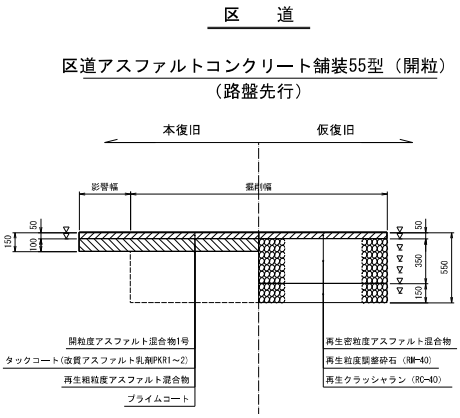
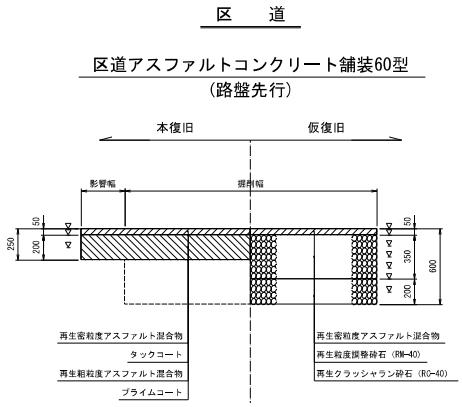
舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

名称	図
AS30 型(開粒)(路盤先行)	区　道 区道アスファルトコンクリート舗装30型（開粒） （路盤先行） 
AS30 型(透水性)(路盤先行)	区　道 区道アスファルトコンクリート舗装30型（透水性） （路盤先行） 
AS40 型(路盤先行)	区　道 区道アスファルトコンクリート舗装40型 （路盤先行） 

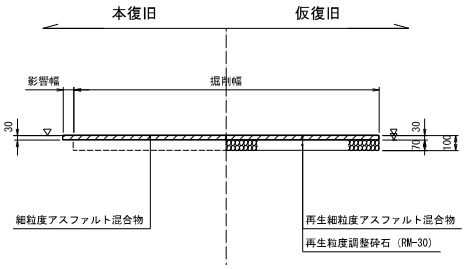
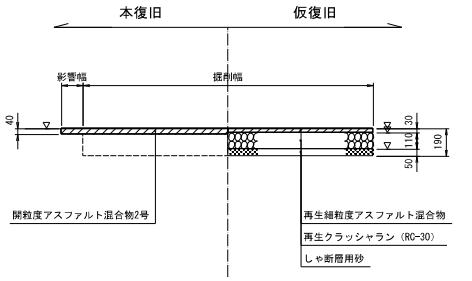
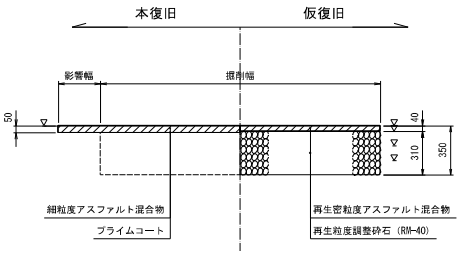
舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

名称	図
AS40 型(開粒)(路盤先行)	区　道 区道アスファルトコンクリート舗装40型（開粒） （路盤先行） 
AS40 型(透水性)(路盤先行)	区　道 区道アスファルトコンクリート舗装40型（透水性） （路盤先行） 
AS45 型(透水性)(　路盤先行)	区　道 区道アスファルトコンクリート舗装45型（透水性） （路盤先行） 

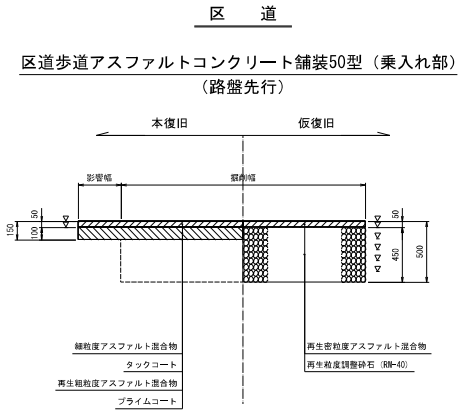
舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

名称	図
AS55 型(路盤先行)	
AS55 型(開粒)(路盤先行)	
AS60 型(路盤先行)	

舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

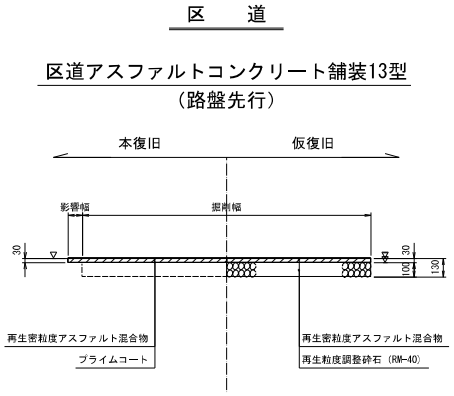
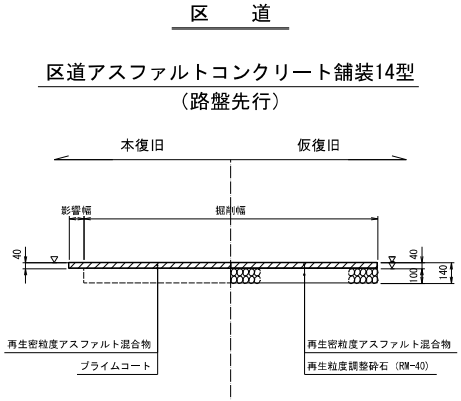
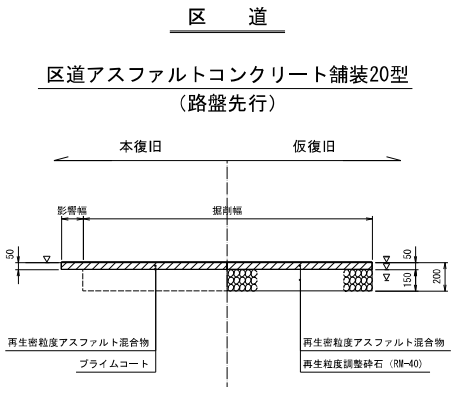
名称	図
AS10 型(路盤先行)	区　道 区道歩道アスファルトコンクリート舗装10型 (路盤先行) 
AS19 型(透水性)(路盤先行)	区　道 区道歩道アスファルトコンクリート舗装19型(透水性) (路盤先行) 
AS35 型(車乗入部)(路盤先行)	区　道 区道歩道アスファルトコンクリート舗装35型(乗入れ部) (路盤先行) 

舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

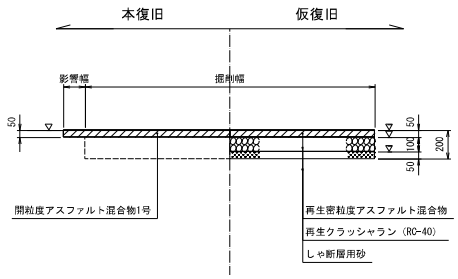
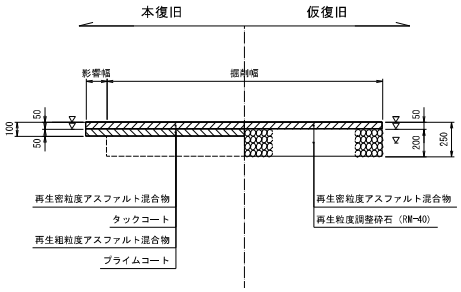
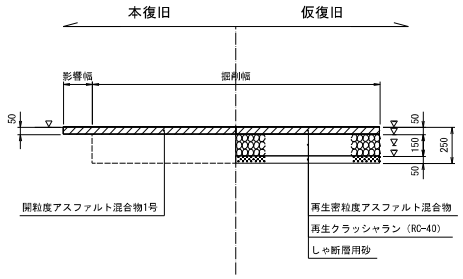
名称	図
AS50 型(車乗入部)(路盤先行)	

舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

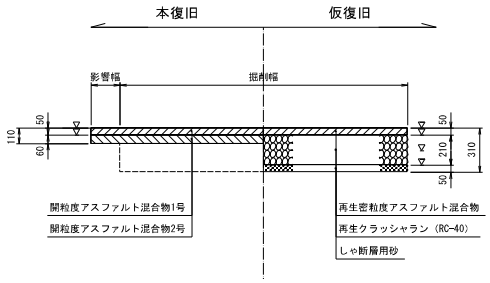
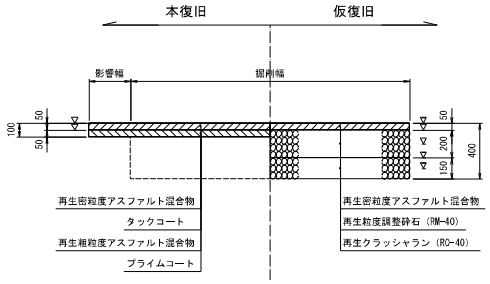
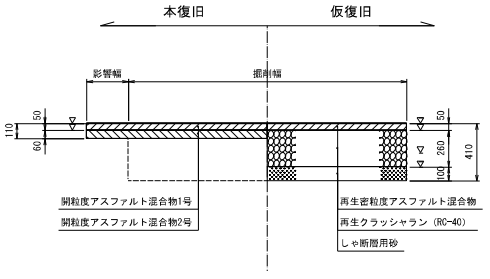
(20)練馬区

名称	図
AS13 型(路盤先行)	
AS14 型(路盤先行)	
AS20 型(路盤先行)	

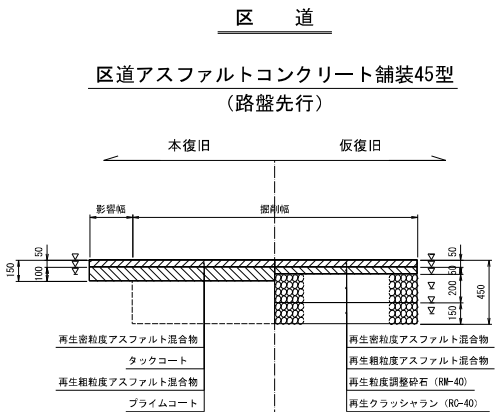
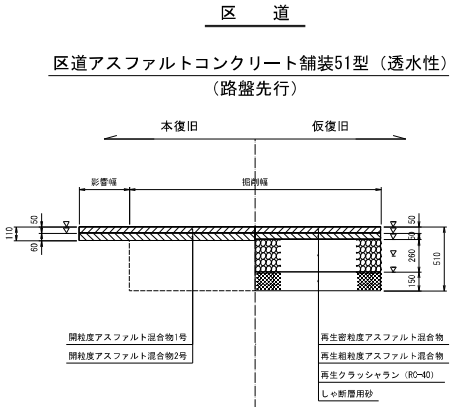
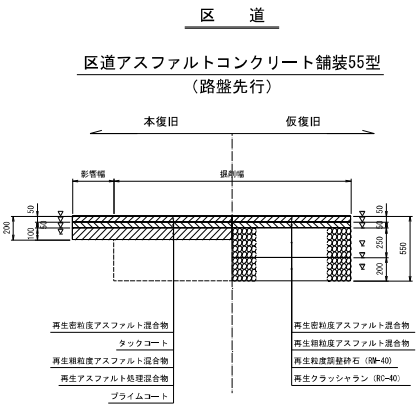
舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

名称	図
AS20 型(透水性)(路盤先行)	区　道 区道アスファルトコンクリート舗装20型（透水性） （路盤先行） 
AS25 型(路盤先行)	区　道 区道アスファルトコンクリート舗装25型 （路盤先行） 
AS25 型(透水性)(路盤先行)	区　道 区道アスファルトコンクリート舗装25型（透水性） （路盤先行） 

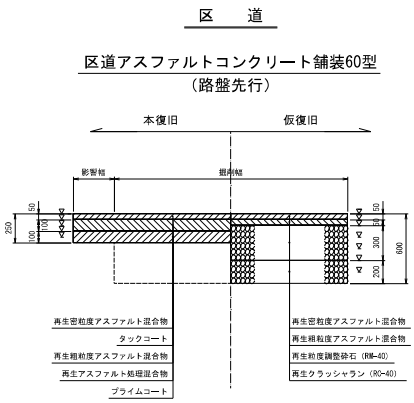
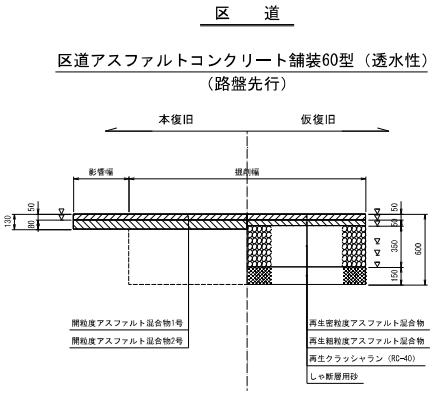
舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

名称	図
AS31 型(透水性)(路盤先行)	区　道 区道アスファルトコンクリート舗装31型（透水性） （路盤先行） 
AS40 型(路盤先行)	区　道 区道アスファルトコンクリート舗装40型 （路盤先行） 
AS41 型(透水性)(路盤先行)	区　道 区道アスファルトコンクリート舗装41型（透水性） （路盤先行） 

舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

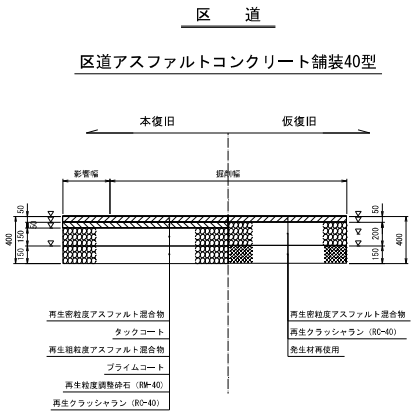
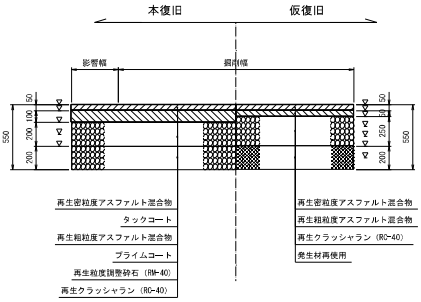
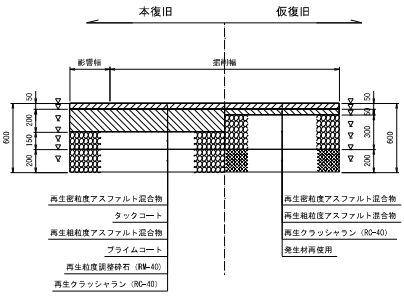
名称	図
AS45 型(路盤先行)	
AS51 型(透水性)(路盤先行)	
AS55 型(路盤先行)	

舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

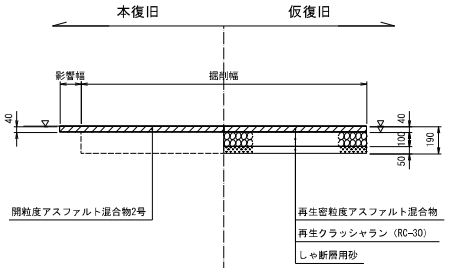
名称	図
AS60 型(路盤先行)	
AS60 型(透水性)(路盤先行)	

舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

(21) 足立区

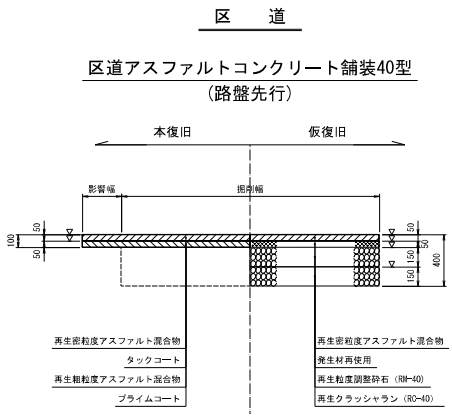
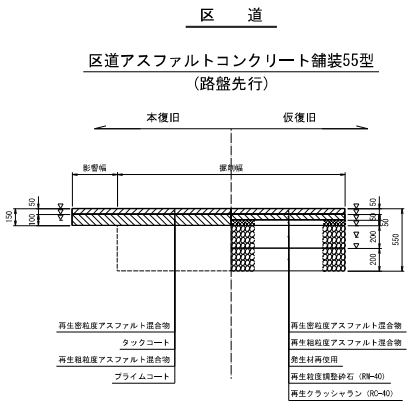
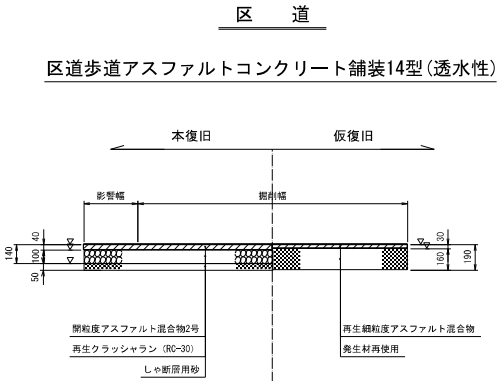
名称	図
AS40 型	
AS55 型	
AS60 型	

舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

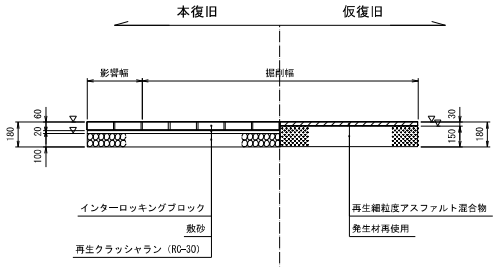
名称	図
AS19 型(透水性)(路盤先行)	区　道 区道歩道アスファルトコンクリート舗装19型（透水性） （路盤先行） 

舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

(22) 葛飾区

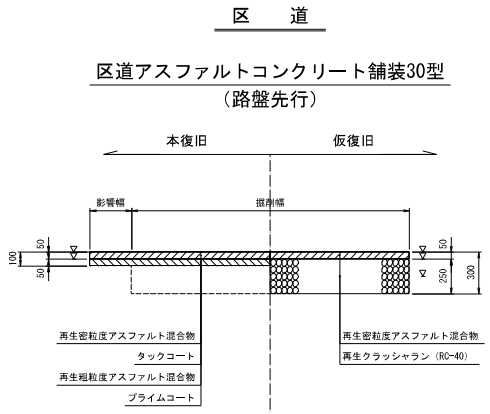
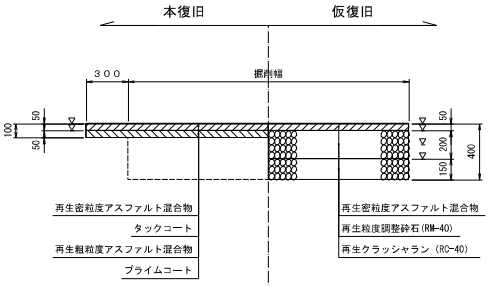
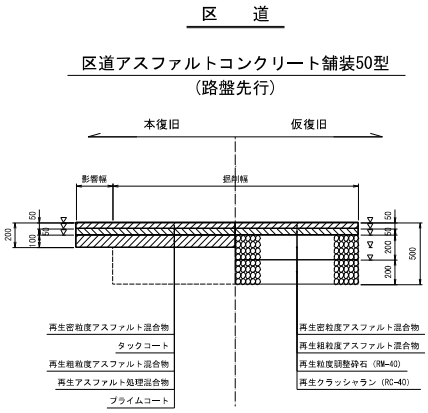
名称	図
AS40 型(路盤先行)	
AS55 型(路盤先行)	
AS14 型(透水性)	

舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

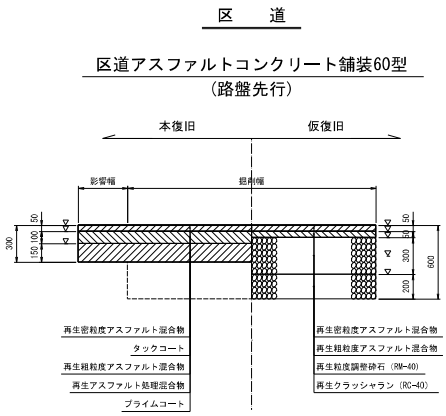
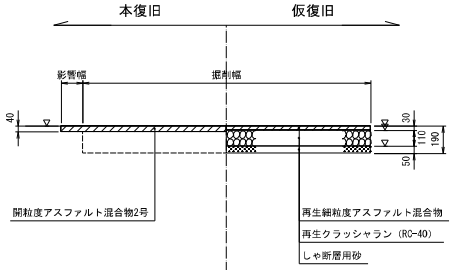
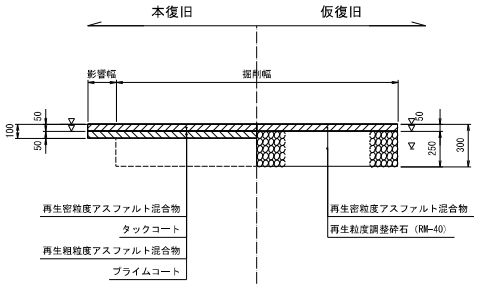
名称	図
ILB18 型	区　道 区道歩道インターロッキングブロック舗装18型 

舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

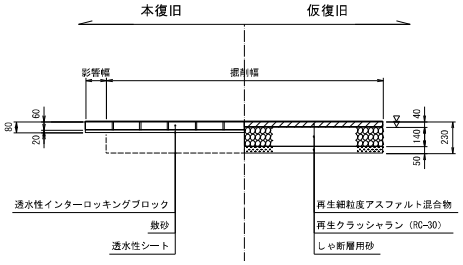
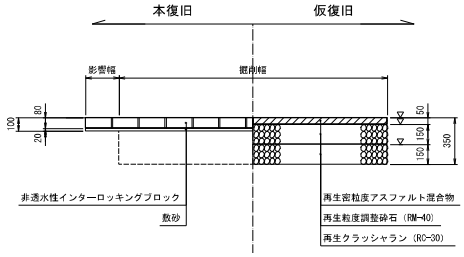
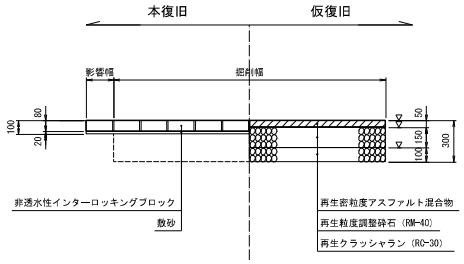
(23)江戸川区

名称	図
AS30 型(路盤先行)	
AS40 型(路盤先行)	
AS50 型(路盤先行)	

舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

名称	図
AS60 型(路盤先行)	
AS19 型(透水性)(路盤先行)	
AS30 型(車乗入部)(路盤先行)	

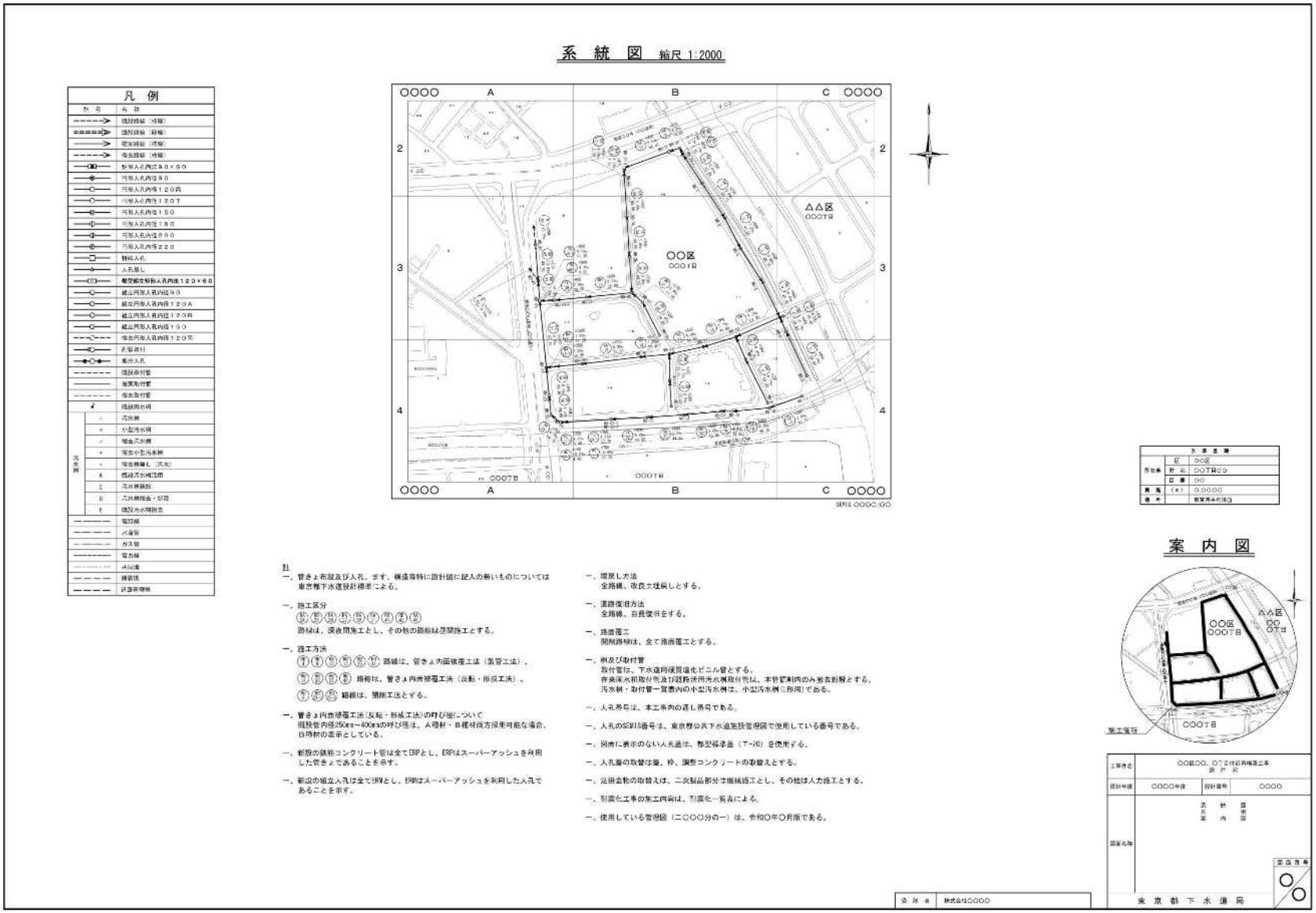
舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

名称	図
ILB23 型(透水性)(路盤先行)	区　道 区道歩道インターロッキングブロック舗装23型（透水性） （路盤先行） 
ILB35 型(車乗入部)(路盤先行)	区　道 区道歩道インターロッキングブロック舗装35型(乗入れ部) （路盤先行） 
ILB30 型(車乗入部)(路盤先行)	区　道 区道歩道インターロッキングブロック舗装30型(乗入れ部) （路盤先行） 

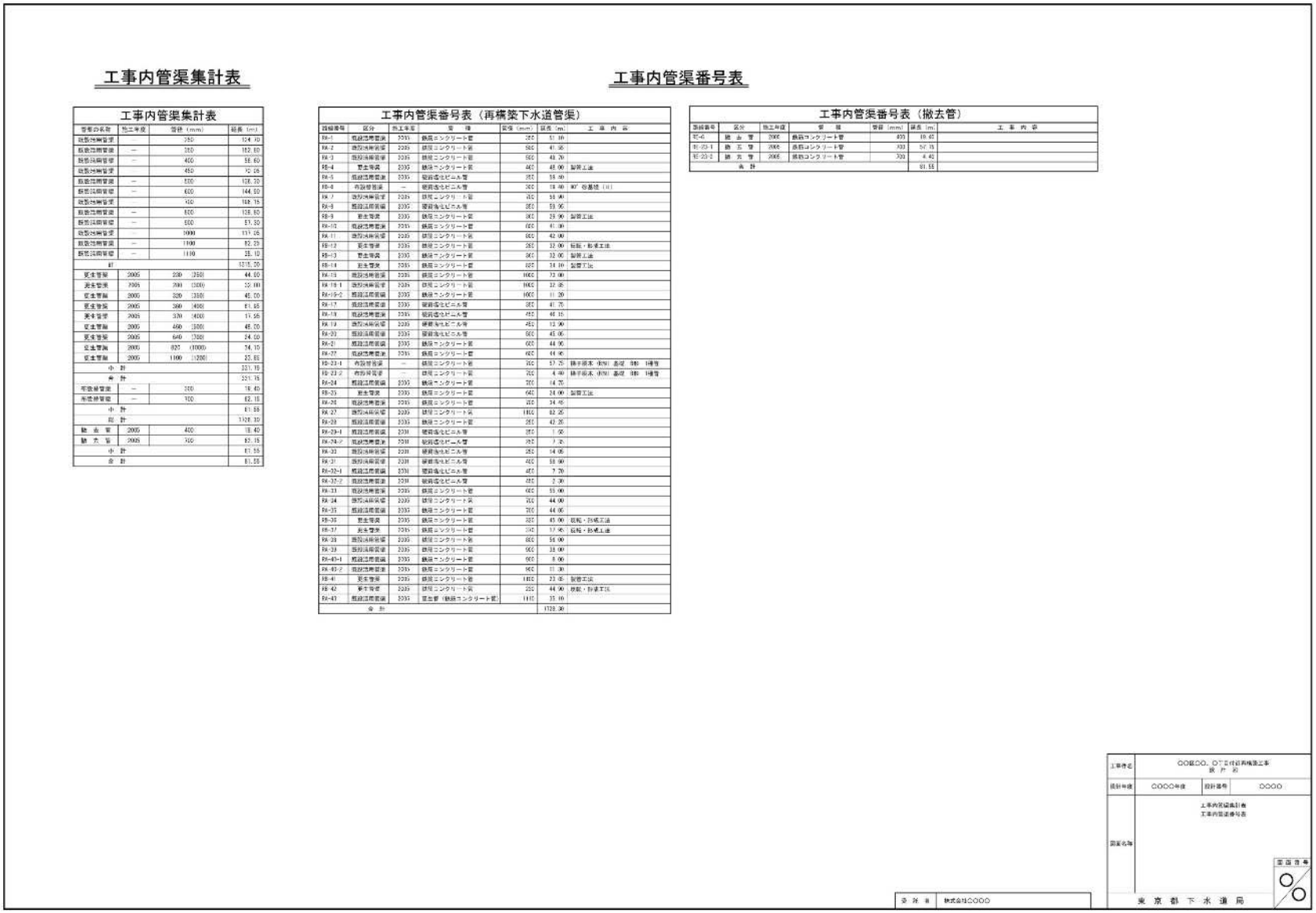
舗装構造図は、参考であるため、必ず道路管理者に確認すること。

3. 参考図

3.1 系統図


系 統 図 縮尺 1:2000
凡 例
記 号
名 称
○○区
○○○丁目
△△区
○○○丁目
○○○丁目
○○○丁目
○○○○
A
B
C
2
3
4
案 内 図
○○区
○○○丁目
△△区
○○
○丁目
○○○丁目
施工箇所
東 京 都 下 水 道 局

3.2 工事内管きょ集計表・工事内管きょ番号表



工事内管渠集計表

管渠の名称	施工年度	管径（mm）	延長（m）
既設汚水管渠		350	124.10
既設汚水管渠	〃	380	182.60
既設汚水管渠	〃	400	58.60
既設汚水管渠	〃	450	10.05
既設汚水管渠	〃	500	126.70
既設汚水管渠	〃	600	144.60
既設汚水管渠	〃	700	168.15
既設汚水管渠	〃	800	128.80
既設汚水管渠	〃	900	57.30
既設汚水管渠	〃	1000	111.05
既設汚水管渠	〃	1100	82.20
既設汚水管渠	〃	1110	28.10
計			1215.20
更生管渠	2005	230 (250)	44.00
更生管渠	2005	280 (300)	33.100
更生管渠	2005	320 (350)	46.00
更生管渠	2005	360 (400)	61.65
更生管渠	2005	370 (400)	11.55
更生管渠	2005	460 (500)	48.00
更生管渠	2005	640 (700)	24.60
更生管渠	2005	825 (1000)	24.10
更生管渠	2005	1100 (1200)	23.65
小 計			331.15
合 計			331.15
布設替管渠	〃	300	78.40
布設替管渠	〃	700	62.15
小 計			81.55
総 計			1328.30
撤 去 管	2005	400	78.40
撤 去 管	2005	700	63.15
小 計			81.55
合 計			81.55

工事内管渠番号表

工事内管渠番号表（再構築下水道管渠）

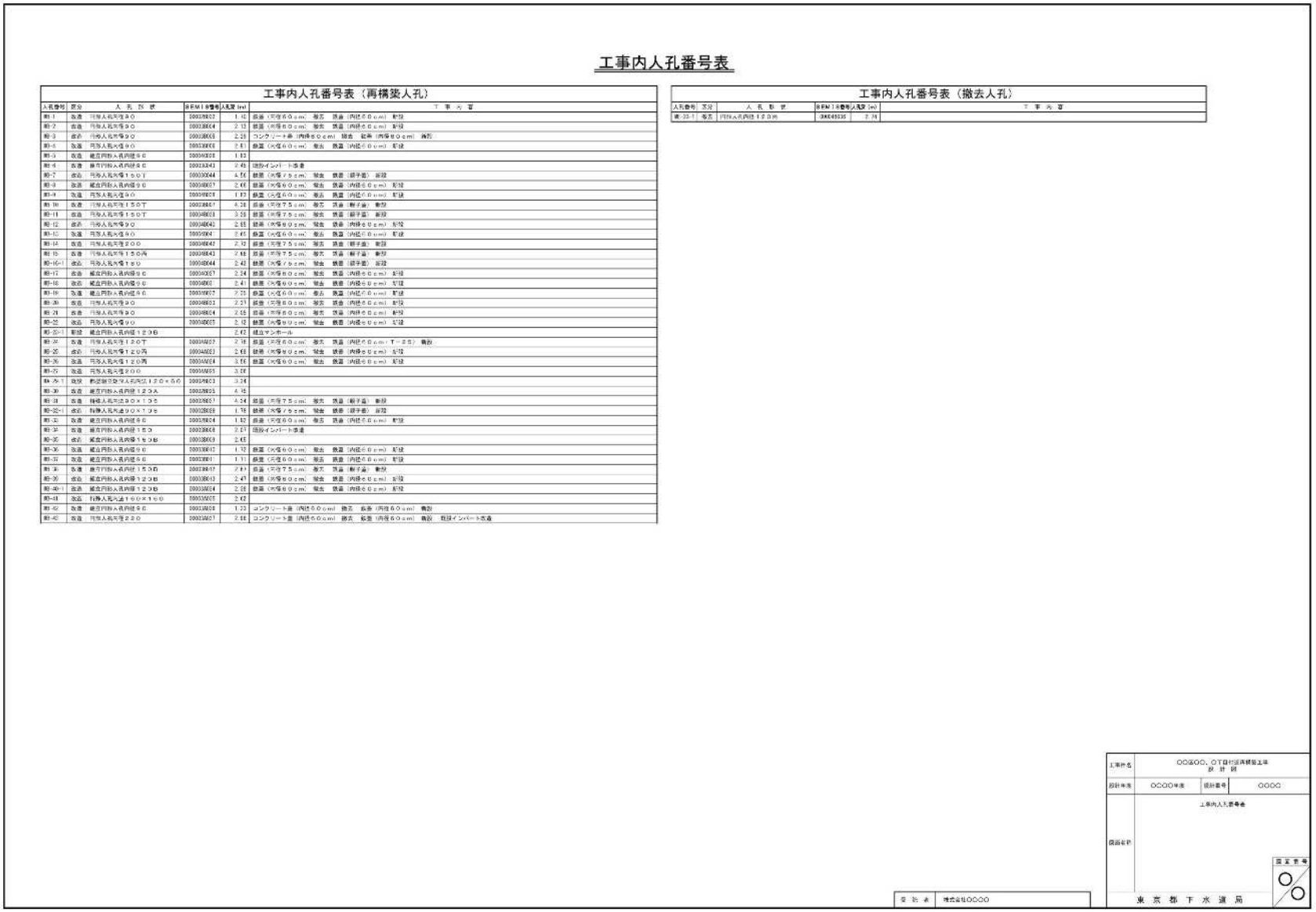
路線番号	区分	施工年度	管 種	管径（mm）	延長（m）	工 事 内 容
R4-1	既設汚水管渠	2005	鉄筋コンクリート管	250	51.10	
R4-2	既設汚水管渠	2005	鉄筋コンクリート管	300	41.05	
R4-3	既設汚水管渠	2005	鉄筋コンクリート管	300	43.20	
R4-4	更生管渠	2005	鉄筋コンクリート管	440	48.00	製管工法
R4-5	既設汚水管渠	2005	硬質塩化ビニル管	250	58.60	
R4-6	布設替管渠	—	硬質塩化ビニル管	300	78.40	推進工法
R4-7	既設汚水管渠	2005	鉄筋コンクリート管	150	58.60	
R4-8	既設汚水管渠	2005	硬質塩化ビニル管	250	58.60	
R4-9	更生管渠	2005	鉄筋コンクリート管	300	29.00	製管工法
R4-10	既設汚水管渠	2005	鉄筋コンクリート管	600	41.00	
R4-11	既設汚水管渠	2005	鉄筋コンクリート管	600	42.00	
R4-12	更生管渠	2005	鉄筋コンクリート管	250	32.00	製管・形成工法
R4-13	更生管渠	2005	鉄筋コンクリート管	300	32.00	製管工法
R4-14	更生管渠	2005	鉄筋コンクリート管	600	34.10	製管工法
R4-15	既設汚水管渠	2005	鉄筋コンクリート管	1000	32.00	
R4-15-1	既設汚水管渠	2005	鉄筋コンクリート管	1000	22.00	
R4-15-2	既設汚水管渠	2005	鉄筋コンクリート管	1000	11.20	
R4-17	既設汚水管渠	2005	硬質塩化ビニル管	250	41.75	
R4-18	既設汚水管渠	2005	硬質塩化ビニル管	450	46.15	
R4-19	既設汚水管渠	2005	硬質塩化ビニル管	450	13.30	
R4-20	既設汚水管渠	2005	硬質塩化ビニル管	600	45.05	
R4-21	既設汚水管渠	2005	鉄筋コンクリート管	600	44.90	
R4-22	既設汚水管渠	2005	鉄筋コンクリート管	600	44.90	
R4-23-1	布設替管渠	—	鉄筋コンクリート管	700	57.75	猿手排水（既設）基礎（既設）1連管
R4-23-2	布設替管渠	—	鉄筋コンクリート管	700	4.40	猿手排水（既設）基礎（既設）1連管
R4-24	既設汚水管渠	2005	鉄筋コンクリート管	700	14.75	
R4-25	更生管渠	2005	鉄筋コンクリート管	600	24.00	製管工法
R4-26	既設汚水管渠	2005	鉄筋コンクリート管	700	34.45	
R4-27	既設汚水管渠	2005	鉄筋コンクリート管	1100	82.25	
R4-28	既設汚水管渠	2005	鉄筋コンクリート管	250	42.25	
R4-29-1	既設汚水管渠	2004	硬質塩化ビニル管	250	1.50	
R4-29-2	既設汚水管渠	2004	硬質塩化ビニル管	250	7.35	
R4-30	既設汚水管渠	2004	硬質塩化ビニル管	250	14.05	
R4-31	既設汚水管渠	2004	硬質塩化ビニル管	400	58.60	
R4-32-1	既設汚水管渠	2004	硬質塩化ビニル管	400	7.70	
R4-32-2	既設汚水管渠	2004	硬質塩化ビニル管	250	2.30	
R4-33	既設汚水管渠	2005	鉄筋コンクリート管	600	55.00	
R4-34	既設汚水管渠	2005	鉄筋コンクリート管	300	44.00	
R4-35	既設汚水管渠	2005	鉄筋コンクリート管	700	44.05	
R4-36	更生管渠	2005	鉄筋コンクリート管	350	45.00	製管・防蝕工法
R4-37	更生管渠	2005	鉄筋コンクリート管	300	37.95	製管・防蝕工法
R4-38	既設汚水管渠	2005	鉄筋コンクリート管	600	56.00	
R4-39	既設汚水管渠	2005	鉄筋コンクリート管	900	38.00	
R4-40-1	既設汚水管渠	2005	鉄筋コンクリート管	900	8.00	
R4-40-2	既設汚水管渠	2005	鉄筋コンクリート管	900	11.30	
R4-41	更生管渠	2005	鉄筋コンクリート管	1100	23.45	製管工法
R4-42	更生管渠	2005	鉄筋コンクリート管	250	44.90	形成・防蝕工法
R4-43	既設汚水管渠	2005	更生管（鉄筋コンクリート管）	1110	35.10	
合 計					1728.30	

工事内管渠番号表（撤去管）

路線番号	区分	施工年度	管 種	管径（mm）	延長（m）	工 事 内 容
RT-0	撤 去 管	2005	鉄筋コンクリート管	400	19.45	
RT-23-1	撤 去 管	2005	鉄筋コンクリート管	700	57.15	
RT-23-2	撤 去 管	2005	鉄筋コンクリート管	700	4.45	
合 計					81.55	

工事件名	○○区○○、○丁目付近再構築工事 設 計 図
設計年度	○○○○年度
設計番号	○○○○
図面名称	工事内管渠集計表 工事内管渠番号表
図面番号	○/○
委 託 名	株式会社○○○○
東京都下水道局	

3.3 工事内人孔番号表



工事内人孔番号表

工事内人孔番号表（再構築人孔）

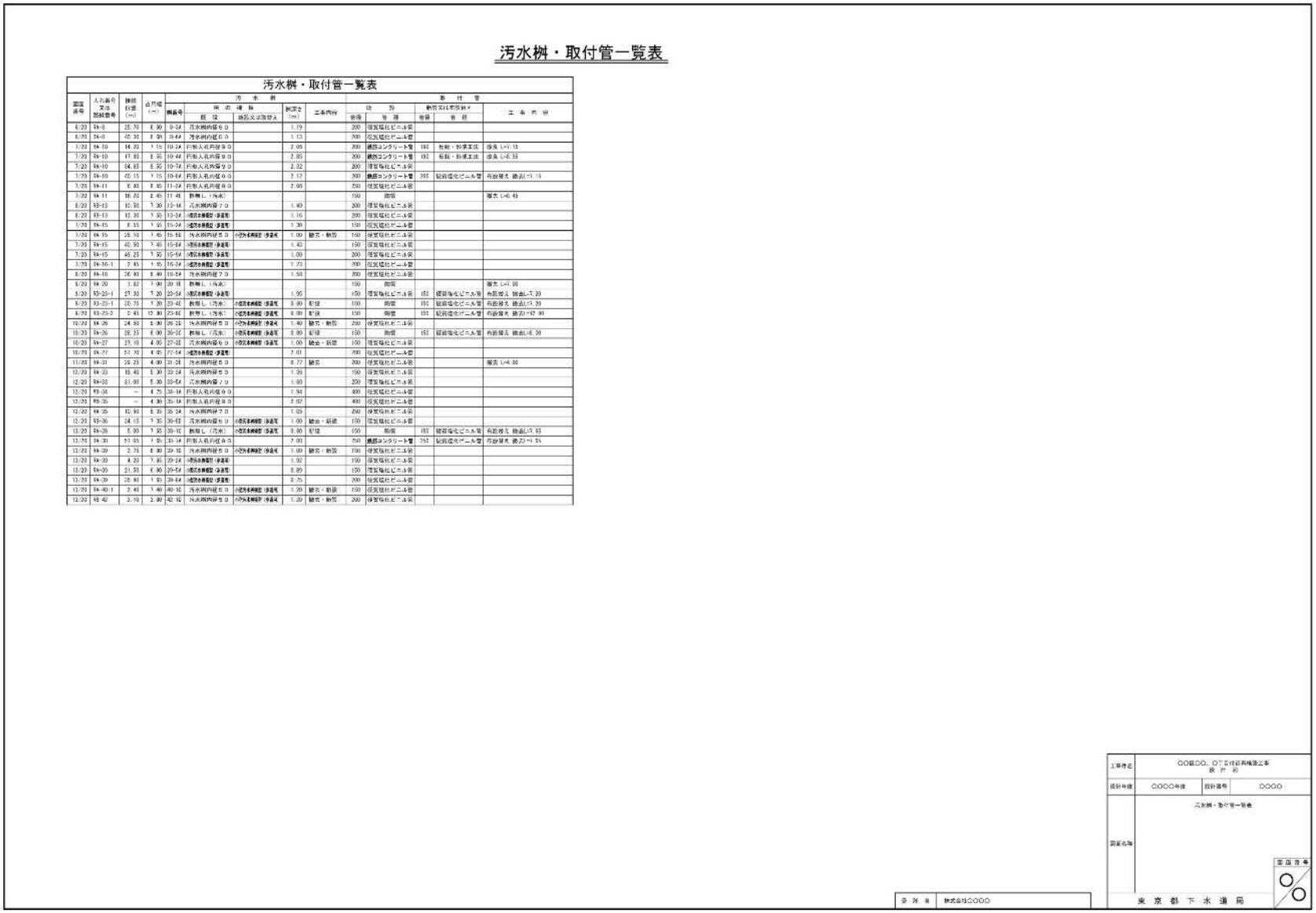
人孔番号	区分	人孔形状	BIM I Dコード	人孔深 (m)	工事内容
新-1	改造	円形人孔内径９００	0003BK02	1.42	撤去（天端６０ｃｍ）、築立、鉄蓋（内径６０ｃｍ）新設
新-2	改造	円形人孔内径９００	0003BK04	2.13	撤去（天端６０ｃｍ）、築立、鉄蓋（内径６０ｃｍ）新設
新-3	廃止	円形人孔内径９００	0003BK05	2.28	コンクリート蓋（内径６０ｃｍ）撤去、副管（内径８０ｃｍ）撤去
新-4	改造	円形人孔内径９００	0003BK06	2.61	撤去（天端６０ｃｍ）、築立、鉄蓋（内径６０ｃｍ）新設
新-5	改造	建立円形人孔内径９００	0003MK08	1.83	
新-6	改造	建立円形人孔内径９００	0003EK43	2.46	既設インバート改造
新-7	改造	円形人孔内径１５００Ｔ	0003GK44	4.56	撤去（天端７５ｃｍ）、築立、鉄蓋（細手蓋）新設
新-8	改造	建立円形人孔内径９００	0003MK07	2.66	撤去（天端６０ｃｍ）、築立、鉄蓋（内径６０ｃｍ）新設
新-9	改造	円形人孔内径９００	0003HK08	1.83	撤去（天端６０ｃｍ）、築立、鉄蓋（内径６０ｃｍ）新設
新-10	改造	円形人孔内径１５００Ｔ	0003EK07	4.26	撤去（天端７５ｃｍ）、築立、鉄蓋（細手蓋）新設
新-11	改造	円形人孔内径１５００Ｔ	0003HK03	3.56	撤去（天端７５ｃｍ）、築立、鉄蓋（細手蓋）新設
新-12	廃止	円形人孔内径９００	0003HK41	2.65	撤去（天端６０ｃｍ）、築立、鉄蓋（内径６０ｃｍ）新設
新-13	改造	円形人孔内径９００	0003HK04	2.45	撤去（天端６０ｃｍ）、築立、鉄蓋（内径６０ｃｍ）新設
新-14	改造	円形人孔内径２００	0003HK42	2.12	撤去（天端７５ｃｍ）、築立、鉄蓋（細手蓋）新設
新-15	改造	円形人孔内径１５００角	0003HK43	2.88	撤去（天端７５ｃｍ）、築立、鉄蓋（細手蓋）新設
新-16-1	廃止	円形人孔内径１５０	0003HK44	2.43	撤去（天端７５ｃｍ）、築立、鉄蓋（細手蓋）新設
新-17	改造	建立円形人孔内径９００	0003MK07	2.24	撤去（天端６０ｃｍ）、築立、鉄蓋（内径６０ｃｍ）新設
新-18	改造	建立円形人孔内径９００	0003MK02	2.41	撤去（天端６０ｃｍ）、築立、鉄蓋（内径６０ｃｍ）新設
新-19	改造	建立円形人孔内径９００	0003MK07	2.25	撤去（天端６０ｃｍ）、築立、鉄蓋（内径６０ｃｍ）新設
新-20	改造	円形人孔内径９００	0003HK02	2.21	撤去（天端６０ｃｍ）、築立、鉄蓋（内径６０ｃｍ）新設
新-21	改造	円形人孔内径９００	0003HK04	2.55	撤去（天端６０ｃｍ）、築立、鉄蓋（内径６０ｃｍ）新設
新-22	改造	円形人孔内径９００	0003HK05	2.12	撤去（天端６０ｃｍ）、築立、鉄蓋（内径６０ｃｍ）新設
新-22-1	新設	建立円形人孔内径１２００		2.42	組立マンホール
新-24	改造	円形人孔内径１２００Ｔ	0003AK07	2.18	撤去（天端６０ｃｍ）、築立、鉄蓋（内径６０ｃｍ－Ｔ－２５）新設
新-25	廃止	円形人孔内径１２００角	0003AK03	2.68	撤去（天端６０ｃｍ）、築立、鉄蓋（内径６０ｃｍ）新設
新-26	改造	円形人孔内径１２００角	0003AK04	3.56	撤去（天端６０ｃｍ）、築立、鉄蓋（内径６０ｃｍ）新設
新-27	改造	円形人孔内径２００	0003AK05	3.08	
新-28-1	改築	都営雨水取付人孔内径１２００×８０	0003PK03	3.34	
新-30	改造	建立円形人孔内径１２００Ａ	0003ZK05	4.45	
新-31	改造	楕楕人孔内径３００×１３５	0003BK01	4.54	撤去（天端７５ｃｍ）、築立、鉄蓋（細手蓋）新設
新-32-1	廃止	角静人孔通り２０×１２５	0003BK08	1.76	撤去（天端７５ｃｍ）、築立、鉄蓋（細手蓋）新設
新-33	改造	建立円形人孔内径９００	0003MK04	1.93	撤去（天端６０ｃｍ）、築立、鉄蓋（内径６０ｃｍ）新設
新-34	改造	建立円形人孔内径１５００	0003EK08	2.27	既設インバート改造
新-35	廃止	建立円形人孔内径１５００	0003BK09	2.45	
新-36	改造	建立円形人孔内径９００	0003BK10	1.92	撤去（天端６０ｃｍ）、築立、鉄蓋（内径６０ｃｍ）新設
新-37	改造	建立円形人孔内径９００	0003DK01	1.11	撤去（天端６０ｃｍ）、築立、鉄蓋（内径６０ｃｍ）新設
新-38	改造	建立円形人孔内径１５００	0003EK17	2.61	撤去（天端７５ｃｍ）、築立、鉄蓋（細手蓋）新設
新-39	廃止	建立円形人孔内径１２００	0003BK13	2.47	撤去（天端６０ｃｍ）、築立、鉄蓋（内径６０ｃｍ）新設
新-40	改造	建立円形人孔内径１２００	0003BK14	2.58	撤去（天端６０ｃｍ）、築立、鉄蓋（内径６０ｃｍ）新設
新-41	改造	角静人孔通り１６０×１６０	0003JK05	2.42	
新-42	改造	建立円形人孔内径９００	0003JK08	1.23	コンクリート蓋（内径５０ｃｍ）撤去、副管（内径６０ｃｍ）撤去
新-43	改造	円形人孔内径２２０	0003JK07	2.88	コンクリート蓋（内径５０ｃｍ）撤去、副管（内径６０ｃｍ）撤去、既設インバート改造

工事内人孔番号表（撤去人孔）

人孔番号	区分	人孔形状	BIM I Dコード番号	人孔深 (m)	工事内容
撤-33-1	廃止	円形人孔内径１２００	0XK49535	2.74	

工事件名	○○区○○、○丁目付近再構築工事 設計図
設計年度	○○○○年度
設計番号	○○○○
図面名称	工事内人孔番号表
図面番号	○／○
受託者	株式会社○○○○
東京都下水道局	

3.4 桝・取付管一覧表

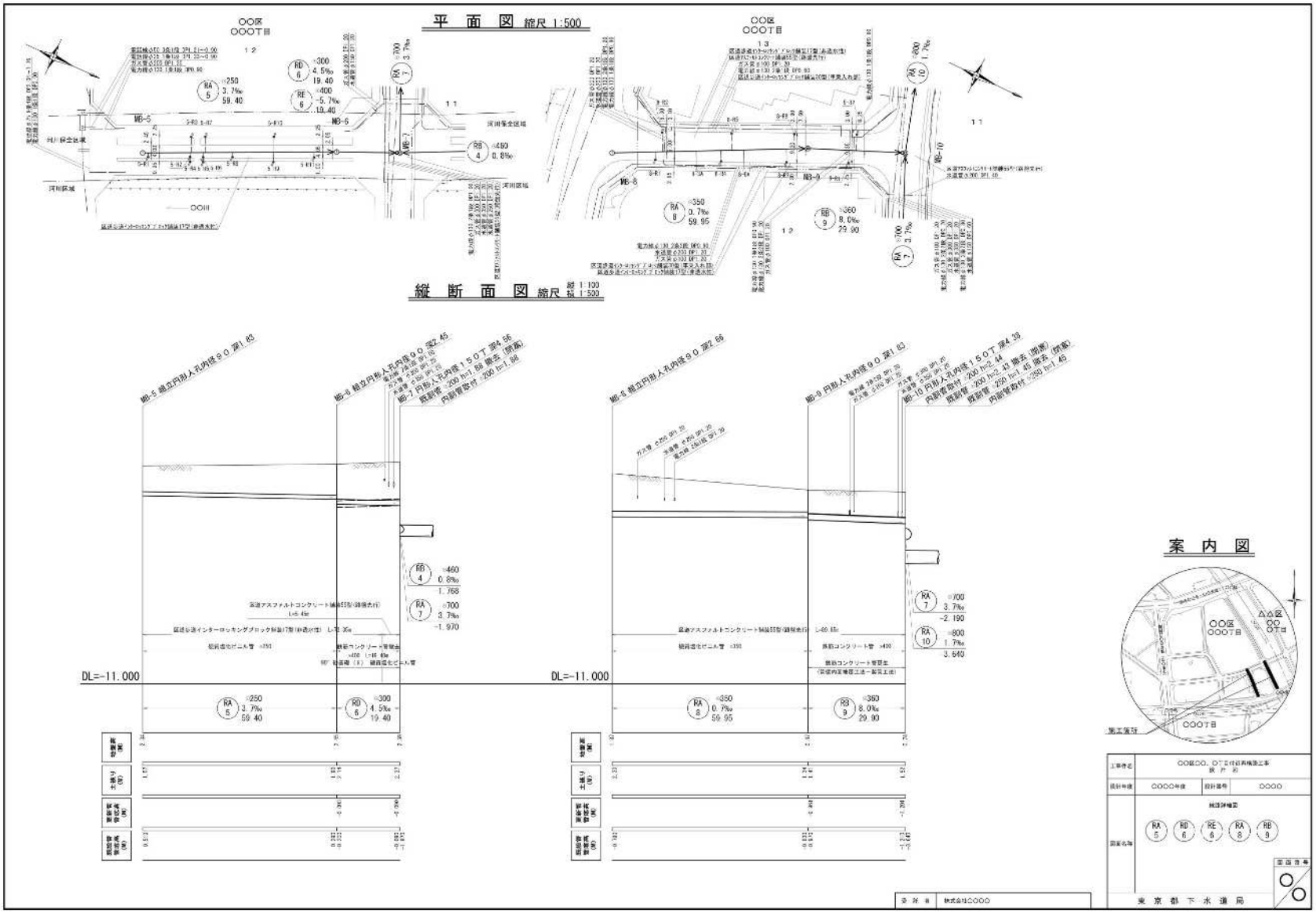


汚水桝・取付管一覧表

図面番号	人孔番号 又は 接続番号	接続位置 (m)	道路幅 (m)	汚水桝				取付管				
				桝番号	桝の種類		桝深さ (m)	工事内容	位置		勾配又は平均勾配	工事内容
					形状	副材又は取替え			管径	管種	管径	
8/20	18-8	25.70	6.90	8-5A	汚水桝内径φ0		1.19		200	硬質塩化ビニル管		
8/20	18-8	42.30	6.90	8-6A	汚水桝内径0.9		1.13		200	硬質塩化ビニル管		
7/20	18-10	14.20	7.15	10-2A	円形人孔内径φ0		2.05		200	鉄筋コンクリート管	180	取付・斜壁工法
7/20	18-10	17.80	6.55	10-4A	円形人孔内径φ0		2.05		200	鉄筋コンクリート管	180	取付・斜壁工法
7/20	18-10	64.85	6.55	10-7A	円形人孔内径φ0		2.02		200	硬質塩化ビニル管		
7/20	18-10	45.15	7.15	10-6A	円形人孔内径0.9		2.12		200	鉄筋コンクリート管	300	駆動電気 接続ｺﾈｸﾀ
7/20	18-11	8.80	6.45	11-2A	円形人孔内径φ0		2.05		250	硬質塩化ビニル管		
7/20	18-11	16.20	6.45	11-4E	新設し（汚水）				150	取付管		撤去 L=0.45
8/20	18-13	10.50	7.30	13-1A	汚水桝内径φ0		1.40		200	硬質塩化ビニル管		
8/20	18-13	12.30	7.55	13-2A	小型汚水桝設置（歩道用）		1.16		200	硬質塩化ビニル管		
7/20	18-15	8.55	7.05	15-2A	小型汚水桝設置（歩道用）		1.30		150	硬質塩化ビニル管		
7/20	18-15	25.50	7.45	15-3E	汚水桝内径φ0	小型汚水桝設置（歩道用）	1.00	撤去・新設	150	硬質塩化ビニル管		
7/20	18-15	40.50	7.45	15-4A	小型汚水桝設置（歩道用）		1.43		150	硬質塩化ビニル管		
7/20	18-15	48.25	7.55	15-5A	小型汚水桝設置（歩道用）		1.00		200	硬質塩化ビニル管		
7/20	18-16-1	2.45	7.45	16-2A	小型汚水桝設置（歩道用）		1.73		200	硬質塩化ビニル管		
8/20	18-18	28.80	8.40	18-5A	汚水桝内径φ0		1.58		200	硬質塩化ビニル管		
8/20	18-20	1.82	7.90	20-1E	新設し（汚水）				150	取付管		撤去 L=1.00
8/20	18-20-1	27.30	7.20	20-2A	小型汚水桝設置（歩道用）		1.95		150	硬質塩化ビニル管	150	鉄筋塩化ビニル管
8/20	18-23-1	20.75	7.20	23-4E	新設し（汚水）	小型汚水桝設置（歩道用）	0.90	新設	150	取付管	150	鉄筋塩化ビニル管
8/20	18-23-2	2.45	12.90	23-5E	新設し（汚水）	小型汚水桝設置（歩道用）	0.90	新設	150	取付管	150	鉄筋塩化ビニル管
10/20	18-26	24.50	8.90	26-2A	汚水桝内径φ0	小型汚水桝設置（歩道用）	1.40	撤去・新設	250	硬質塩化ビニル管		
10/20	18-26	28.25	8.90	26-3E	新設し（汚水）	小型汚水桝設置（歩道用）	0.80	新設	150	取付管	150	鉄筋塩化ビニル管
10/20	18-27	27.10	4.05	27-2E	汚水桝内径φ0	小型汚水桝設置（歩道用）	1.00	撤去・新設	150	硬質塩化ビニル管		
10/20	18-27	51.30	4.05	27-5A	小型汚水桝設置（歩道用）		2.01		200	硬質塩化ビニル管		
11/20	18-31	29.25	4.90	31-2E	汚水桝内径φ0		0.77	撤去	200	硬質塩化ビニル管		撤去 L=4.90
12/20	18-33	19.40	5.30	33-5A	汚水桝内径φ0		1.36		150	硬質塩化ビニル管		
12/20	18-33	61.00	5.30	33-6A	汚水桝内径φ0		1.90		250	硬質塩化ビニル管		
12/20	18-34	—	4.75	34-1A	円形人孔内径0.9		1.94		300	硬質塩化ビニル管		
12/20	18-35	—	4.90	35-1A	円形人孔内径0.9		2.07		300	硬質塩化ビニル管		
12/20	18-35	10.90	5.25	35-2A	汚水桝内径φ0		1.09		250	硬質塩化ビニル管		
12/20	18-36	24.15	7.35	36-2E	汚水桝内径φ0	小型汚水桝設置（歩道用）	1.00	撤去・新設	150	硬質塩化ビニル管		
12/20	18-38	5.80	7.55	38-1E	新設し（汚水）	小型汚水桝設置（歩道用）	0.80	新設	150	取付管	150	鉄筋塩化ビニル管
12/20	18-38	57.85	7.55	38-1A	円形人孔内径φ0		2.00		250	鉄筋コンクリート管	250	駆動電気 接続ｺﾈｸﾀ
12/20	18-39	2.75	8.80	39-1E	汚水桝内径φ0	小型汚水桝設置（歩道用）	1.00	撤去・新設	150	硬質塩化ビニル管		
12/20	18-39	4.20	7.85	39-2A	小型汚水桝設置（歩道用）		1.92		150	硬質塩化ビニル管		
12/20	18-39	21.50	8.90	39-5A	小型汚水桝設置（歩道用）		0.89		150	硬質塩化ビニル管		
12/20	18-39	28.80	7.55	39-6A	小型汚水桝設置（歩道用）		0.75		200	硬質塩化ビニル管		
12/20	18-40-1	2.40	7.40	40-1E	汚水桝内径φ0	小型汚水桝設置（歩道用）	1.20	撤去・新設	150	硬質塩化ビニル管		
12/20	18-42	2.10	2.80	42-1E	汚水桝内径φ0	小型汚水桝設置（歩道用）	1.20	撤去・新設	200	硬質塩化ビニル管		

工事件名	○○区○○、○丁目付近再整備工事
設計年度	○○○○年度
設計番号	○○○○
図面名称	汚水桝・取付管一覧表
図面番号	○/○
委託者	株式会社○○○○
	東京都下水道局

3.5 線路詳細図



令和 6 年 3 月　作成

枝線再構築製図基準

編集　東京都下水道局建設部設計調整課
東京都新宿区西新宿二丁目８番１号
電話　03-5320-6652(建設部設計調整課)

本書の全部又は一部を無断で複写(コピー)及び転載することは、著作権法上での例外を除き、禁じられています。